

次期川越市教育振興基本計画に係る アンケート調査結果の報告書

令和7年4月

川越市教育委員会

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の対象	2
3	調査の方法	2
4	調査期間	3
5	回収状況	3
6	集計方法	3
II	保護者調査の結果	4
1	回答者の属性について	5
(1)	性別	5
(2)	年齢	5
2	学校教育について	6
(1)	こどもの通っている学校に対する満足度	6
(2)	満足度の主な理由となっているもの	7
(3)	学校に期待する役割	8
(4)	教師に期待すること	9
(5)	児童生徒に対する指導で大切なこと	10
(6)	いじめ・不登校対策の取組の効果	11
(7)	いじめ・不登校対策として取り組むべきこと	12
(8)	教育環境の変化に対応するために取り組むべきこと	17
3	家庭や地域の教育について	18
(1)	学校、家庭、地域の役割	18
(2)	家庭教育で困っていること	21
(3)	家庭教育で困ったことを相談する先	22
(4)	家庭の教育力が低下している原因	23
(5)	家庭の教育力向上に必要な取組	24
(6)	地域の教育力についての課題	25
(7)	地域の教育力向上に必要な取組	26
(8)	協力・参加してもよいと思う行事・活動	27
4	公民館・図書館・博物館について	28
(1)	公民館の利用頻度	28
(2)	公民館の利用目的	29
(3)	公民館に対する満足度	30
(4)	公民館を利用しない理由	31
(5)	公民館で学びたいこと	32
(6)	公民館への要望	33

(7) 図書館の利用頻度	34
(8) 最も利用する図書館	34
(9) 図書館の利用目的	35
(10) 図書館に対する満足度	36
(11) 図書館を利用しない理由	37
(12) 図書館への要望	38
(13) 博物館の利用頻度	39
(14) 博物館の利用目的	39
(15) 博物館に対する満足度	40
(16) 博物館を利用しない理由	41
(17) 博物館への要望	42
(18) 公民館・図書館・博物館についての意見・要望	43
5 教育施策について	48
(1) 充実させたほうが良いと思う教育施策	48
(2) 自由記述	49
Ⅲ 教員調査の結果	57
1 回答者の属性について	58
(1) 年齢	58
(2) 教員経験年数	58
(3) 勤務先	59
(4) 担任の状況	59
2 学校教育について	60
(1) 勤務していて感じること	60
(2) 職務の多忙感	61
(3) 職務の多忙感解消のために必要なこと	62
(4) 直近1年間でのストレス増加の有無	63
(5) ストレスが増加した主な理由	63
(6) 教員としての生きがいの有無	65
(7) 職務の中で感じる課題	66
(8) 学校施設・設備等で特に充実・改善してほしいもの	67
(9) いじめ・不登校対策の取組の効果	68
(10) いじめ・不登校対策として取り組むべきこと	69
(11) 自己啓発の取組状況	71
(12) 行っている自己啓発	71
(13) 受きたい研修	72
(14) 保護者や地域の方に期待されていると思うこと	73
(15) これからの学校教育で特に重視すべきこと	74
(16) 教育環境の変化に対応するために取り組むべきこと	75
3 家庭や地域の教育について	76

(1) 学校、家庭、地域の役割.....	76
(2) 家庭の教育力が低下している原因.....	79
(3) 地域の教育力についての課題.....	80
(4) 地域の教育力向上に必要な取組.....	81
(5) 保護者、地域の方などに期待すること.....	82
4 教育施策について.....	83
(1) 充実させたほうが良いと思う教育施策.....	83
(2) 公民館・図書館・博物館と学校が連携する取組に関する意見.....	84
(3) 川越市の教育に関する意見.....	86
IV 市民調査の結果.....	88
1 回答者の属性について.....	89
(1) 性別.....	89
(2) 年齢.....	89
(3) 家族構成.....	90
(4) 同居している子ども.....	90
(5) 居住地区.....	91
(6) 川越市での居住年数.....	92
2 学校教育について.....	93
(1) 現在の学校教育の問題.....	93
(2) 学校に期待する役割.....	94
(3) 教師に期待すること.....	95
(4) 教育環境の変化に対応するために取り組むべきこと.....	96
3 家庭や地域の教育について.....	97
(1) 学校、家庭、地域の役割.....	97
(2) 家庭の教育力が低下している原因.....	100
(3) 地域の教育力についての課題.....	101
(4) 地域の教育力向上に必要な取組.....	102
(5) 学校と地域の連携で重要なこと.....	103
(6) 協力・参加してもよいと思う行事・活動.....	104
4 公民館・図書館・博物館について.....	105
(1) 公民館の利用頻度.....	105
(2) 公民館の利用目的.....	105
(3) 公民館に対する満足度.....	106
(4) 公民館を利用しない理由.....	107
(5) 公民館で学びたいこと.....	108
(6) 公民館への要望.....	109
(7) 図書館の利用頻度.....	110
(8) 最も利用する図書館.....	110
(9) 図書館の利用目的.....	111

(10) 図書館に対する満足度	112
(11) 図書館を利用しない理由	113
(12) 図書館への要望	114
(13) 博物館の利用頻度	115
(14) 博物館の利用目的	115
(15) 博物館に対する満足度	116
(16) 博物館を利用しない理由	117
(17) 博物館への要望	118
(18) 公民館・図書館・博物館についての意見・要望	119
5 教育施策について	123
(1) 充実させたほうが良いと思う教育施策	123
(2) 自由記述	124
V 児童生徒調査の結果	129
1 自分自身のことについて	130
2 学校生活について	142
3 学校に望むことについて	151
4 先生に感じていることについて	153
5 教わりたいと思う先生について	159
6 授業について	161
7 心配なことや悩んでいることについて	163
8 相談できる相手について	165
9 友達との関わりについて	167
10 いじめについて	172
11 地域の人たちについて	174
12 働くことについて	176
13 将来について	178
14 自由記述	180
VI 共通設問の比較	183
1 学校教育について	185
(1) 学校に期待する役割【保護者 問2】【市民 問2】	185
(2) 教師に期待すること【保護者 問3】【市民 問3】 保護者や地域の方に期待されていると思うこと【教員 問11】	186
(3) いじめ・不登校対策の取組の効果【保護者 問5】【教員 問7】	187
(4) 教育環境の変化に対応するために取り組むべきこと 【保護者 問7】【教員 問13】【市民 問4】	189
2 家庭や地域の教育について	190
(1) 学校、家庭、地域の役割【保護者 問8】【教員 問14】【市民 問5】	190
(2) 家庭の教育力が低下している原因【保護者 問11】【教員 問15】【市民 問6】	193

(3) 地域の教育力についての課題【保護者 問13】【教員 問16】【市民 問7】	194
(4) 地域の教育力向上に必要な取組【保護者 問14】【教員 問17】【市民 問8】	195
(5) 協力・参加してもよいと思う行事・活動【保護者 問15】【市民 問10】	196
3 教育施策について	197
(1) 充実させたほうが良いと思う教育施策【保護者 問24】【教員 問19】【市民 問19】	197
VII 令和元年度の調査結果との比較	198
1 学校教育について	200
(1) 学校に期待する役割【保護者 問2】【市民 問2】	200
(2) 教師に期待すること【保護者 問3】【市民 問3】 保護者や地域の方に期待されて いると思うこと【教員 問11】	201
(3) いじめ・不登校対策の取組の効果【保護者 問5】【教員 問7】	202
(4) 教育環境の変化に対応するために取り組むべきこと 【保護者 問7】【教員 問13】 【市民 問4】	206
2 家庭や地域の教育について	207
(1) 学校、家庭、地域の役割【保護者 問8】【教員 問14】【市民 問5】	207
(2) 家庭の教育力が低下している原因【保護者 問11】【教員 問15】【市民 問6】	210
(3) 地域の教育力についての課題【保護者 問13】【教員 問16】【市民 問7】	211
(4) 地域の教育力向上に必要な取組【保護者 問14】【教員 問17】【市民 問8】	212
(5) 協力・参加してもよいと思う行事・活動【保護者 問15】【市民 問10】	213
3 教育施策について	214
(1) 充実させたほうが良いと思う教育施策【保護者 問24】【教員 問19】【市民 問19】	214
VIII アンケート調査結果から見える状況	215
1 主な調査結果	216

I 調査の概要

1 調査の目的

令和3年6月に策定した「第三次川越市教育振興基本計画」が令和7年度で計画期間を終えることから、市立小学校・市立中学校・市立川越高等学校・市立特別支援学校の保護者、校長及び教員、市民、児童生徒の教育に関する意識やニーズを把握し、次期川越市教育振興基本計画策定にあたっての基礎資料とするとともに、今後の教育施策の推進に活用することを目的として、本調査を実施しました。

2 調査の対象

種類	対象
① 保護者調査	児童生徒アンケートの対象者の保護者 【以下内訳】 市立小学校5年生保護者 945人、市立中学校2年生保護者 764人、 市立高等学校保護者2年生 35人及び市立特別支援学校保護者 46人
② 教員調査	市立小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の 校長及び教員 431人
③ 市民調査	住民基本台帳から無作為抽出した市内在住の20歳以上の市民 2,000人
④ 児童生徒調査	市立小学校5年生 945人、市立中学校2年生 764人、 市立高等学校2年生 35人及び市立特別支援学校 46人

3 調査の方法

「① 保護者調査」

アンケートの回答依頼は、児童生徒を通じての調査票の配布により行いました。

回答は「埼玉縣市町村 電子申請・届出サービス」を利用して作成したアンケートページからのインターネット回答または調査票の郵送による回答としました。

「② 教員調査」

アンケートの回答依頼は、学校への依頼文の配布により行いました。

回答は職員用端末から Google フォームを利用して作成したアンケートページからのインターネット回答としました。

「③ 市民調査」

アンケートの回答依頼は、調査票の郵送により行いました。

回答は「埼玉縣市町村 電子申請・届出サービス」を利用して作成したアンケートページからのインターネット回答または調査票の郵送による回答としました。

「④ 児童生徒調査」

アンケートの回答依頼は、学校への依頼文の配布により行いました。

回答は児童生徒学習用端末から Google フォームを利用して作成したアンケートページからのインターネット回答としました。

4 調査期間

令和6年9月30日（月）から令和6年10月23日（水）

5 回収状況

	配布数 (A)	回収数 (B)	回収率 (C/A)
① 保護者調査	1,790 件	932 件	52.1%
② 教員調査	431 件	360 件	83.5%
③ 市民調査	2,000 件	577 件	28.9%
④ 児童生徒調査	1,790 件	1,637 件	91.5%
【児童生徒調査・内訳】			
・ 市立小学校	945 件	803 件	85.0%
・ 市立中学校	764 件	754 件	98.7%
・ 市立川越高等学校	35 件	35 件	100.0%
・ 市立特別支援学校	46 件	45 件	97.8%

6 集計方法

- ① 集計した数値（％）は小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しています。そのため、質問に対する回答の選択肢が1つだけの場合、選択肢の数値（％）をすべて合計しても、100.0%にならない場合があります。
- ② 回答者数を分母として割合（％）を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100.0%を超えます。
- ③ 表では、特別の表記がない限り、上段が実数、下段が％（少数第1位まで）を表示しています。
- ④ アンケート調査票の選択肢の文章が長い場合、図表の中では要約して表記している場合があります。

※ 各回答において、回答者が少数である場合の比率については、比率が動きやすく分析には適さないため、参考値として掲載しています。

Ⅱ 保護者調査の結果

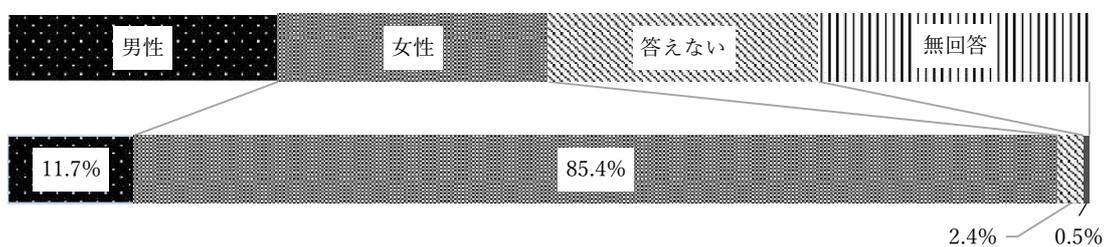
1 回答者の属性について

(1) 性別

F 1 あなたの性別を教えてください。(1つに○)

「女性」が 85.4%で最も多く、次いで「男性」が 11.7%、「答えない」が 2.4%となっています。

総数=932

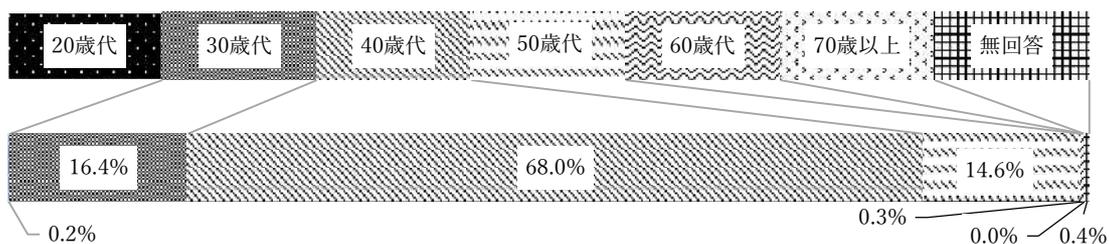


(2) 年齢

F 2 あなたの年齢は何歳ですか。(1つに○)

「40歳代」が 68.0%で最も多く、次いで「30歳代」が 16.4%、「50歳代」が 14.6%となっています。

総数=932



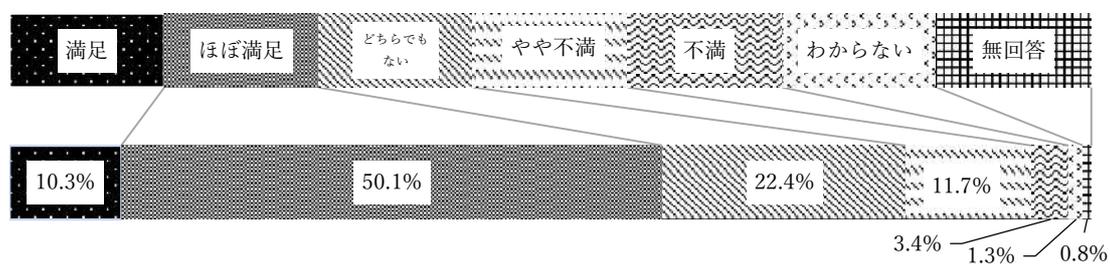
2 学校教育について

(1) こどもの通っている学校に対する満足度

問1 あなたは、お子さんの通っている学校にどのくらい満足していますか。(1つに○)

「満足」が10.3%、「ほぼ満足」が50.1%で、合わせて60.4%が『満足』と回答しています。

総数=932



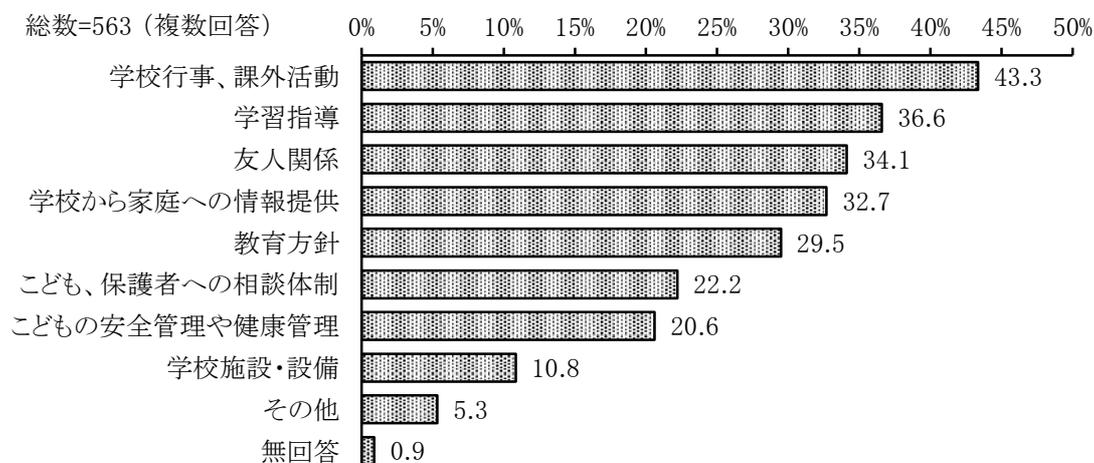
(2) 満足度の主な理由となっているもの

【問1で「1、2、4、5」と答えた方におたずねします。】

問1-1 あなたが、「満足、ほぼ満足」または「やや不満、不満」だと思う主な理由となっているものを選んでください。(3つまで○)

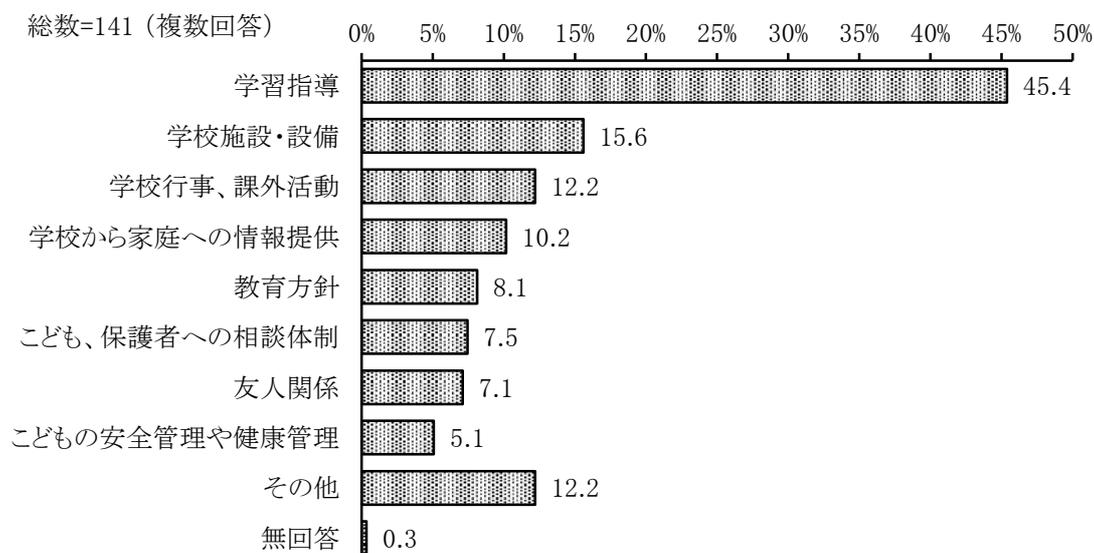
①「満足」または「ほぼ満足」だと思う主な理由

「学校行事、課外活動」が43.3%で最も多く、次いで「学習指導」が36.6%、「友人関係」が34.1%となっています。



②「やや不満」または「不満」だと思う主な理由

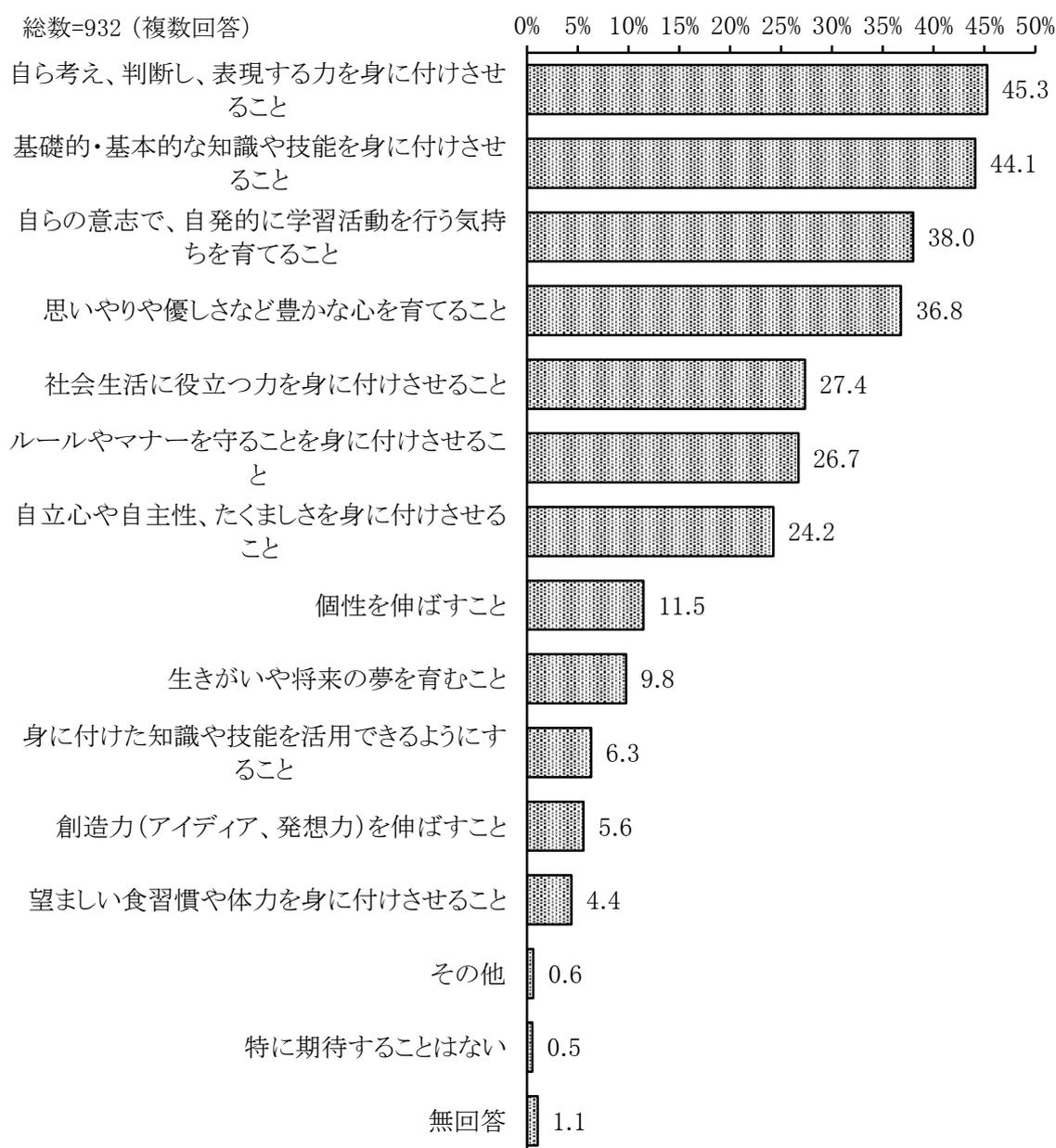
「学習指導」が45.4%で最も多く、次いで「学校施設・設備」が15.6%、「学校行事、課外活動」が12.2%となっています。



(3) 学校に期待する役割

問2 小中学校が、お子さんに対してどのような役割を果たすことを期待しますか。(3つまで○)

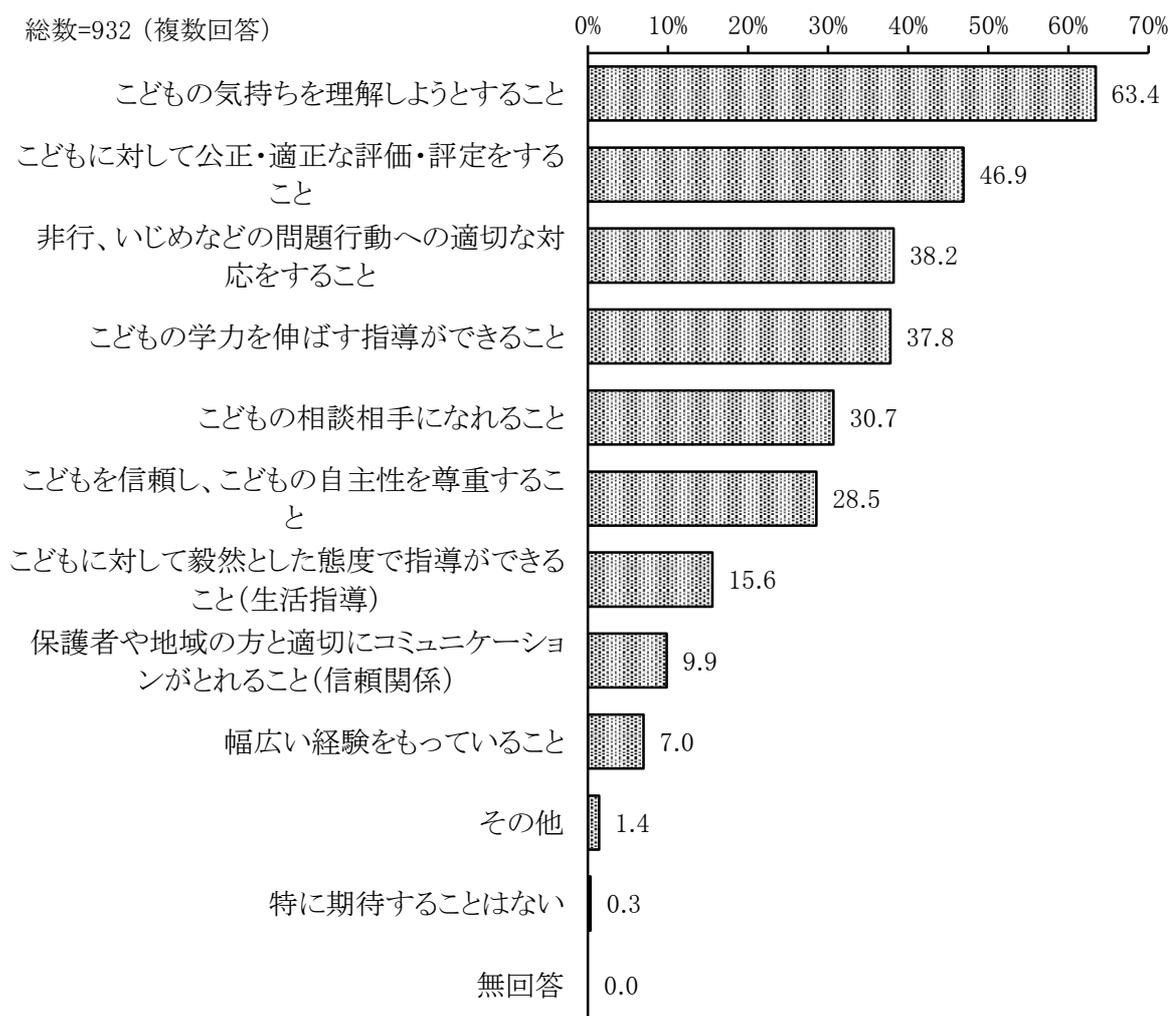
「自ら考え、判断し、表現する力を身に付けさせること」が45.3%で最も多く、次いで「基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせること」が44.1%、「自らの意志で、自発的に学習活動を行う気持ちを育てること」が38.0%となっています。



(4) 教師に期待すること

問3 小中学校の教師にどのようなことを期待しますか。(3つまで○)

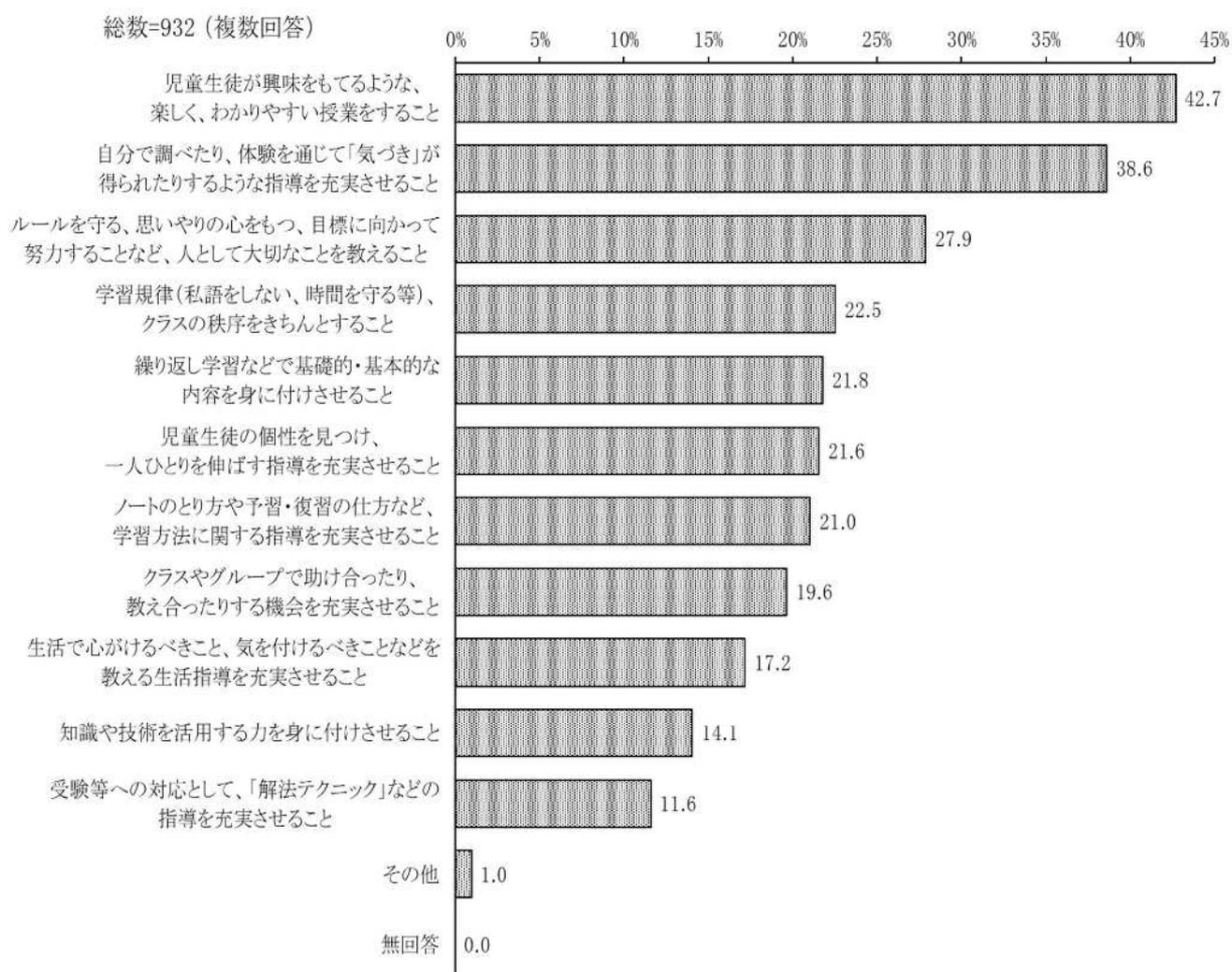
「こどもの気持ちを理解しようとする事」が63.4%で最も多く、次いで「こどもに対して公正・適正な評価・評定をすること」が46.9%、「非行、いじめなどの問題行動への適切な対応をすること」が38.2%となっています。



(5) 児童生徒に対する指導で大切なこと

問4 あなたは、学校教育における児童生徒に対する指導について、特にどのようなことが大切であると思いますか。(3つまで○)

「児童生徒が興味をもてるような、楽しく、わかりやすい授業をすること」が42.7%で最も多く、次いで「自分で調べたり、体験を通じて「気づき」が得られたりするような指導を充実させること」が38.6%、「ルールを守る、思いやりの心をもつ、目標に向かって努力することなど、人として大切なことを教えること」が27.9%となっています。



(6) いじめ・不登校対策の取組の効果

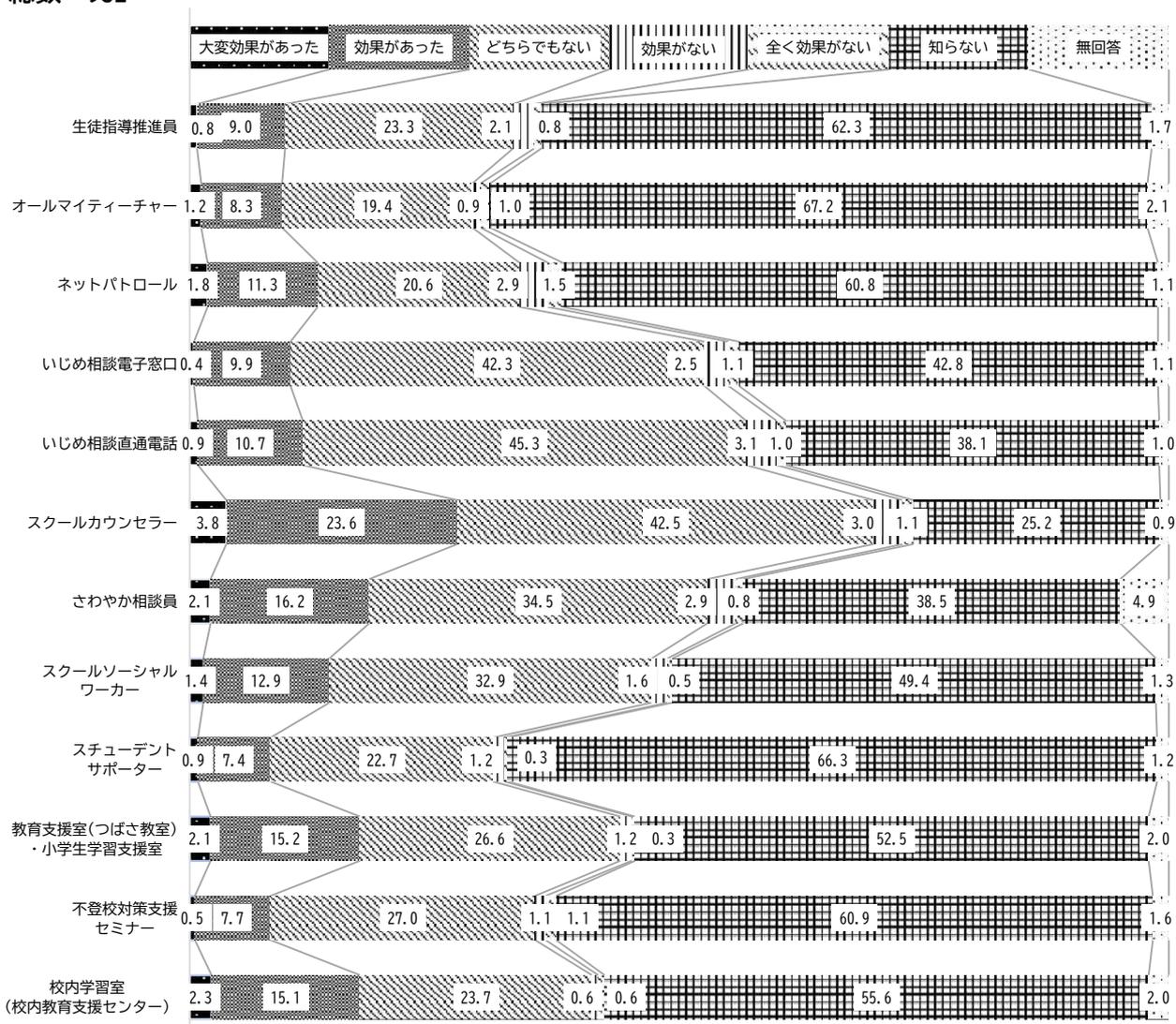
問5 いじめ・不登校対策における以下の取組について効果があったと思いますか。(それぞれの項目について1つに○)

『効果があった』(「大変効果があった」+「効果があった」)という回答は、「スクールカウンセラー」が27.4%で最も多く、次いで「さわやか相談員」が18.3%、「教育支援室(つばさ教室)・小学生学習支援室」と「校内学習室(校内教育支援センター)」が17.4%となっています。

一方、『効果がない』(「効果がない」+「全く効果がない」)という回答は、どの項目も1割未満となっています。

また、「知らない」という回答は、「オールマイティーチャー」が67.2%で最も多く、次いで「スチューデントサポーター」が66.3%、「生徒指導推進員」が62.3%となっています。

総数=932



(7) いじめ・不登校対策として取り組むべきこと

問6 いじめ・不登校対策として問5に示された項目のほかに取り組むべき項目があればご自由にお書きください。

有効回収数 932 票中 124 票に意見の記述がありました（1票の中に複数の分野にまたがる回答もあるため、各項目の回答件数の合計は 124 件より多くなっています）。以下に回答内容の中から一部を抜粋・調整し、掲載しました。

<主な回答内容>

○保護者・家庭への対応（13件）

- ・行けなくて苦しんでいる本人だけでなく、保護者へのサポートの充実が必要。
- ・保護者の在り方、家庭への指導も必要だと思う。
- ・不登校の事に関しては、ハレモノにさわってはいけないような。寄り添うだけでは、進む事はない。先生は優しく対応していると思う。それに保護者が甘えていると思う。親の考えを変えさせる事が必要。
- ・何かあった場合は、親に知らせて欲しいです。自分の子が何かしてたとしたら、知らずにいるのは怖いと思います。

○施策の周知（11件）

- ・取組が世の中で知られていなければ、意味はない。他に取り組むのでは無く、まずは今あるものをちゃんと周知すべき。
- ・とても素晴らしいことをされているようですが、もう少し周知して、新しいものを取り組む前に徹底された方がいいと思います。
- ・どのようなときに、どのような支援を受けるのが最適か、知れる仕組みがあるといい。どのようなサポートがあるのか、具体的な周知が足りない。
- ・適切な情報提供。学校に行かなければわからない支援などでは意味がない。

○施策の実効性（4件）

- ・自分の子がいじめや不登校の対象でなければ、効果の有無は判断できない。教育相談という機会や、個別の担任との電話相談で、困ったことや悩みを相談できたので現状のままで問題ないを考える。
- ・今ある項目が機能している学校、機能していない学校の差があるように感じます。

○居場所づくり（2件）

- ・不登校になってしまった子が、学校ではなくても、居場所がお金がかからずに近くに

あること(外出できる場所)。

- ・不登校には色々なパターンがあるので、一人一人に合わせた対策をとるのは難しい事だと思うが、学校以外でも公共の居場所作りを積極的に行って欲しい。特に低学年からの不登校に対して、学校と言うシステムに対応出来なかったこどもの居場所等。

○相談しやすい環境づくり（9件）

- ・不登校になった原因を先生に言えない事も考えられる為、第三者のスクールカウンセラーなどが早い段階で介入し、相談できる環境があると良いと思います。
- ・スクールカウンセラー等相談する時、相談する場所に入る時、出る時に他者や先生に見られてしまい、行きづらいという話を聞いた。気軽に話しをしに行ける環境であってほしい。
- ・不安なことがある時には学校の先生方が話を聞いてくれる機会を設け現状を把握してくれること、対策を一緒に考えてくれることは大切かと思います。

○無理に登校させない（13件）

- ・「不登校になっても大丈夫だよ」とこどもたちに伝えるべきです。(基本は登校)
- ・不登校でも学びたい気持ちがあるのであれば、学ぶ場所は必ずしも物理的な【学校】である必要は無いと思う。その子その子に合わせて、オンラインや家庭教師、スポーツクラブなど、学びたい気持ちが消えない様にサポート出来る環境が必要だと思う。そしていつかまた、学校に登校して学びたい。と言う気持ちを持ってた時に向けてフォローしていく体制を整えるのが良いと思う。
- ・病院、自宅学習や学校外施設との連携で、進学に関する出席日数などの考慮。
- ・環境変化の効果という意味で転校をもっと柔軟にできたらいいと思う。

○関係機関との連携（2件）

- ・市の施設との連携。
- ・警察との連携。

○いじめられた児童生徒・不登校児童生徒へのサポート（5件）

- ・本当に不登校児本人と向き合い、生きていく生き方を教えて下さる機関があればと切に願います。
- ・不登校やいじめは見守るのではなく寄り添いが必要。
- ・いじめがあるとしたら、学校側がイジメの事実をちゃんと把握して、認めることによって、学校全体で重く受け止めて、イジメられたこどもに対して、サポートし再発防止のために行動をおこす。

○いじめている児童生徒への対応（13件）

- ・いじめられている子のケアはもちろんだが、いじめている子のケア（話を聞いたり、隔離する）を充実させた方が良い。そもそもいじめられた子が転校しなきゃいけない状況はおかしい。
- ・いじめは被害者ではなく加害者への対策が最も大切だと思います。加害児童と保護者への相談や措置、場合によっては厳しい処罰が必要では？加害児童の出席停止、別教室への移動、治りょうやカウンセリングをするべきだと思います。
- ・いじめは、加害者のカウンセリングを長期に渡り実施する必要がある。
- ・いじめがあったのなら、いじめた子を隔離、または自宅学習などにしたらいいと思う。加害者側になにも罰則がなく、被害者だけが苦しい思いをしないように対策を考えてほしい。

○「いじめ」に対する啓発・授業（10件）

- ・道徳の時間などを増やし、特に SNS 等での問題行動を教えてあげてほしい。
- ・いじめは犯罪である、ということを見聞にもっと啓蒙すべき。いじめがよくある。カジュアルな問題としてではなく、重くこども達にとらえてほしい。
- ・発達障害やそのボーダーのこどもが増えているので、個々の特性を理解しあうこと、それぞれの立場の対応方法などについて学べる出張授業（生徒向け）がひらかれると良いのではないのでしょうか。
- ・不登校の生徒側の対応だけでなく、児童、生徒一人一人がこの問題に対してどう考えているか、しっかり面と向かって確認していく必要がある。起こってから対応よりも、起こる前から対応していくこと。

○教職員の体制（10件）

- ・今よりも少人数教室にして、教員の人数を増やすべきである。
- ・教職員の増員がいじめ対策やいじめ防止に非常に役立つと思います。
- ・校内で担任だけでなく数名のチームで個々のケースに対応する体制づくり。そのチームが適切な専門機関（医療、行政、民間）につなぐ体制づくり。
- ・別室登校をしてくる子が、いつどの時間に来ても安心してむかえ入れてもらえる、別室専任の常駐教員の確保。

○教員への指導（2件）

- ・不登校、いじめにあっている本人への対応と併せて、そのような児童の不在環境の対応を教員に指導することも必要だと思いました。
- ・教師の教育、履修。

○教員の姿勢（２件）

- ・いじめや不登校のこどもがいても仕方ないと先生が諦めてしまわないこと。不登校のこどもは、不登校のこどもとして周りの児童からも認識され、いないのが当然になっている。登校させようと努力しているように感じられない。
- ・担任がこどもの話をきちんとヒアリングしないことで、悪く無いこどもが悪くなり、悪いこどもが見逃されている。面倒でもヒアリングする事が大事。担任と第三者である人間もヒアリングに同行すると良いと思う。

○未然に防ぐサポート体制（２件）

- ・不登校になる前に関わること。普通に毎日通えている生徒にも、ひとりひとり目配りと気配りをしてほしいです。
- ・不登校に陥らないよう、未然にケアしてくれる教育サポート体制があればと思う。

○調査・アンケートの実施（４件）

- ・定期的なアンケート。ありきたりな質問の書き方ではなく、自分以外の人がされた事に対しても、申告できるような、該当例、具体例を添えて「あの時の、あの人の行為はいじめに該当する」など、周りの生徒の目からの情報も拾う。
- ・まめにアンケートなどでこどもが伝えられる言いやすい状態にしてほしい。

○監視カメラの設置（２件）

- ・各教室に監視カメラ設置。
- ・監視カメラを設置する等のネットワークを介した対策。

○周囲の児童生徒等へのケア（３件）

- ・不登校のお子さんたちには、それぞれ複雑な事情があるとは思いますが、必要に応じて、なぜお休みが続くのかなど、登校しているこどもたちが理解を示せるような説明もあるといいのにと感じました。
とても難しいところなのは理解していますが、こどもたちは理由がわからず、長期間お休みしているお子さんに疑問を持つことや、分担を代わりにし続けること、楽しい行事の時にだけ来たりするお子さんに対して、理解したくても面白く感じないのはごく自然だと思います。不登校のお子さんだけでなく、不登校のお子さんがクラスにいる、登校できているこどもたちのケアについても、今後ご検討お願いしたいです。
- ・いじめや問題があるということは、保護者間の話では聞いたりしたことはあるが、学校からの発信はないので、不登校の生徒がどれくらいいるのか？や、不登校の原因などは何もわからず、自分のこどもがいつそのような状態になってしまうのか？と不安になることがあります。

○その他（24件）

- ・スマホがなければ行けてない子の半分以上は学校に行けるでしょうね…
- ・現在はグループラインでのトラブルやいじめが多いと聞きますので、禁止は難しいかと思いますが、対策があればなと思います。
- ・家の場合、学力より学校に行けたら 100 点なので課題や提出物などでプレッシャーがかかると行きたくなくなるのでやめてもらいたい。学力より将来社会に出てからのコミュニケーション能力が大事だと思う。
- ・高学年になると下校班が無くなり自由に好きな人と下校出来るようになります。中には 1 人で帰宅している子も多々…。これから少子化にもなって人数が減っていくのに、1 人で帰る子が増えると思うと心配になってしまいます。
- ・小学生から性教育の話をしてもらいたいと思っていました。こどもが通う学校は授業で取り組みしているので良かったです。ネット犯罪や闇バイトなど生活指導の強化。
- ・学校の担任の先生は、翌年のクラス替えで、仲良しの友達をクラス替えで離すけど、私達こどもの頃とは、全く違うので、逆に学校行きたくないとかそういう子が増えるのだと思いました。やっぱり、大人しい子は、なかなか馴染めないで、クラス替えして、周りでも、学校で話してできる子がいないって言って、頭痛や腹痛で早退したり遅刻したり保護者同士で相談する中で、きくので、もう少し考えて欲しい。
- ・不登校に対して市や学校からの様々な支援については嬉しい事です。しかし、上記は不登校でも学校へ行ける子、親などの送迎ができるこどもしか対応できていません。学校という組織が苦手で、学校に恐怖を感じているこどもが、安心できる人なしで怖い場所に行けるのか？です。学生がいる時間の昼間に別室で教室を開放してくれるが、送迎する人がいない為、たとえ本人が興味があっても連れて行く事もできない。働いている親から見れば、親の送迎ありきのサポートに関してはかなり厳しい状況ではあります。

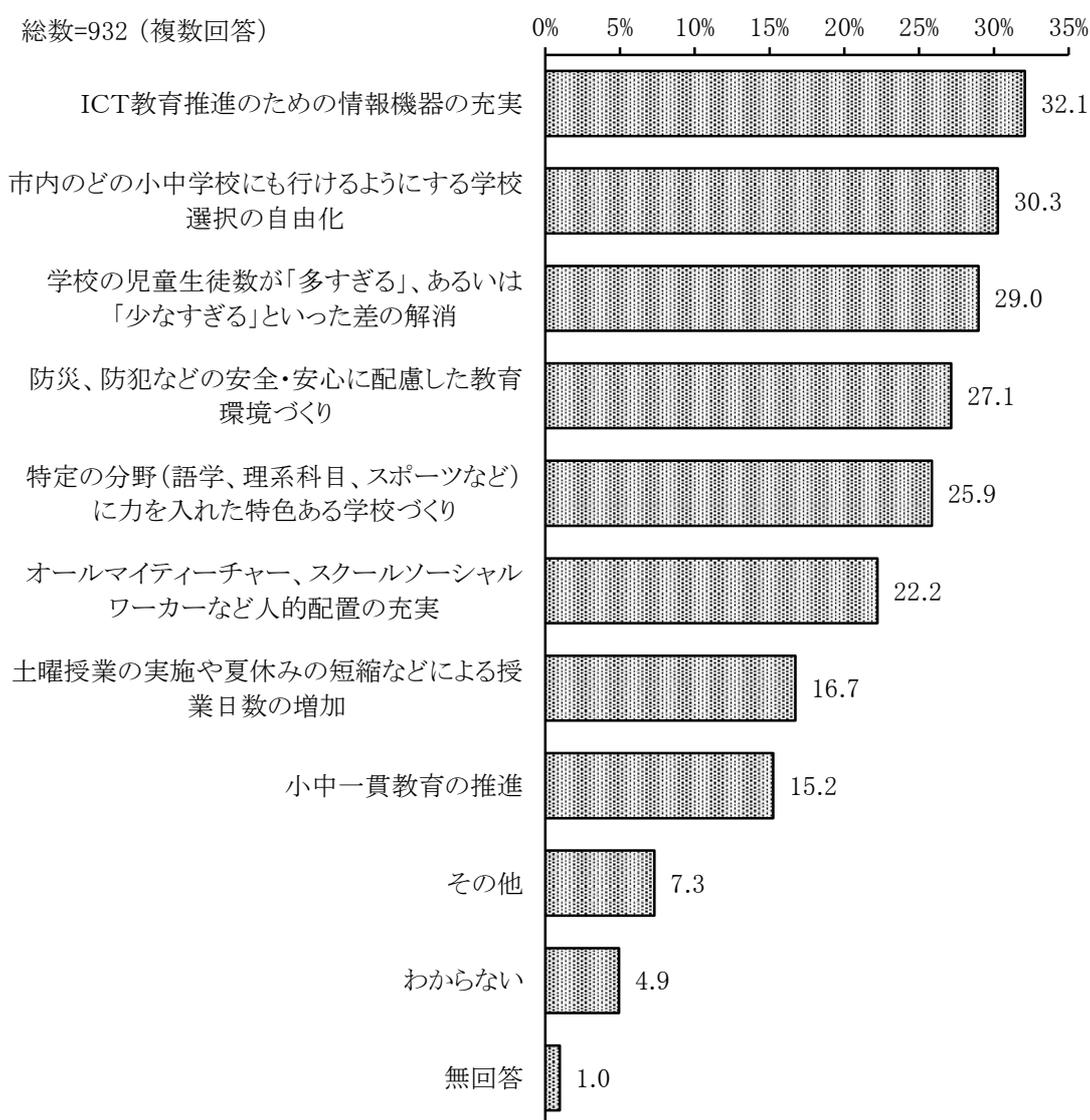
○特になし（10件）

○わからない（2件）

(8) 教育環境の変化に対応するために取り組むべきこと

問7 学校施設の老朽化や将来的なこどもの減少など、教育環境の変化に対応していくため、川越市はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(3つまで○)

「ICT教育推進のための情報機器の充実」が32.1%で最も多く、次いで「市内のどの小中学校にも行けるようにする学校選択の自由化」が30.3%、「学校の児童生徒数が「多すぎる」、あるいは「少なすぎる」といった差の解消」が29.0%となっています。



3 家庭や地域の教育について

(1) 学校、家庭、地域の役割

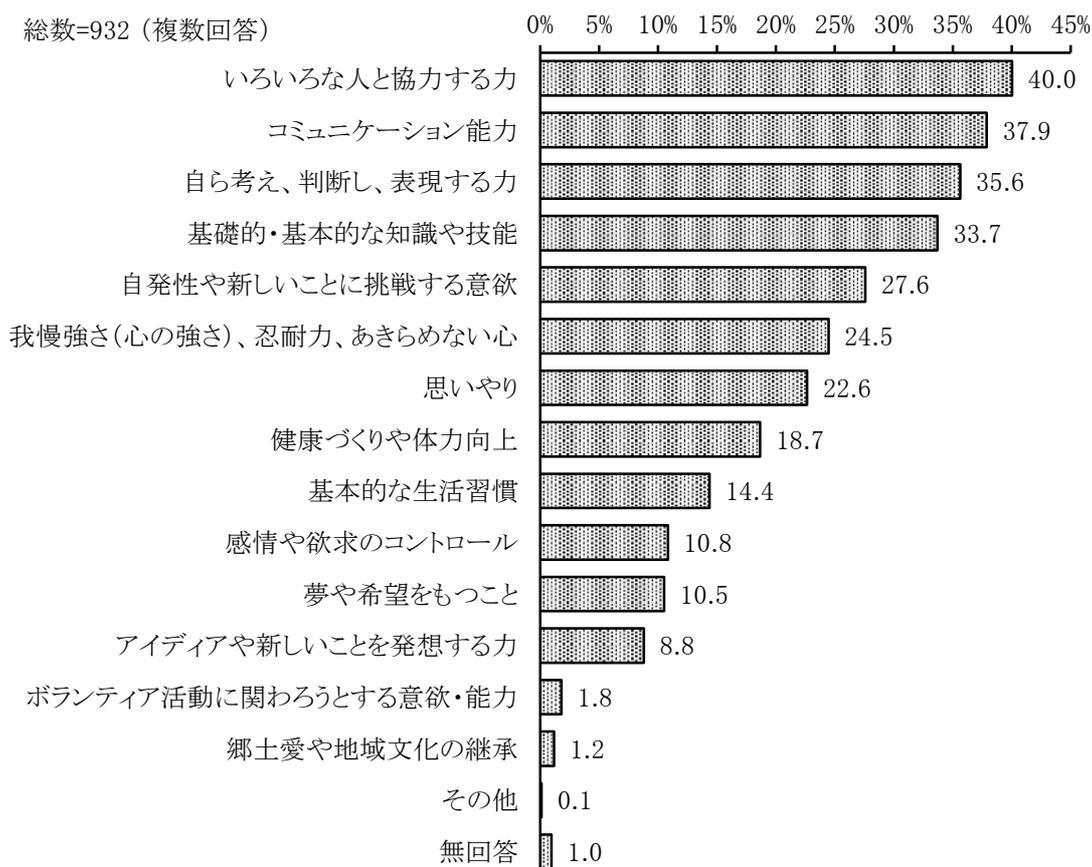
問8 学校、家庭、地域のそれぞれの役割として、こどものどのようなところを育てていくべきだとお考えですか。(特に重要であることをそれぞれ3つまで番号を選んでください)

※①学校の役割、②家庭の役割、③地域の役割のそれぞれに上記の番号を記入してください。なお、同じ番号を①、②、③にご記入いただいても構いません。

※「15. その他」を選択される場合には、上記の()に内容を記入してください。

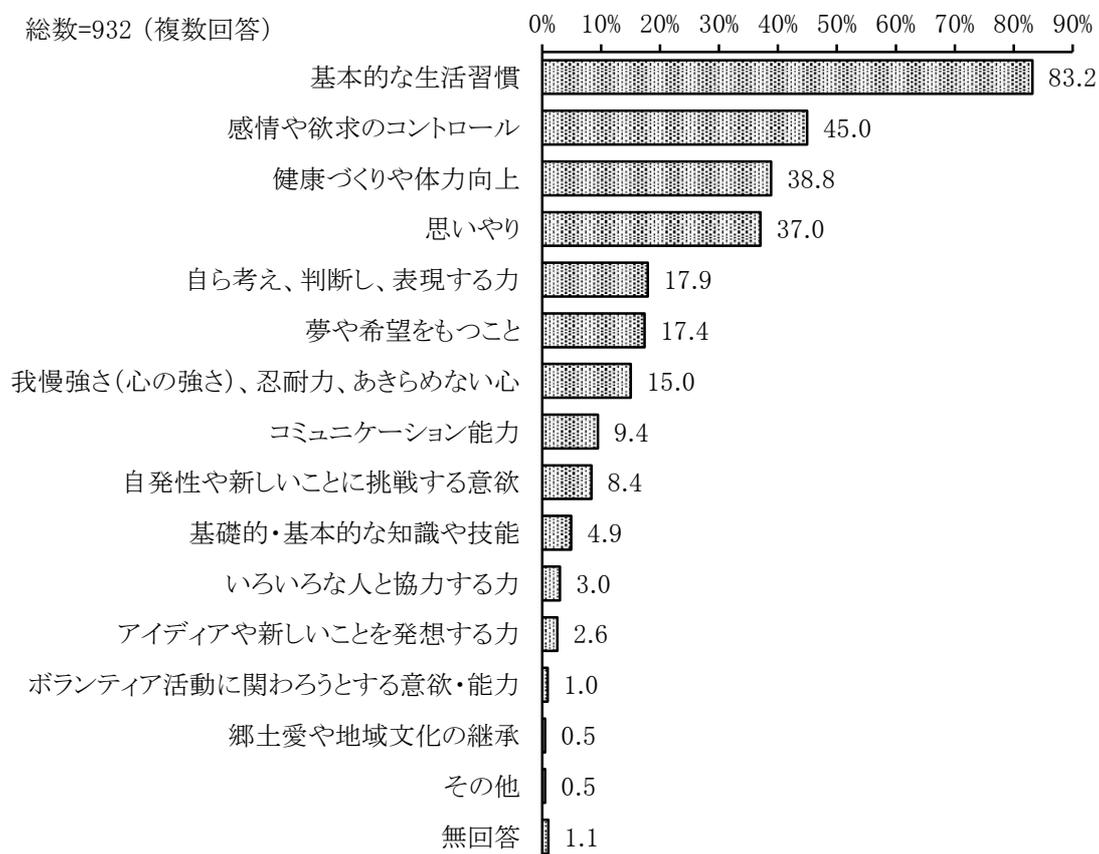
①学校の役割

「いろいろな人と協力する力」が40.0%で最も多く、次いで「コミュニケーション能力」が37.9%、「自ら考え、判断し、表現する力」が35.6%となっています。



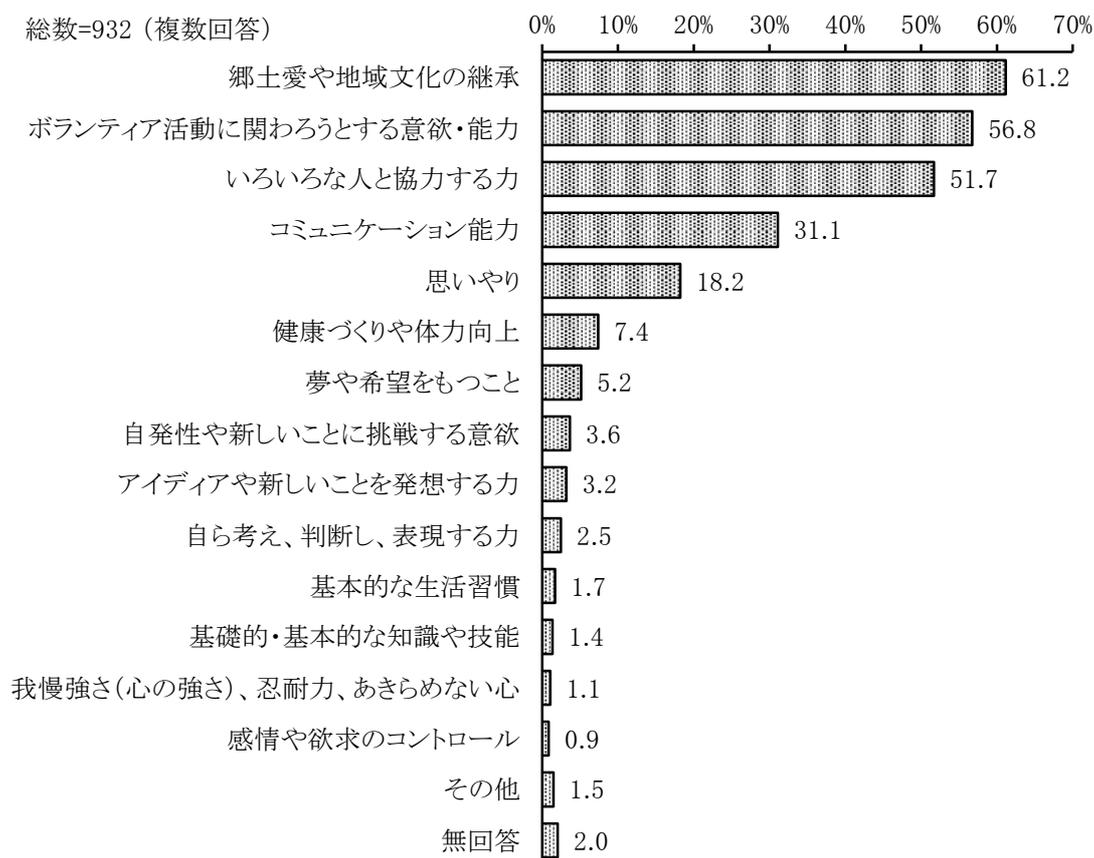
②家庭の役割

「基本的な生活習慣」が83.2%で最も多く、次いで「感情や欲求のコントロール」が45.0%、「健康づくりや体力向上」が38.8%となっています。



③地域の役割

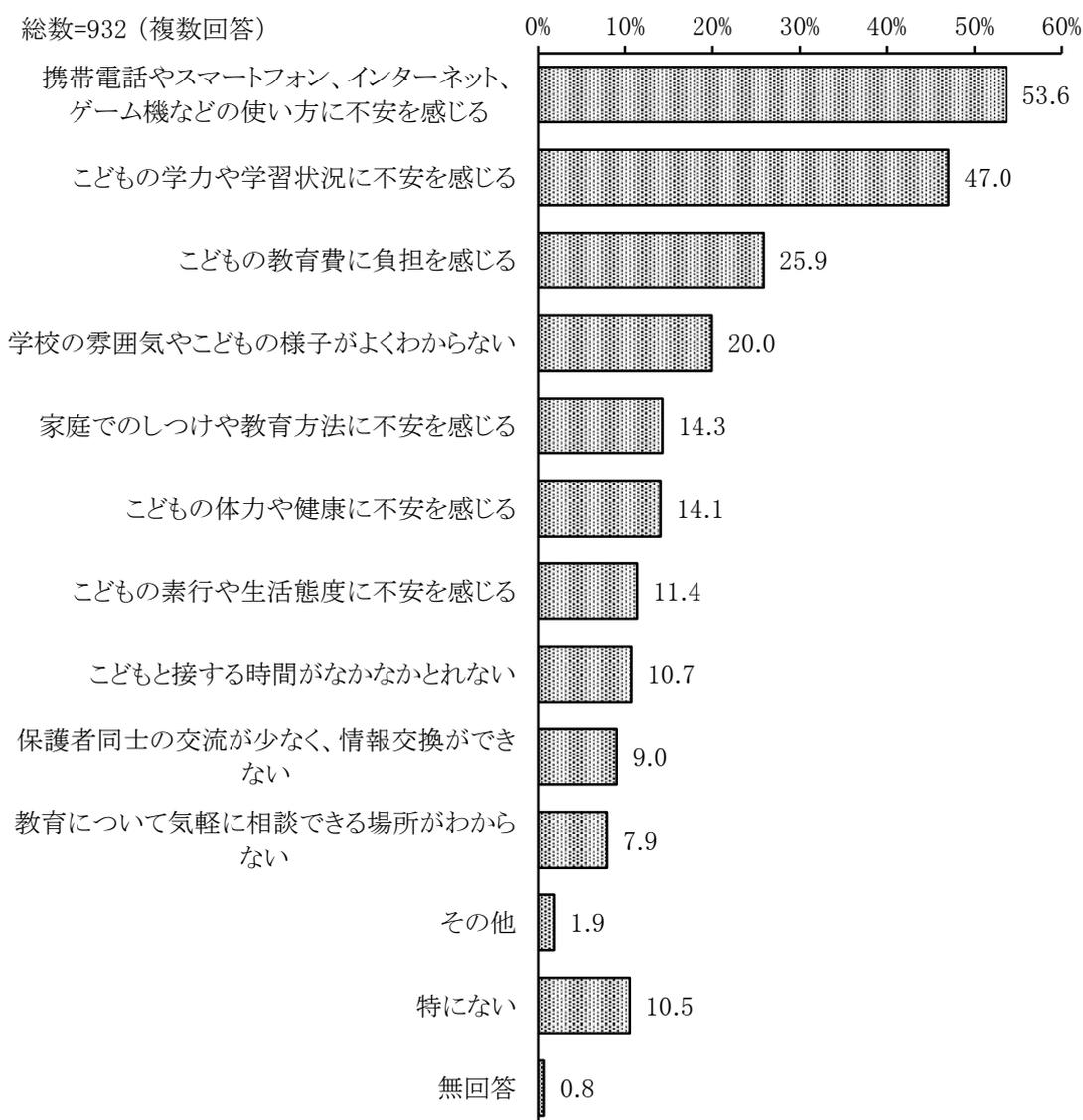
「郷土愛や地域文化の継承」が61.2%で最も多く、次いで「ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力」が56.8%、「いろいろな人と協力する力」が51.7%となっています。



(2) 家庭教育で困っていること

問9 家庭での教育について困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

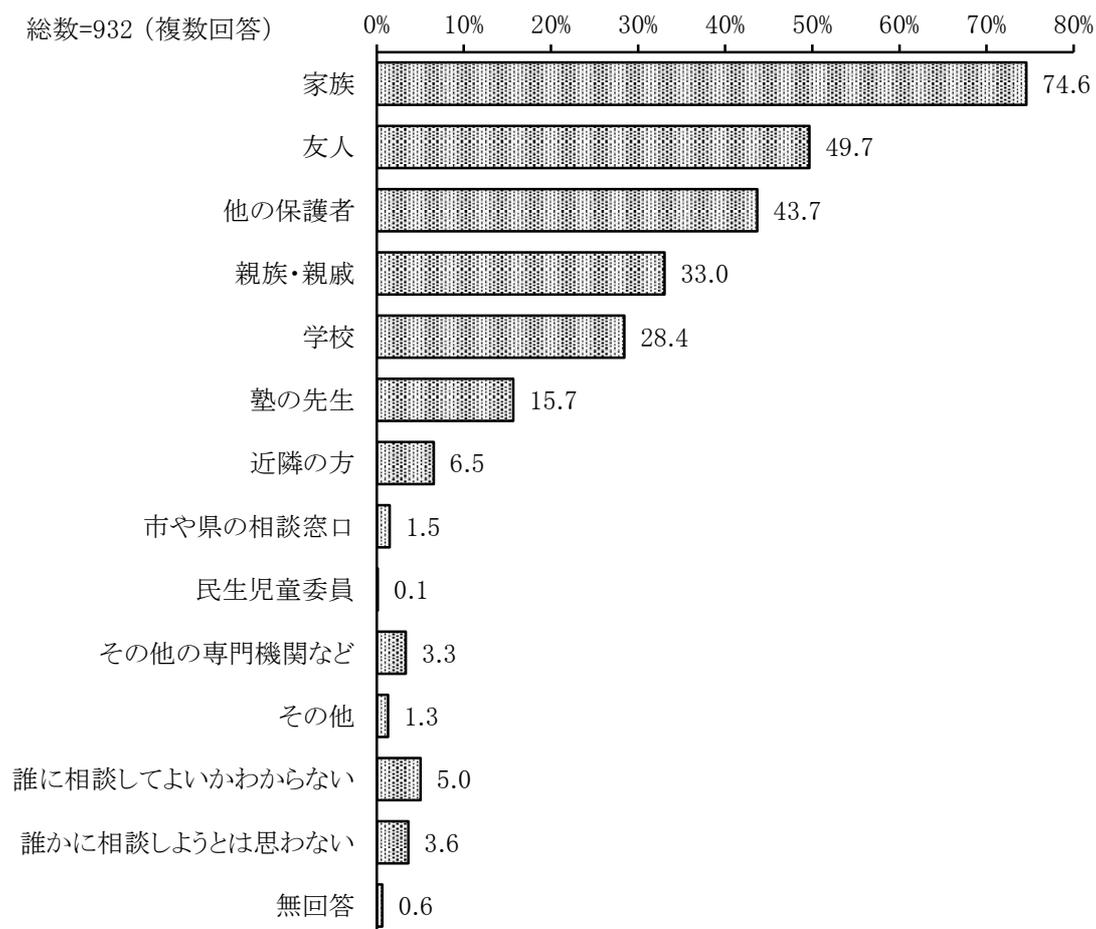
「携帯電話やスマートフォン、インターネット、ゲーム機などの使い方に不安を感じる」が53.6%で最も多く、次いで「こどもの学力や学習状況に不安を感じる」が47.0%、「こどもの教育費に負担を感じる」が25.9%となっています。



(3) 家庭教育で困ったことを相談する先

問10 家庭での教育で困ったことについて誰に相談しますか。(〇はいくつでも)

「家族」が74.6%で最も多く、次いで「友人」が49.7%、「他の保護者」が43.7%となっています。

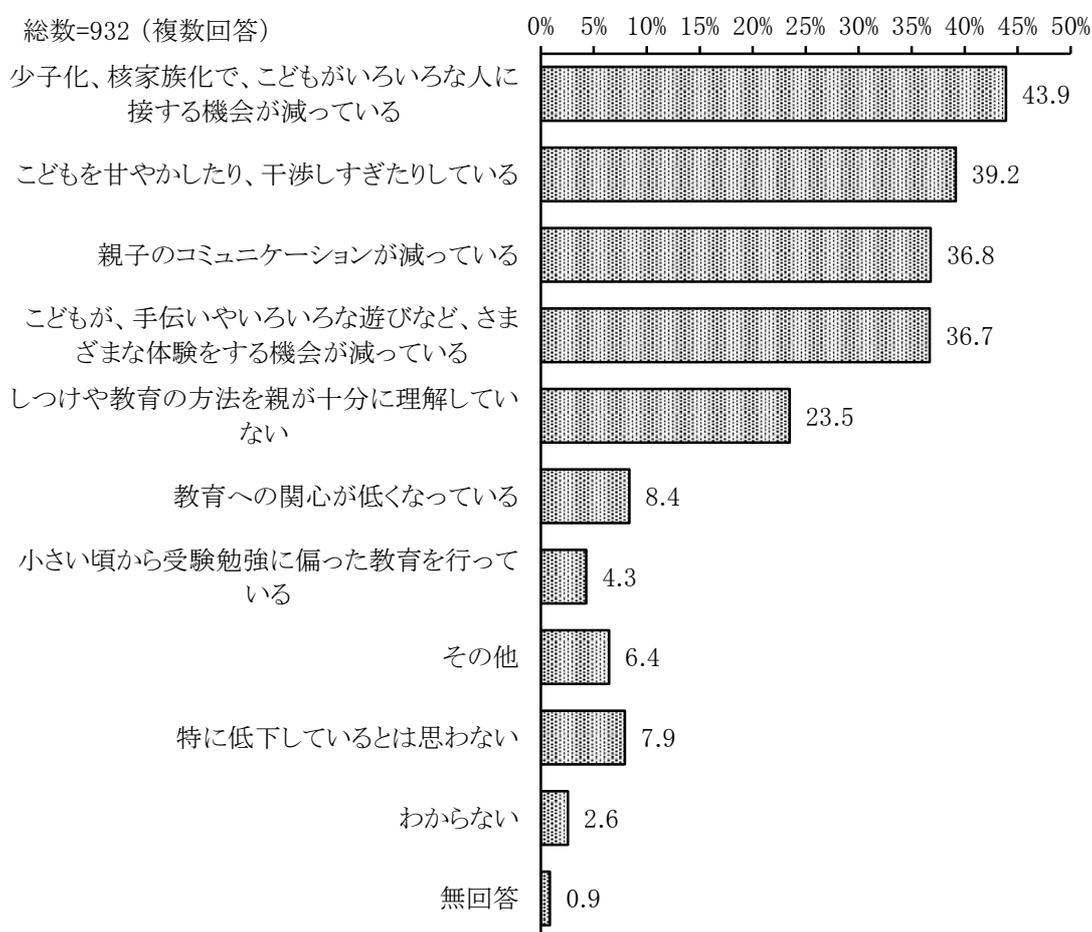


(4) 家庭の教育力が低下している原因

問 11 家庭の教育力が一般的に低下していると言われていますが、どんなことが原因だと思いますか。(3つまで○)

※(用語説明)「家庭の教育力」とは、家庭での生活の中で必要な規範や行動能力を身に付ける教育機能のこと。

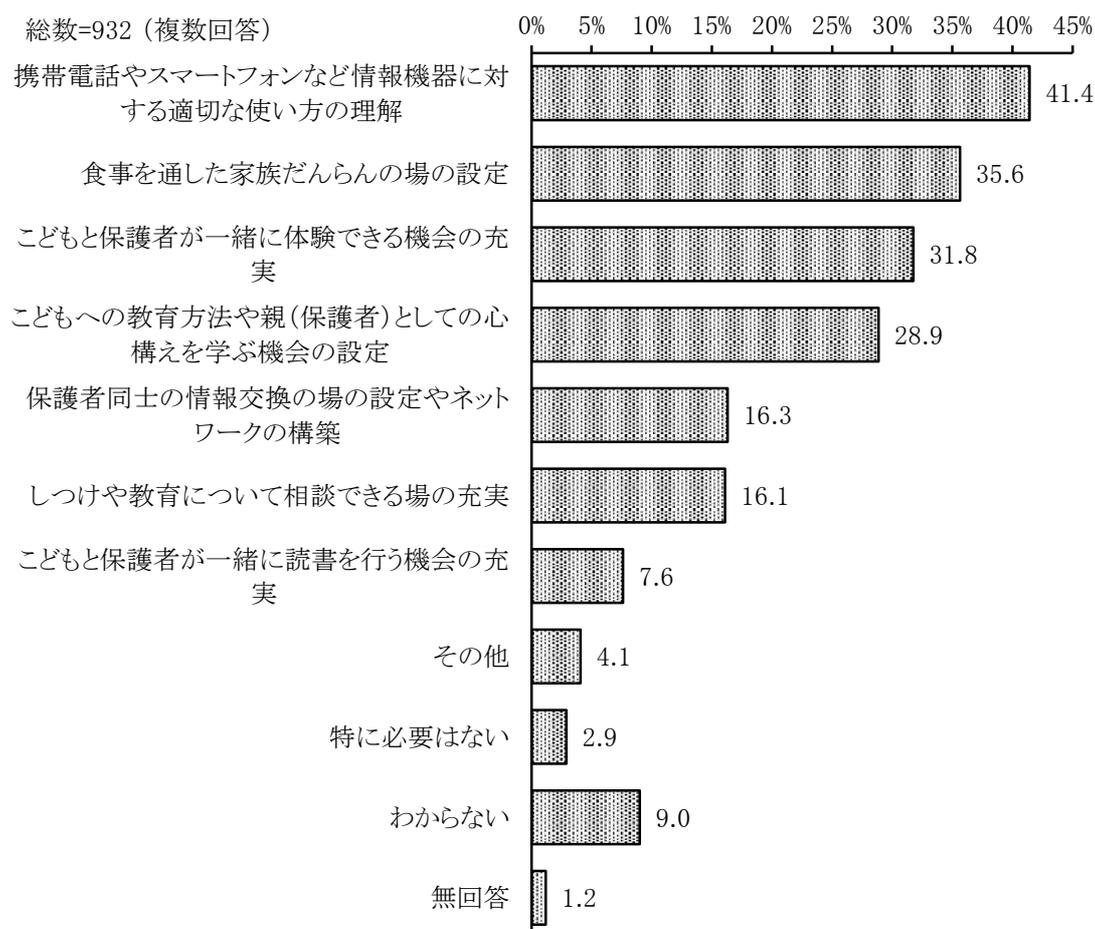
「少子化、核家族化で、こどもがいろいろな人に接する機会が減っている」が43.9%で最も多く、次いで「こどもを甘やかしたり、干渉しすぎたりしている」が39.2%、「親子のコミュニケーションが減っている」が36.8%となっています。



(5) 家庭の教育力向上に必要な取組

問 12 家庭での教育力向上に必要な取組は何ですか。(3つまで○)

「携帯電話やスマートフォンなど情報機器に対する適切な使い方の理解」が 41.4%で最も多く、次いで「食事を通した家族だんらんの場の設定」が 35.6%、「こどもと保護者が一緒に体験できる機会の充実」が 31.8%となっています。

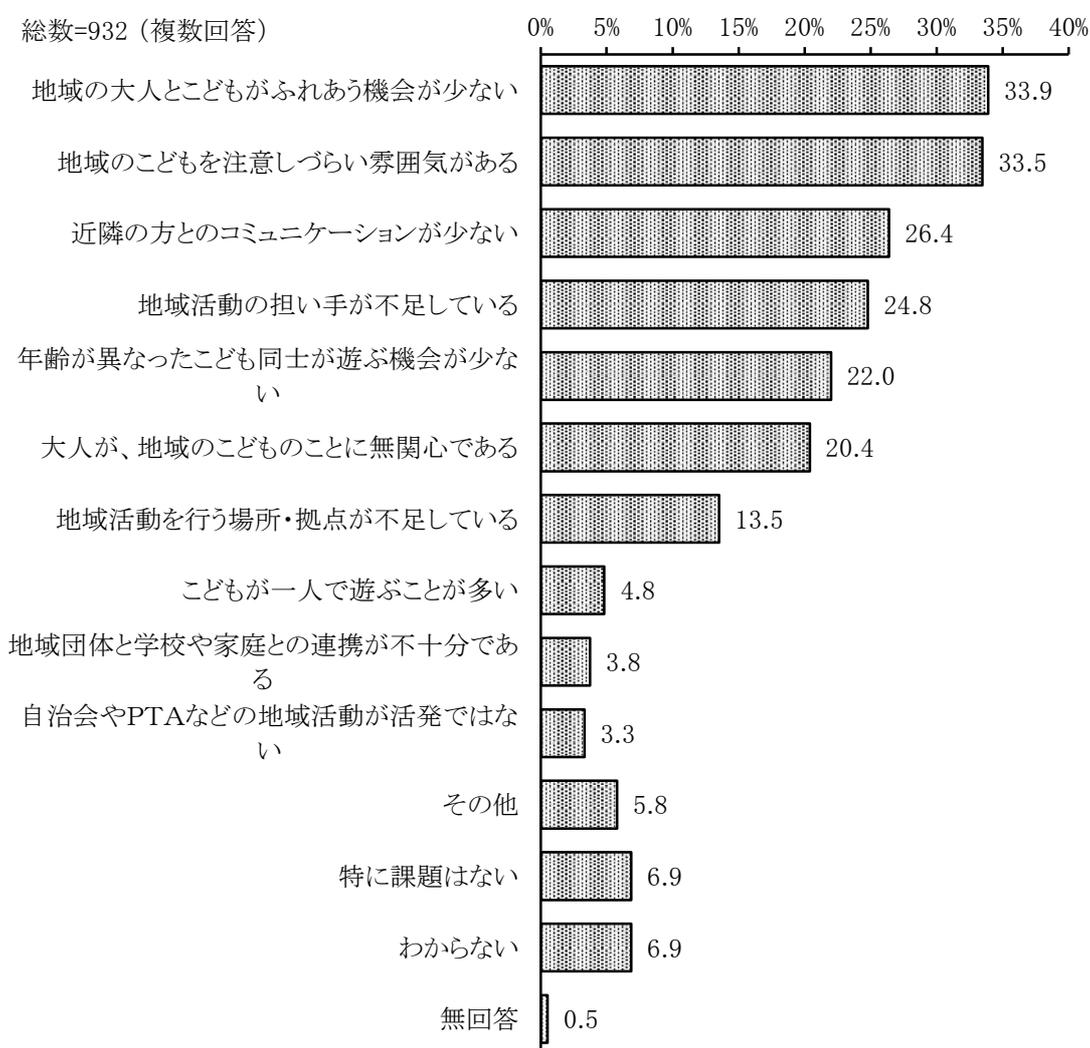


(6) 地域の教育力についての課題

問 13 地域の教育力についてどのような課題があると思いますか。(3つまで○)

※(用語説明)「地域の教育力」とは、地域社会の中で子どもたちが大人や異年齢の友人との交流を通じたさまざまな体験などができる教育機能のこと。

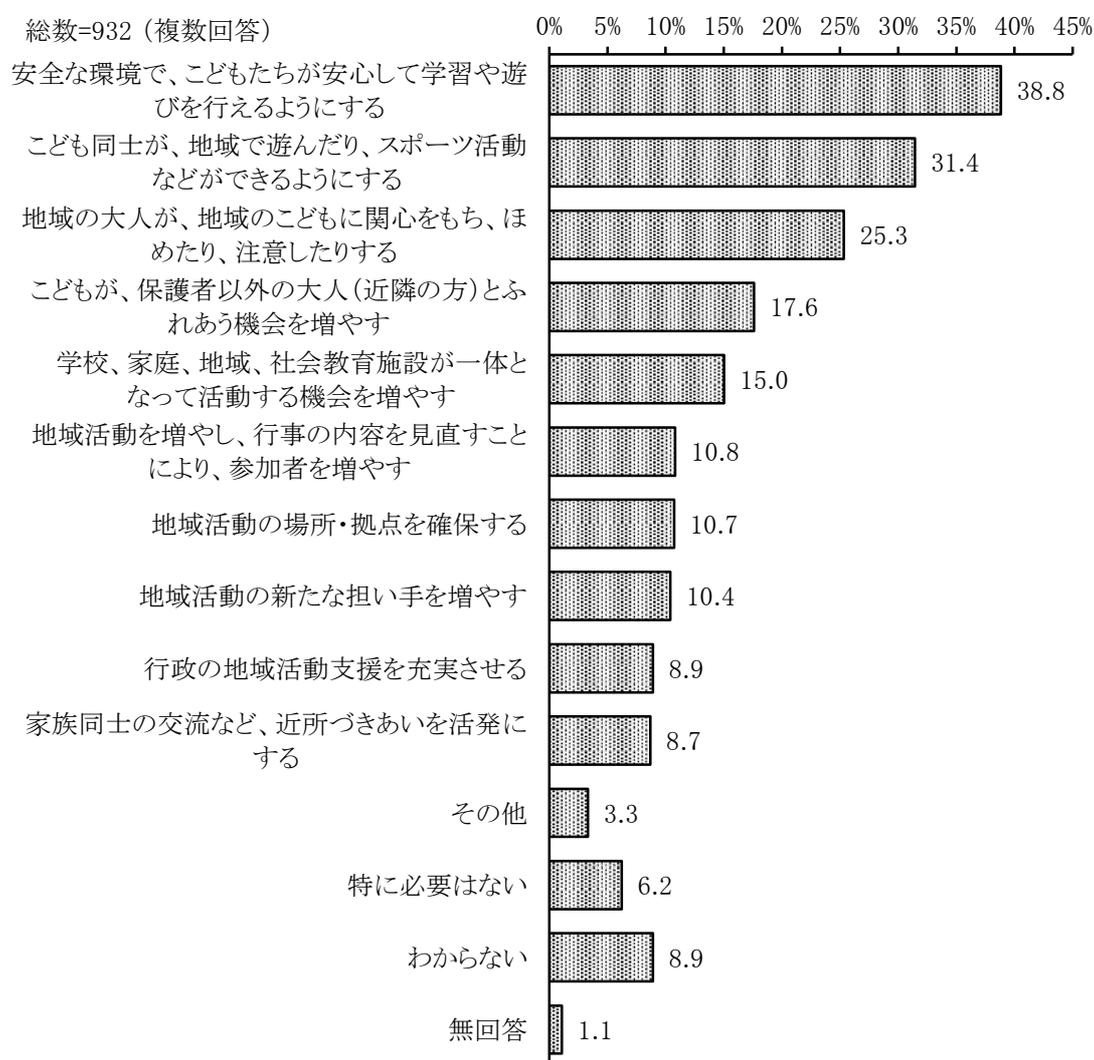
「地域の大人と子どもがふれあう機会が少ない」が33.9%で最も多く、次いで「地域の子どもを注意しづらい雰囲気がある」が33.5%、「近隣の方とのコミュニケーションが少ない」が26.4%となっています。



(7) 地域の教育力向上に必要な取組

問 14 地域の教育力を高めるためにどのような取組が必要だと思いますか。(3つまで
○)

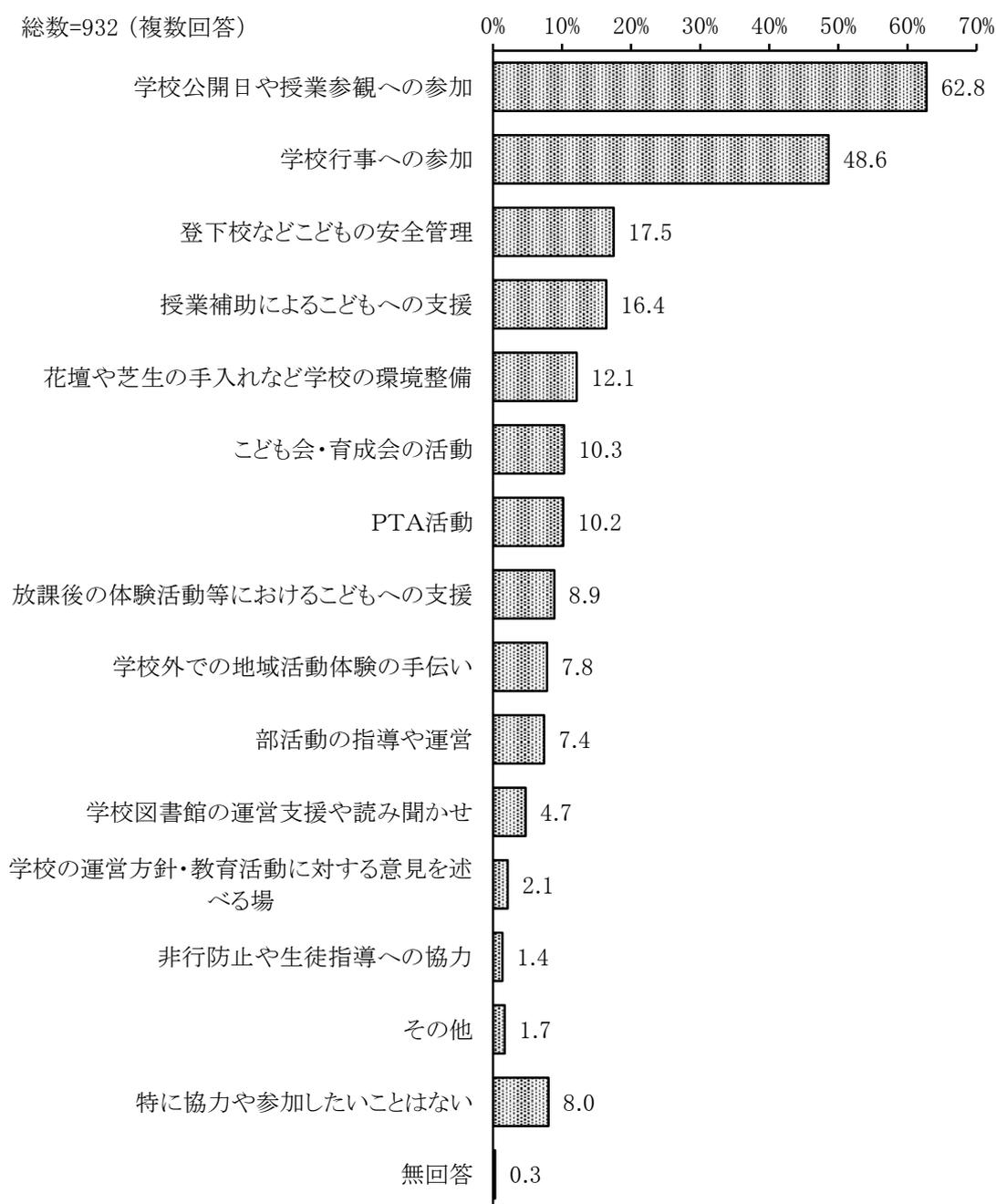
「安全な環境で、こどもたちが安心して学習や遊びを行えるようにする」が38.8%で最も多く、次いで「こども同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする」が31.4%、「地域の大人が、地域のこどもに関心を持ち、ほめたり、注意したりする」が25.3%となっています。



(8) 協力・参加してもよいと思う行事・活動

問 15 次のような行事・活動の中で今後、あなたが学校と協力したり、参加したりしてもよいと思われるものはありますか。(3つまで○)

「学校公開日や授業参観への参加」が 62.8%で最も多く、次いで「学校行事への参加」が 48.6%、「登下校などこどもの安全管理」が 17.5%となっています。



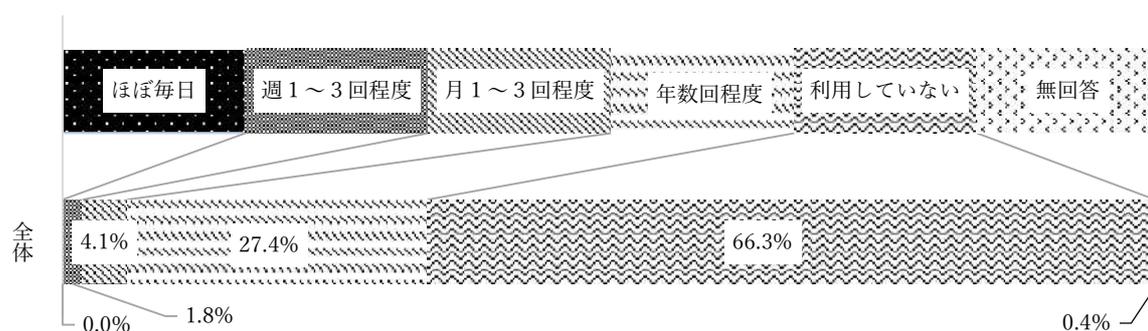
4 公民館・図書館・博物館について

(1) 公民館の利用頻度

問 16 川越市の公民館についておたずねします。あなたは、この1年間（令和5年10月から令和6年9月）に川越市の公民館をどのくらい利用しましたか。（1つに○）

「利用していない」が66.3%で最も多く、次いで「年数回程度」が27.4%、「月1～3回程度」が4.1%となっています。

総数=932

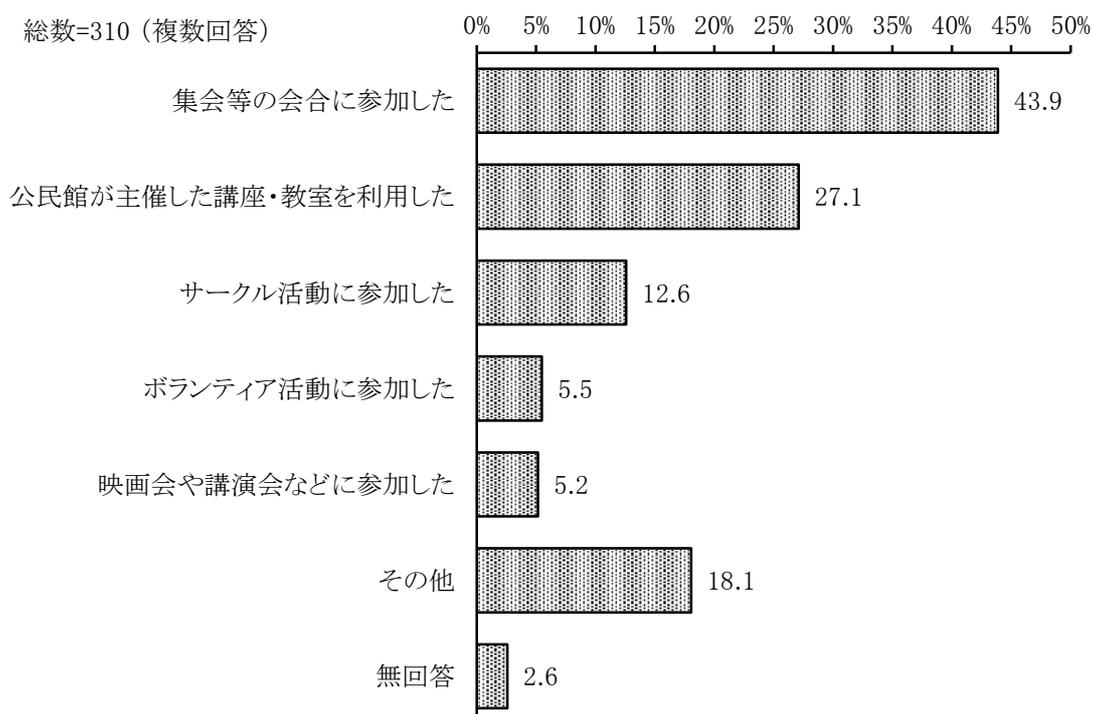


(2) 公民館の利用目的

【問 16 で「1～4」と答えた方におたずねします。】

問 16-1 あなたは、公民館を利用してどのようなことを行いましたか。(〇はいくつでも)

「集会等の会合に参加した」が 43.9% で最も多く、次いで「公民館が主催した講座・教室を利用した」が 27.1%、「サークル活動に参加した」が 12.6% となっています。



(3) 公民館に対する満足度

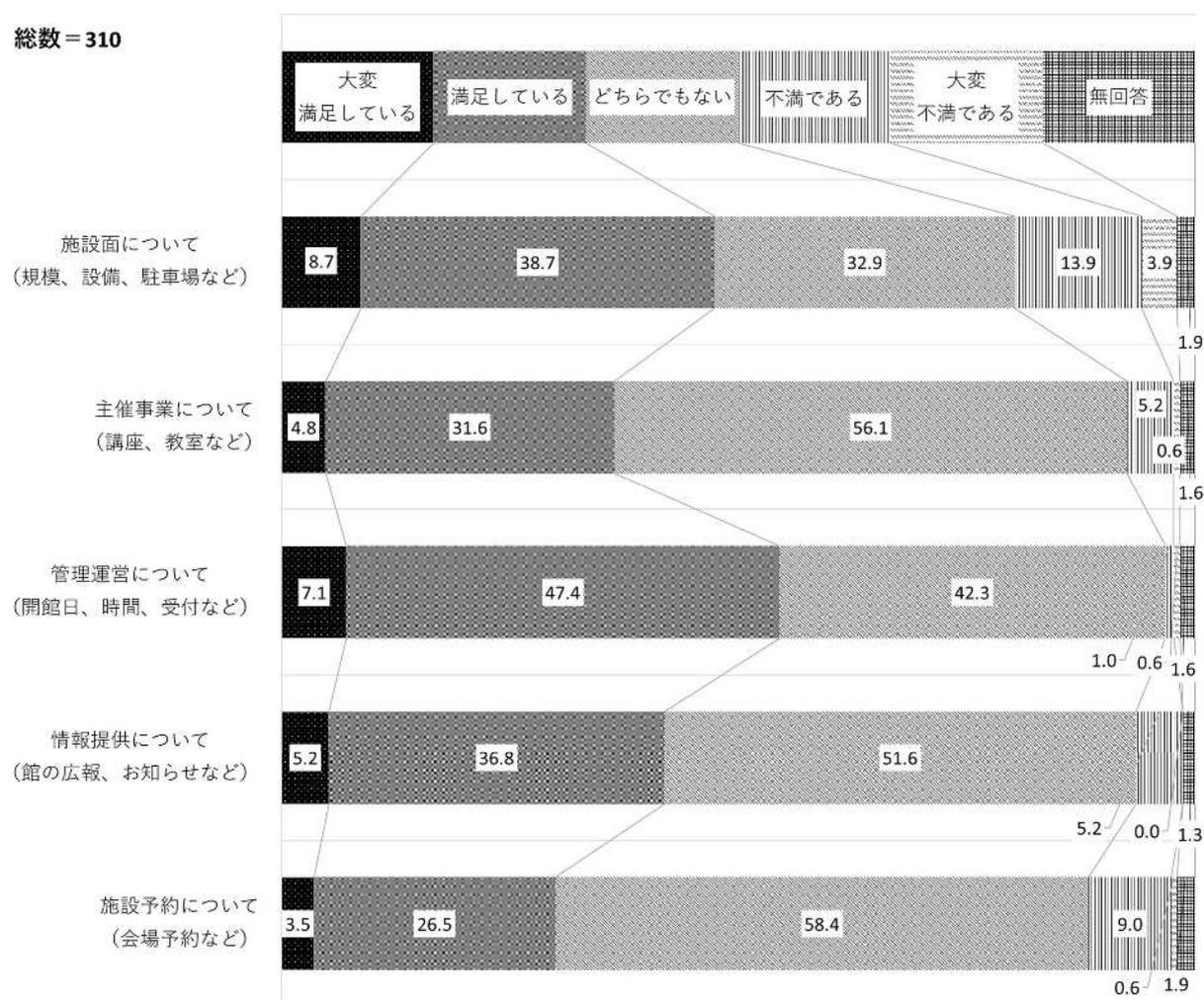
【問16で「1～4」と答えた方におたずねします。】

問16-2 あなたは、公民館の以下のことについて、満足していますか。(それぞれの項目について1つに○)

『満足している』（「大変満足している」＋「満足している」）という回答は、「管理運営について（開館日、時間、受付など）」が54.5%で最も多く、次いで「施設面について（規模、設備、駐車場など）」が47.4%、「情報提供について（館の広報、お知らせなど）」が41.9%となっています。

一方、『不満である』（「大変不満である」＋「不満である」）という回答は、「施設面について（規模、設備、駐車場など）」が17.7%で最も多く、それ以外の項目は1割未満となっています。

総数 = 310

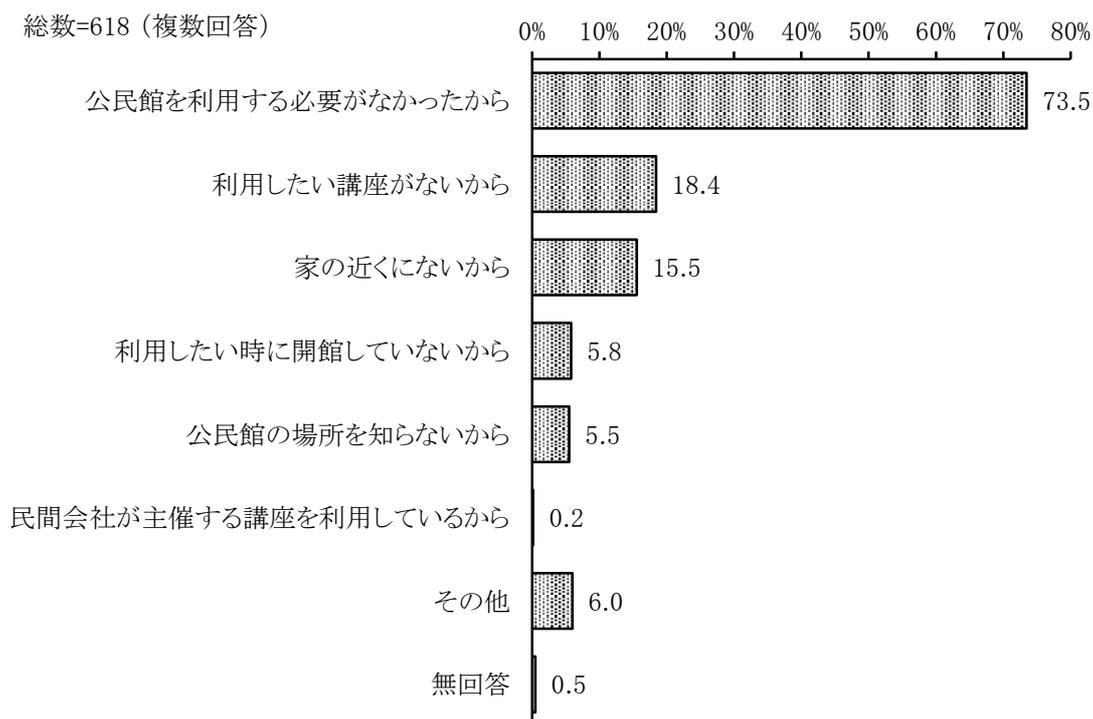


(4) 公民館を利用しない理由

【問16で「5. 利用していない」と答えた方におたずねします。】

問16-3 あなたが、公民館を利用しない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

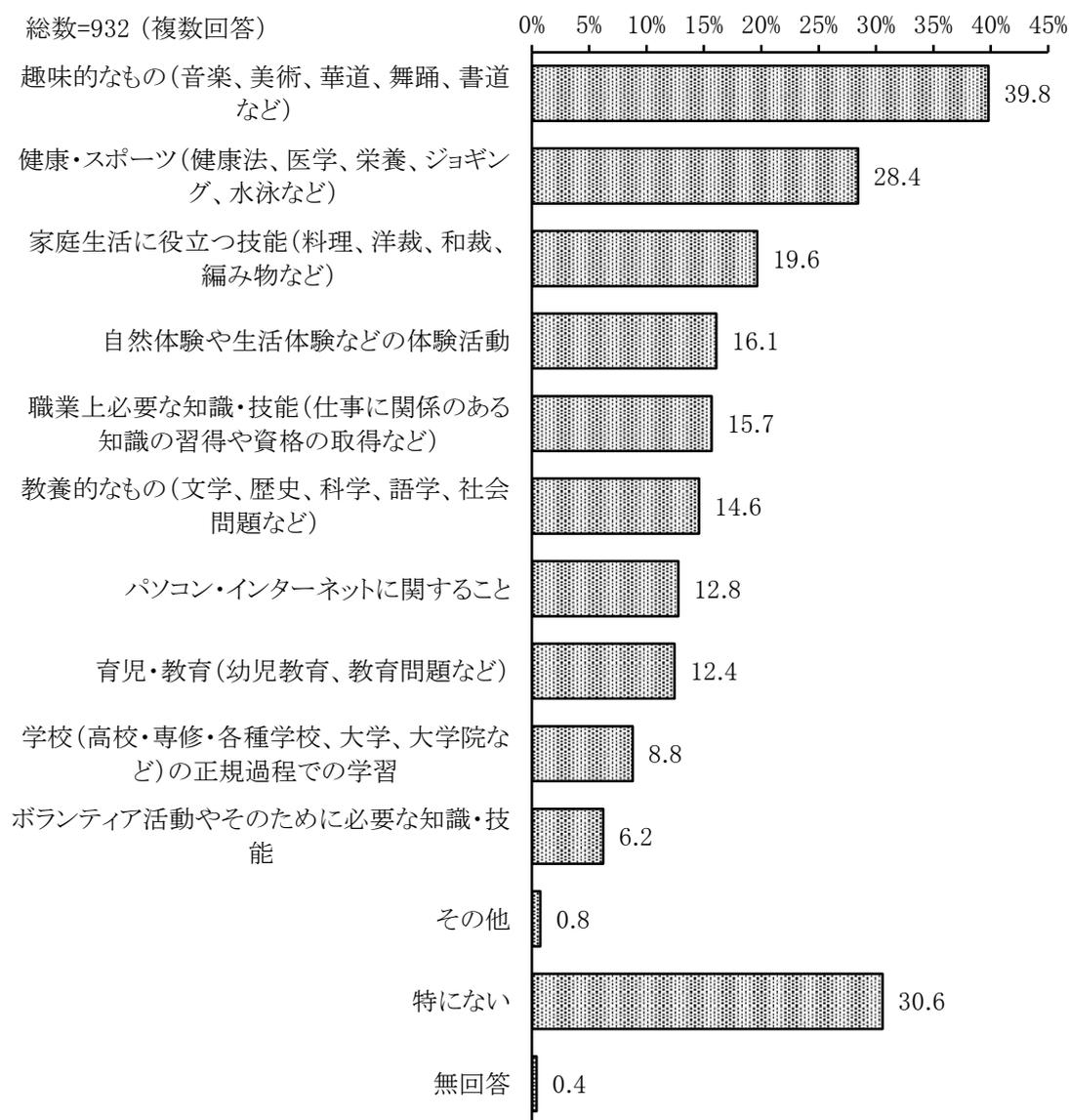
「公民館を利用する必要がなかったから」が73.5%で最も多く、次いで「利用したい講座がないから」が18.4%、「家の近くにないから」が15.5%となっています。



(5) 公民館で学びたいこと

問17 あなたは、公民館においてどんなことを学びたいですか。(〇はいくつでも)

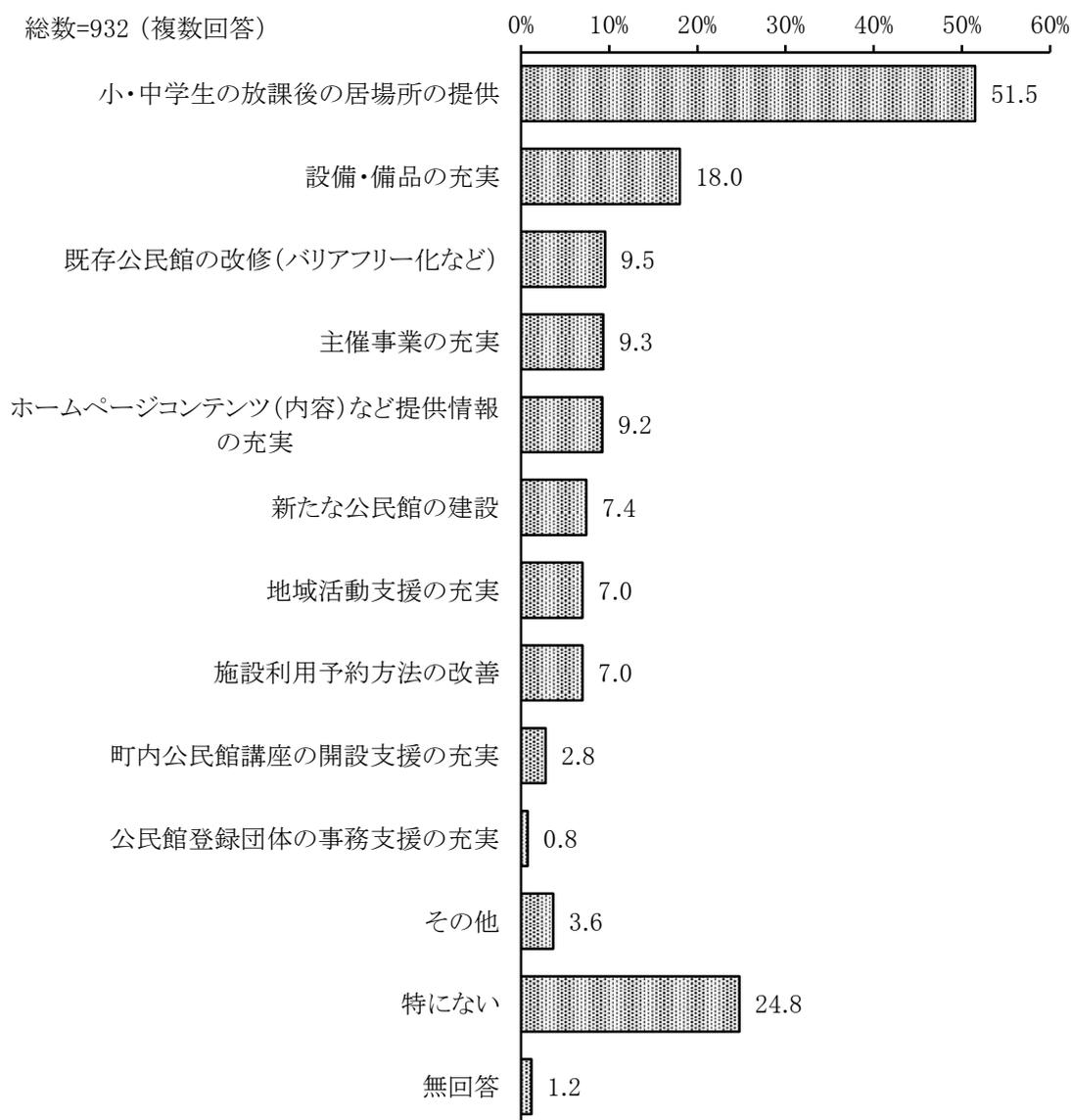
「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道など)」が39.8%で最も多く、次いで「健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)」が28.4%、「家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)」が19.6%となっています。



(6) 公民館への要望

問 18 これからの公民館に要望したいことは何ですか。(3つまで○)

「小・中学生の放課後の居場所の提供」が51.5%で最も多く、次いで「設備・備品の充実」が18.0%、「既存公民館の改修(バリアフリー化など)」が9.5%となっています。

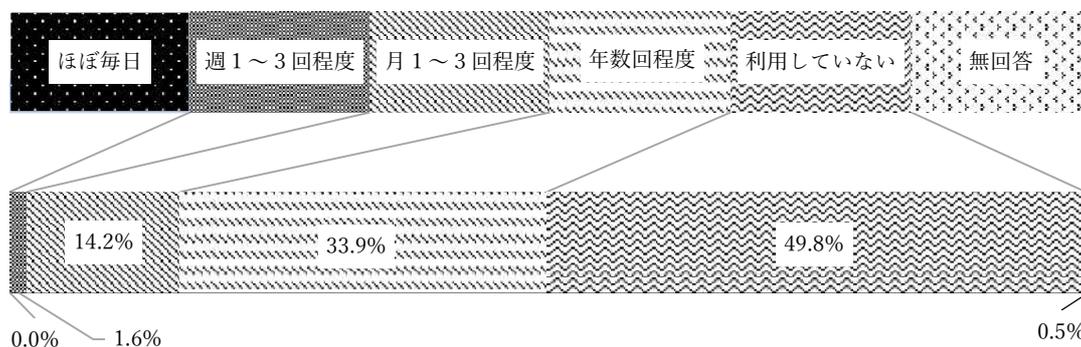


(7) 図書館の利用頻度

問 19 川越市の図書館についておたずねします。あなたは、川越市の図書館をこの1年間(令和5年10月から令和6年9月)にどのくらい利用しましたか。(1つに○)

「利用していない」が49.8%で最も多く、次いで「年数回程度」が33.9%、「月1～3回程度」が14.2%となっています。

総数=932



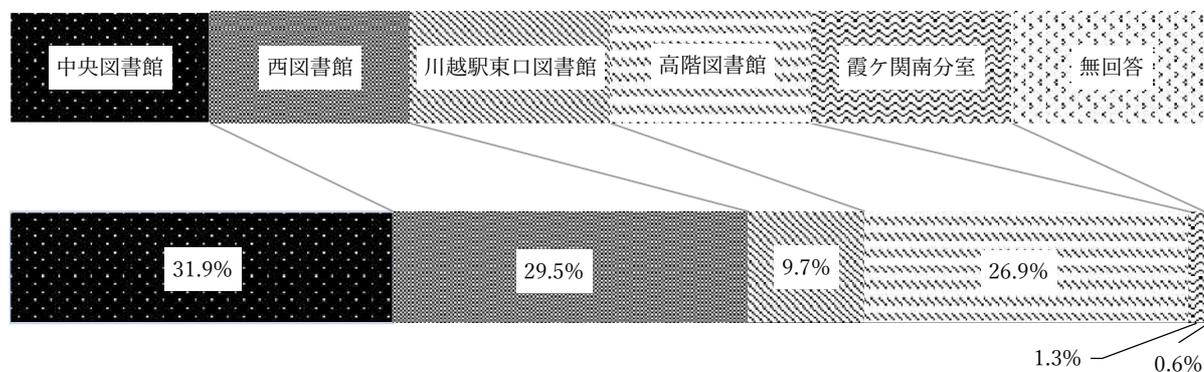
(8) 最も利用する図書館

【問19で「1～4」と答えた方におたずねします。】

問 19-1 あなたが、最も利用する図書館は、次のどの図書館ですか。(1つに○)

「中央図書館」が31.9%で最も多く、次いで「西図書館」が29.5%、「高階図書館」が26.9%となっています。

総数=464

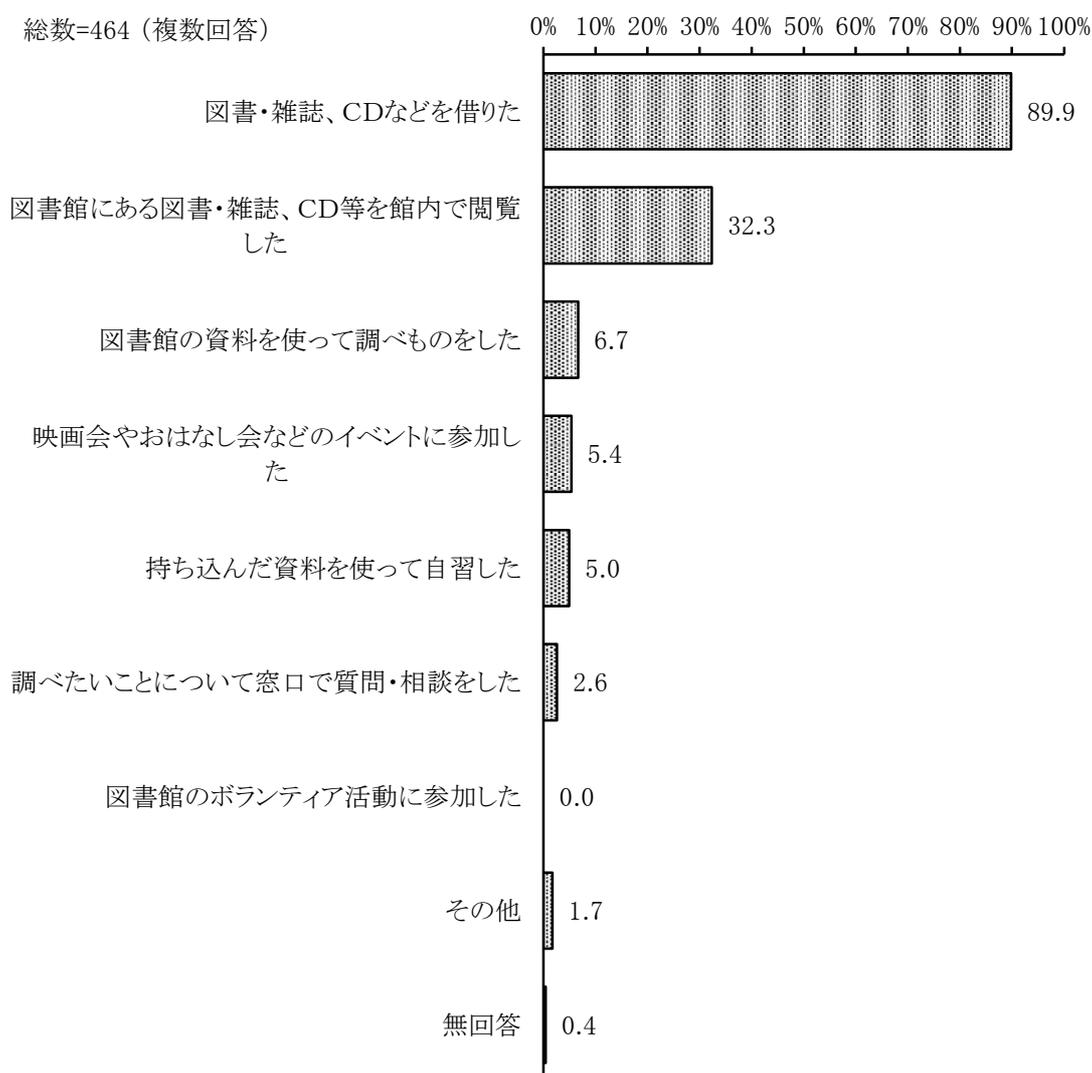


(9) 図書館の利用目的

【問19で「1～4」と答えた方におたずねします。】

問19-2 あなたは、図書館に行ってどのようなことをしましたか。(〇はいくつでも)

「図書・雑誌、CDなどを借りた」が89.9%で最も多く、次いで「図書館にある図書・雑誌、CD等を館内で閲覧した」が32.3%、「図書館の資料を使って調べものをした」が6.7%となっています。



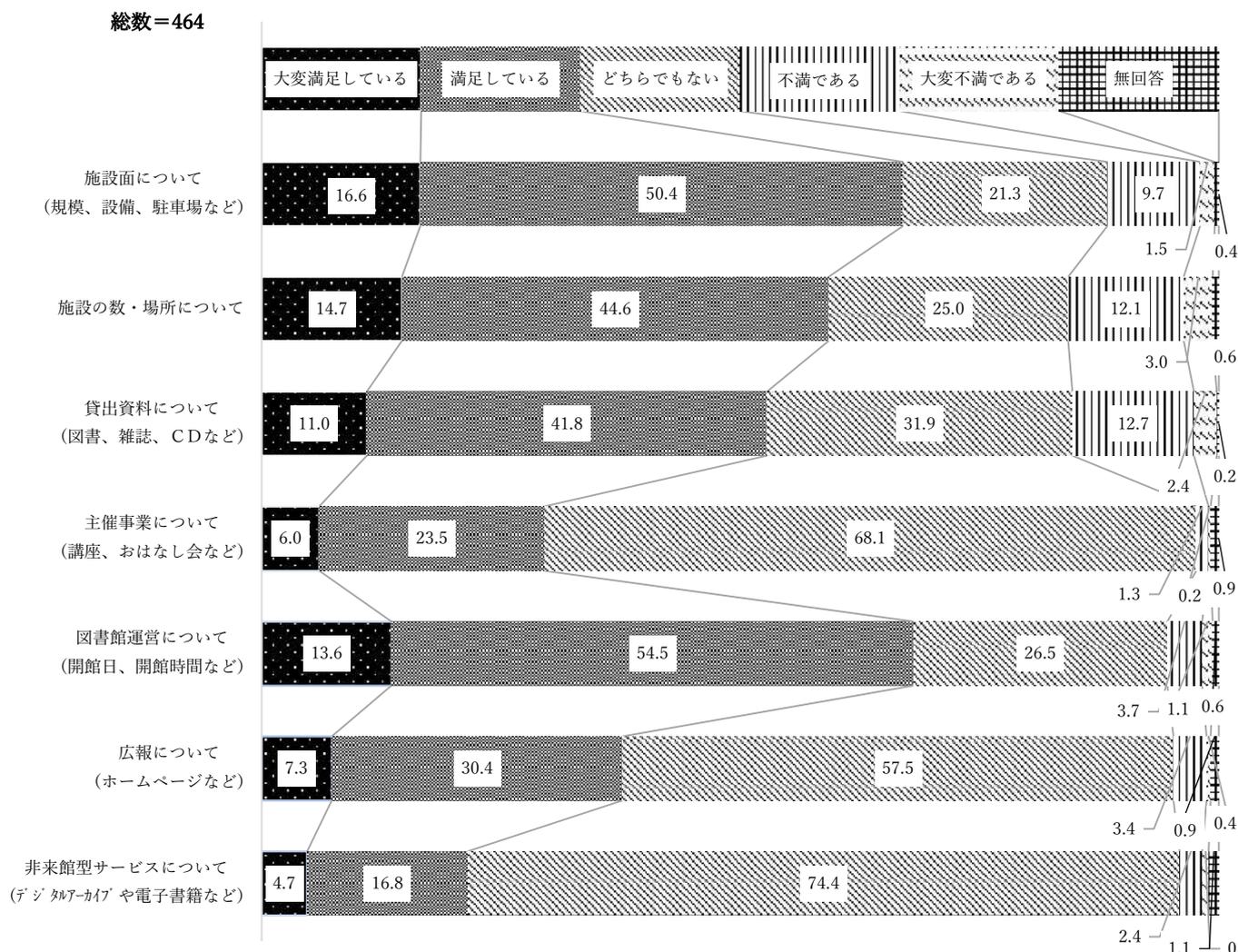
(10) 図書館に対する満足度

【問 19 で「1～4」と答えた方におたずねします。】

問 19-3 あなたは、図書館の以下のことについて、満足していますか。(それぞれの項目について、1つに○)

『満足している』（「大変満足している」＋「満足している」）という回答は、「図書館運営について（開館日、開館時間など）」が 68.1% で最も多く、次いで「施設面について（規模、設備、駐車場など）」が 67.0%、「施設の数・場所について」が 59.3% となっています。

一方、『不満である』（「大変不満である」＋「不満である」）という回答は、「施設の数・場所について」及び「貸出資料について（図書、雑誌、CD など）」が 15.1% で最も多く、次いで「施設面について（規模、設備、駐車場など）」が 11.2% となっています。

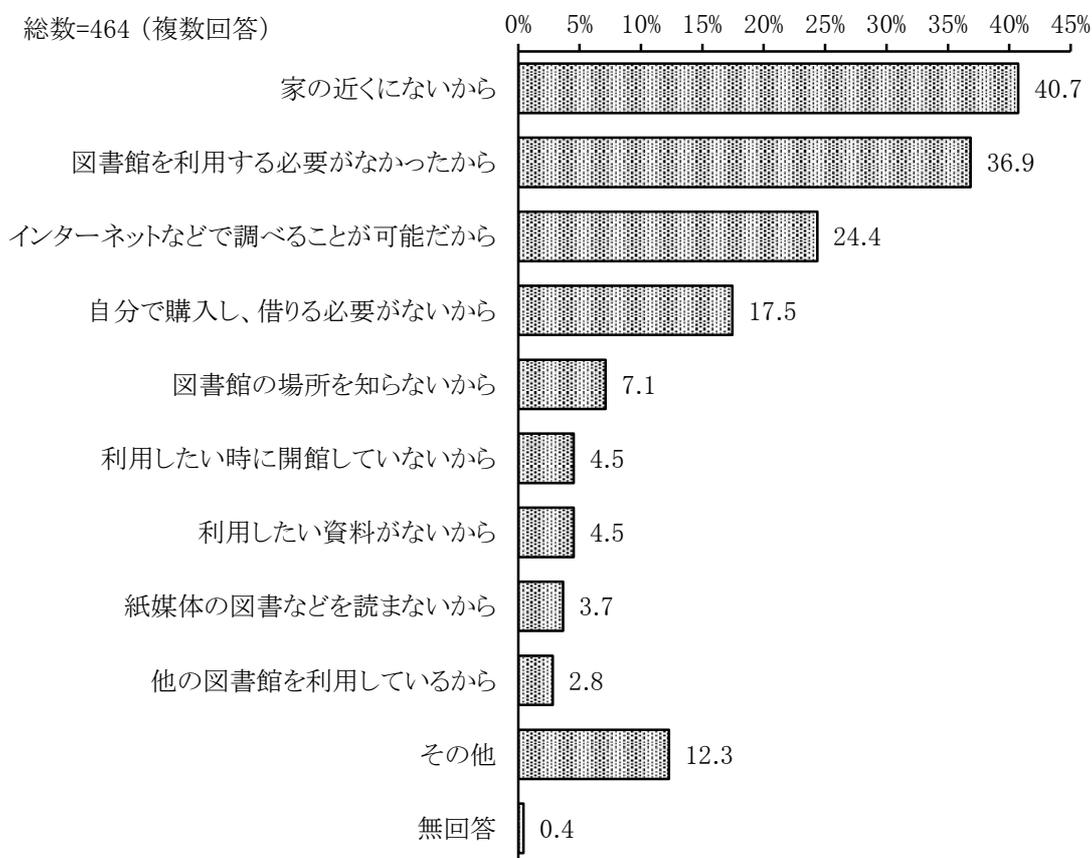


(11) 図書館を利用しない理由

【問19で「5. 利用していない」と答えた方におたずねします。】

問19-4 あなたが、図書館を利用しない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

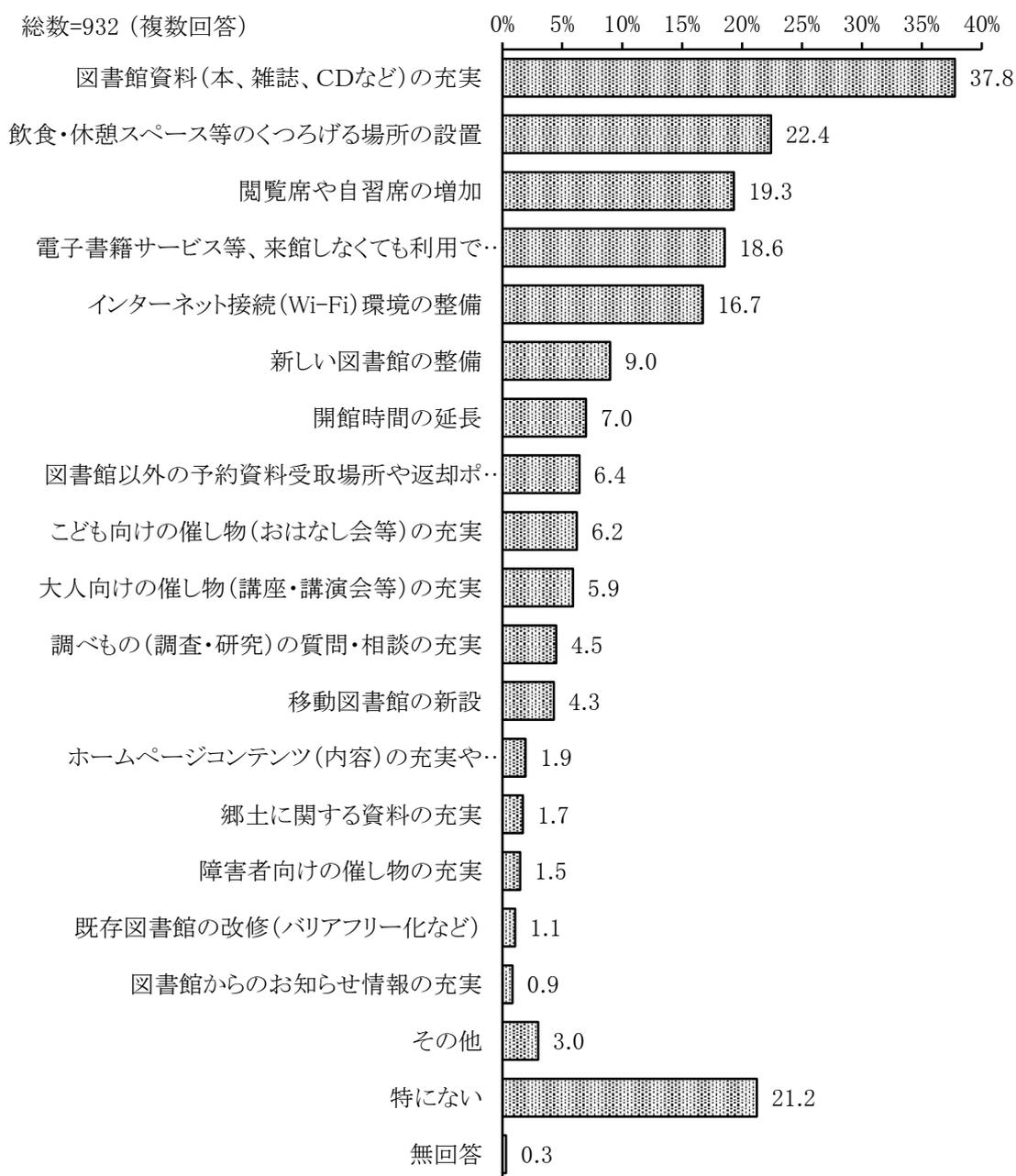
「家の近くにないから」が40.7%で最も多く、次いで「図書館を利用する必要がなかったから」が36.9%、「インターネットなどで調べることが可能だから」が24.4%となっています。



(12) 図書館への要望

問 20 これからの図書館に要望したいことは何ですか。(3つまで○)

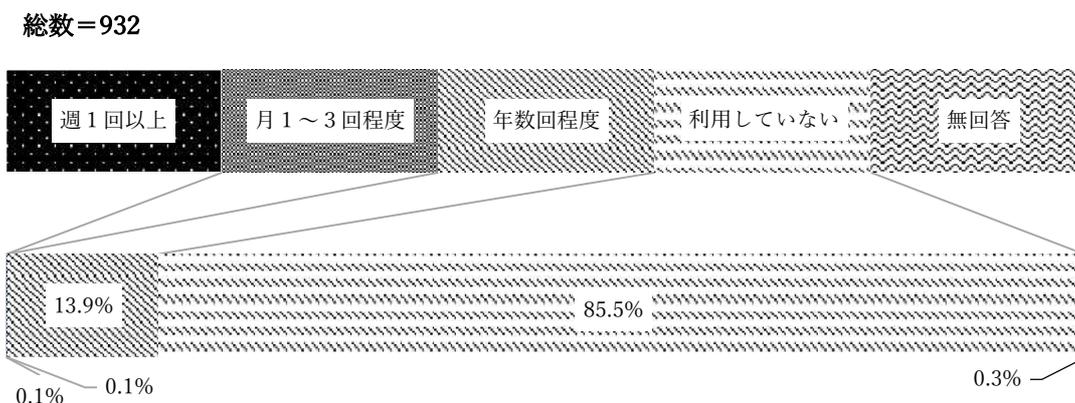
「図書館資料(本、雑誌、CDなど)の充実」が37.8%で最も多く、次いで「飲食・休憩スペース等のくつろげる場所の設置」が22.4%、「閲覧席や自習室の増加」が19.3%となっています。



(13) 博物館の利用頻度

問 21 川越市立博物館についておたずねします。あなたは、この1年間（令和5年10月から令和6年9月）にどのくらい来館しましたか。（1つに○）

「利用していない」が85.5%で最も多く、次いで「年数回程度」が13.9%、となっています。

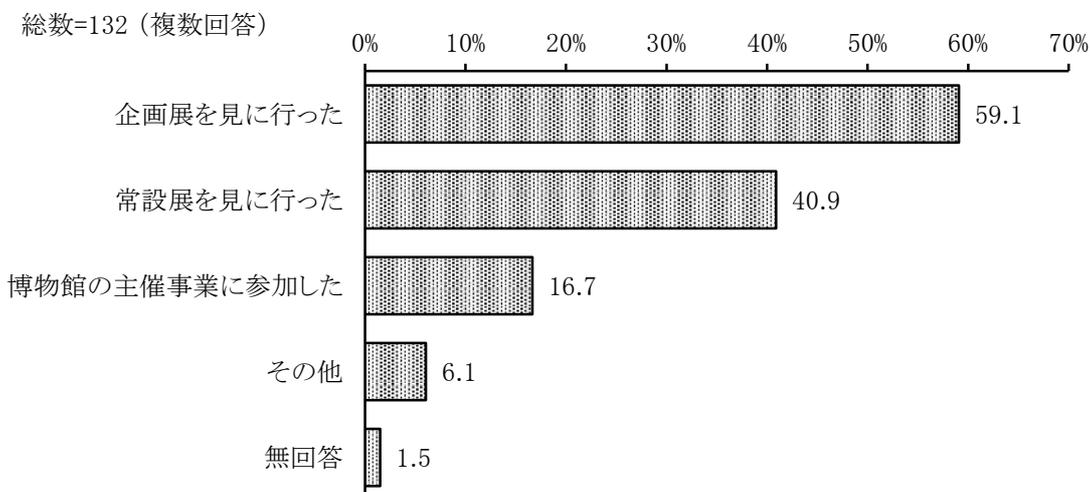


(14) 博物館の利用目的

【問21で「1~3」と答えた方におたずねします。】

問 21-1 あなたは、博物館にどのような目的で行きましたか。（○はいくつでも）

「企画展を見に行った」が59.1%で最も多く、次いで「常設展を見に行った」が40.9%、「博物館の主催事業に参加した」が16.7%となっています。



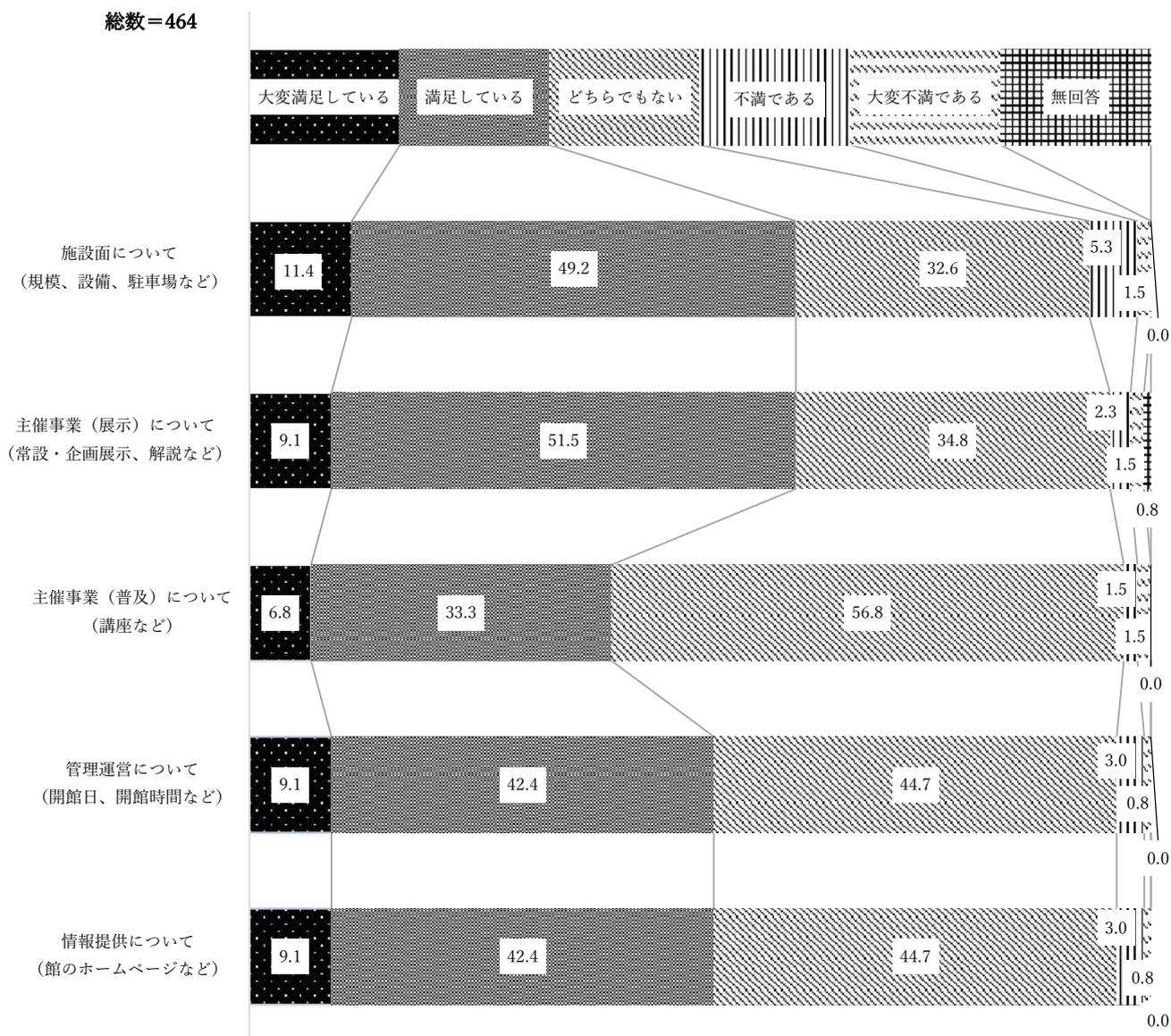
(15) 博物館に対する満足度

【問 21 で「1～3」と答えた方におたずねします。】

問 21-2 あなたは、博物館の以下のことについて、満足していますか。(それぞれの項目について、1つに○)

『満足している』（「大変満足している」＋「満足している」）という回答は、「施設面について（規模、設備、駐車場など）」及び「主催事業（展示）について（常設・企画展示、解説など）」が60.6%で最も多く、次いで「管理運営について（開館日、開館時間など）」及び「情報提供について（館のホームページなど）」が51.5%となっています。

一方、『不満である』（「大変不満である」＋「不満である」）という回答は、どの項目も1割未満となっています。

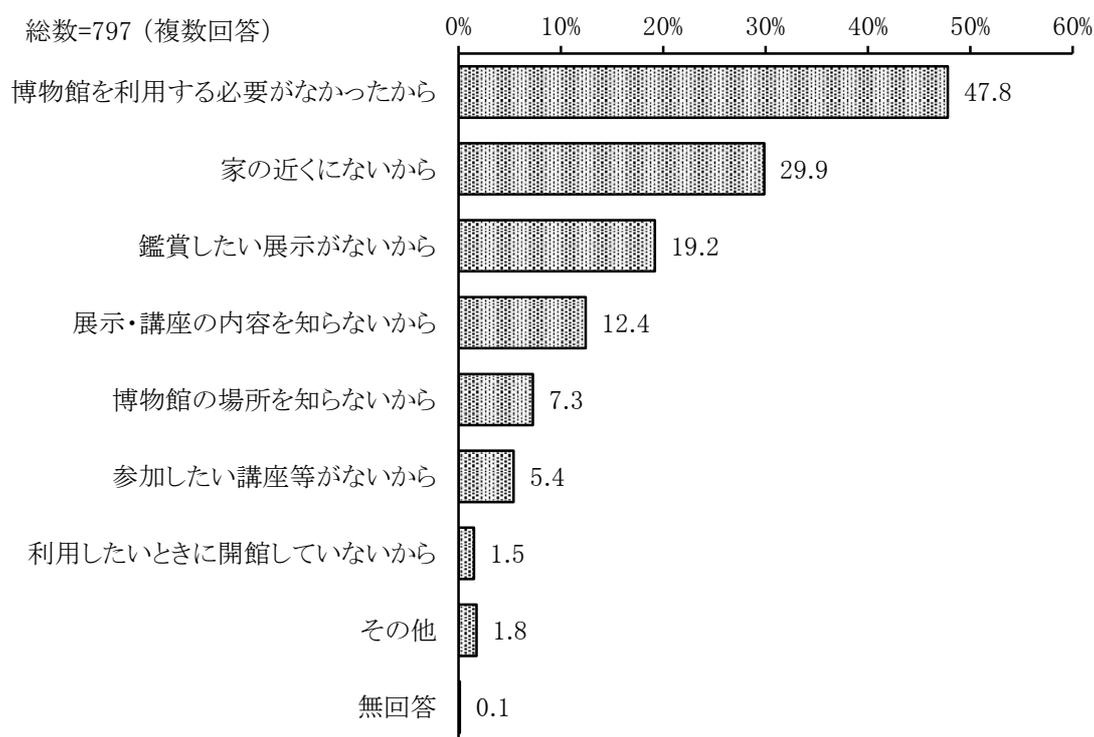


(16) 博物館を利用しない理由

【問 21 で「4. 利用していない」と答えた方におたずねします。】

問 21-3 あなたが、博物館を利用しない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

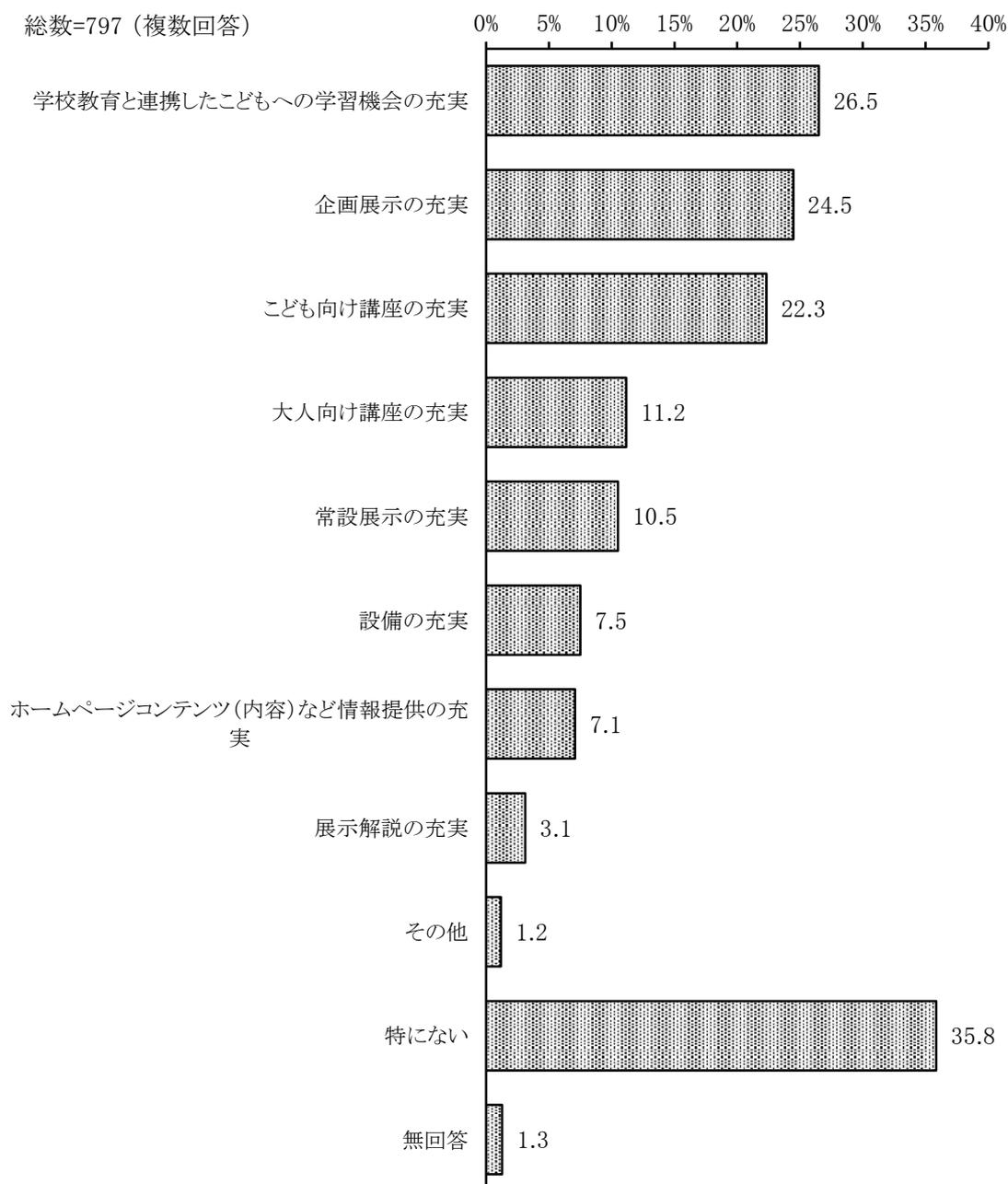
「博物館を利用する必要がなかったから」が 47.8%で最も多く、次いで「家の近くにないから」が 29.9%、「鑑賞したい展示がないから」が 19.2%となっています。



(17) 博物館への要望

問 22 これからの博物館に要望したいことは何ですか。(3つまで○)

「学校教育と連携した子どもへの学習機会の充実」が26.5%で最も多く、次いで「企画展示の充実」が24.5%、「子ども向け講座の充実」が22.3%となっています。



(18) 公民館・図書館・博物館についての意見・要望

問 23 川越市の公民館・図書館・博物館について、学校との連携を含めご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

有効回収数 932 票中 91 票に意見の記述がありました（1票の中に複数の分野にまたがる回答もあるため、各項目の回答件数の合計は 91 件より多くなっています）。以下に回答内容の中から一部を抜粋・調整し、掲載しました。

<主な回答内容>

公民館（10件）

○こどもの居場所・学習スペース・交流の場（6件）

- ・夏休み等暑く家から出られない事が多い。公民館や自治会館等の開放で少し体を動かすことができれば、体力低下やストレスが少しでも減らせ、地域の方々と交流することができるなどの機会があればうれしいです。勉強も見ていただけたらより利用したいです。
- ・公民館に放課後のこども居場所を設置してもらえるとありがたい。場所の開放。公民館は一部の利用者の為の活動場所のようになっているので、もっと開かれた場所で利用しやすくフリースペース等を充実させて欲しい。

○利用しやすい公民館（2件）

- ・講座の申込みが現在電話申込みのみですが、インターネット申込みが可能になると有難いです。
- ・公民館について、市民がもっと気軽に利用できるような様々な事柄について敷居を下げて欲しい。

○その他（2件）

- ・中学生向け～大人が参加してもおかしくない企画があると嬉しいです。
- ・メールで開催内容を送ってもらっていましたが、仕事にシフトを出すのに間に合わない事が多く、行事が決まったら早目に告知して欲しいです。

図書館（40件）

○こどもの居場所・学習スペース（4件）

- ・特に夏休みの暑さが子ども達の行動を制限しており、友達と外で会ったり遊んだりできない。公民館や図書館など室内で集える場所を気軽に利用できるようにして充実した夏休みをおくらせてあげたい。

- ・川越市の図書館は、学習スペースや書籍が少なく感じる。特に東口図書館は、3階の絵本コーナーにしか行かない。学生が多い駅前エリアに学習スペースが充実した中学生～高校生向けの図書館があるといいなと思う。鶴ヶ島市の図書館は充実していて、近隣の市の住民も利用できてとても評判が良くてうらやましい。

○近くにないので利用しづらい（11件）

- ・特に図書館、家の近くにほしい。
- ・都内に住んでいたときは、どの町にいても近くに図書館があった。川越はあまりないので、こどもが自由に行けなくて残念です。本を読まなくても自習をしたり、居場所がある環境を作ってあげたい。図書館を身近な場所と思えば、本を読みたくなったタイミングで図書館へ足を運ぶようになると思う。
- ・図書館を利用したいが、近くにない。同じ市民なのに、非常に不公平である。文化格差を何とかしてもらいたい。
- ・こどもが自転車で気軽に行ける距離に図書館があれば良いなと思う。

○施設・設備（4件）

- ・こどもの本が置いてある場所のその場で本を見れるテーブルとイスのスペース充実。
- ・どの図書室も狭い。金沢市の図書館のようなものがあれば、幅広い年代の方が利用でき、自然と学力も上がるのでは無いかと思います。

○移動図書館の実施（2件）

- ・移動図書館(車)が2週間に1回とか、ユニクス南古谷に来てくれるとうれしいです。
- ・毎月学童保育室に移動図書館が来てくれたら、嬉しい。学童の本は全て読み終わったと言っているので、移動図書館に角川つばさ文庫とか色々もってきてくれたら、少しは学童が楽しくなるかな?と。

○蔵書の充実（11件）

- ・図書館に読みたい本をメモして行くが、ない事が多い。
- ・とにかく本を増やしてほしい。古い本しかない。特にこども向け(小学生)。こどもは読みたい本がないと言って図書館に行かなくなりました。児童書の充実を望みます。
- ・図書館は入り浸っているような高齢者の方がいること、VHSなど古い資料が多い事が、雰囲気悪化につながっているように感じることもある。大図鑑など、生物に関しての図鑑等、貸出可能な図書を増やしてほしい。
- ・児童向けの本をより充実させてほしい。他県よりも本の種類が少ない。

○イベントの実施（2件）

- ・本を読みたい、好きになるようなイベント(学校と連携して行ったりもしてほしい)。
- ・特に図書館のこども向けイベントは季節の読み聞かせ会など、工夫を凝らして下さっていて楽しんで参加しています。学校の授業の中で図書館に行き、返却ポストの中を見せてもらったり、検索の仕方を教えてもらったこともあったようで、良い経験になったようです。ぜひ続けてもらいたいと思います。

○貸出・返却の利便性の向上(2件)

- ・図書館については、次の予約がなければ貸し出しの延長を行う手続きが、ネットで出来れば大変助かる。
- ・図書の返却場所を増やしてほしい。

○その他(4件)

- ・新しい本が少なく、開館時間が短いので、中学生と一緒に夜、本を見に行きたい時は、ふじみ野市の図書館を利用している。
- ・学校の図書室を利用できたらいいのでは(一般も)?

博物館(6件)

○展示の充実(3件)

- ・博物館は興味のある展示がない。宣伝が無く、何をしているかよくわからない。
- ・狭山市の博物館のように、魅力的な企画展をやしてほしい。川越市の施設は、堅苦しく感じる。

○その他(3件)

- ・学校を通して博物館のお知らせや広告がほしいです。
- ・博物館の、郷土の歴史に関する講座等が平日メインなので働いていると参加し難いです。メインの参加者層が定年後の方々でしょうから致し方無いと理解していますが、土日などももう少し増えると参加できるなと思っています。

全体(46件)

○こどもの居場所・学習スペース・交流の場(7件)

- ・こども達が、学校の宿題など学習を行える場が出来ると良いと思います。
- ・小学校を卒業した後、急に大人枠扱いにされ、地域の小さな公園で遊ぶと煙たがられ、行き場がない。母校の小学校には来るなど言われ、中学校で遊ぶなどできない。体が大きくなっても心はまだこども。多少大きな声を出すこともある。地域の人々の理解があり、居場所があり、彼らが許容される空間が生まれなければ、地域の大人への反感を生み、大人になった時に地域に根付かなくなるという悪循環。彼らが大きくなる過

程を見守る事ができるような環境、雰囲気作りが出来ないだろうか。

- ・博物館、美術館、図書館へ行って、教室では学べないことを学べる機会を増やして欲しい。

○近くにないので利用しづらい（3件）

- ・川越市街の中心地から離れると、このような施設がないため、そもそも利用する機会がありません。もっと子ども達が気軽に利用できるよう新しく作ってもらいたいです。
- ・駅周辺に公民館、図書館、博物館が集中しているので車でしか行けない場所に住んでると放課後にでも行こうというのがなかなかできません。土日は習い事等で今の子は忙しいです。

○施設・設備（2件）

- ・必要性がある内容、場所になっていない所を直すべき。
- ・老朽化が課題だと思う。

○学校授業との連携（9件）

- ・課外授業の一環として利用できたら良いと思います。学校の図書室だけでは足りない物があったり、それぞれの場所でのマナーなど、学べる事がたくさんあると思いました。
- ・自分の生まれ育った街に、公共施設がどういうものがあるのか知る機会になる。特に博物館は校外学習で行かないと、行く機会はないのかなと思います。郷土を知ることとはとても大切なことなので、引き続き校外学習は続けてほしいと思います。
- ・各学習指導要領に載っている内容との関連性があるイベントがあれば、行ってみようという関心が湧くと思います。現在がそうであったとしても、それを知り得ません。

○興味を引く工夫（2件）

- ・自分からは行かない様な人が行きたくなる様な工夫をして欲しい。
- ・図書館博物館と連携して何かのイベント(子どもが主体の)をやったり、子どもが当事者となって、何かが出来れば、図書館や博物館に興味を持つきっかけになるかと思いました。

○企画の充実（4件）

- ・連休時には子ども達が楽しく1日過ごせるイベントを考えてほしい。
- ・特別な体験は日にちや人数に制限があり、参加が難しい。回数を増やしたり、飛び入りができるようにしてほしい。科学未来館や科学博物館といった未来的な要素を盛り込んでほしい。体験型の展示を増やしてほしい。

○利用しやすい施設（2件）

- ・こどもの障がい特性により、利用が難しくなった。障がいがあってもなくても利用しやすい施設であってほしい。
- ・こどもが行きやすい、活用しやすい雰囲気作りが必要。ルール、マナーは大切ですが、言い方、伝え方も大切。

○その他（6件）

- ・時代に合わせる。
- ・目でみて触れて、一緒に体験する機会が多いほどこども達の記憶に残ると思うので、そのような機会が増えていくと良いと思います。

○特になし（11件）

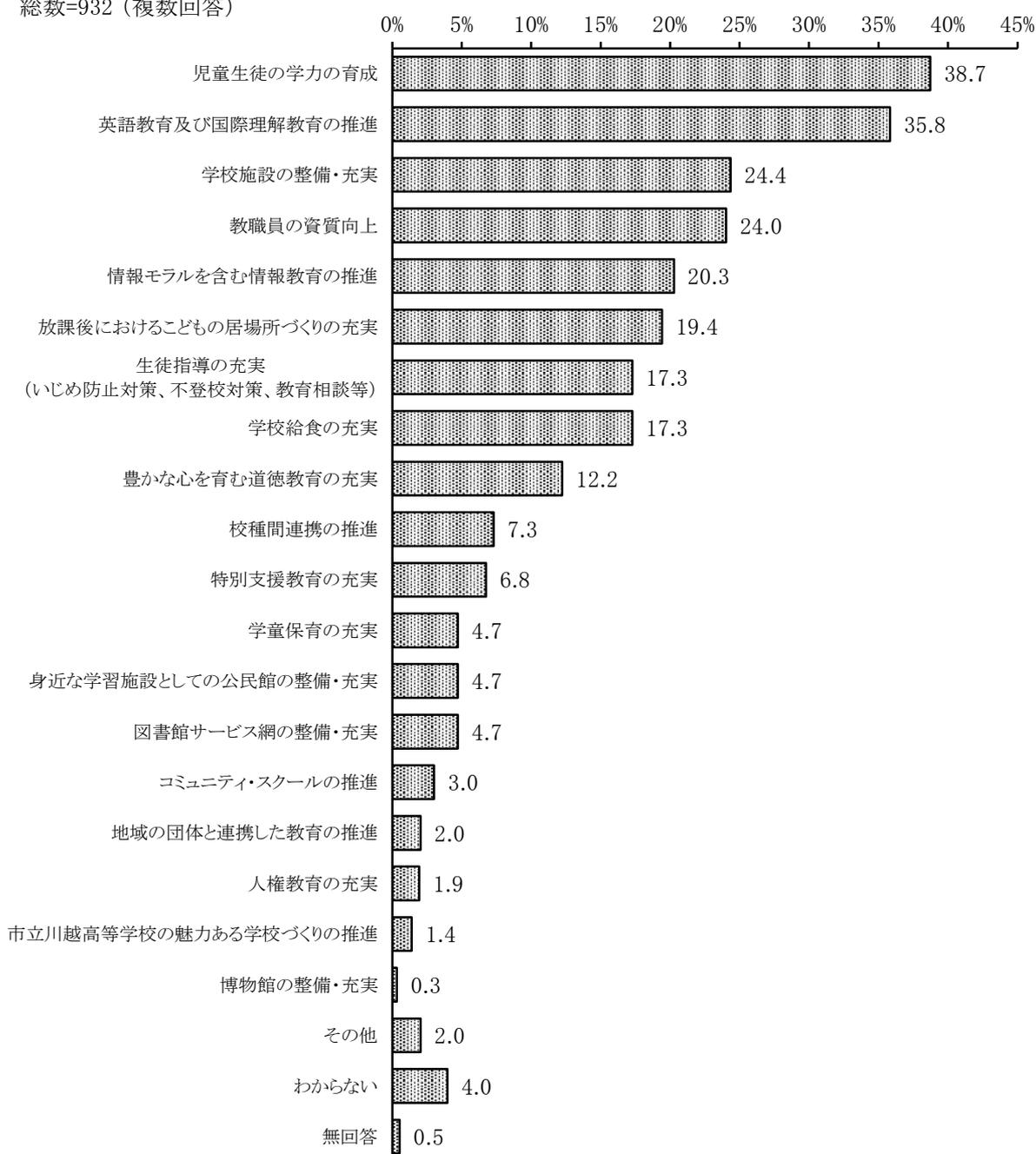
5 教育施策について

(1) 充実させたほうが良いと思う教育施策

問 24 川越市が現在取り組んでいる以下の教育施策において、あなたが充実させたほうが良いと思うものはありますか。(3つまで○)

「児童生徒の学力の育成」が38.7%で最も多く、次いで「英語教育及び国際理解教育の推進」が35.8%、「学校施設の整備・充実」が24.4%となっています。

総数=932 (複数回答)



(2) 自由記述

問 25 川越市の教育に関してご意見などがありましたら、ご記入ください。

有効回収数 932 票中 165 票に意見の記述がありました（1票の中に複数の分野にまたがる回答もあるため、各項目の回答件数の合計は 165 件より多くなっています）。以下に回答内容の中から一部を抜粋・調整し、掲載しました。

<主な回答内容>

○グローバルスタディ（7件）

- ・将来、海外で活躍出来るこどもを増やしていけるような取組。優秀な子を海外研修とか、体験機会を増やす。学力差は広がるばかりですが、我が子のフォローも大切ですが、よりよい人材を増やす活動が少ないと思います。
- ・英語に力を入れてほしい。
- ・さいたま市のように、小学校低学年からの英語への取り組み。グローバルスタディの実施。

○教育機会均等化のための支援（5件）

- ・全ての教育の無償化。
- ・塾に行くのが当たり前というのが無くなれば良いのと思います。貧困問題にやはりつながっていきます。もっと多子家庭を援助して欲しいなと思います。

○市立川越高等学校（3件）

- ・高校の学費の補助
- ・市立川越高校に入学を希望する生徒が入りやすい環境づくりを希望する。

○保護者の役員、当番等（17件）

- ・PTAの活動負担を減らしてほしいです。もしくは廃止してほしいです。共働き家庭も多いのに活動が正直負担です。日本語が話せないから免除、仕事が忙しいから...という理由で来ない方がいる等、一部の人に負担がかかっているのが現状です。活動も時代に合わせて変化するべきだと思います。
- ・小中学校のPTA加入について、加入するかしないかわかりやすくしていただきたい。入学していつのまにか加入している形になっているのがおかしい。加入する意志の確認を明確にし、PTA役員を無理にやらせる制度を廃止していただけたらと思います。
- ・PTA活動の無駄が多すぎて、こどもの為ではない時間の為に、小さい子を預けたり、有休使うのはおかしい。どうでもいい講演会とかいらぬ。保護者をサクラに使わないでほしい。その時間をこどもの為に使わせて。

- ・朝の旗当番をシルバーセンターさんをお願いしていただきたい。(仕事や小さい子どもがいる家庭は調整するのが困難。)
- ・役員等が多すぎる。必要なのも分かるが、出来ない人、苦手な人もいることを理解してほしい。コロナ渦でやらなくても平気だったのもあるので、無くしていいと思う。その分、もっと学校で工場見学や地域に出て勉強などを増やし、その際の付き添い、帰りの見守りなど、お手伝い出来る人はするなどでいいと思う。
- ・川越市は育成会やPTA活動、旗当番、自治会活動が盛んで、親の負担が多い。もう少し軽減出来ると良いと思います。

○学校施設・設備の充実(22件)

- ・教育に関係あるものか、わかりませんが、教室だけではなく子どもたちの使用する教室(家庭科室、多目的室)にもエアコンを設置してほしい。
- ・学校校舎の老朽が進んでいる。(雨もりなど。)子ども達が安全に学校で学び、体を思う存分動かす事が出来る様にしてほしい。教室なども、狭いので、学ぶ環境を良くし、学習能力も上がるのではないのでしょうか?
- ・全ての学校での洋式トイレの設置数を増やしてほしい。
- ・学校の備品を充実してほしい。部活の備品が古すぎて、さいたま市から引越してきて、ビックリした。教育全てにお金を出してほしい。
- ・トイレの老朽化があり、利用しづらく、我慢してしまう子がいると聞くので、少しずつでいいので、トイレのリフォームなどをして頂きたいです。
- ・学校設備の整備にはしっかりと税金を使っただけでほしい。教育環境を整えずして質の良い教育、学習が出来るわけがない。教育に力を入れない市に住みたい納税者はおらず未来はない。
- ・施設に特に体育館にエアコンを早くつけて欲しい

○多様なニーズに応じた指導や支援の充実(5件)

- ・外国籍などの子どもが増えているように思います。語学教育など、一般の学校に通っている外国籍の子どもに対して、充実させてあげて欲しい。
- ・発達障害をもつ子どもが増えている。自身の子も自閉症で、今後の不安を感じる。障害をもつ子ども達を充分に見られる環境作りを頑張ってもらいたい。

○部活動(8件)

- ・部活の外部化も進んでいないようなので頑張ってもらいたい。外部の先生に市からお願ひして欲しいです。
- ・中学の部活動の外部指導者の充実をさせてほしい。土日祝日の大会や練習試合などは顧問の同行が必須となっているが、それでは教員の負担は減らないと思う。外部指導

者にもっと権限を与えてもいいと思う。

- ・中学校の部活動縮小化を心配しています。勉強は近くの中学校で、部活動は希望の中学校でといった選択ができるようになると良いのでは？クラブチームと部活動のギャップがどんどん広がっているように感じます。部活動は仲間と過ごす大切な時間だと思います。部活動をただ減らす方針にはしないでほしいです。

○教職員等の資質向上（8件）

- ・教師の質の向上。人間性、知識、やる気、信頼性、人によって、学校によって違いがありすぎる。
- ・教師がサラリーマン化しているところが多く見受けられる。塾に頼るのではなく、自身が教えるという意識を持ってほしい。
- ・学校は先生による差が激しい。若い先生が多いが経験不足を感じる。ちゃんと育成してほしい。受験に関して、学校は何もしない。塾がなんでもやる。

○教職員の確保と支援、授業の運営体制（13件）

- ・教育内容も大事ですが、まず先生の人数が足りないと思います。採用の底上げをお願い致します。大学生のバイトや、元教師の嘱託職員など、もっと柔軟な対応を期待します！
- ・教職員の数の不足のためか、生徒によりそえていない気がする。先生に余裕がない。
- ・小学校も中学校も、現場の先生方が忙しく疲弊しているようなので、もっと人手が必要なのではと思う。こども達が安心安全に活動できる学校であって欲しいと共に、先生方にも時間と心にゆとりのある環境で、教育活動にあたって欲しい。
- ・小学校も中学校においても、ひとクラス30人以上は目が行き届かず、担任の先生の負担も大きいように感じます。2人担任にするか、ひとクラスの人数を20人程度に減らし、学習面、生活面のサポートを手厚くしてほしいです。

○学校運営・教育方針（18件）

- ・今のやり方ではこどもが育たないと思う。教育に対して、一部の人間が学ぶのではなく、多くの人間が正しく理解し、また充実した人生を送る姿をこども達に見せられる様にする必要があると思う。
- ・各学校、校長の権限が強すぎて、校内教育方針や時間割、地域との関わり方などの変更を行っても2~3年で、また校長が変わり...と、安定のしない状態。保護者だけでなく、こどもも振り回されていて、安心と信頼を築くことが困難です。改革は必要でも実績重視にはしないで欲しいです。
- ・同じ川越市立の学校なのに、学校により教育の質が違うように思います。クロームブックの活用など、川越市で同じ方針にしていってほしいと思います。

- ・小学校から中学校へ上がる時、スムーズに(ギャップについていけるか)。中学校を自由に選べるようにしてほしい。
- ・学校を一日休むともう違う単元になっているため、そこはやらずにスルーして終わってしまう。休んだ子の親にもどの単元の授業を受けていないのかわかるようにしてほしい。
- ・学校でも先生によつての教育の差がきになる。どの先生も同じように学び、こどもの目線になって関わりが持てるようになれば、こどもたちも落ち着くのではないかと思う。ここ数年、教員の入れ替え(移動)が激しく、こども達が慣れたら新しい先生になり落ち着かない。保護者としても、安心してこども達を預けることができない。教育は信頼関係ができて初めて出来ることだと思う。

○学校給食(10件)

- ・小中学校における給食費の無償化!!
- ・学校給食のオーガニック化を希望。代金が高くなってもいい。それこそ補助がでてもいいと思う。体も脳も全て、食べた物でできている。こんな時代だからこそ、食にこだわるべき!
- ・給食費の無料化をお願いします。給食は個々の食べる量も違うので少食の家庭はなんだか割にあいません。ほとんど残してくるためお金がもったいないと感じてしまいます。たくさん食べるこどもならいいのに。

○ICTを活用した学習活動(5件)

- ・タブレット学習は必要ないと思う。低学年には早く、イライラしている。高学年も使用した日は頭が重いと帰ってくる。休み時間は、タブレットを開き、タブレットと向き合い、人と向き合わなくなった。持ち帰り充電させるが、親の目を盗み、動画や画像を見ている子もいる。調べ事は本を開くのではなく、あっという間にネットが教えてくれ、考えなくなった。学力低下、人間関係の希薄に拍車をかけているとしか思えない。うちのこども達が学校の子達を見てて常に言っている意見です。あと、とにかく重い。かわいそう。
- ・ネットリテラシーの授業を充実させてほしい。クロムブックも動画視聴の制限とか出来る仕組み作り。

○外部機関等との連携、活用(6件)

- ・水泳の授業を外部団体に委託すれば、授業の質も上がり、経費や先生方の負担を軽減できるので、是非進めてほしい。
- ・人員不足なら塾との連携なども必要なのかもしれない。

○安全・安心の確保（4件）

- ・災害時に、親とすみやかに連絡がとれるようスマートフォンや携帯 tel を学校で日中預かって頂けるようお願いしたいです。
- ・交通ルールを守れていない子どもが多い。（道路で遊んだり、キックボードを乗りまわす。自転車の乗り方が危ないなど。）交通ルールを学べるように教育をして欲しいと思います。

○豊かな心と健やかな体の育成（9件）

- ・子ども達が楽しく授業を受けたり、登校できるようにしてほしい。もっと子ども達の事を考えてイベントなどをやってほしい。（あれこれなしでなく）
- ・土曜学校希望。ゆとり教育での学校行事の時間短縮や廃止が気になります。運動会も午前中だけというのは?どうなのか。平日だと仕事を持つ親は見られない事もある。新しい形もいいですが、古き良きものもあると思います。
- ・小学校では、運動会が午前中だけになって短くなる影響で参加する種目が減ってしまったり、持久走大会が体育の時間になって保護者への公開がなくなったりと、行事の縮小が見られるのがとても残念だと思います。こどもの豊かな心をはぐくむには小学校時代のいろいろな経験が重要だと思います。

○いじめ防止対策・不登校対策の推進（2件）

- ・不登校への対応。不登校になったらどうしようと漠然とした不安があるので、どうにかできないかなと。いじめ問題。命を落とす子もいる。まずは命を守る。命の尊さの学習があれば、大人はどうやってこどもの命を守るのか。先生のなり手がなくなるのではないかと不安を感じています。学校だけでは対応できない問題も多いかと思えます。
- ・不登校ぎみになった時に、迅速に動ける機関などを作ってほしいです。

○学童保育室（2件）

- ・学童保育室の先生の対応が悪い時がある。基本のあいさつをできない。報告がない(先生からの報告はなく、子どもから聞いている)。先生も少なく大変だと思いますが、目が届かずトラブルが多い。子どもも行くのを嫌がったりして、親も不安になっています。
- ・学校教育に不満はないが、学童保育への不信感がある。教育委員会がどの程度、学童に色々言えるのかは分からないが、子ども達をきつくしぼりつけている印象がある。ただでさえ子ども達は16時頃まで学校で疲れているのだから、学童の部屋では、上げきをぬいで、少しゆったりできる時間があってもよいかなと思う。数10分の外遊び以外、学校の教室と同じイスに夜まで座っているのは、大人でもしんどいと思って。

宿題もしっかりやりつつ、ちょっとごろんとできるようなスペースがあったらいいなと思います。会計等の監査もなぞめいていて、端数ならまだしも、1人、千円以上残金が残っても、返金されず、何十万とくりこし金たまっている現状は、不思議です。

○生涯学習施設（3件）

- ・中学生までの無料で勉強ができる自主学習ができる施設の充実。図書館は他の学生（大人）の使用でスペースがありません。
- ・友達と勉強をと思っても公民館も図書館も小学生の勉強する場所がどこにもなかったのがとても残念でした。

○こどもの居場所づくり（10件）

- ・長期休暇中の夏のプール等もなくなってしまったが、その代わりに学習教室や、外部の水泳指導者を呼んだりする等夏期の学校へ行く機会があると良い。ずっと家において、ゲームやネット依存、学力低下になるのでは、と思う。
- ・中学生になると学童がなくなるので、こどもを預かってくれる場所（児童館でもよい）を作ってほしいです。
- ・こどもたちが気軽に集まれる場所が家の近くにはかなり少ないです。

○地域との交流、連携（3件）

- ・教科により少人数制を取り入れていて、とても良いことだと思います。それでも学年が上がるにつれ、ついていけない子もいます。塾もありますが他の選択肢、例えば、地域の方が公民館、自治会館で勉強を教えてくれる。などの、機会をつくって頂けると有り難いです。
- ・時代の流れに対応して、色々取り入れて変えていって下さっていると感じています。予算や人手など難しい面もたくさんあるかと思います。共働きが増えて、こどもたちが人と過ごす時間が減ってしまい、親もこどものことを把握しづらくなってしまっている様子が私の地区でも見受けられます。こどものことは地域で見えていくというのも時代の流れなのかと感じています。教育とはまた別かもしれませんが、こどもに限らず、大人や高齢者、障害のある方でも、近くで行きやすい場所に、そこに行けば誰かしらいて、遊んだり話ができたり、読書ができたりなど思い思いに過ごせる、そんな場所が近くにあるといいな、と思っています。

○登下校（7件）

- ・酷暑による熱中症が心配でなりません。登下校は30分から1時間かかります。クロームブックや荷物を入れたランドセルも暑く重いので、考えていただけたらと願います。

- ・下校は中学年から下校班ではなく、自由下校にしてほしい。気が合う子と帰れるようになれば、下校班でのいざこざが減るのではないか。
- ・こども同士のトラブルは、下校の時に多いと思います。下校班で帰るとき、先生の目が無くなったとたん、一部の子が走りだして班が崩れたり、けんかを始めたりします。保護者の目がもう少しあるとよいのですが、下校の見守りが少ないです。学校からもう少し呼び掛けてもらえるとよいと思います。

○授業外の学習サポート（2件）

- ・家庭の関わりも減っている分、塾通いが当たり前になり、学校も理解している事が前提の進め方になったり、解らないことも自分達で解決といった雰囲気があるように思われる。教育の格差がでている。教員の働き方改革も必要だが、時間がないことによって、こどもが置き去りになるような事だけはないように、サポート体制の充実をお願いしたい。
- ・居残り学習を求める。分からないところを質問する時間がない。帰りの会が終わるとカウントダウンされ、直ちに下校を促される。

○教育施策全般（4件）

- ・全体的に他の地域よりもかなり劣っている印象がある。他の地域の話を知ると、教育はもちろんのこと全てのことにおいて充実感がない。観光客よりも市に住んでいる住民に目を向け、こどもの教育だけでなく、教員の教育、他のことを向上させてほしい。
- ・川越は大好きだけど、もう少し教育に力をいれてほしい。ふじみ野市との差がありすぎる感じがする。

○その他（22件）

- ・職業体験や消防士、花屋さん、イラストレーターなど様々なジャンルの方の生の言葉を聞く公演会などがあると、こどもたちが夢をもてると思います。（夢を叶える為に頑張る時期なんだと伝えていただけると嬉しいです。）
- ・学校の図書室を魅力的な場所にすれば、こどもたちも利用しやすくなり、本を読む機会も増えると思う。居場所のないこどもが過ごしやすい環境になれば、新たな施設を建てる必要もない。図書館に、雑誌や漫画も増やせばよいと思う。まずは、足を運びたくなる空間にしないと、利用率は上がらない気がする。
- ・【お金】についてしっかり勉強する機会を作った方がよいと思う。税金に関しても重要だし、資産運用とか、こどもの時からお金について学ぶのをタブーとせず生きていくのに大切な事。しっかり学んで考える必要があると思う。なぜ働くのか？お金の有り難みも、怖さも正しく知る機会は貴重だと思う。実際、大人の私も知らない事が多く学校で習った？そんな事教えてもらった？という場面に出くわす事が多い。

- ・親の教育格差。意識の低さ、民度の低さ。
- ・先生方もお忙しいかと思いますが、子どもたちへの理不尽な対応を本当にやめていただきたいです。先生方も見られているという意識を持ってもらうために、先生(担任以外の先生含め)の評価を毎年保護者からさせてもらいたいです。わたしの時代は先生の圧力は普通で育ってきていますが、困っている子どもが最近多いので改善していただきたいです。
- ・子どもが楽しめる施設が全くありません。観光ばかりにお金をかけてるようには見えません。川越は蔵造りの方ばかりではありません。川越かるたに子どもは全く興味ありません。本当にやりたい子はどのくらいいるのでしょうか。子ども会から参加させているのも、ほとんど強制的な印象です。

○特になし（8件）

Ⅲ 教員調査の結果

1 回答者の属性について

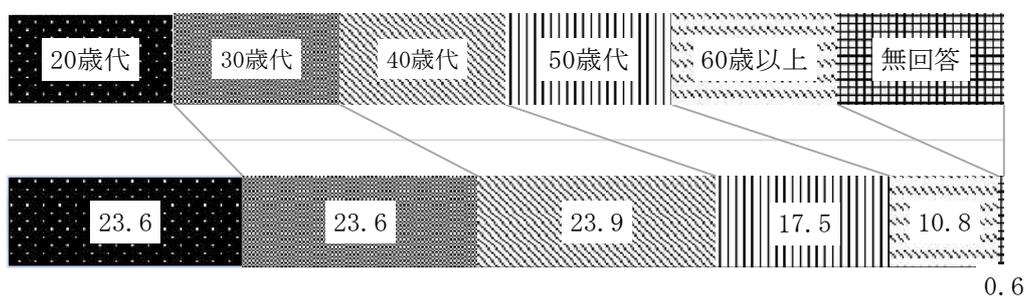
(1) 年齢

F 1 あなたの年齢は何歳ですか。(1つに○)

「40歳代」が23.9%で最も多く、次いで「20歳代」及び「30歳代」が23.6%となっています。

総数=360

単位：%



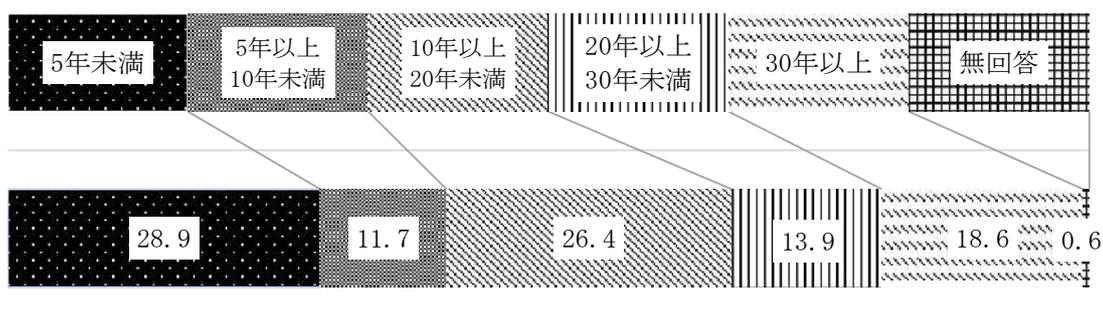
(2) 教員経験年数

F 2 あなたの教員経験年数は何年ですか。(1つに○)

「5年未満」が28.9%で最も多く、次いで「10年以上 20年未満」が26.4%、「30年以上」が18.6%となっています。

総数=360

単位：%



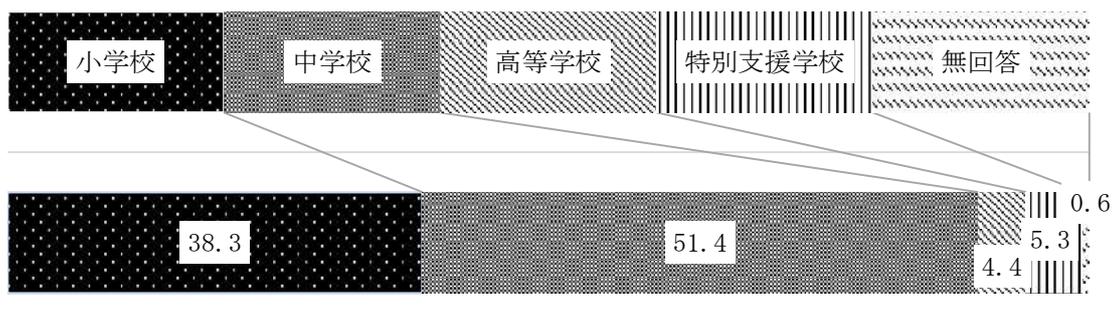
(3) 勤務先

F3 あなたの勤務先はどちらですか。(1つに○)

「中学校」が51.4%、「小学校」が38.3%となっています。

総数=360

単位：%



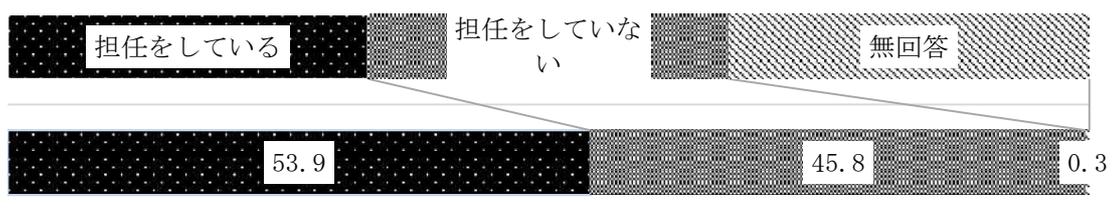
(4) 担任の状況

F4 現在、あなたは、担任をしていますか。(1つに○)

「担任をしている」が53.9%、「担任をしていない」が45.8%となっています。

総数=360

単位：%

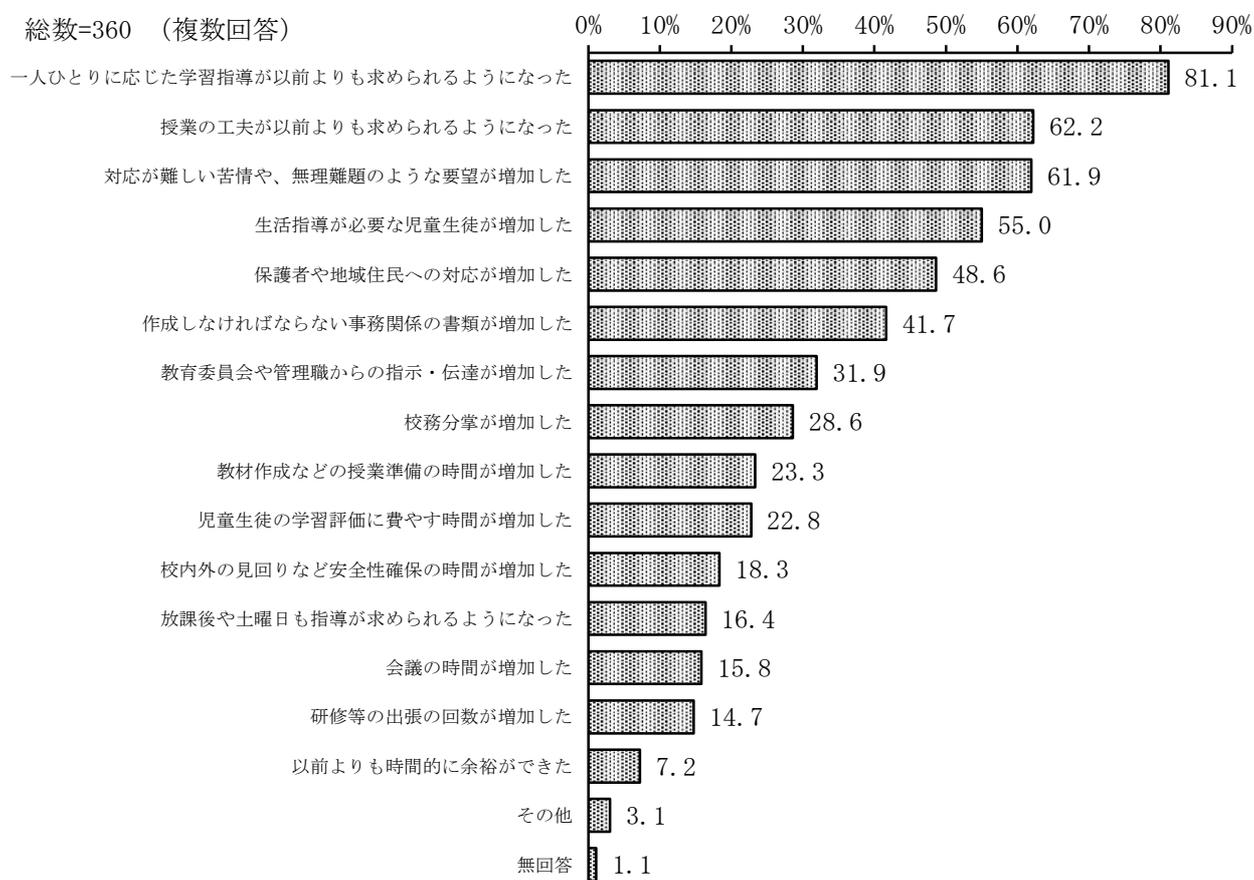


2 学校教育について

(1) 勤務して感じること

問1 あなたは勤務して次のようなことを感じますか。(〇はいくつでも)

「一人ひとりに応じた学習指導が以前よりも求められるようになった」が81.1%で最も多く、次いで「授業の工夫が以前よりも求められるようになった」が62.2%、「対応が難しい苦情や、無理難題のような要望が増加した」が61.9%となっています。



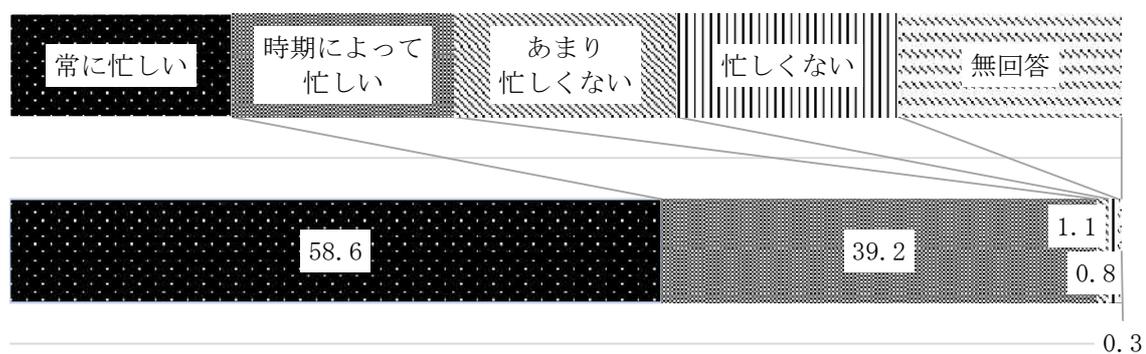
(2) 職務の多忙感

問2 あなた自身の職務について忙しいと感じていますか。(1つに○)

「常に忙しい」が58.6%、「時期によって忙しい」が39.2%で、合わせて97.8%が『忙しい』と回答しています。

総数=360

単位：%

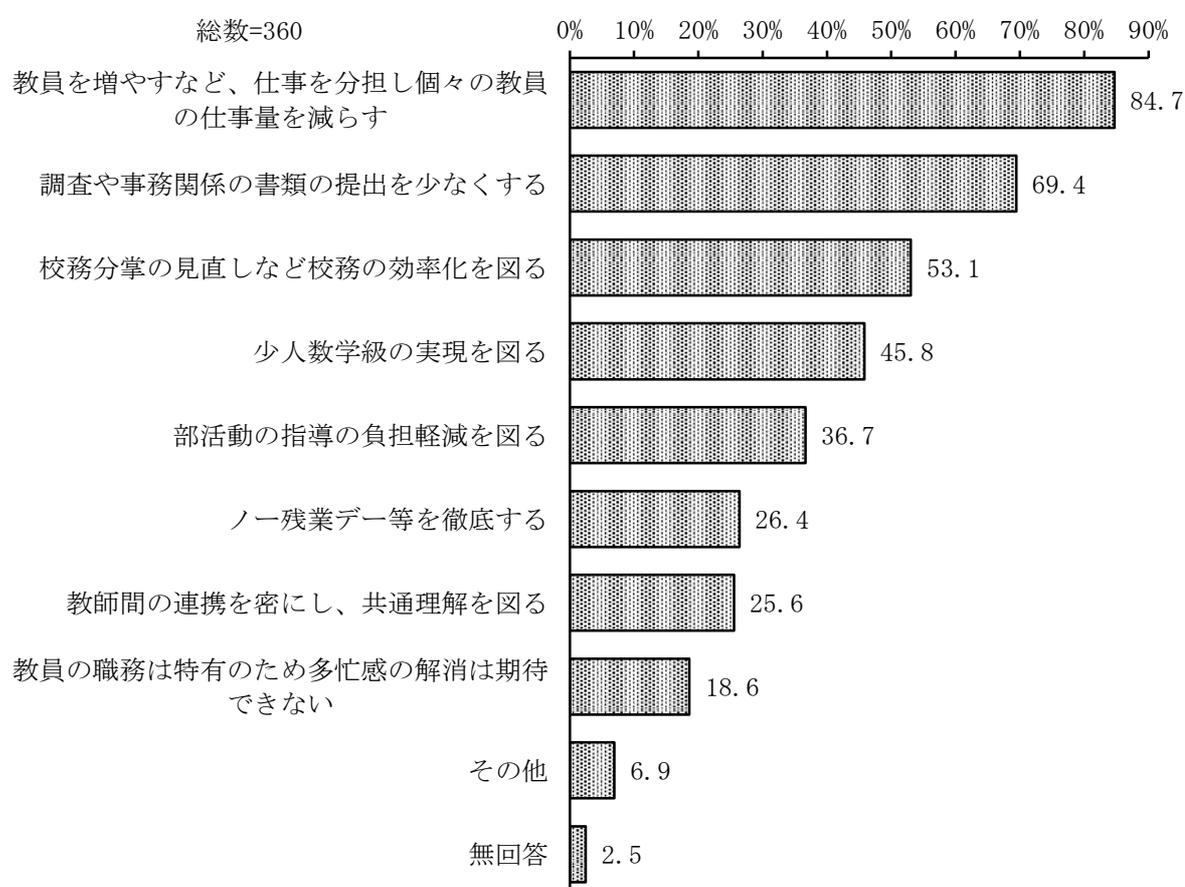


(3) 職務の多忙感解消のために必要なこと

【問2で「1または2」と回答された方におたずねします。】

問 2-1 職務の多忙感を解消するために必要なこととしてあてはまることを教えてください。(〇はいくつでも)

「教員を増やすなど、仕事を分担し個々の教員の仕事を減らす」が84.7%で最も多く、次いで「調査や事務関係の書類の提出を少なくする」が69.4%、「校務分掌の見直しなど校務の効率化を図る」が53.1%となっています。



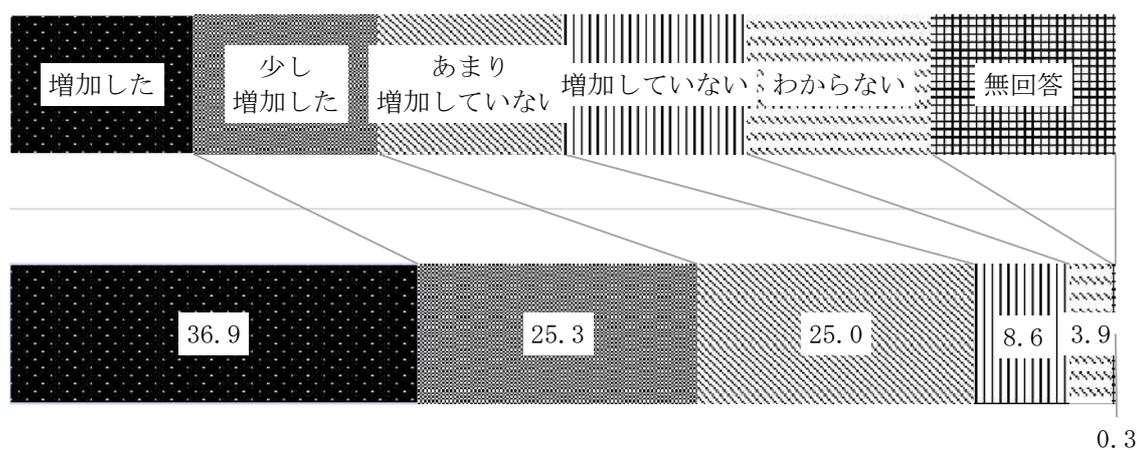
(4) 直近1年間でのストレス増加の有無

問3 直近1年間でストレスは増加しましたか。(1つに○)

「増加した」が36.9%、「少し増加した」が25.3%で、合わせて62.2%が『増加した』と回答しています。

総数=360

単位：%



(5) ストレスが増加した主な理由 (自由記述)

【問3で「1または2」と回答された方におたずねします。】

問3-1 その主な理由はどのようなことか教えてください。

有効回収数 224 票中 199 票に意見の記述がありました (1票の中に複数の分野にまたがる回答もあるため、各項目の回答件数の合計は199件より多くなっています)。

○児童生徒の教育活動に関すること (46件)

- ・児童生徒への対応の増加、対応困難な児童生徒への指導 (33件)
- ・授業数の増加 (1件)
- ・学校行事の対応 (2件)
- ・部活動の指導 (10件)

○学校教育環境に関すること (134件)

- ・教員数が少ない (12件)
- ・若手教員等の指導 (3件)

- ・業務量（事務業務、校務分掌を含む）が多い・増えている、業務多忙（55件）
- ・教員間の仕事の偏り、負担の差が大きい（3件）
- ・会議、研修、出張が多い（2件）
- ・職務の責任の重さ・増加（4件）
- ・新しい職場への異動、新規採用での着任（13件）
- ・新しい役職・職務に就いたため（13件）
- ・職場の環境の変化（1件）
- ・職場の人間関係（8件）
- ・その他（20件）

○保護者・地域・関係機関等に関すること（46件）

- ・保護者への対応（44件）
- ・地域への対応（2件）

○その他（18件）

- ・ワーク・ライフ・バランスが難しい（3件）
- ・勤務時間外も常に仕事のことが頭から離れない（1件）
- ・その他（14件）

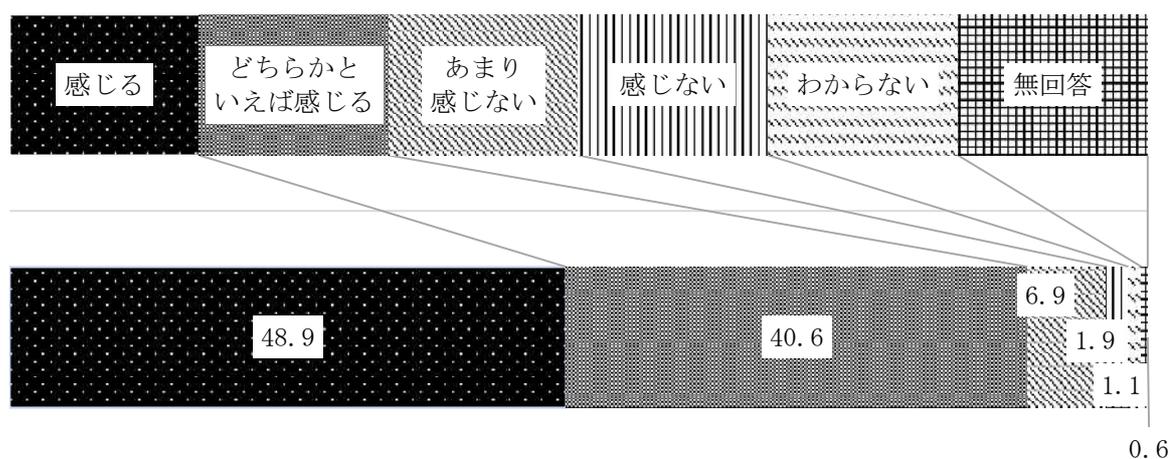
(6) 教員としてのやりがいの有無

問4 学校の教員としてやりがいを感じるか教えてください。(1つに○)

「感じる」が48.9%、「どちらかといえば感じる」が40.6%で、合わせて89.5%が『感じる』と回答しています。

総数=360

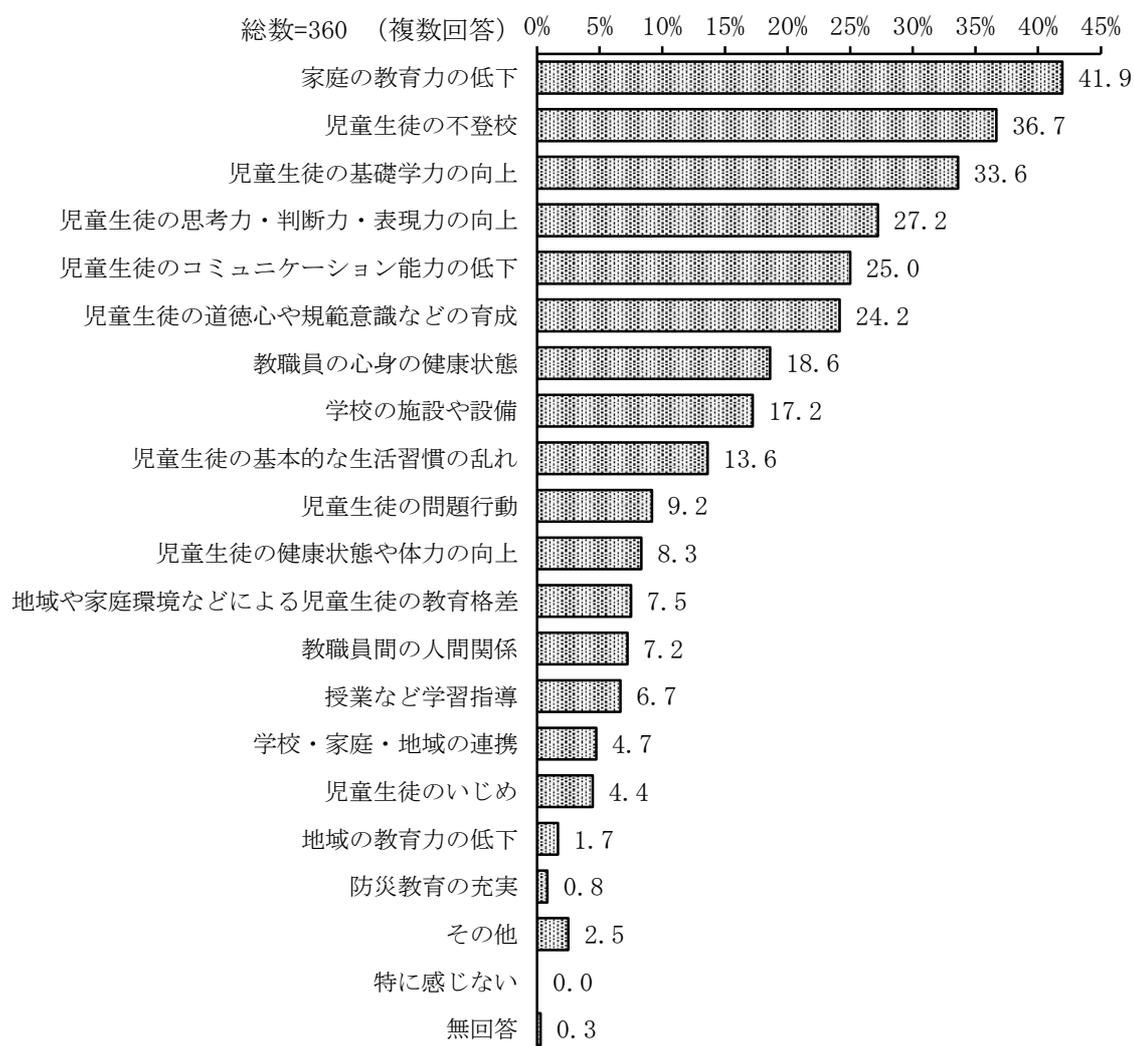
単位：%



(7) 職務の中で感じる課題

問5 日々の職務の中で課題と感じることは何ですか。(3つまで○)

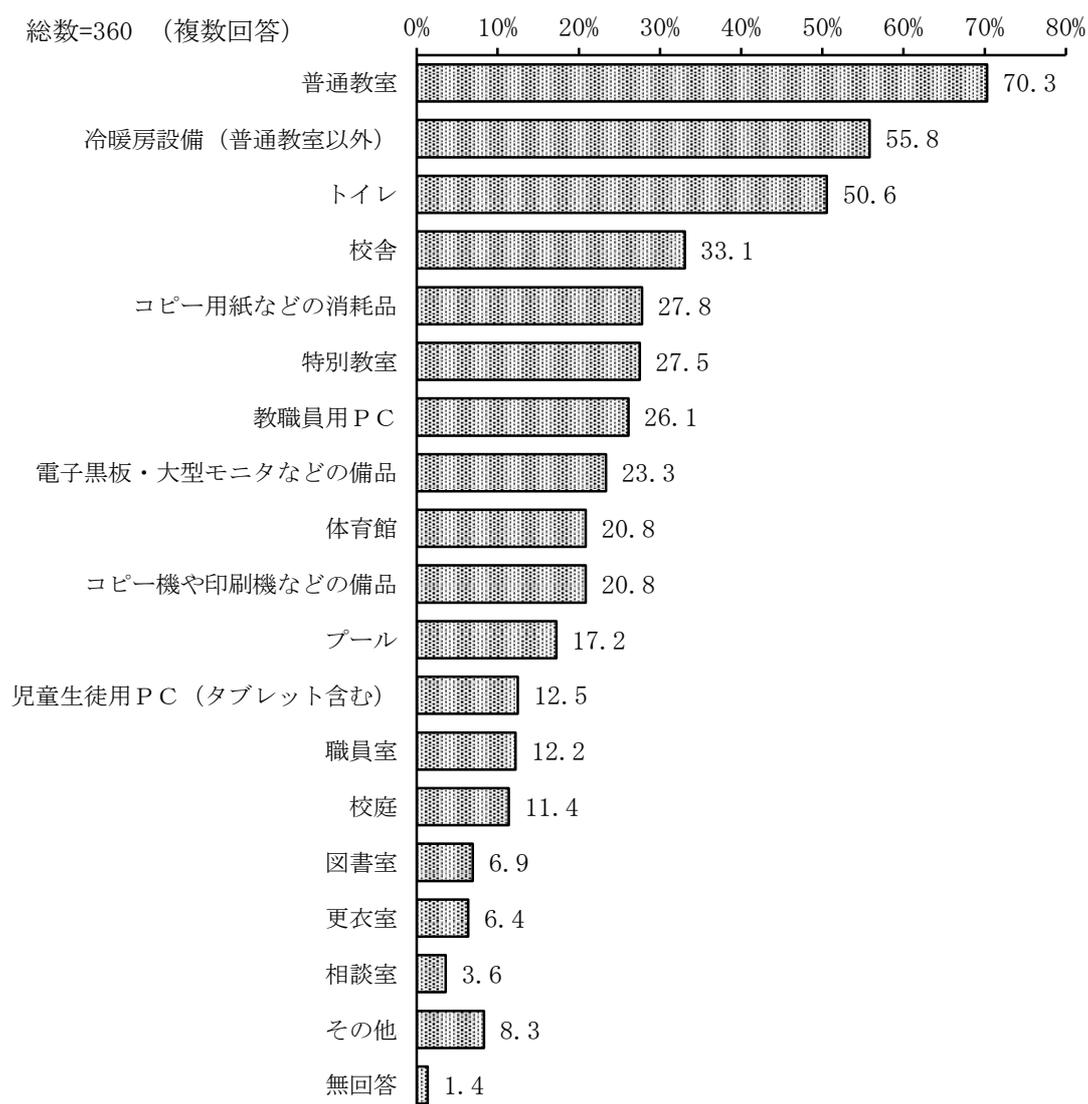
「家庭の教育力の低下」が41.9%で最も多く、次いで「児童生徒の不登校」が36.7%、「児童生徒の基礎学力の向上」が33.6%となっています。



(8) 学校施設・設備等で特に充実・改善してほしいもの

問6 学校の施設や設備等について、特に充実・改善してほしいものは何ですか。(5つまで○)

「普通教室」が70.3%で最も多く、次いで「冷暖房設備(普通教室以外)」が55.8%、「トイレ」が50.6%となっています。



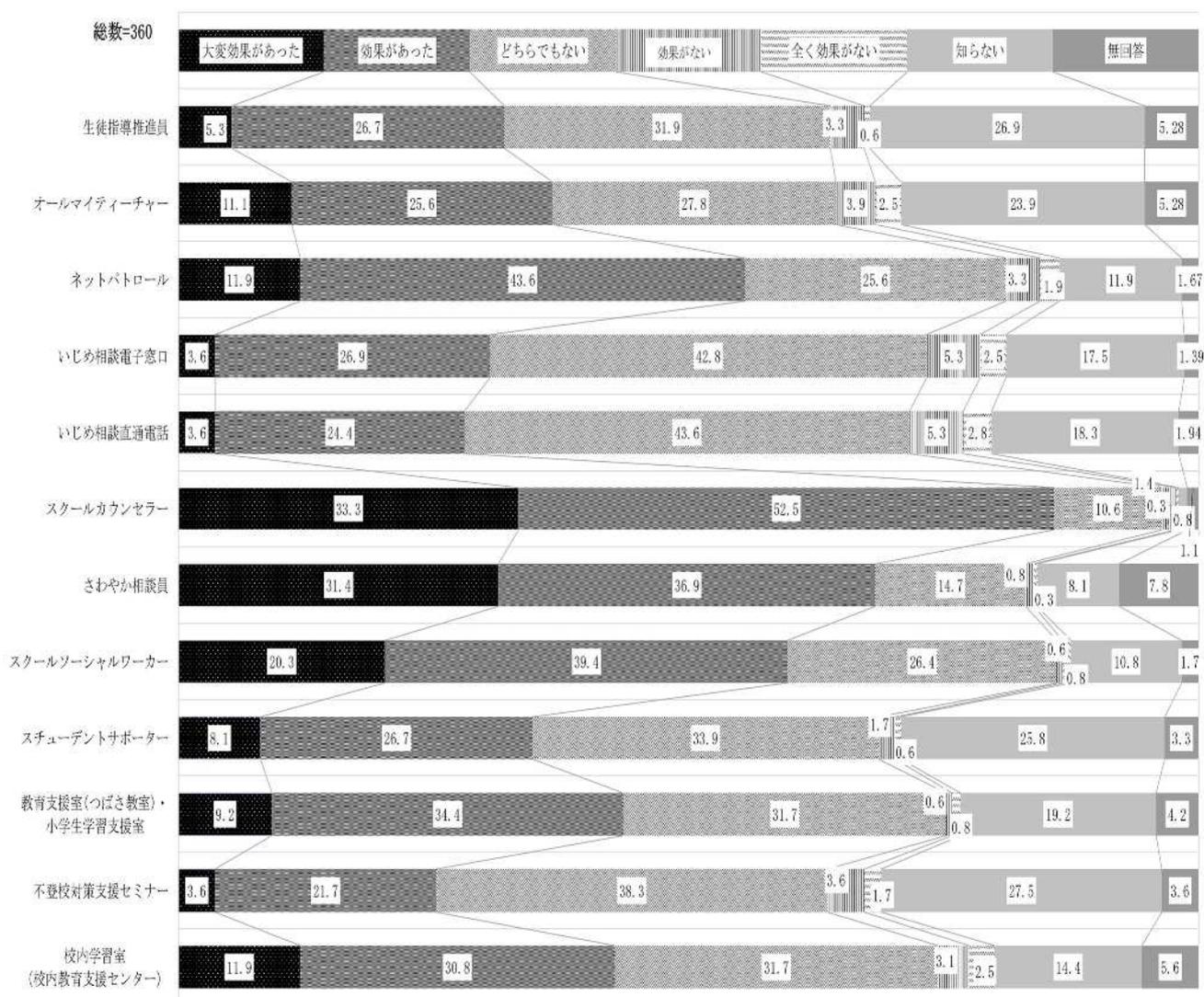
(9) いじめ・不登校対策の取組の効果

問7 いじめ・不登校対策における以下の取組の効果があったと思いますか。(それぞれの項目について1つに○)

『効果があった』(「大変効果があった」+「効果があった」)という回答は、「スクールカウンセラー」が85.8%で最も多く、次いで「さわやか相談員」が68.3%、「スクールソーシャルワーカー」が59.7%となっています。

一方、『効果がない』(「効果がない」+「全く効果がない」)という回答は、どの項目も1割未満となっています。

また、「知らない」という回答は、「不登校対策支援セミナー」が27.5%で最も多く、次いで「生徒指導推進員」が26.9%、「スチューデントサポーター」が25.8%となっています。



(10) いじめ・不登校対策として取り組むべきこと（自由記述）

問8 いじめ・不登校対策として問7に示された項目のほかに取り組むべき項目があればご自由にお書きください。

有効回収数 360 票中 103 票に意見の記述がありました（1票の中に複数の分野にまたがる回答もあるため、各項目の回答件数の合計は 103 件より多くなっています）。以下に回答内容の中から一部を抜粋・調整し、掲載しました。

<主な回答内容>

○学習支援（5件）

- ・オンライン教室の開講

○豊かな心の育成（1件）

- ・生徒のマインドをプラスに変えられるようなコミュニケーション

○教職員体制（27件）

- ・教員の数を増やし、対応できる教師を増やす
- ・教員の人数を増やして、先生たちが余裕を持って子どもと接することができる環境を作る
- ・不適応の生徒を対象とした個別対応できる教職員の追加

○教員の児童生徒指導力の向上（5件）

- ・授業の質の向上と居心地のより学級づくり

○保護者への対応（6件）

- ・共働きや片親で、子どもの登校を見送ることのできない親への支援

○家庭・地域との連携（6件）

- ・各家庭との連携

○関係機関・民間団体との連携（13件）

- ・関係機関との迅速な連携(話が伝わるまでに色々な人を介すのでニュアンスが変わってしまう)

○既存の取組の充実・拡充（21件）

- ・校内学習室担当職員の配置、さわやか相談員の小学校配置、学習支援ボランティアの

配置

- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配属回数や時間を伸ばし、いつでも相談できるようにする。現在のように 2 週に 1 回や要請しないと来てもらえないスクールソーシャルワーカーだと相談者もなかなか相談しづらい

○研修・講習会（6 件）

- ・講師を招いての講演会（いじめ）

○その他（26 件）

- ・子供たちにとっての時間的ゆとりの創造 → 日課の短縮化
- ・教員と生徒の日頃からのコミュニケーションや情報収集。情報交換、共有。

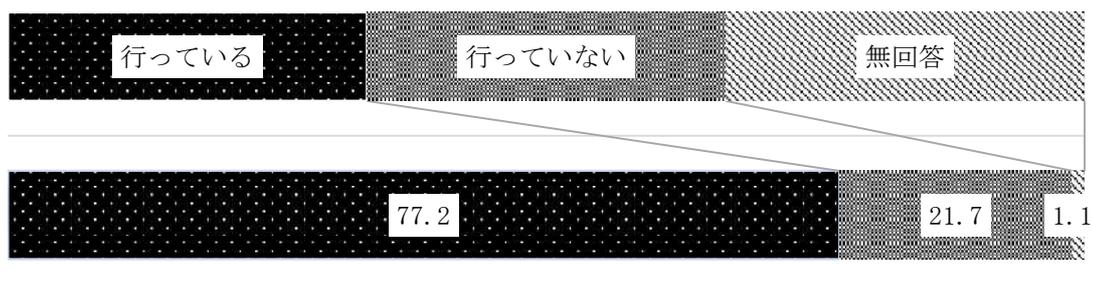
(11) 自己啓発の取組状況

問9 教育指導に必要な知識・技術の習得など、専門性を高めるための自己啓発を行っていますか。(1つに○)

「行っている」が77.2%、「行っていない」が21.7%となっています。

総数=360

単位：%



(12) 行っている自己啓発

【問9で「1. 行っている」と答えた方におたずねします。】

問9-1 あなたが、行っていることはどのような内容か教えてください。

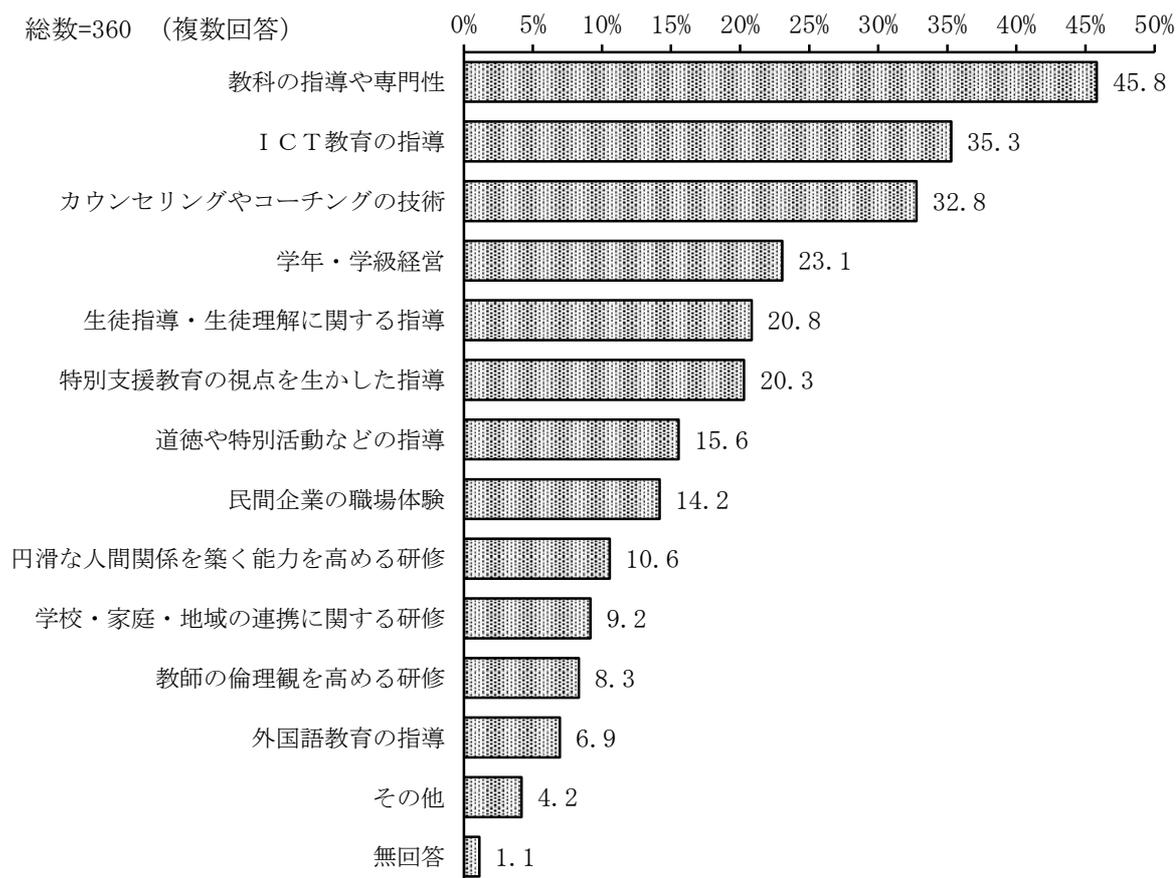
問9で「1. 行っている」と答えた方の有効回収数278票中245票に意見の記述がありました(1票の中に複数の分野にまたがる回答もあるため、各項目の回答件数の合計は245件より多くなっています)。

- ・研修会・講演会・講習会・セミナーに参加(87件)
- ・学習会・研究会・同好会・サークルに参加(31件)
- ・大学の研究所、学会等に参加(2件)
- ・授業参観・模擬授業等(6件)
- ・先輩教員・指導担当者から教わる(11件)
- ・授業研究・教材研究(18件)
- ・書籍、雑誌、新聞等を読む(86件)
- ・インターネット等からの情報収集(33件)
- ・資格取得(5件)
- ・その他(24件)

(13) 受けた研修

問 10 どのような研修を受けたいか教えてください。(3つまで○)

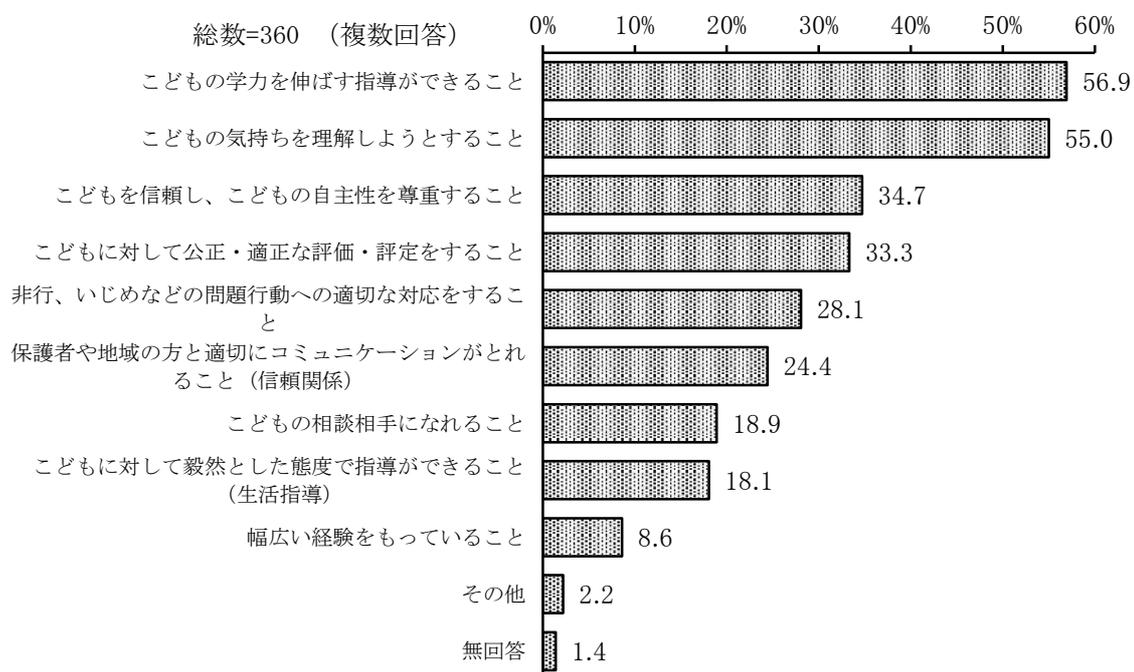
「教科の指導や専門性」が 45.8%で最も多く、次いで「ICT 教育の指導」が 35.3%、「カウンセリングやコーチングの技術」が 32.8%となっています。



(14) 保護者や地域の方に期待されていると思うこと

問 11 小中学校の教師は、保護者や地域の方にどのようなことを期待されていると思いますか。(3つまで○)

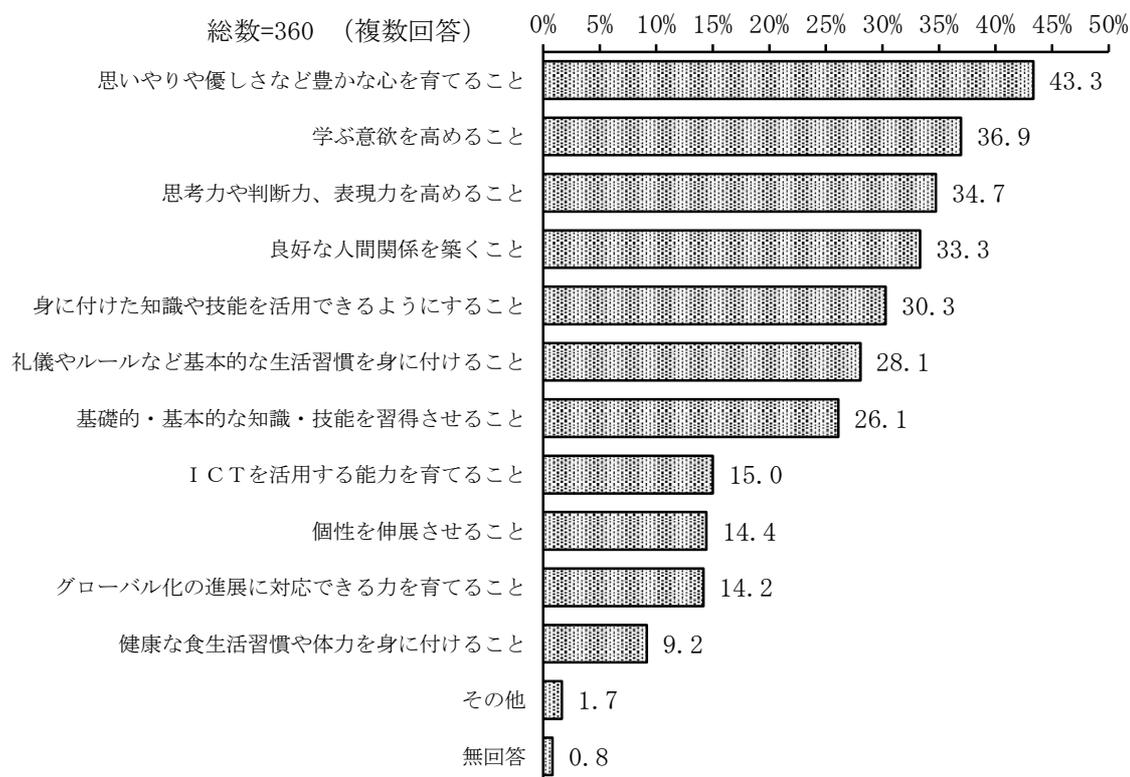
「こどもの学力を伸ばす指導ができること」が 56.9%で最も多く、次いで「こどもの気持ちを理解しようとする事」が 55.0%、「こどもを信頼し、こどもの自主性を尊重すること」が 34.7%となっています。



(15) これからの学校教育で特に重視すべきこと

問 12 これからの学校教育について特に重視しなければならないのは、どのようなことだと思いますか。(3つまで○)

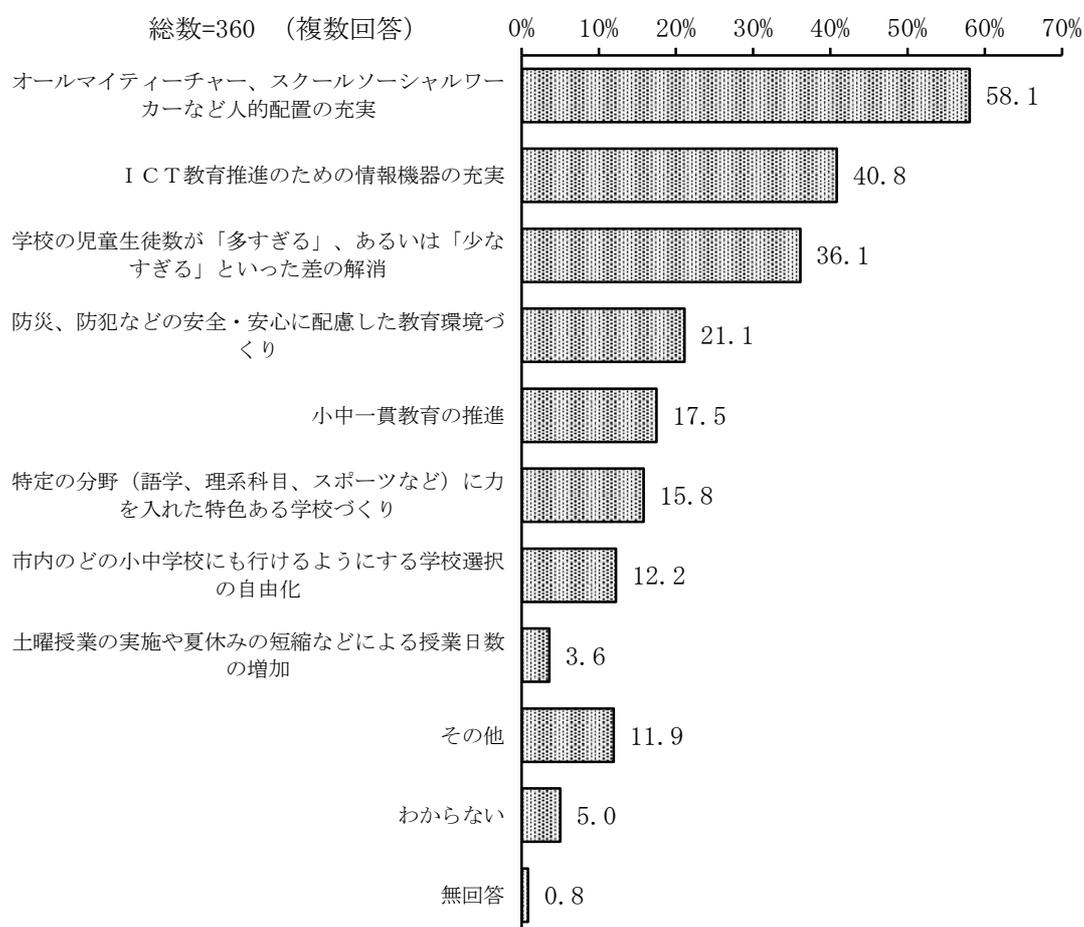
「思いやりや優しさなど豊かな心を育てること」が43.3%で最も多く、次いで「学ぶ意欲を高めること」が36.9%、「思考力や判断力、表現力を高めること」が34.7%となっています。



(16) 教育環境の変化に対応するために取り組むべきこと

問 13 学校施設の老朽化や将来的な子どもの減少など、教育環境の変化に対応していくため、川越市はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(3つまで○)

「オールマイティーチャー、スクールソーシャルワーカーなど人的配置の充実」が58.1%で最も多く、次いで「ICT教育推進のための情報機器の充実」が40.8%、「学校の児童生徒数が「多すぎる」、あるいは「少なすぎる」といった差の解消」が36.1%となっています。



3 家庭や地域の教育について

(1) 学校、家庭、地域の役割

問 14 学校、家庭、地域のそれぞれの役割として、子どものどのようなところを育てていくべきだとお考えですか。(特に重要であることをそれぞれ3つまで番号を選んでください)

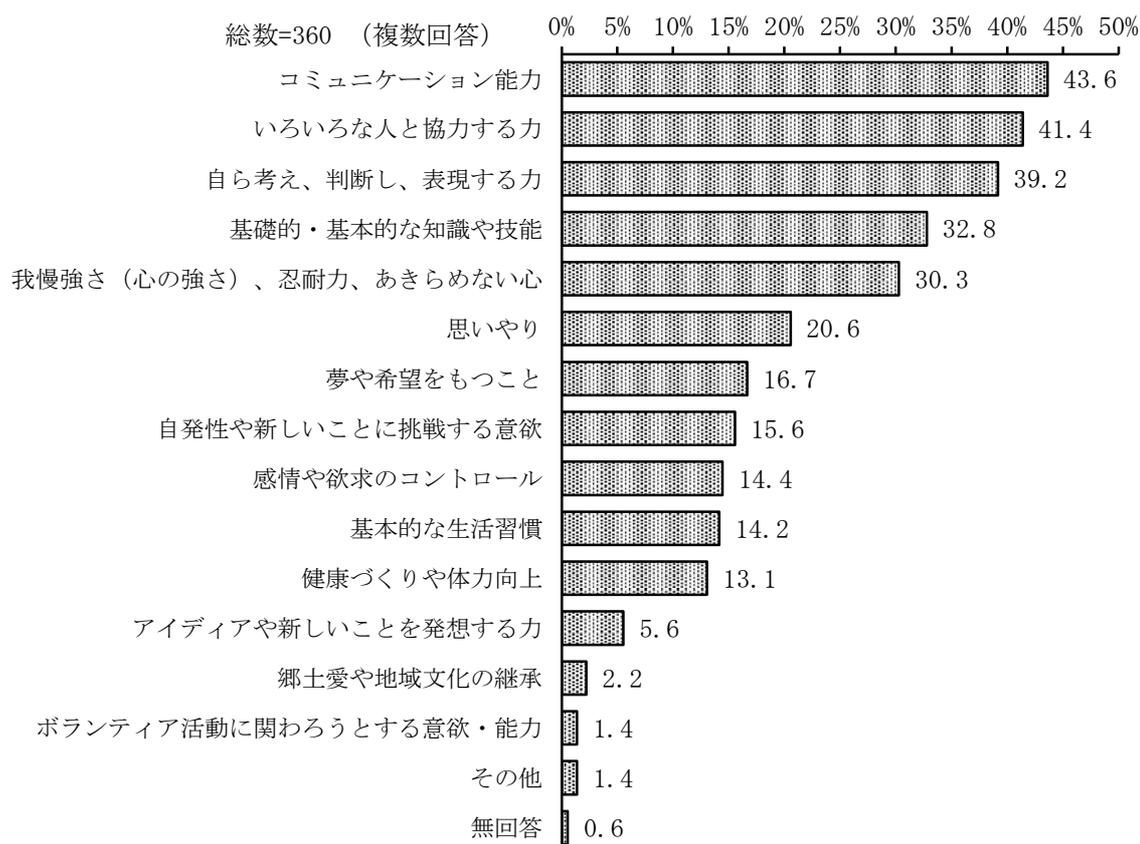
※①学校の役割、②家庭の役割、③地域の役割のそれぞれに上記の番号を記入してください。

なお、同じ番号を①、②、③にご記入いただいても構いません。

※「15. その他」を選択される場合には、上記の()に内容を記入してください。

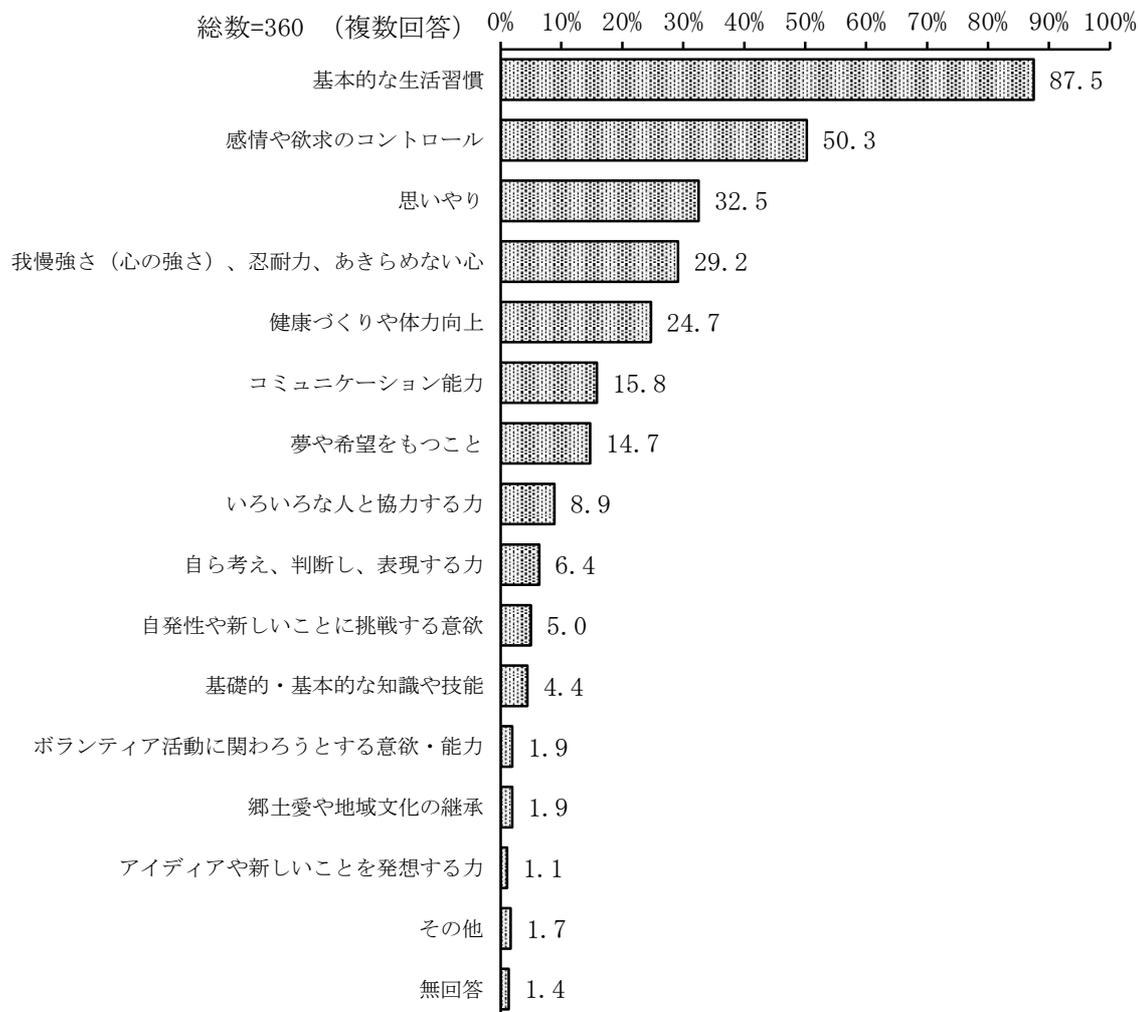
① 学校の役割

「コミュニケーション能力」が43.6%で最も多く、次いで「いろいろな人と協力する力」が41.4%、「自ら考え、判断し、表現する力」が39.2%となっています。



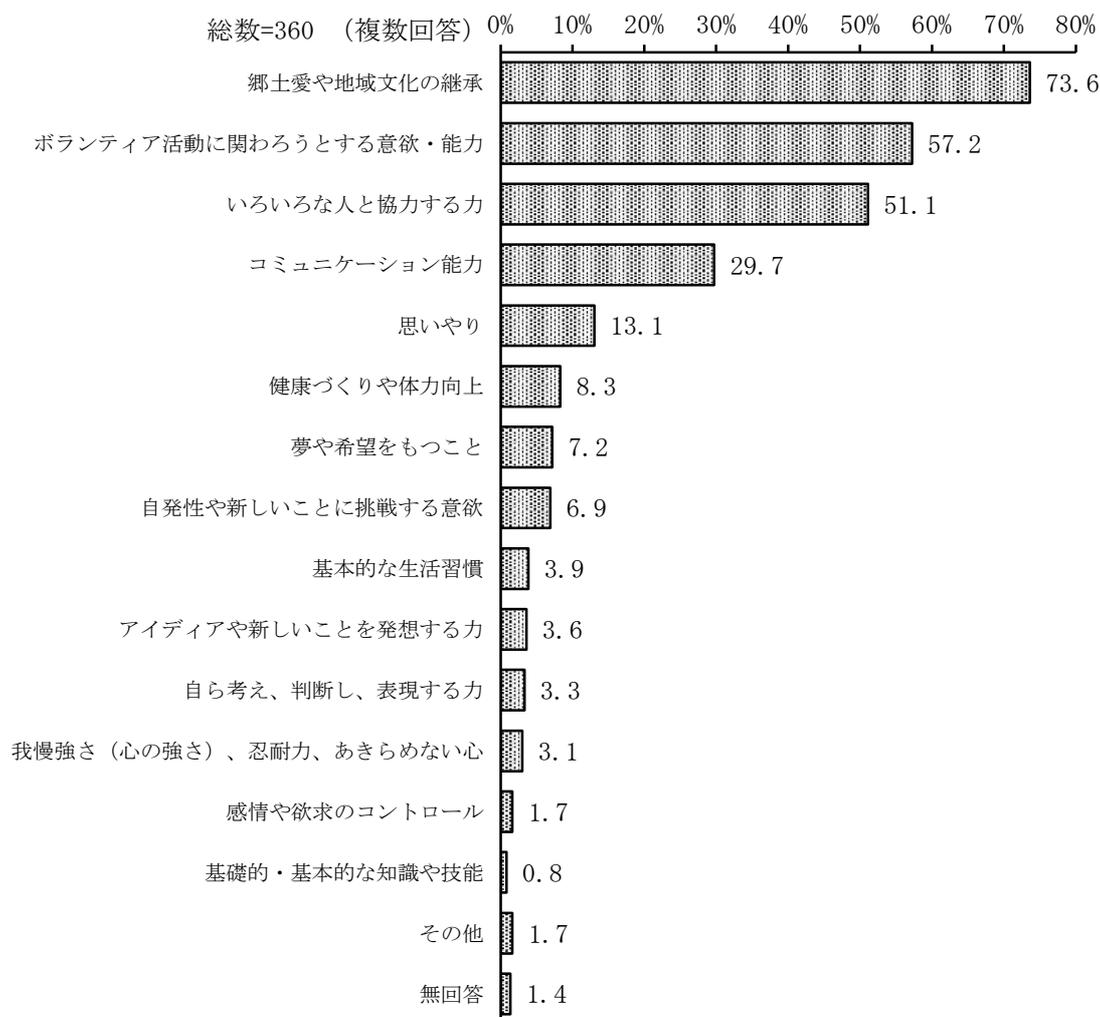
② 家庭の役割

「基本的な生活習慣」が87.5%で最も多く、次いで「感情や欲求のコントロール」が50.3%、「思いやり」が32.5%となっています。



③ 地域の役割

「郷土愛や地域文化の継承」が73.6%で最も多く、次いで「ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力」が57.2%、「いろいろな人と協力する力」が51.1%となっています。

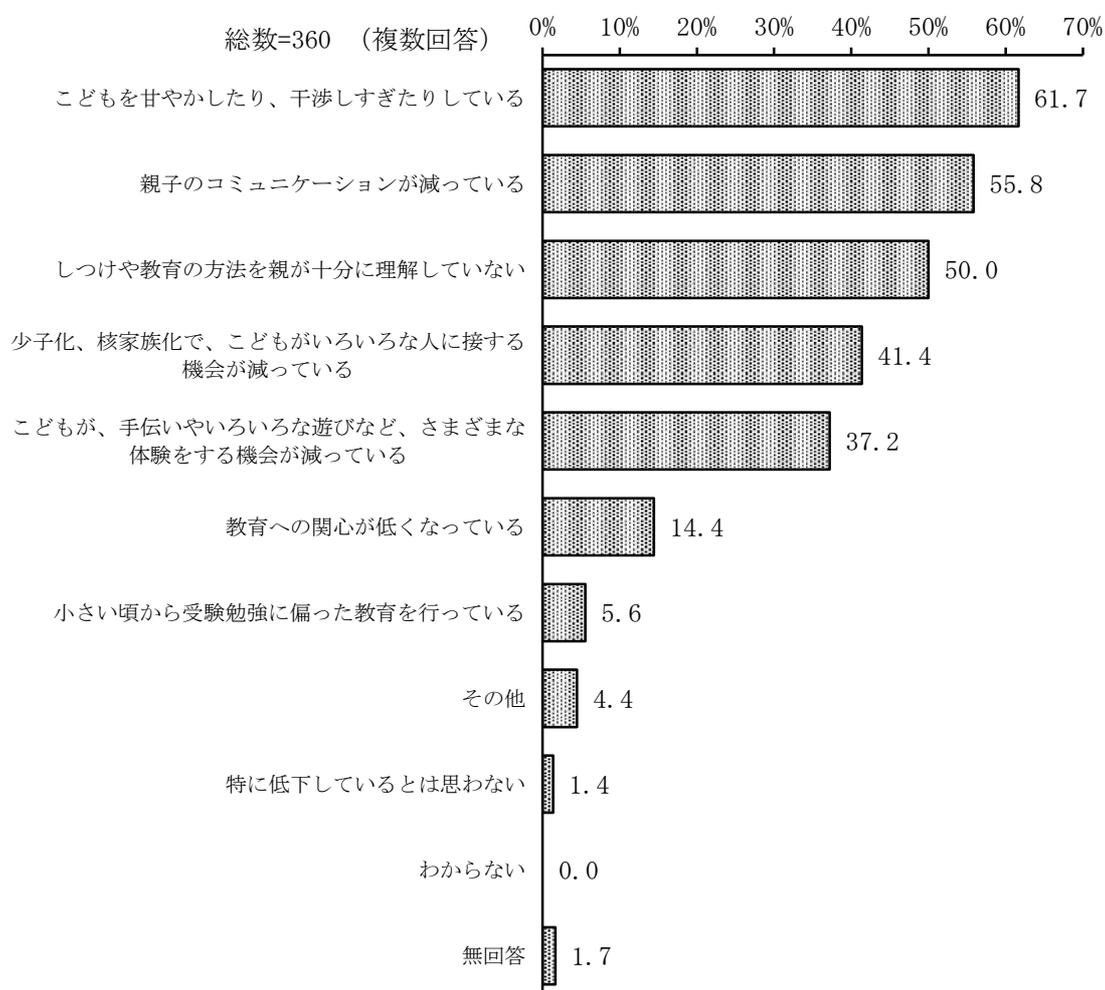


(2) 家庭の教育力が低下している原因

問 15 家庭の教育力が一般的に低下していると言われていますが、どんなことが原因だと思いますか。(3つまで○)

※(用語説明)「家庭の教育力」とは、家庭での生活の中で必要な規範や行動能力を身に付ける教育機能のこと。

「こどもを甘やかしたり、干渉しすぎたりしている」が 61.7%で最も多く、次いで「親子のコミュニケーションが減っている」が 55.8%、「しつけや教育の方法を親が十分に理解していない」が 50.0%となっています。

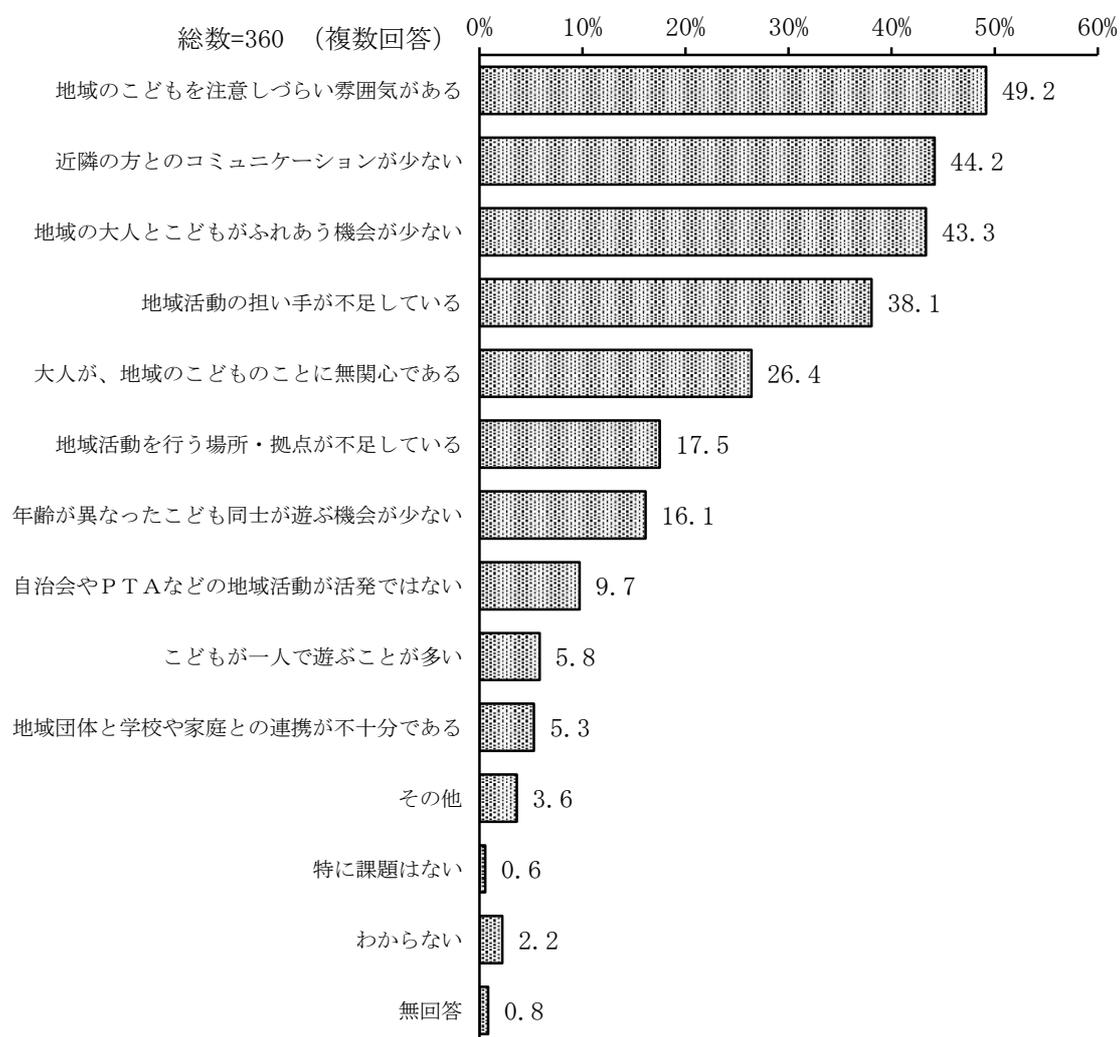


(3) 地域の教育力についての課題

問 16 地域の教育力についてどのような課題があると思いますか。(3つまで○)

※(用語説明)「地域の教育力」とは、地域社会の中で子どもたちが大人や異年齢の友人との交流を通じたさまざまな体験などができる教育機能のこと。

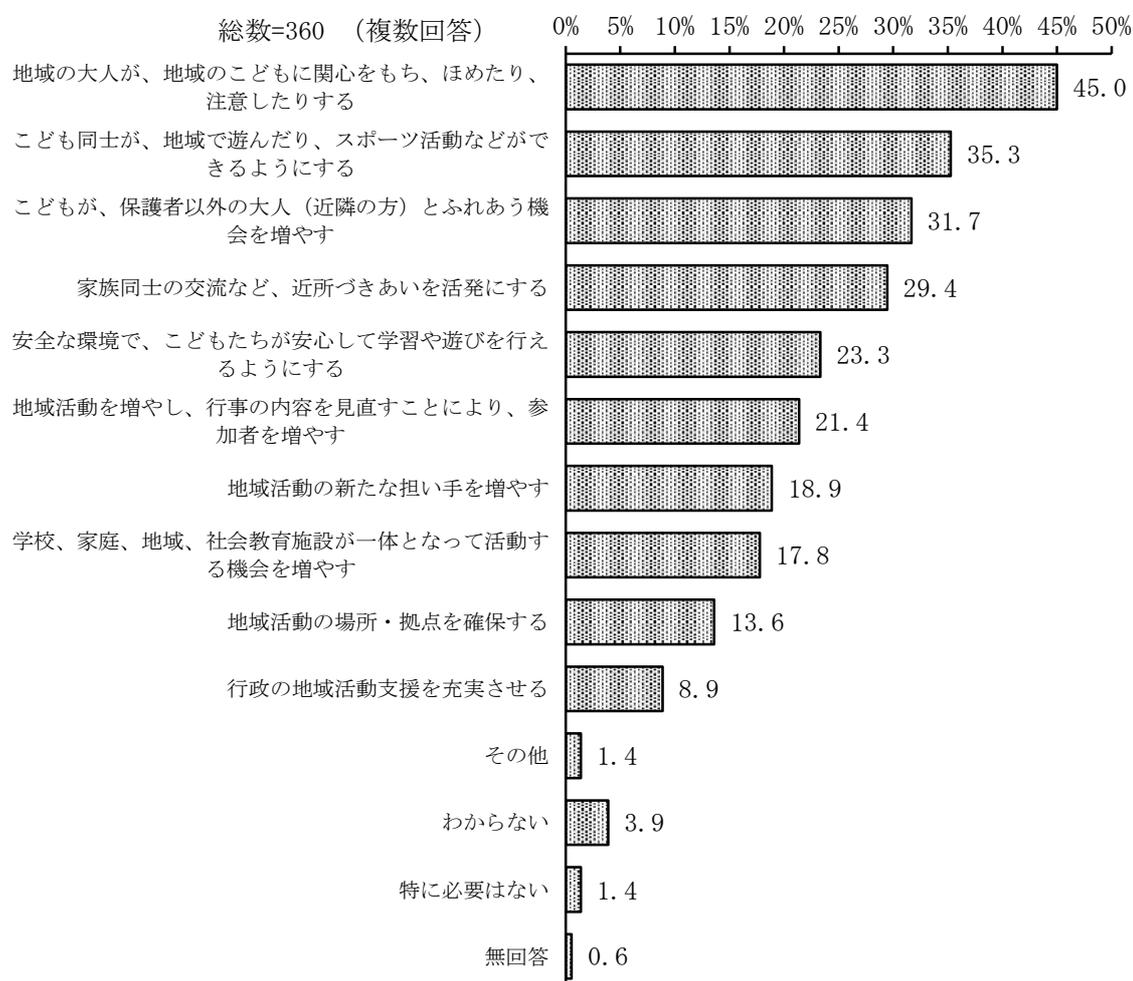
「地域のこどもを注意しづらい雰囲気がある」が49.2%で最も多く、次いで「近隣の方とのコミュニケーションが少ない」が44.2%、「地域の大人とこどもがふれあう機会が少ない」が43.3%となっています。



(4) 地域の教育力向上に必要な取組

問17 地域の教育力を高めるためにどのような取組が必要だと思いますか。(3つまで
○)

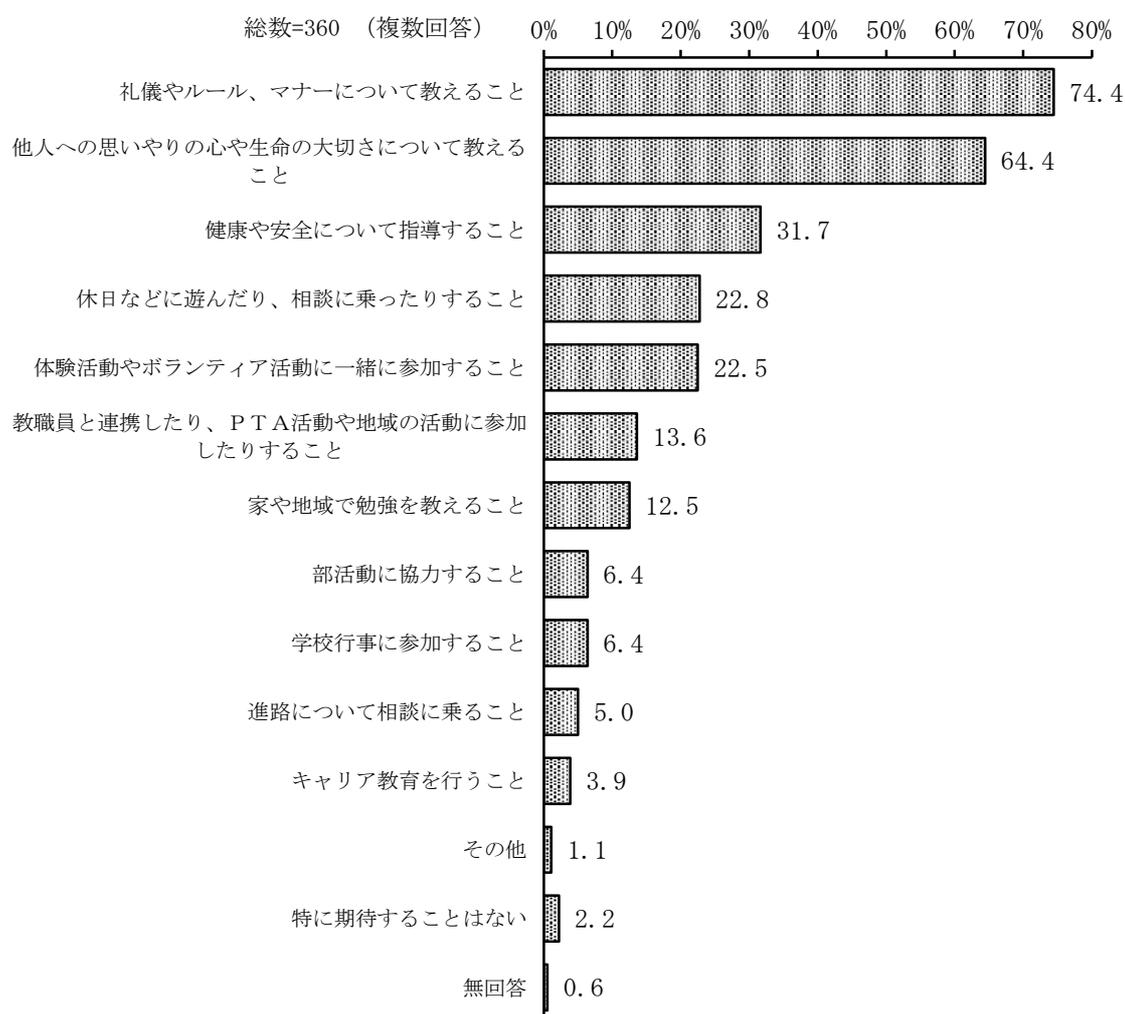
「地域の大人が、地域のこどもに関心を持ち、ほめたり、注意したりする」が45.0%で最も多く、次いで「こども同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする」が35.3%、「こどもが、保護者以外の大人（近隣の方）とふれあう機会を増やす」が31.7%となっています。



(5) 保護者、地域の方などに期待すること

問 18 保護者、地域の方などに期待することは何ですか。(3つまで○)

「礼儀やルール、マナーについて教えること」が74.4%で最も多く、次いで「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」が64.4%、「健康や安全について指導すること」が31.7%となっています。

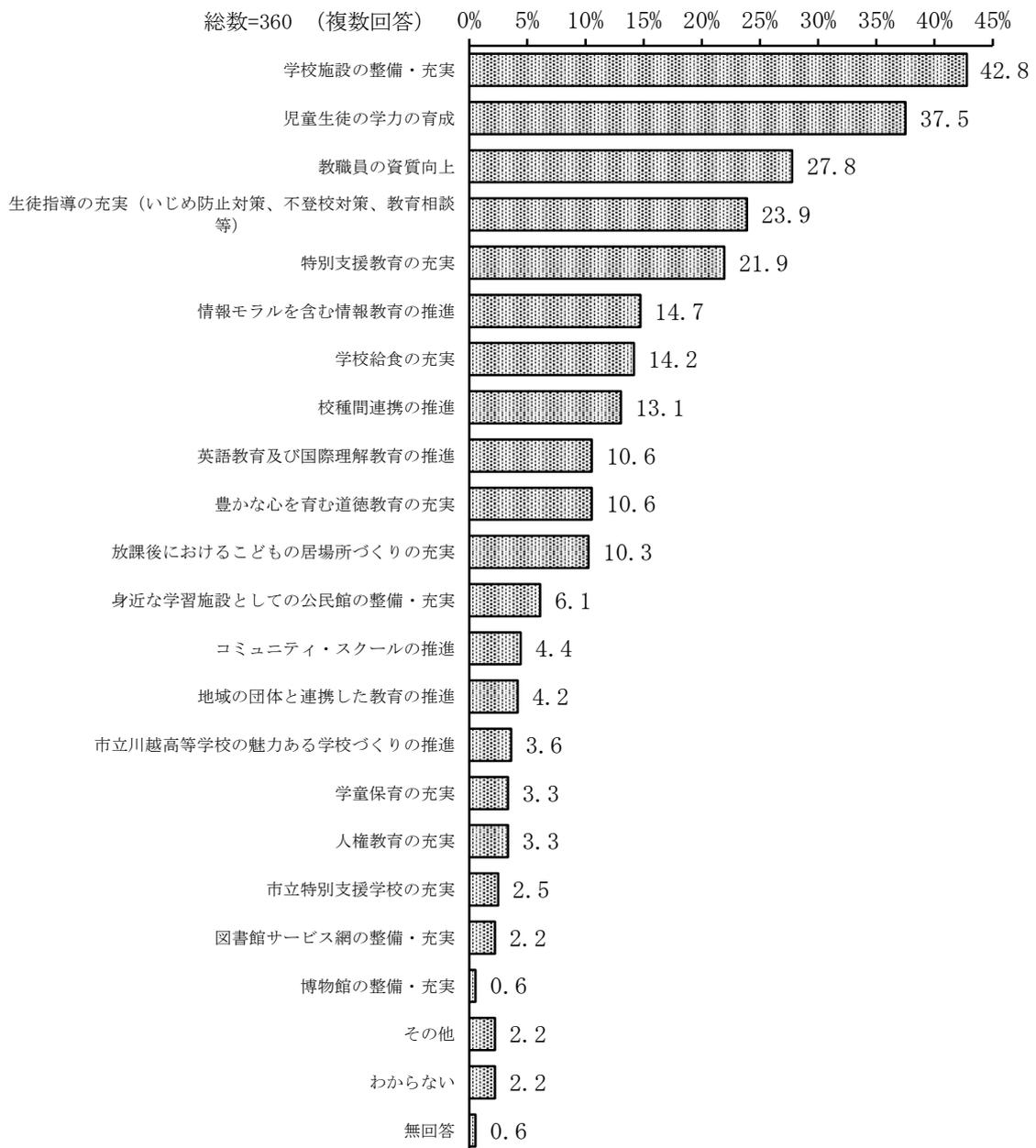


4 教育施策について

(1) 充実させたほうが良いと思う教育施策

問 19 川越市が現在取り組んでいる以下の教育施策において、あなたが充実させたほうが良いと思うものはありますか。(3つまで○)

「学校施設の整備・充実」が42.8%で最も多く、次いで「児童生徒の学力の育成」が37.5%、「教職員の資質向上」がそれぞれ27.8%となっています。



(2) 公民館・図書館・博物館との連携に関する意見（自由記述）

問 20 公民館・図書館・博物館と学校が連携する取組に関してご意見などがあれば、ご自由にお書きください。

有効回収数 360 票中 55 票に意見の記述がありました（1 票の中に複数の分野にまたがる回答もあるため、各項目の回答件数の合計は 55 件より多くなっています）。以下に回答内容の中から一部を抜粋・調整し、掲載しました。

<主な回答内容>

○公民館に関する意見（6 件）

- ・公民館が地域の人脈とのつなぎ役になってほしい。地域以外の人たちの貸館になって、公民館自体が地域を知らないことが多い。地域と学校の連携に手を貸してほしい。
- ・公民館については、それぞれの地域にあるので、公民館で活動している団体と学校の学習がリンクしていたら共に活動したり、こどもが公民館で学習発表したり、もっと活用できる方法をさがせたらいいのではないかと思います。

○図書館に関する意見（7 件）

- ・学校の図書カードでも市の図書館で借りられるようにしてほしい。
- ・読み聞かせボランティアは多くの学校であるが、図書館の方が定期的に来てくれるといい。

○博物館に関する意見（6 件）

- ・どんなものがあるのか学校側に情報があると借りたりしやすいです。また、博物館で学校に望んでいることがわかれば連携しやすいかと思われます。
- ・長期休業等を活用した博物館訪問や郷土愛を育てるための出前授業などできればよいと思います。

○全体に関わる意見（26 件）

- ・積極的に連携をとるべきだが、連携を取るだけで手間がかかり、多くの教員が敬遠している。半ば強制的に段取りをすべて整えた状態で、連携する制度作りが必要。
- ・各施設に相談すると、丁寧に対応していただけて助かっていますが、どのような連携ができるのかをしらない教員もまだ多いと思います。また、提出書類などが少ないほうがお願いしやすいです。
- ・学校の授業で使える教材などで貸出可能なものについての告知を十分にしてほしい。
- ・子供たちが興味・関心のあるものを見つけるため、もっとイベントなどを実施してほしいと思います。

○感謝を述べる意見（9件）

- ・各機関の方が出前授業等で協力してくださることに非常に感謝しております。学校外の専門の方にお話をいただけることは子どもたちにとって貴重な機会のため、今後ともよろしく願いいたします。
- ・どちらの施設も学校との連携を細やかに行っていただき、たいへんありがたいです。

○その他（8件）

- ・上記3ヶ所に限らず、やまぶき会館、美術館や武道館、オアシス（プール含む）なども、もっと学校行事などで予約を取りやすくしたりして使いやすくなると良い。

(3) 川越市の教育に関する意見（自由記述）

問 21 川越市の教育に関してご意見などがありましたら、ご記入ください。

有効回収数 360 票中 93 票に意見の記述がありました（1 票の中に複数の分野にまたがる回答もあるため、各項目の回答件数の合計は 93 件より多くなっています）。以下に回答内容の中から一部を抜粋・調整し、掲載しました。

<主な回答内容>

○教員の資質能力の向上（3 件）

- ・教職員の資質向上の為、資金を惜しまず、外部講師を招くなどして指導方法について職員が研修する機会があったほうが良いと思う。

○予算（13 件）

- ・教育にお金をかけてほしいです。
- ・教育は未来への投資だと思います。人材が一番の宝ではないでしょうか。一番予算をかけるべきです。委員会の皆様もご尽力されていることと存じますが、予算がつかないということも多いのではないのでしょうか。今後とも子供達の未来のためによりしく願います。

○教職員の体制（23 件）

- ・教員を増やしてほしい 仕事量が増えているが、人手不足で困っている。
- ・学校で様々な子どもたちに対応できる十分な人的措置を強く望みます。

○学校の働き方改革（2 件）

- ・教職員の労働環境を改善することが、豊かな教育に結びつくと考えます。未来ある子どもたちのために、環境改善をお願いします。

○学校施設・設備、備品・消耗品等（23 件）

- ・学校の設備をもっと良くしてほしいです。例えば、理科室にエアコンがないと、暑くて生徒の集中力が切れてしまいます。
- ・事務用品が不足していて、筆ペンですら自費負担。他にも不足したものが多すぎて、それを買うに行くだけで時間の浪費。金額の問題というよりも、時間を奪われるのがきつい。
- ・市立学校の校舎の大規模修繕、トイレの改築、校庭整備など、児童生徒の教育環境の整備に力を入れてほしい。

○保護者への対応（1 件）

- ・私の周りでも多くの教員が傷つき悩んでいます。業務の精選や理不尽な保護者からのクレ

ーム対策など、現場でギリギリ頑張っている教員を守れるような施策を行っていただくとありがたいです。

○他市との交流（3件）

- ・中核市であることから、川越市独自のよさがある一方、他市町村の取組も参考にした方が
良い場合もある。もっと、他市町村との人事交流を盛んにしたほうが良いのでは。

○教育施策全般（18件）

- ・学校の再編も含めて一から仕組みを考えていくべき。このまま同じことを続けていても現場の負担が増えていくだけを感じる。
- ・「川越市で教育したい」と思える教職員を増やしていくために、近隣市町村の取組を考慮した教育施策を展開できるようにしたい。理念も大事にしつつ、数的にも、量的にも他市町村を圧倒できるコストパフォーマンスを行ってほしい。

○その他（15件）

- ・他市町から、川越で働きたいと思ってもらえるような、一人の人を大事にする教育現場であってほしいです。
- ・授業スタンダードの方針があり、授業構築をしやすいと思っています。

IV 市民調査の結果

1 回答者の属性について

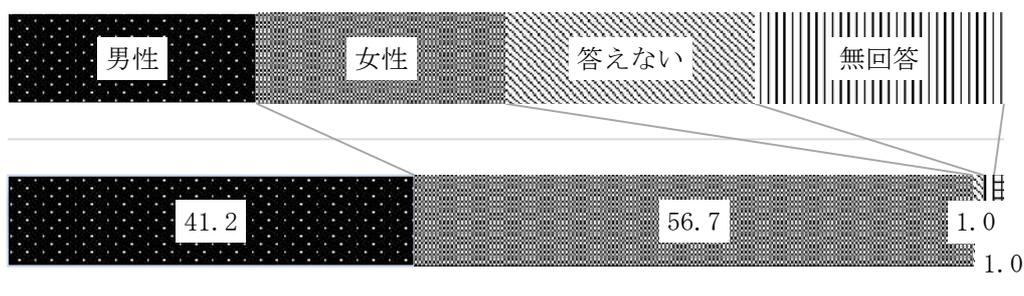
(1) 性別

F 1 あなたの性別はどちらですか。(1つに○)

「男性」が41.2%、「女性」は56.7%となっています。

総数=577

単位：%



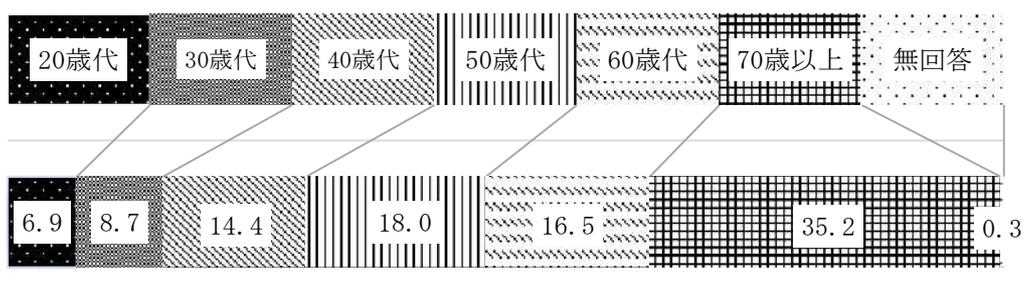
(2) 年齢

F 2 あなたの年齢は何歳ですか。(1つに○)

「70歳以上」が35.2%で最も多く、次いで「50歳代」が18.0%、「60歳代」が16.5%となっています。

総数=577

単位：%



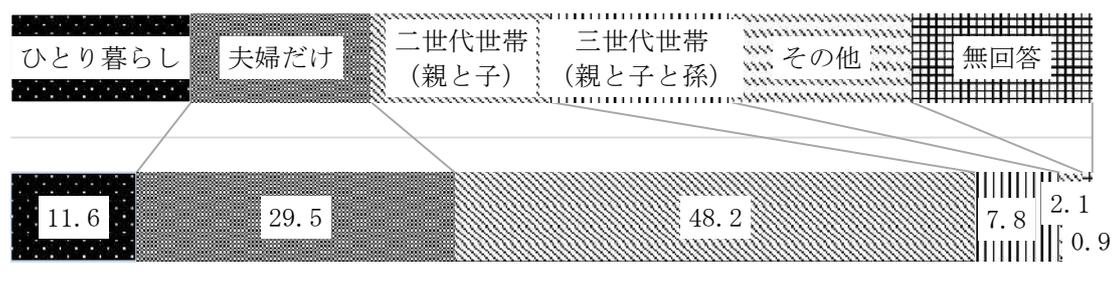
(3) 家族構成

F 3 あなたの家族構成は、この中のどれにあたりますか（1つに○）

「二世世代世帯（親と子）」が48.2%で最も多く、次いで「夫婦だけ」が29.5%、「ひとり暮らし」が11.6%となっています。

総数=577

単位：%

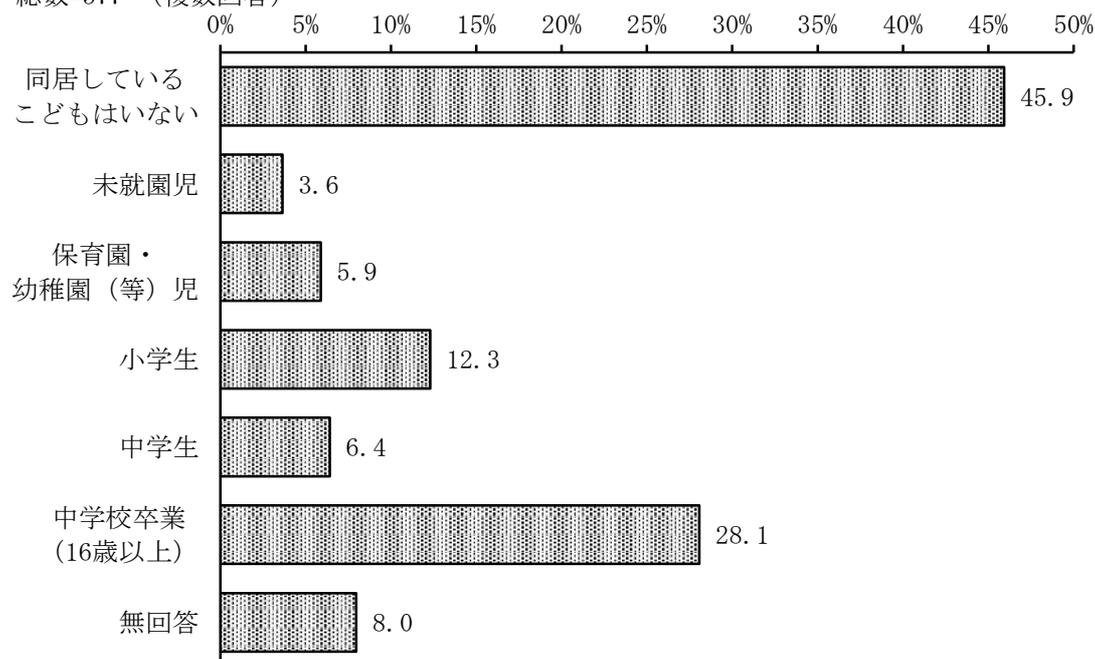


(4) 同居している子ども

F 4 あなたの同居しているお子さんについて該当するものはどれですか。（○はいくつでも）

「同居している子どもはいない」が45.9%で最も多く、次いで「中学校卒業（16歳以上）」が28.1%、「小学生」が12.3%となっています。

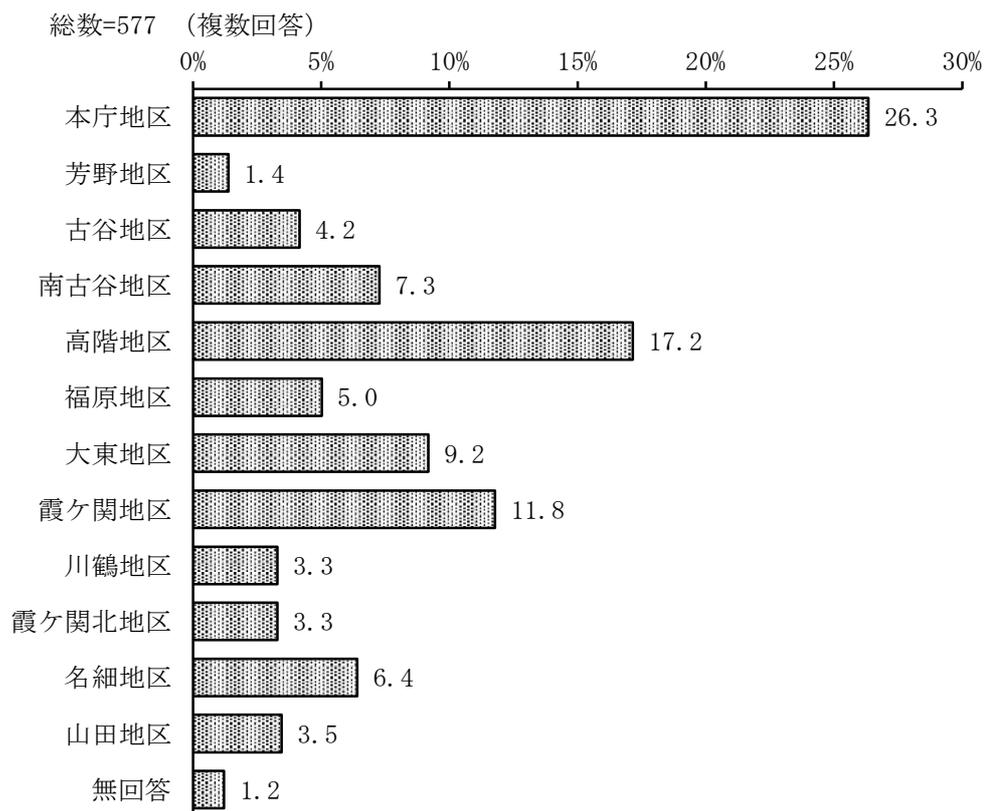
総数=577（複数回答）



(5) 居住地区

F5 あなたはどちらの地区にお住まいですか。お送りした封筒の宛名右上にある名称をご確認の上、選んでください。(1つに○)

「本庁地区」が26.3%で最も多く、次いで「高階地区」が17.2%、「霞ヶ関地区」が11.8%となっています。



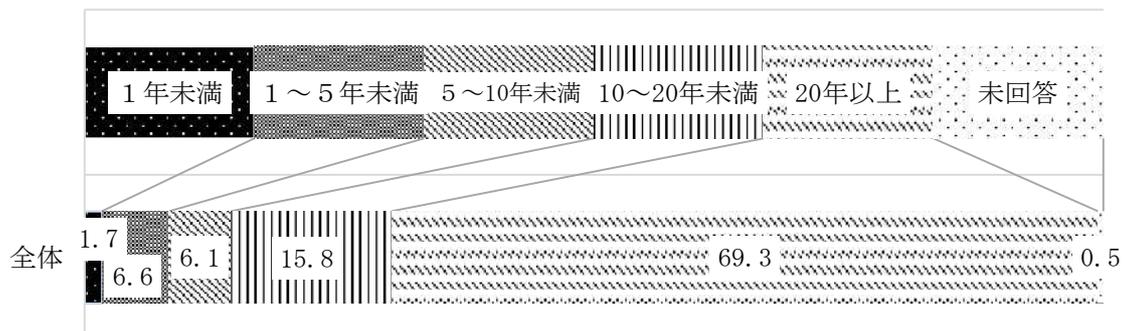
(6) 川越市での居住年数

F 6 あなたは川越市にどのぐらい住んでいますか。(1つに○)

「20年以上」が69.3%で最も多く、次いで「10～20年未満」が15.8%、「1～5年未満」が6.6%となっています。

総数=577

単位：%

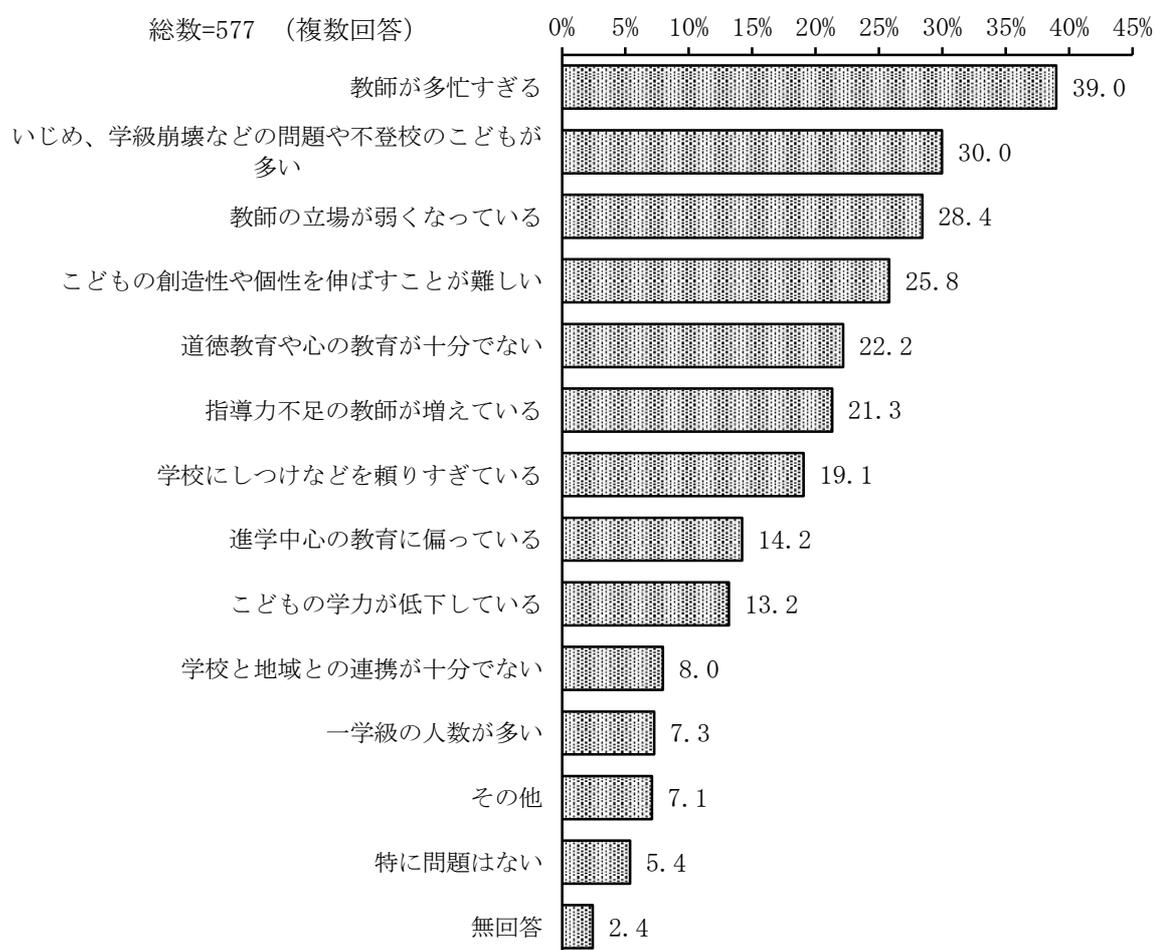


2 学校教育について

(1) 現在の学校教育の問題

問1 現在の学校教育について、どのような問題があると思いますか。(3つまで○)

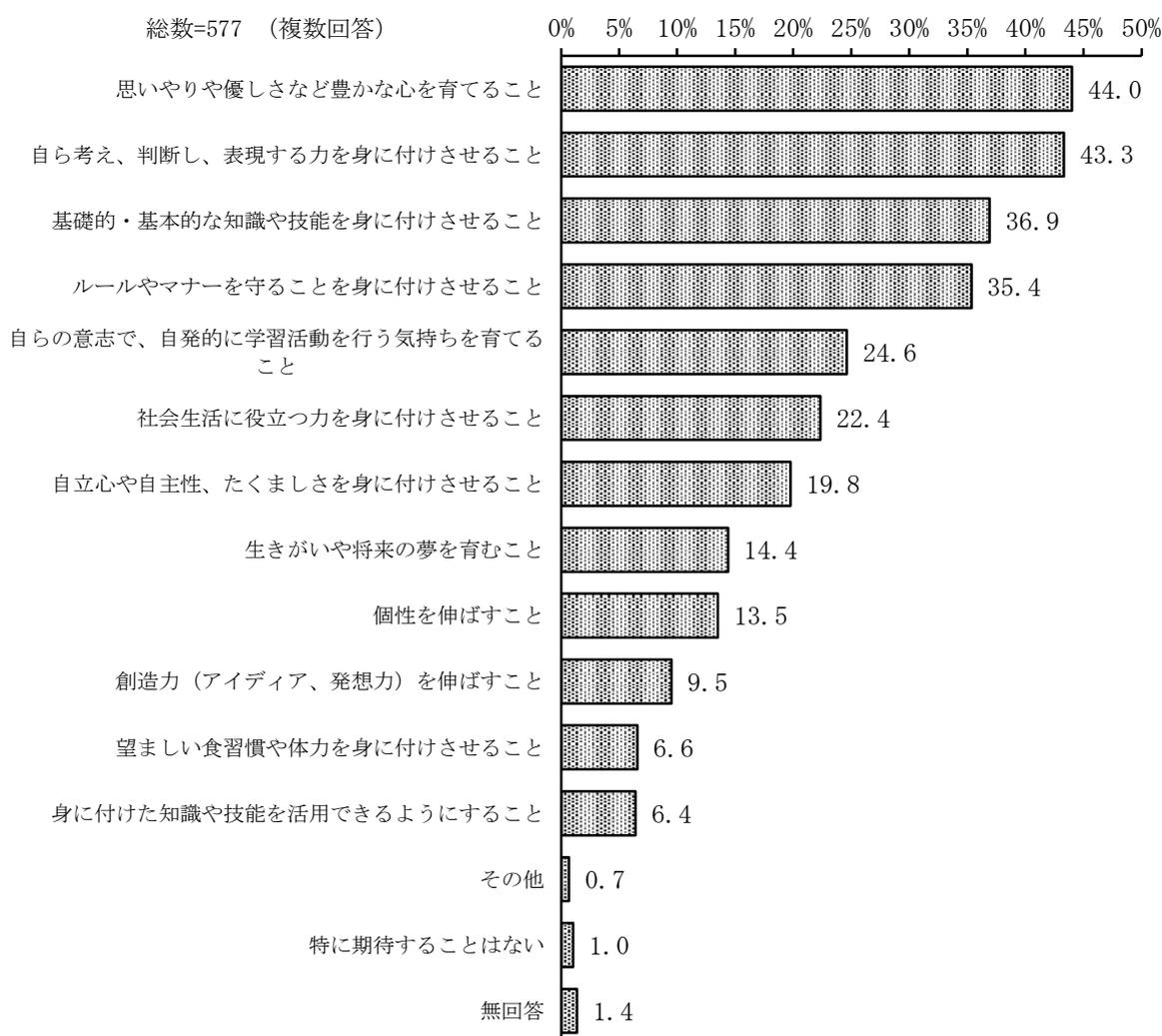
「教師が多忙すぎる」が39.0%で最も多く、次いで「いじめ、学級崩壊などの問題や不登校の子どもが多い」が30.0%と「教師の立場が弱くなっている」が28.4%となっています。



(2) 学校に期待する役割

問2 小中学校が子どもに対してどのような役割を果たすことを期待しますか。(3つまで○)

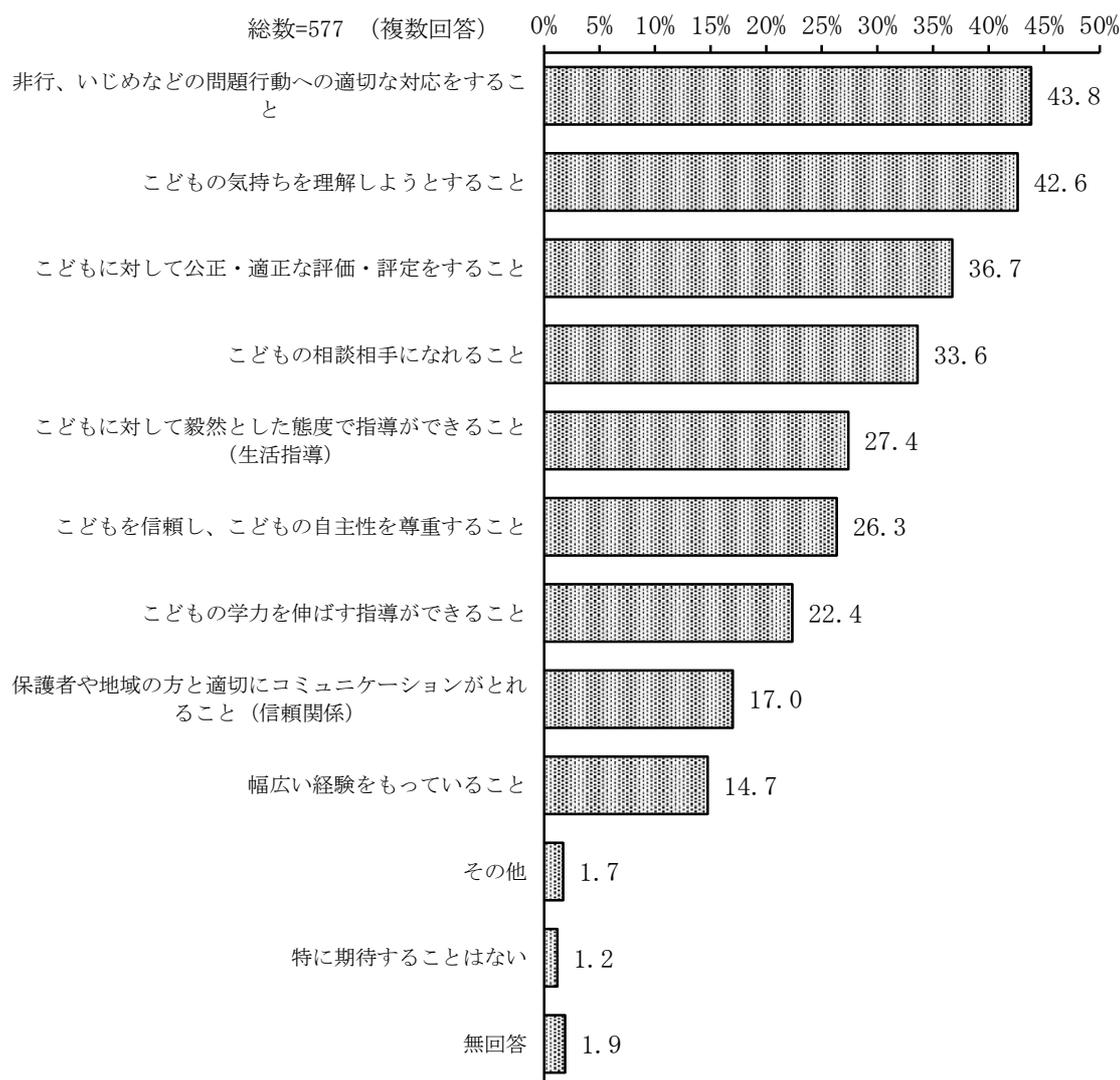
「思いやりや優しさなど豊かな心を育てること」が44.0%で最も多く、次いで「自ら考え、判断し、表現する力を身に付けさせること」が43.3%、「基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせること」が36.9%となっています。



(3) 教師に期待すること

問3 小中学校の教師にどのようなことを期待しますか。(3つまで○)

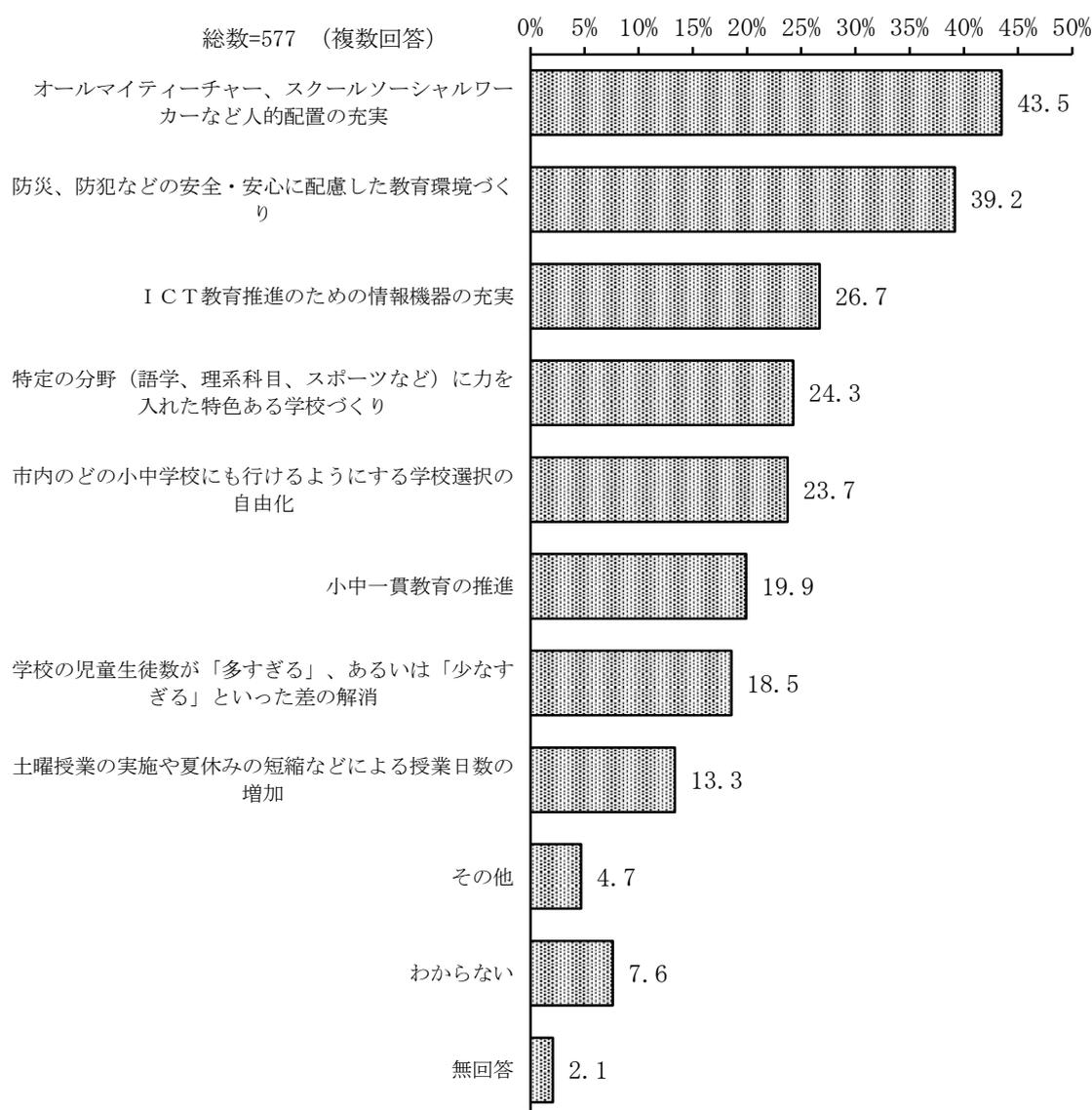
「非行、いじめなどの問題行動への適切な対応をすること」が43.8%で最も多く、次いで「こどもの気持ちを理解しようとする事」が42.6%、「こどもに対して公正・適正な評価・評定をすること」が36.7%となっています。



(4) 教育環境の変化に対応するために取り組むべきこと

問4 学校施設の老朽化や将来的な子どもの減少など、教育環境の変化に対応していくため、川越市はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(3つまで○)

「オールマイティーチャー、スクールソーシャルワーカーなど人的配置の充実」が43.5%で最も多く、次いで「防災、防犯などの安全・安心に配慮した教育環境づくり」が39.2%、「ICT教育推進のための情報機器の充実」が26.7%となっています。



3 家庭や地域の教育について

(1) 学校、家庭、地域の役割

問5 学校、家庭、地域のそれぞれの役割として、こどものどのようなところを育てていくべきだとお考えですか。(特に重要であることをそれぞれ3つまで番号を選んでください)

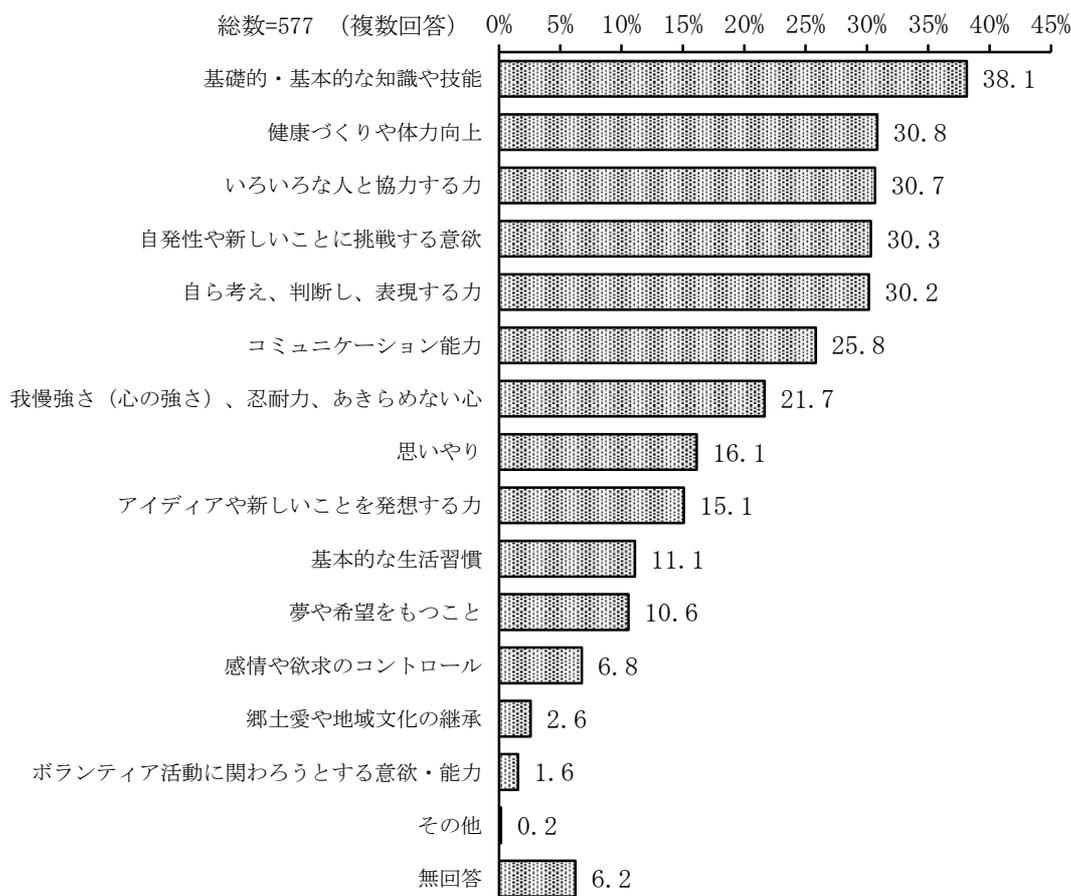
※①学校の役割、②家庭の役割、③地域の役割のそれぞれに上記の番号を記入してください。

なお、同じ番号を①、②、③にご記入いただいても構いません。

※「15. その他」を選択される場合には、上記の()に内容を記入してください。

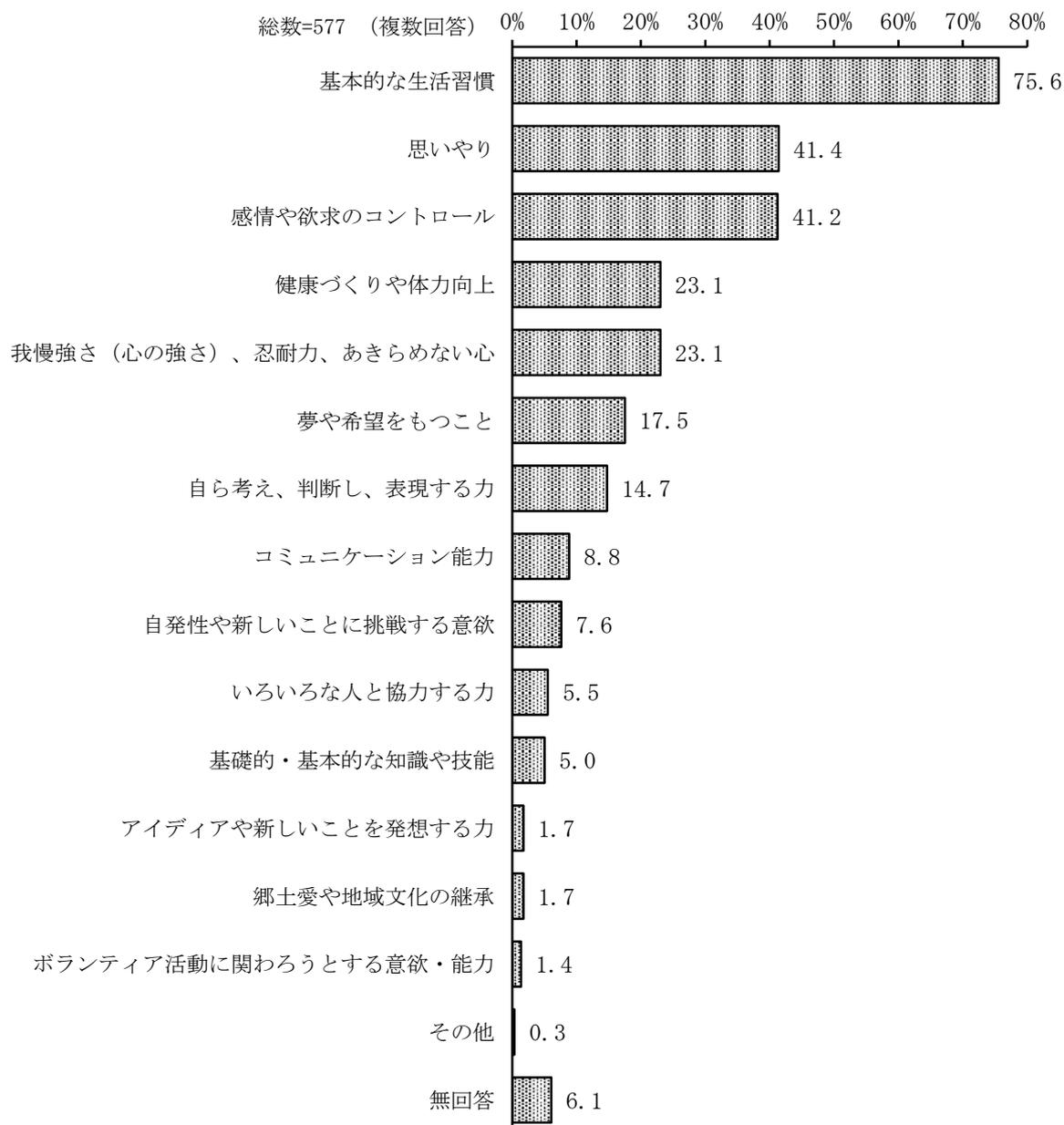
① 学校の役割

「基礎的・基本的な知識や技能」が38.1%で最も多く、次いで「健康づくりや体力向上」が30.8%、「いろいろな人と協力する力」が30.7%となっています。



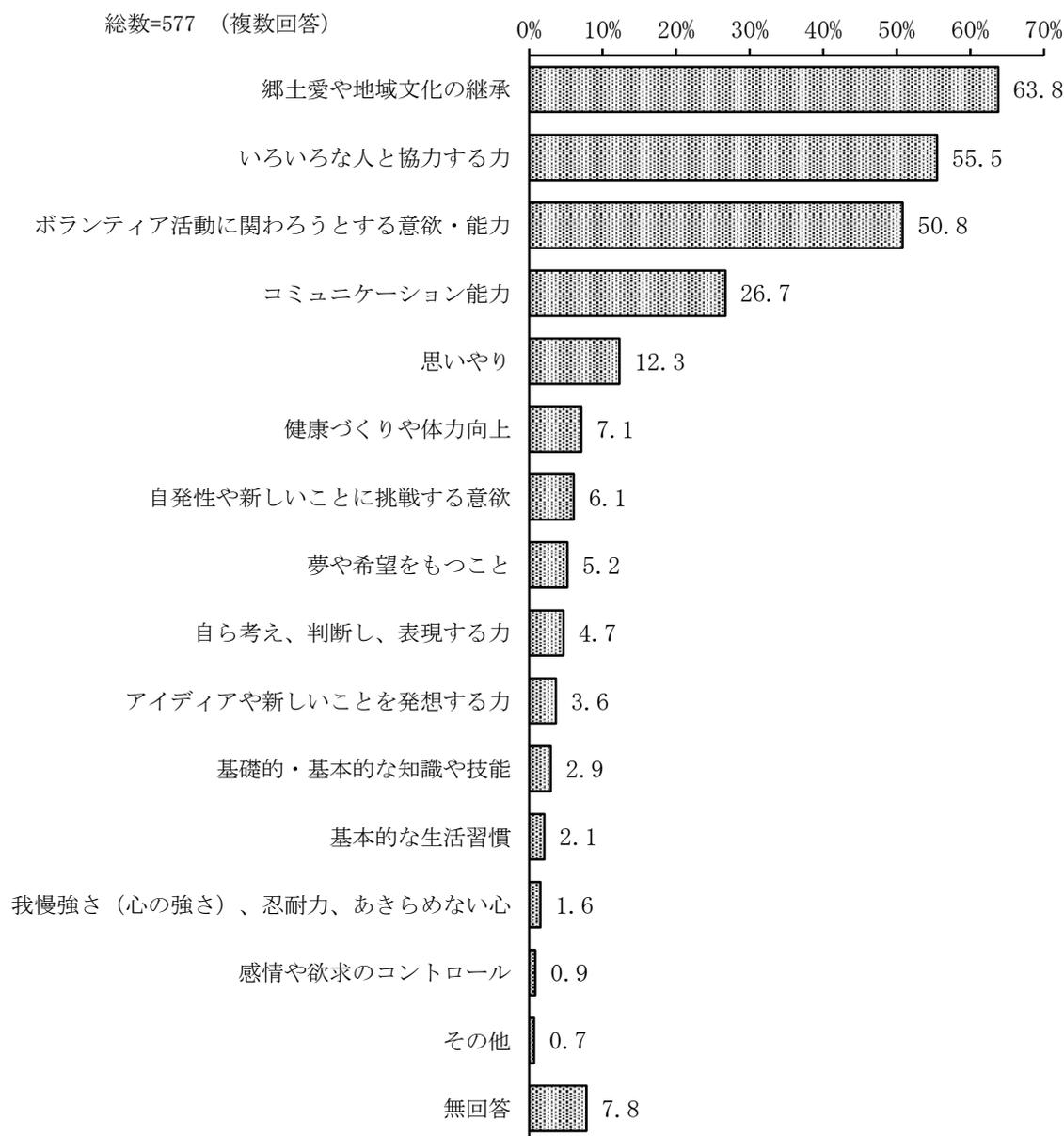
② 家庭の役割

「基本的な生活習慣」が75.6%で最も多く、次いで「思いやり」が41.4%、「感情や欲求のコントロール」が41.2%となっています。



③ 地域の役割

「郷土愛や地域文化の継承」が63.8%で最も多く、次いで「いろいろな人と協力する力」が55.5%、「ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力」が50.8%となっています。

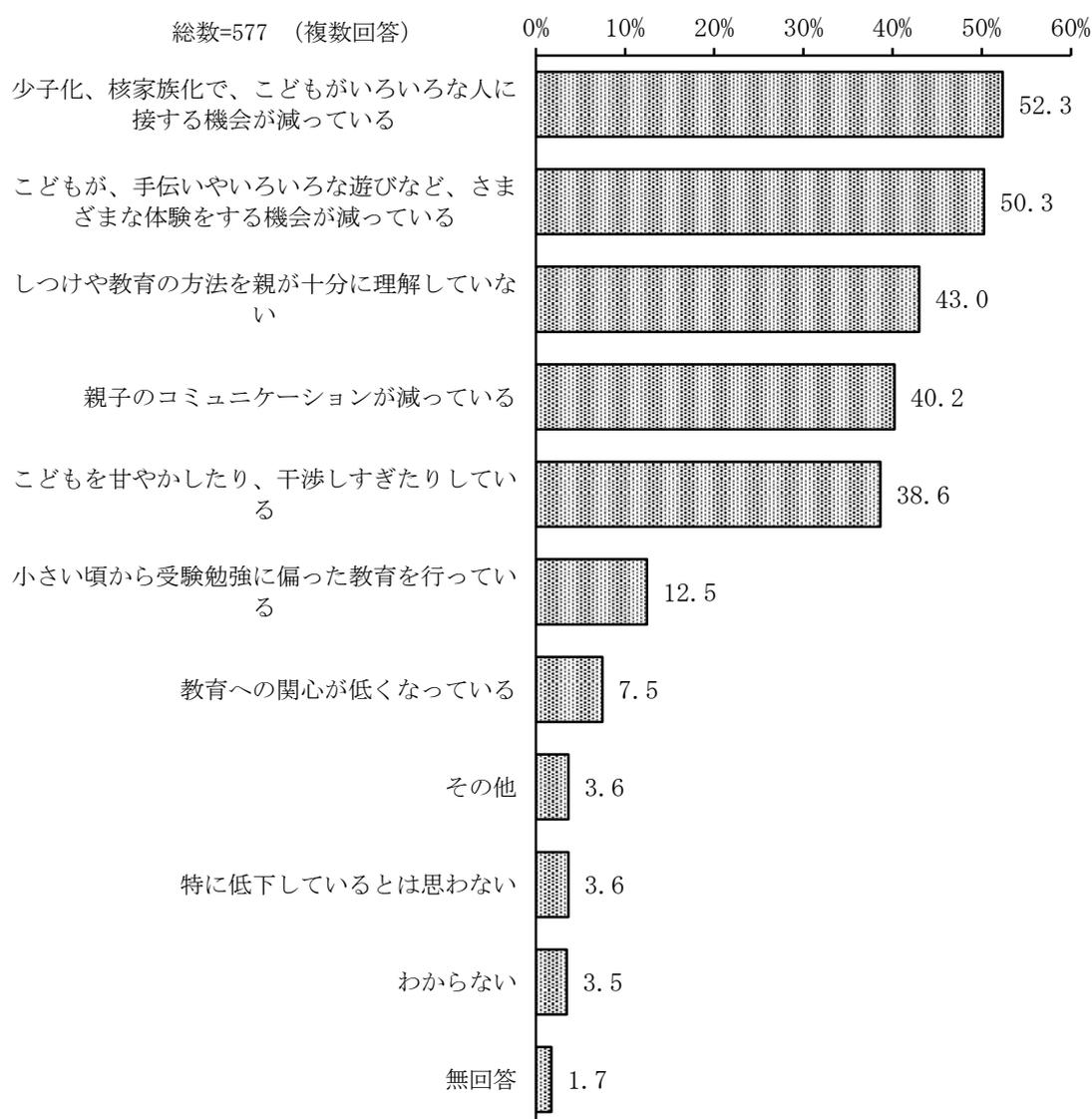


(2) 家庭の教育力が低下している原因

問6 家庭の教育力が一般的に低下していると言われていますが、どんなことが原因だと思いますか。(3つまで○)

※(用語説明)「家庭の教育力」とは、家庭での生活の中で必要な規範や行動能力を身に付ける教育機能のこと。

「少子化、核家族化で、こどもがいろいろな人に接する機会が減っている」が52.3%で最も多く、次いで「こどもが、手伝いやいろいろな遊びなど、さまざまな体験をする機会が減っている」が50.3%、「しつけや教育の方法を親が十分に理解していない」が43.0%となっています。

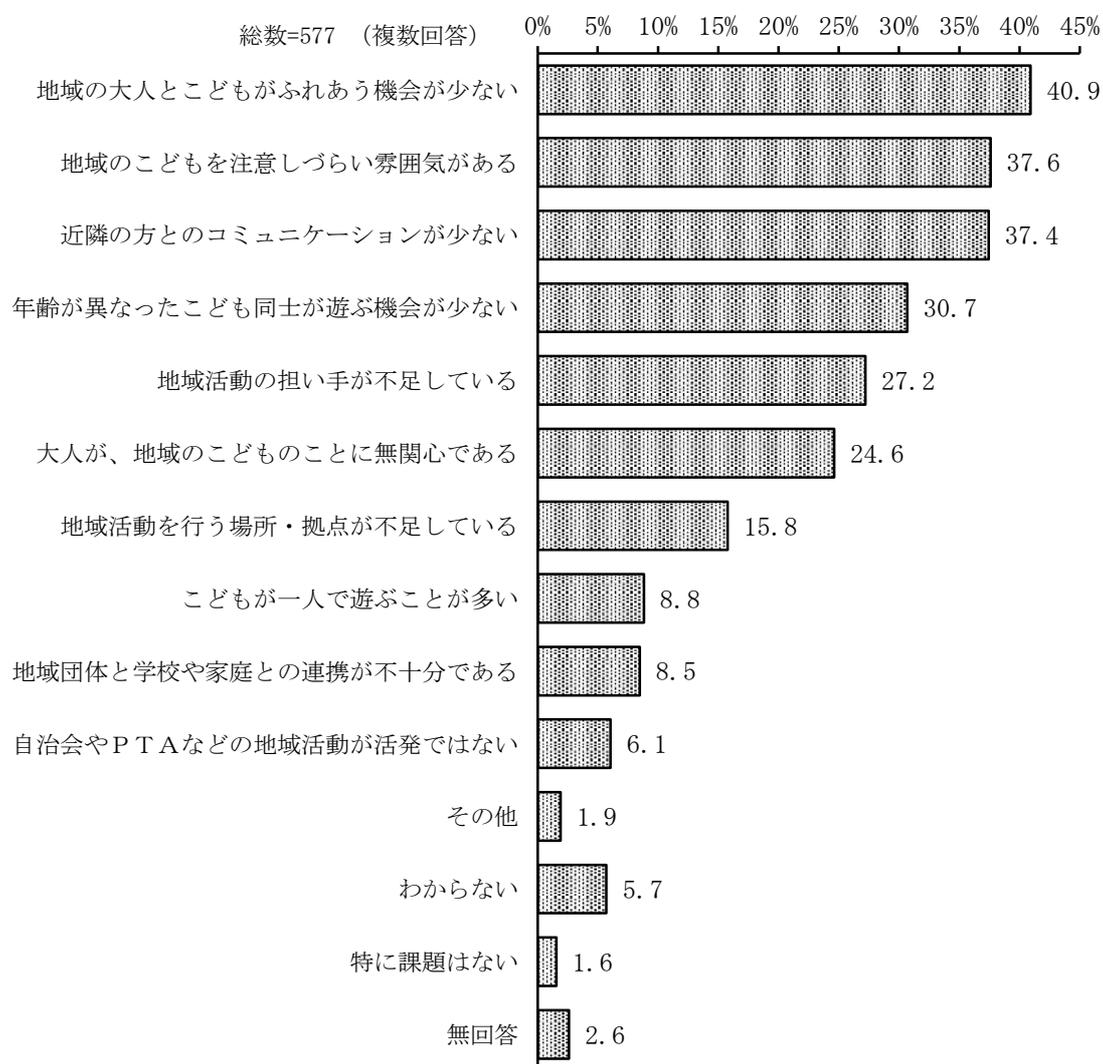


(3) 地域の教育力についての課題

問7 地域の教育力についてどのような課題があると思いますか。(3つまで○)

※(用語説明)「地域の教育力」とは、地域社会の中で子どもたちが大人や異年齢の友人との交流を通じたさまざまな体験などができる教育機能のこと。

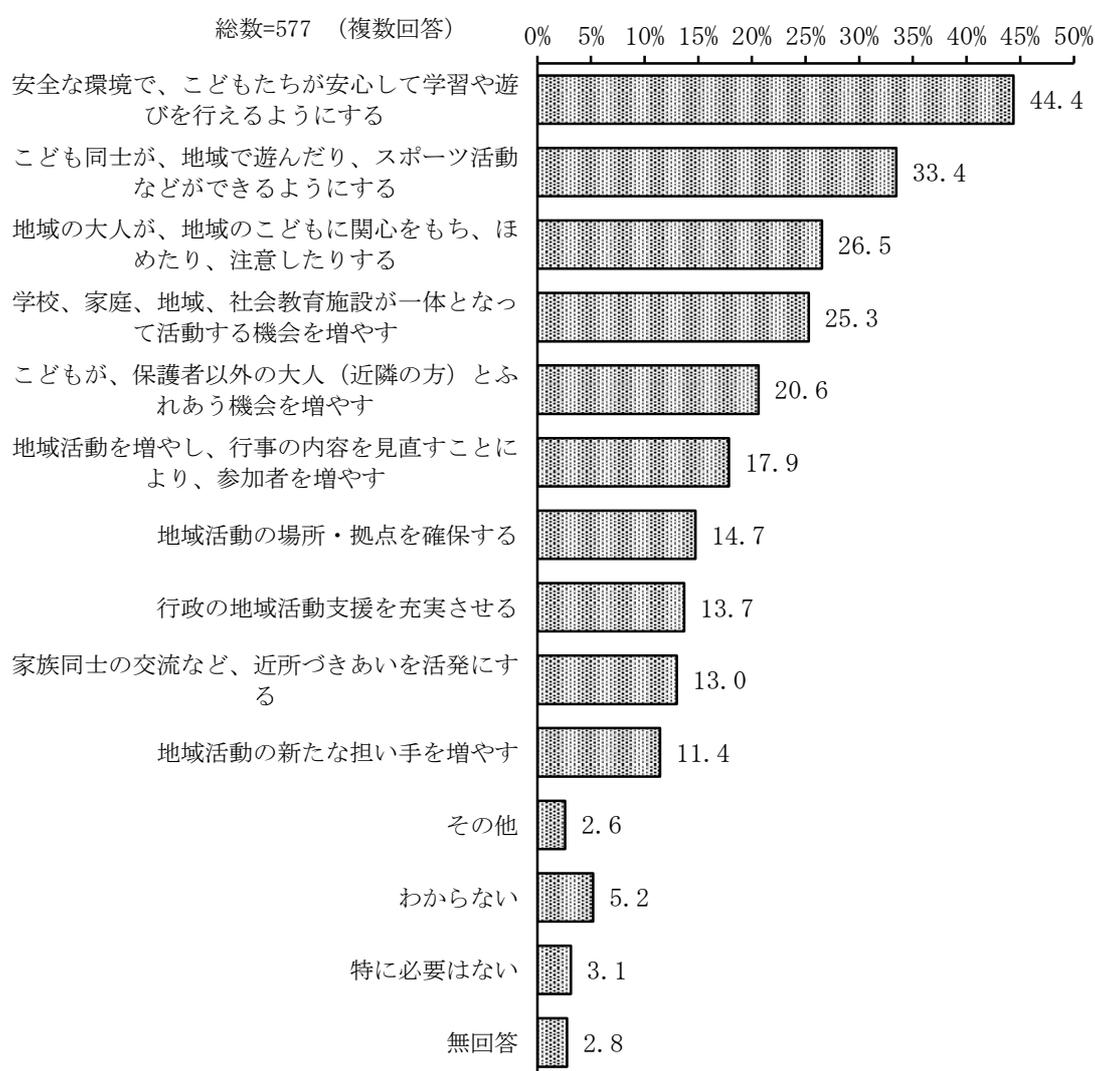
「地域の大人と子どもがふれあう機会が少ない」が40.9%で最も多く、次いで「地域の子どもを注意しづらい雰囲気がある」が37.6%、「近隣の方とのコミュニケーションが少ない」が37.4%となっています。



(4) 地域の教育力向上に必要な取組

問8 地域の教育力を高めるためにどのような取組が必要だと思いますか。(3つまで○)

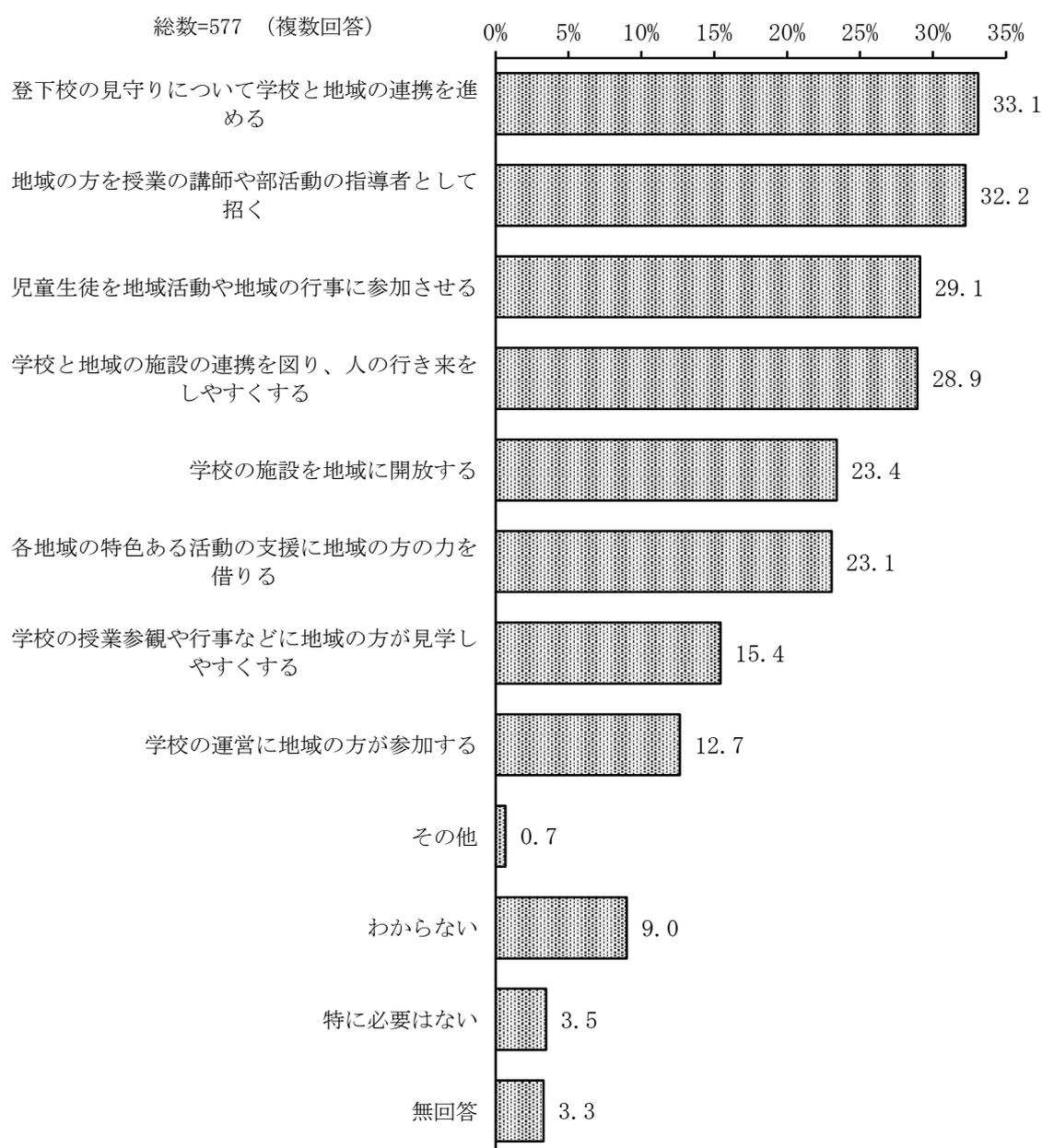
「安全な環境で、こどもたちが安心して学習や遊びを行えるようにする」が44.4%で最も多く、次いで「こども同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする」が33.4%、「地域の大人が、地域のこどもに関心を持ち、ほめたり、注意したりする」が26.5%となっています。



(5) 学校と地域の連携で重要なこと

問9 学校と地域の連携についてどのような考え方が重要とされますか。(3つまで○)

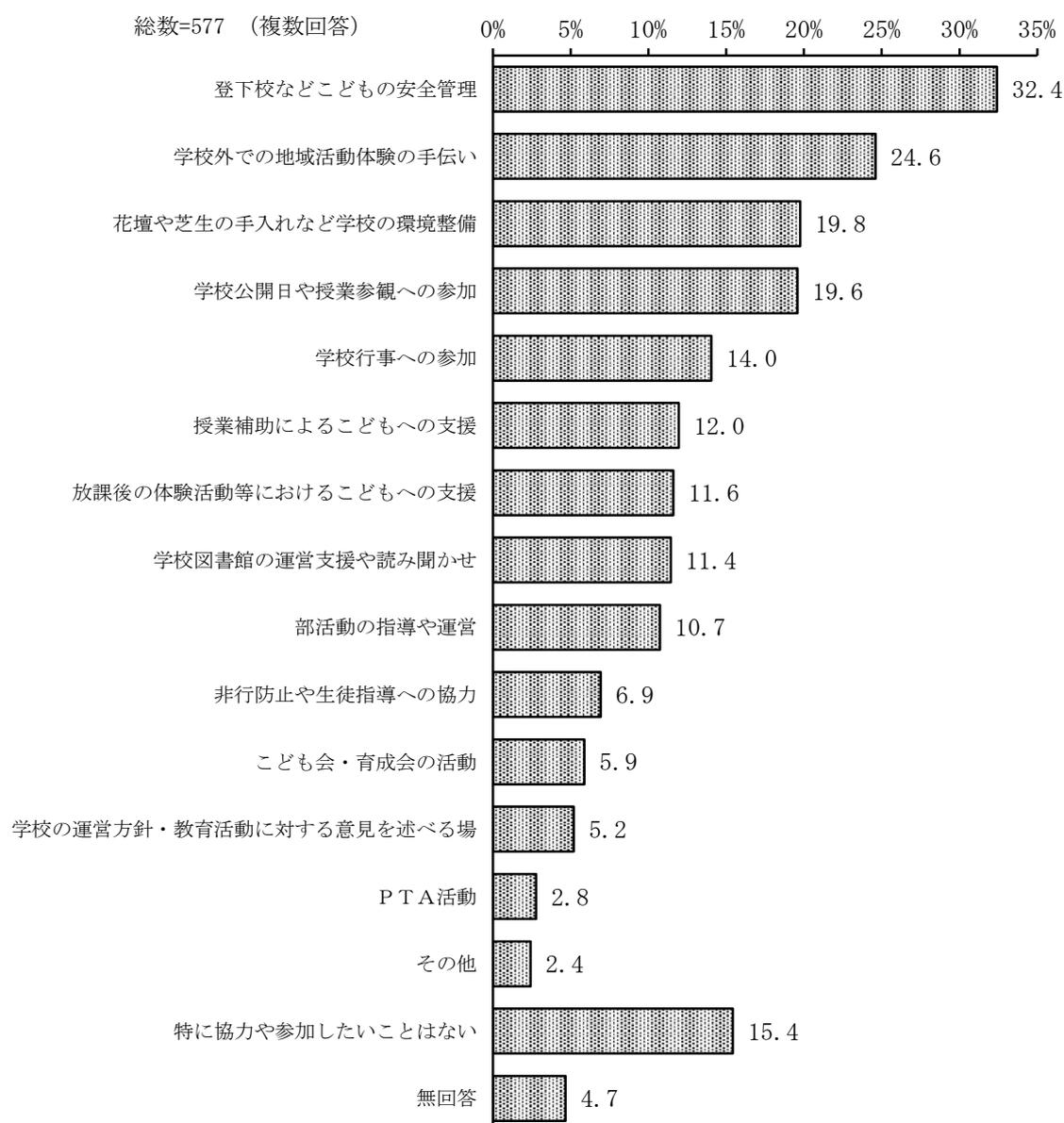
「登下校の見守りについて学校と地域の連携を進める」が33.1%で最も多く、次いで「地域の方を授業の講師や部活動の指導者として招く」が32.2%、「児童生徒を地域活動や地域の行事に参加させる」が29.1%となっています。



(6) 協力・参加してもよいと思う行事・活動

問 10 次のような行事・活動の中で今後、あなたが学校と協力したり、参加したりしてもよいと思われるものはありますか。(3つまで○)

「登下校などこどもの安全管理」が 32.4%で最も多く、次いで「学校外での地域活動体験の手伝い」が 24.6%、「花壇や芝生の手入れなど学校の環境整備」が 19.8%となっています。

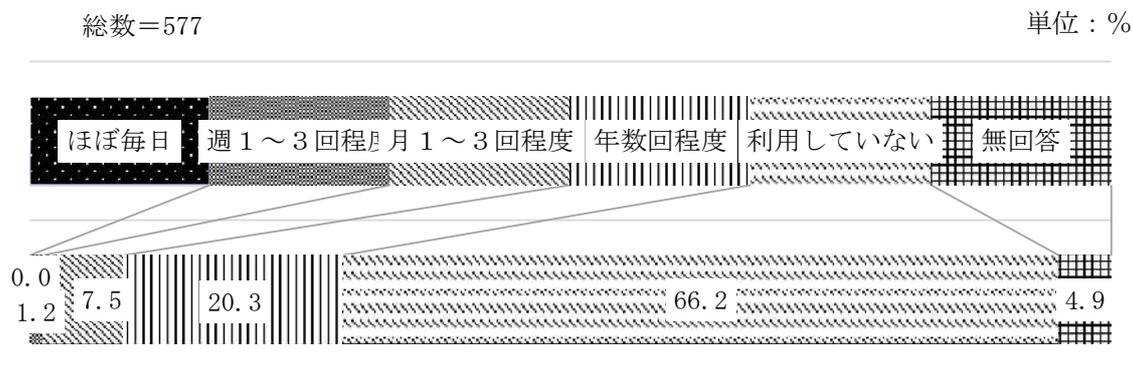


4 公民館・図書館・博物館について

(1) 公民館の利用頻度

問 11 川越市の公民館についておたずねします。あなたは、この1年間（令和5年10月から令和6年9月）に川越市の公民館をどのくらい利用しましたか。（1つに○）

「利用していない」が66.2%で最も多く、次いで「年数回程度」が20.3%、「月1～3回程度」が7.5%となっています。

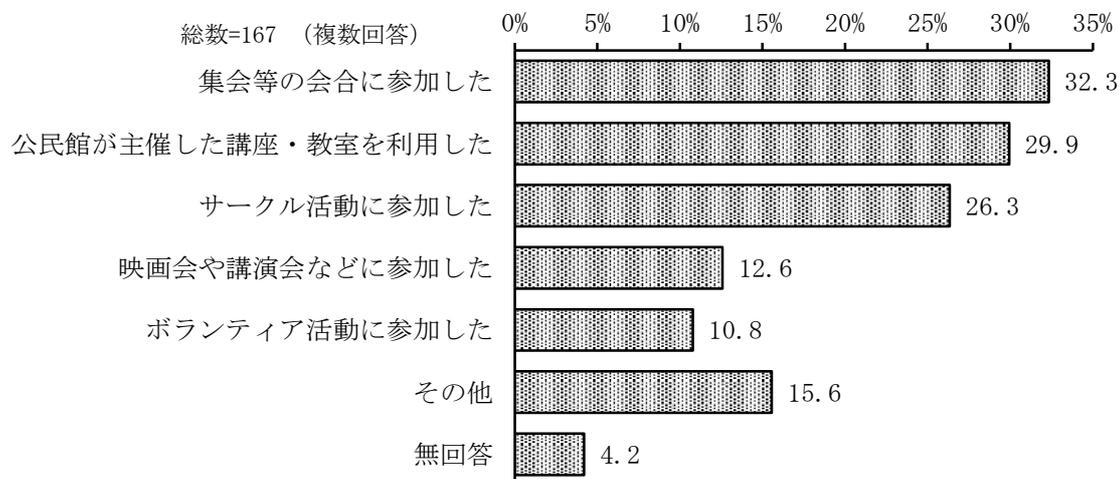


(2) 公民館の利用目的

【問 11 で「1～4」と答えた方におたずねします。】

問 11-1 あなたは、公民館を利用してどのようなことを行いましたか。（○はいくつでも）

「集会等の会合に参加した」が32.3%で最も多く、次いで「公民館が主催した講座・教室を利用した」が29.9%、「サークル活動に参加した」が26.3%となっています。



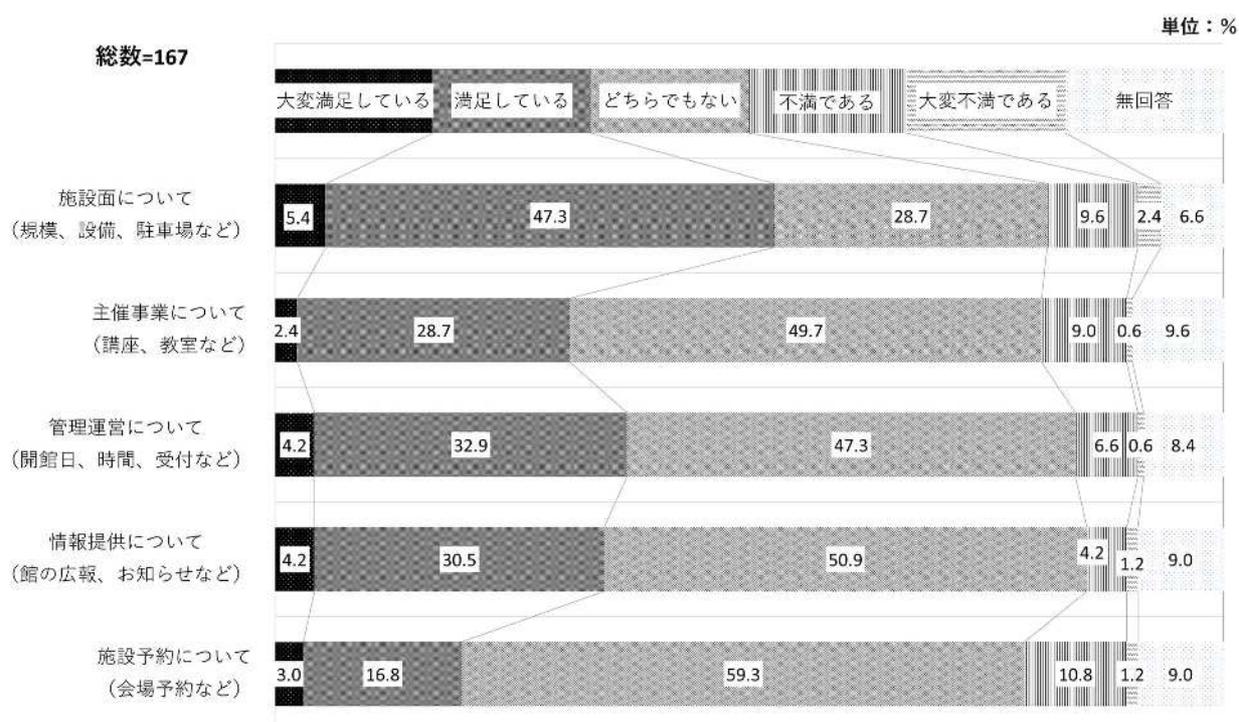
(3) 公民館に対する満足度

【問11で「1～4」と答えた方におたずねします。】

問11-2 あなたは、公民館の以下のことについて、満足していますか。(それぞれの項目について1つに○)

『満足している』（「大変満足している」＋「満足している」）という回答は、「施設面について（規模、設備、駐車場など）」が52.7%で最も多く、次いで「管理運営について（開館日、時間、受付など）」が37.1%、「情報提供について（館の広報、お知らせなど）」が34.7%となっています。

一方、『不満である』（「大変不満である」＋「不満である」）という回答は、「施設面について（規模、設備、駐車場など）」、「施設予約について（会場予約など）」がそれぞれ12.0%で、それ以外の項目は1割未満となっています。

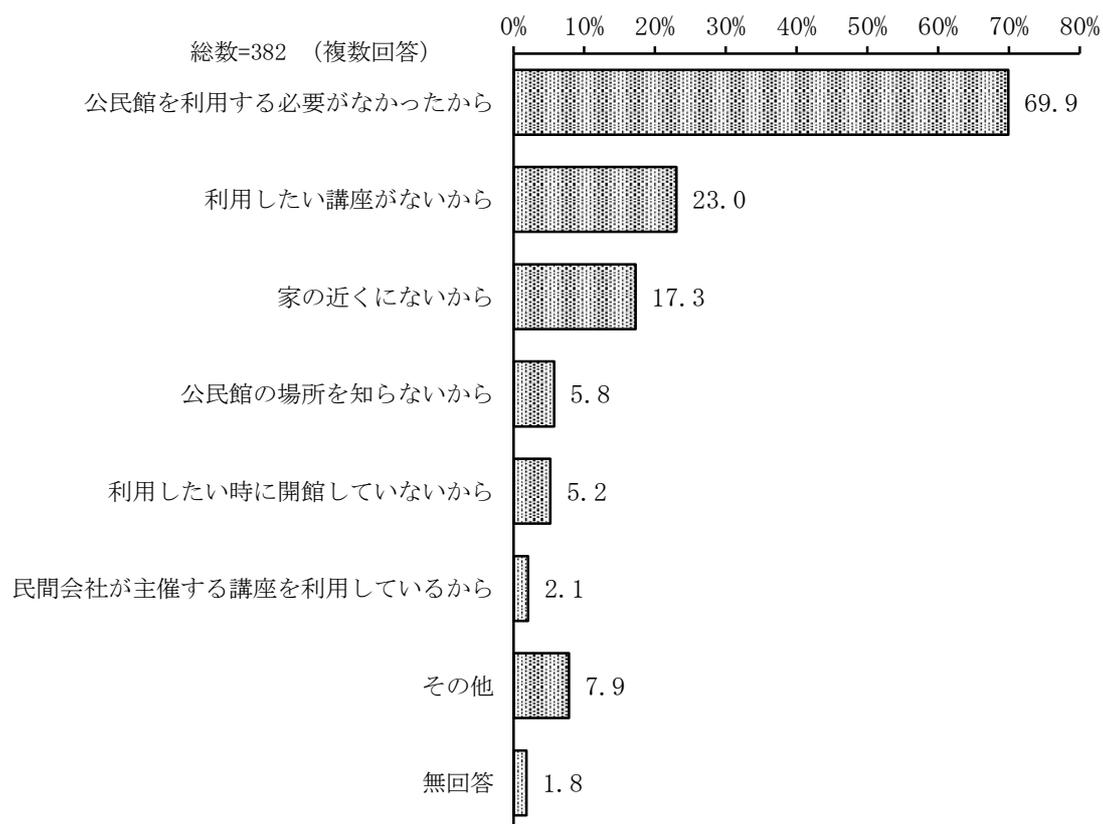


(4) 公民館を利用しない理由

【問11で「5. 利用していない」と答えた方におたずねします。】

問11-3 あなたが、公民館を利用しない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

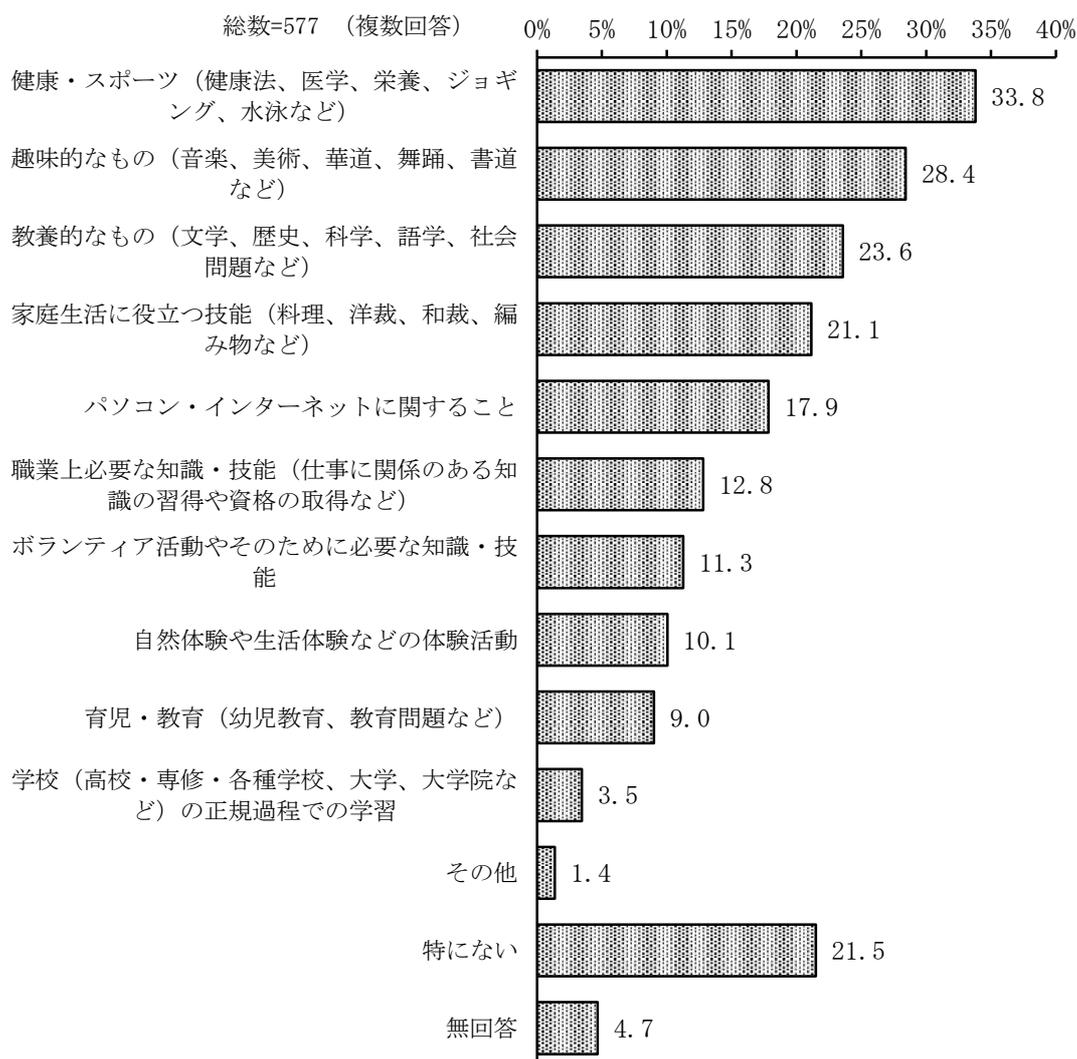
「公民館を利用する必要がなかったから」が69.9%で最も多く、次いで「利用したい講座がないから」が23.0%、「家の近くにないから」が17.3%となっています。



(5) 公民館で学びたいこと

問 12 あなたは、公民館においてどんなことを学びたいですか。(〇はいくつでも)

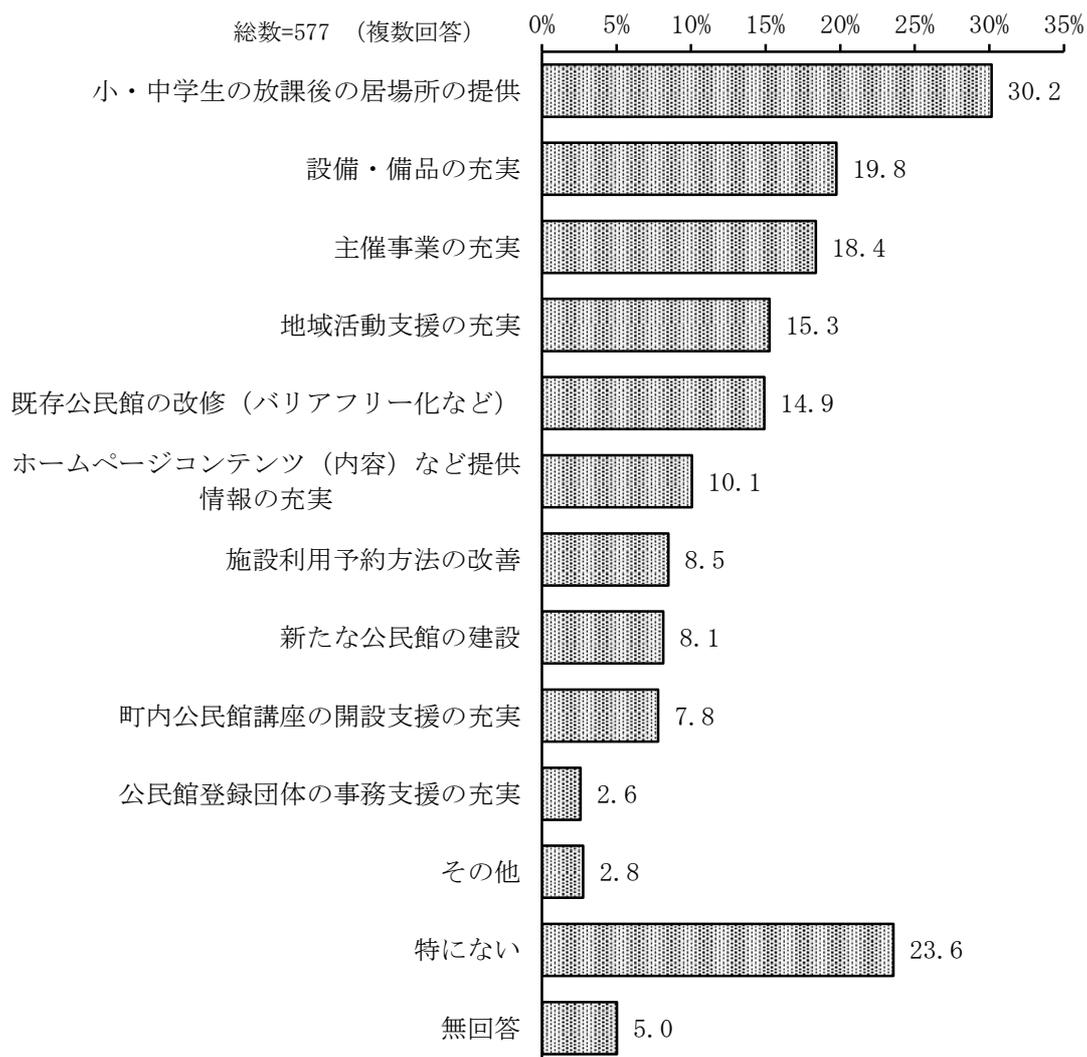
「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」が 33.8%で最も多く、次いで「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」が 28.4%、「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、社会問題など）」が 23.6%となっています。



(6) 公民館への要望

問 13 これからの公民館に要望したいことは何ですか。(3つまで○)

「小・中学生の放課後の居場所の提供」が30.2%で最も多く、次いで「設備・備品の充実」が19.8%、「主催事業の充実」が18.4%となっています。



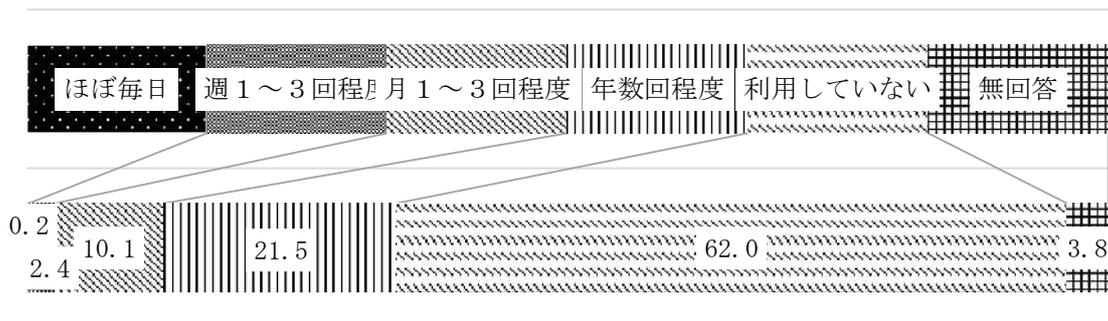
(7) 図書館の利用頻度

問 14 川越市の図書館についておたずねします。あなたは、川越市の図書館をこの1年間（令和5年10月から令和6年9月）にどのくらい利用しましたか。（1つに○）

「利用していない」が62.0%で最も多く、次いで「年数回程度」が21.5%、「月1～3回程度」が10.1%となっています。

総数=577

単位：%



(8) 最も利用する図書館

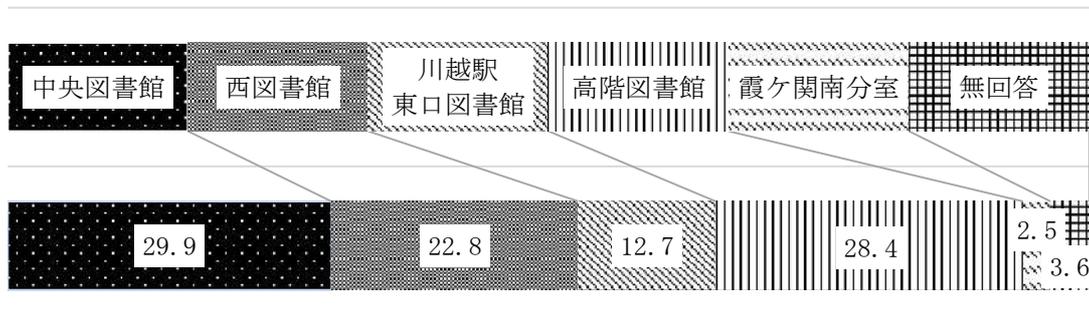
【問14で「1～4」と答えた方におたずねします。】

問 14-1 あなたが、最も利用する図書館は、次のどの図書館ですか。（1つに○）

「中央図書館」が29.9%で最も多く、次いで「高階図書館」が28.4%、「西図書館」が22.8%となっています。

総数=197

単位：%

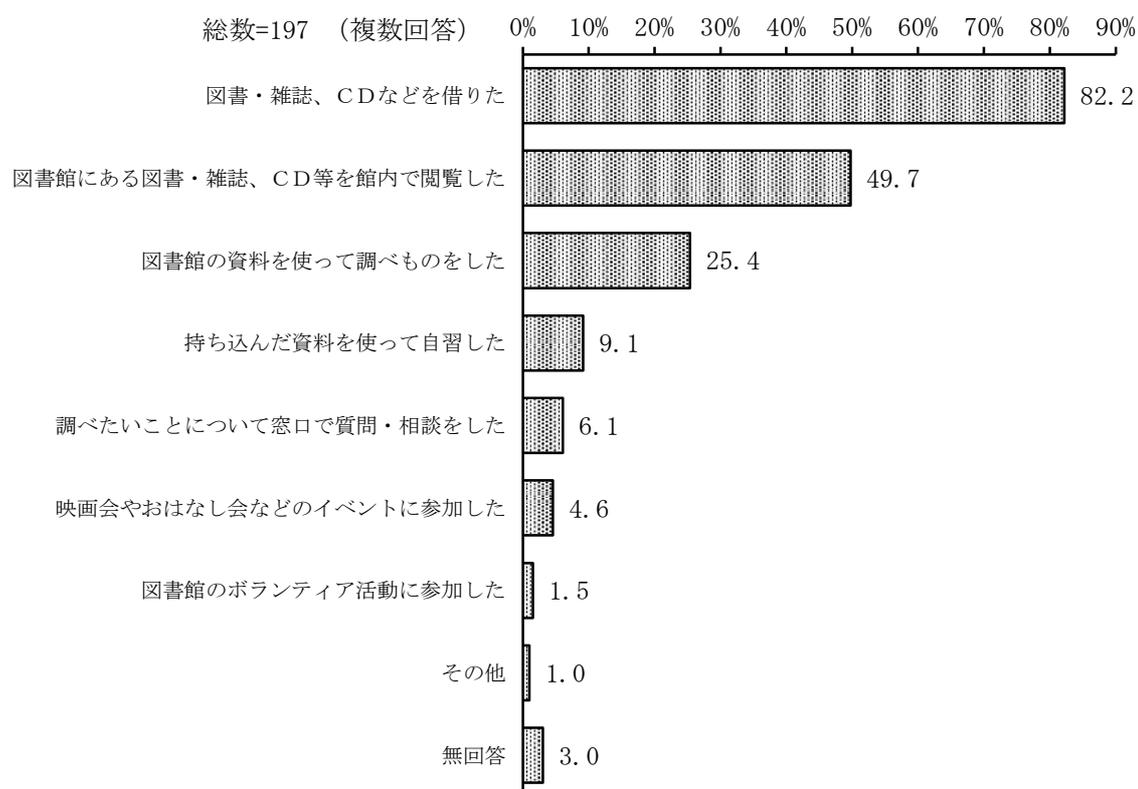


(9) 図書館の利用目的

【問 14 で「1～4」と答えた方におたずねします。】

問 14-2 あなたは、図書館に行ってどのようなことをしましたか。(〇はいくつでも)

「図書・雑誌、CDなどを借りた」が82.2%で最も多く、次いで「図書館にある図書・雑誌、CD等を館内で閲覧した」が49.7%、「図書館の資料を使って調べものをした」が25.4%となっています。



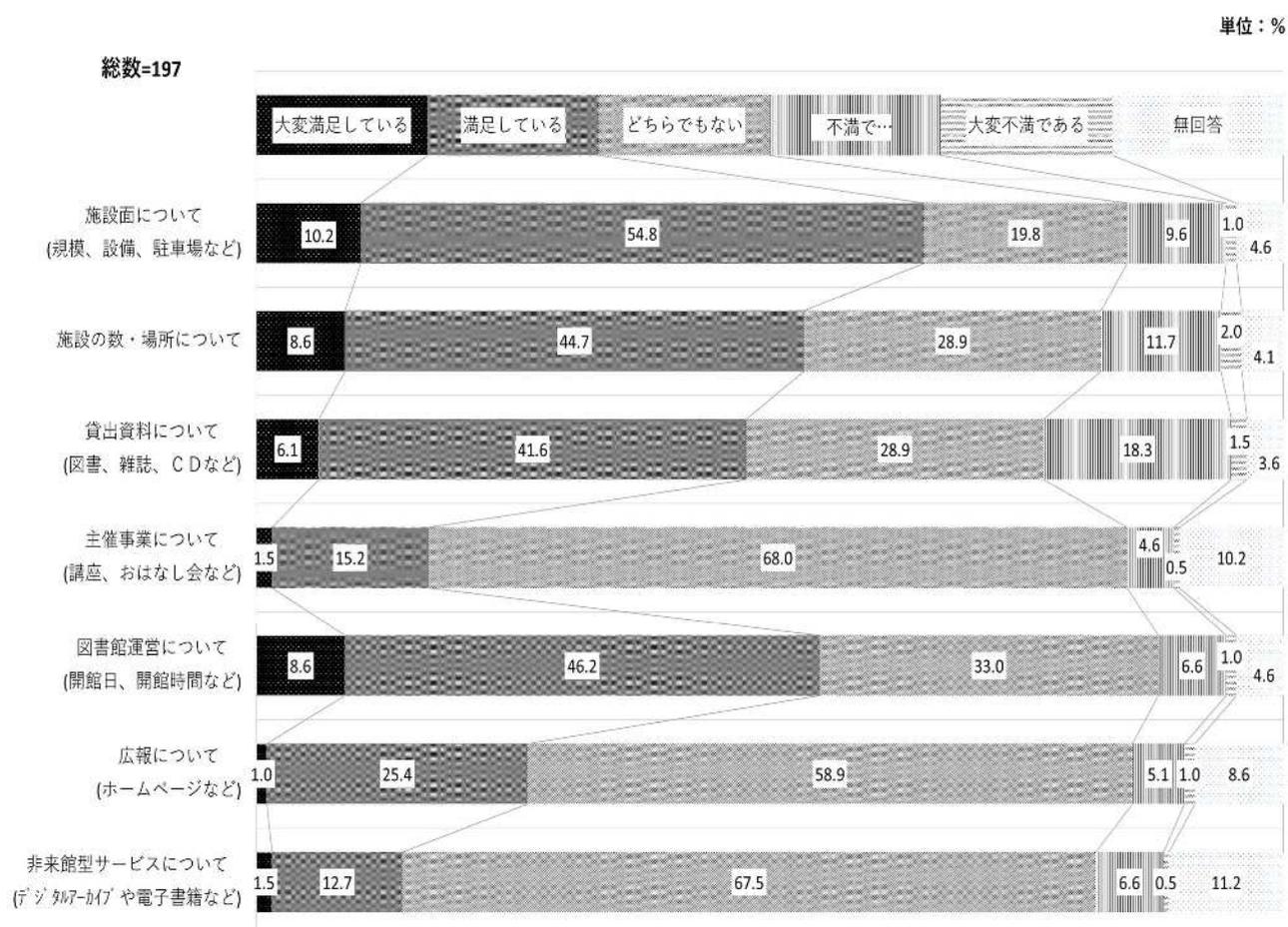
(10) 図書館に対する満足度

【問14で「1～4」と答えた方におたずねします。】

問14-3 あなたは、図書館の以下のことについて、満足していますか。(それぞれの項目について、1つに○)

『満足している』（「大変満足している」＋「満足している」）という回答は、「施設面について（規模、設備、駐車場など）」が65.0%で最も多く、次いで「図書館運営について（開館日、開館時間など）」が54.8%、「施設の数・場所について」が53.3%となっています。

一方、『不満である』（「大変不満である」＋「不満である」）という回答は、「貸出資料について（図書、雑誌、CDなど）」が19.8%で最も多く、次いで「施設の数・場所について」が13.7%、「施設面について（規模、設備、駐車場など）」が10.6%となっています。

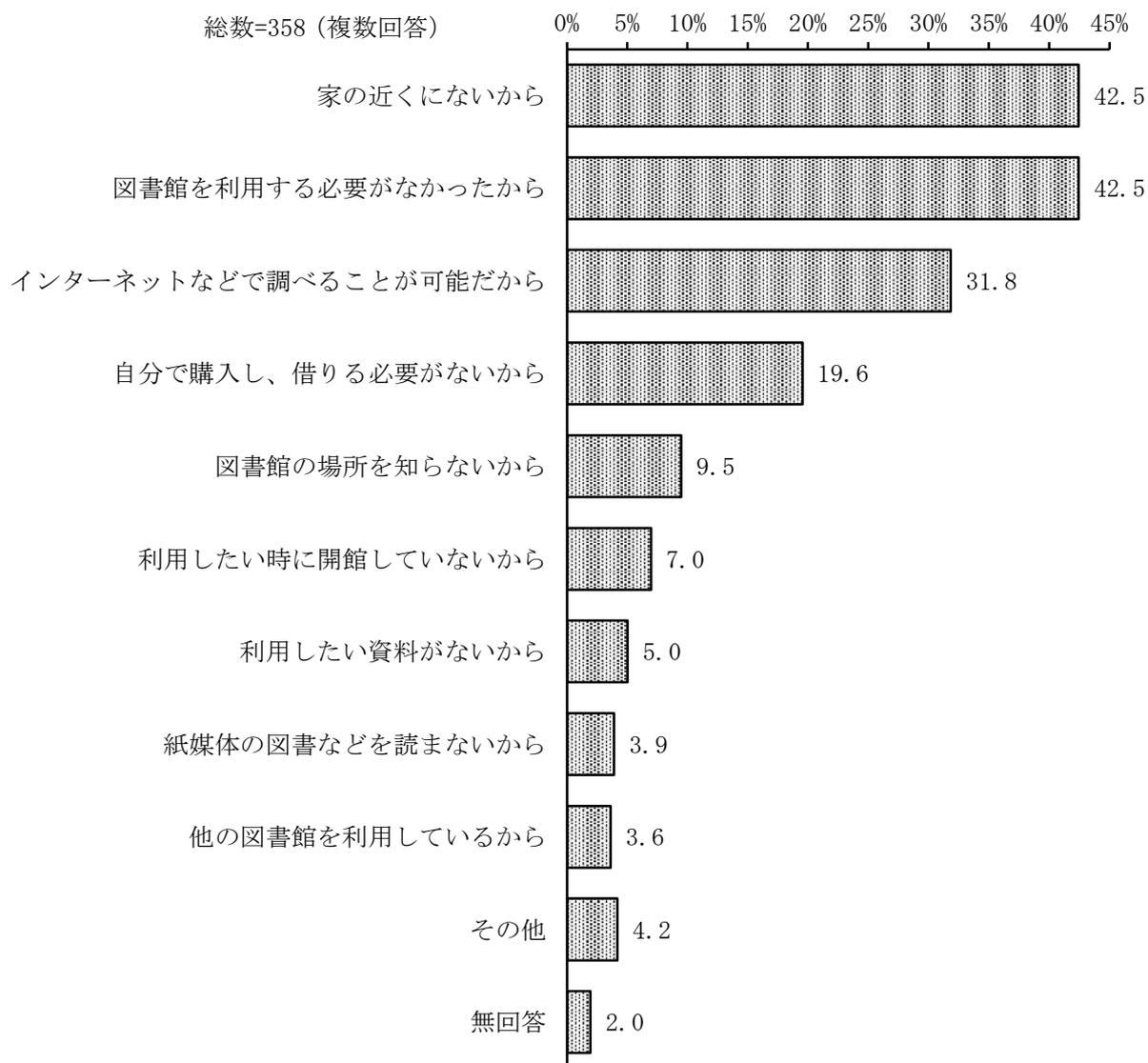


(11) 図書館を利用しない理由

【問14で「5. 利用していない」と答えた方におたずねします。】

問14-4 あなたが、図書館を利用しない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

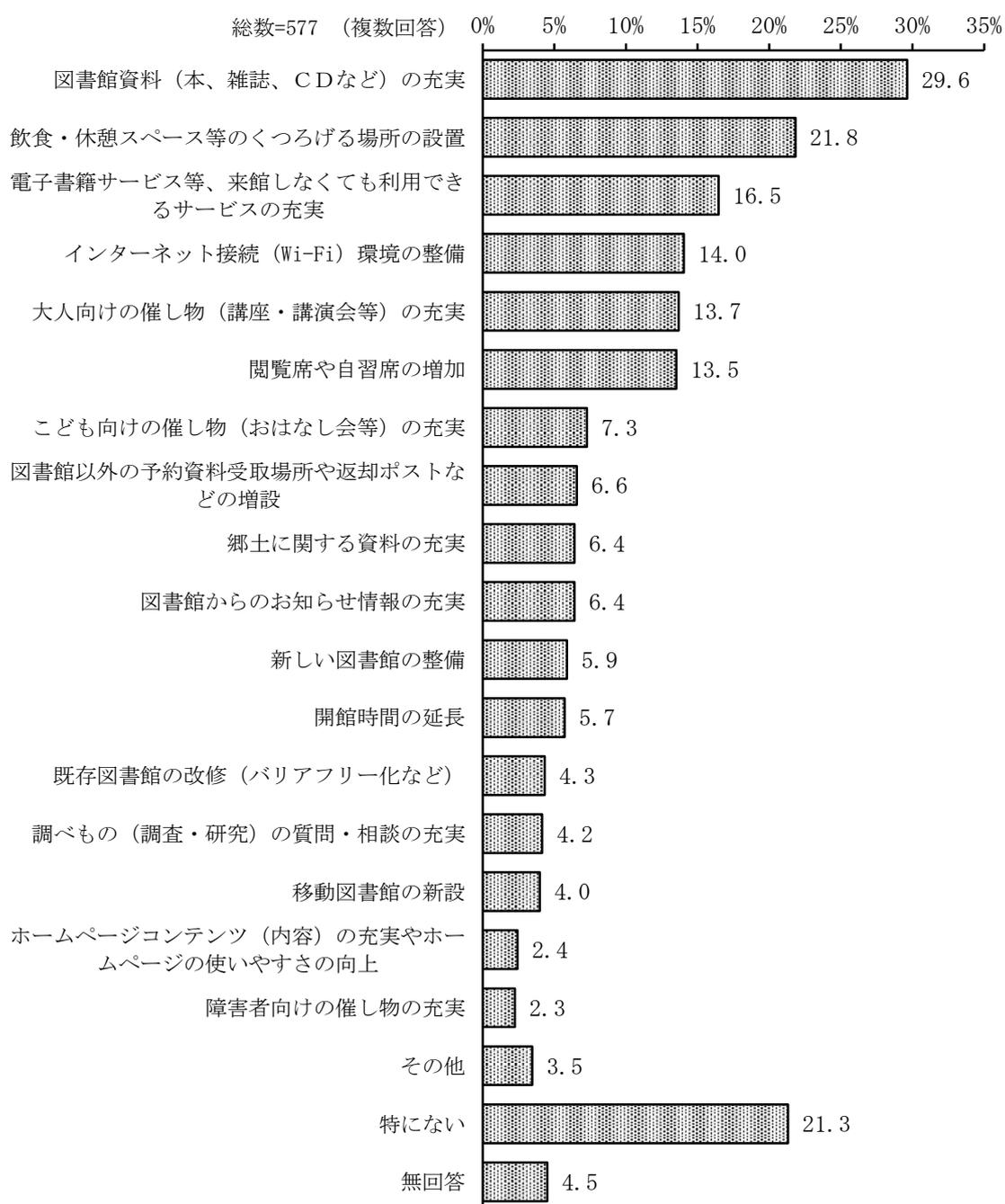
「家の近くにないから」、「図書館を利用する必要がなかったから」がそれぞれ42.5%で最も多く、次いで「インターネットなどで調べることが可能だから」が31.8%となっています。



(12) 図書館への要望

問 15 これからの図書館に要望したいことは何ですか。(3つまで○)

「図書館資料（本、雑誌、CDなど）の充実」が29.6%で最も多く、次いで「飲食・休憩スペース等のくつろげる場所の設置」が21.8%、「電子書籍サービス等、来館しなくても利用できるサービスの充実」が16.5%となっています。



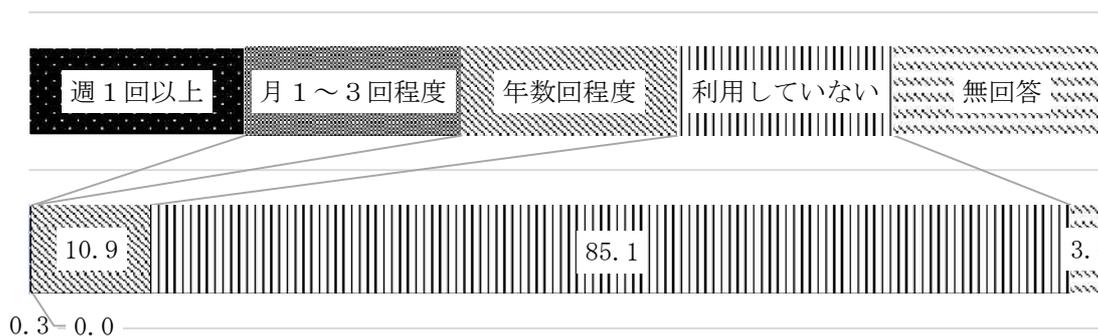
(13) 博物館の利用頻度

問 16 川越市立博物館についておたずねします。あなたは、この1年間（令和5年10月から令和6年9月）にどのくらい入館しましたか。（1つに○）

「利用していない」が85.1%で最も多く、次いで「年数回程度」が10.9%、「週1回以上」が0.3%となっています。

総数=577

単位：%

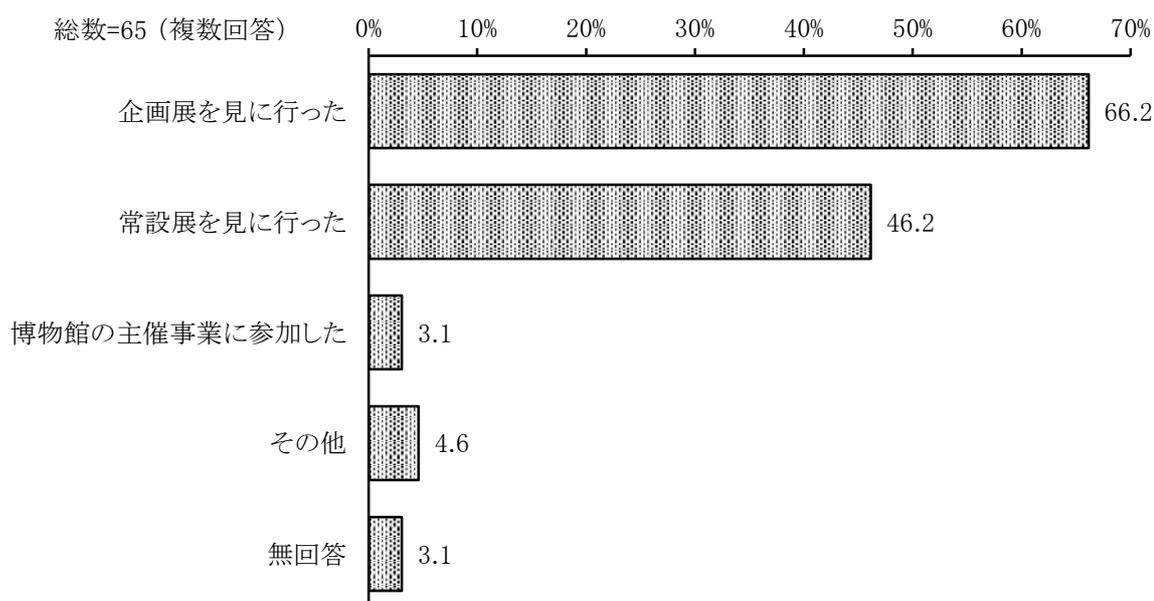


(14) 博物館の利用目的

【問16で「1～3」と答えた方におたずねします。】

問 16-1 あなたは、博物館にどのような目的で行きましたか。（○はいくつでも）

「企画展を見に行った」が66.2%で最も多く、次いで「常設展を見に行った」が46.2%、「その他」が4.6%となっています。



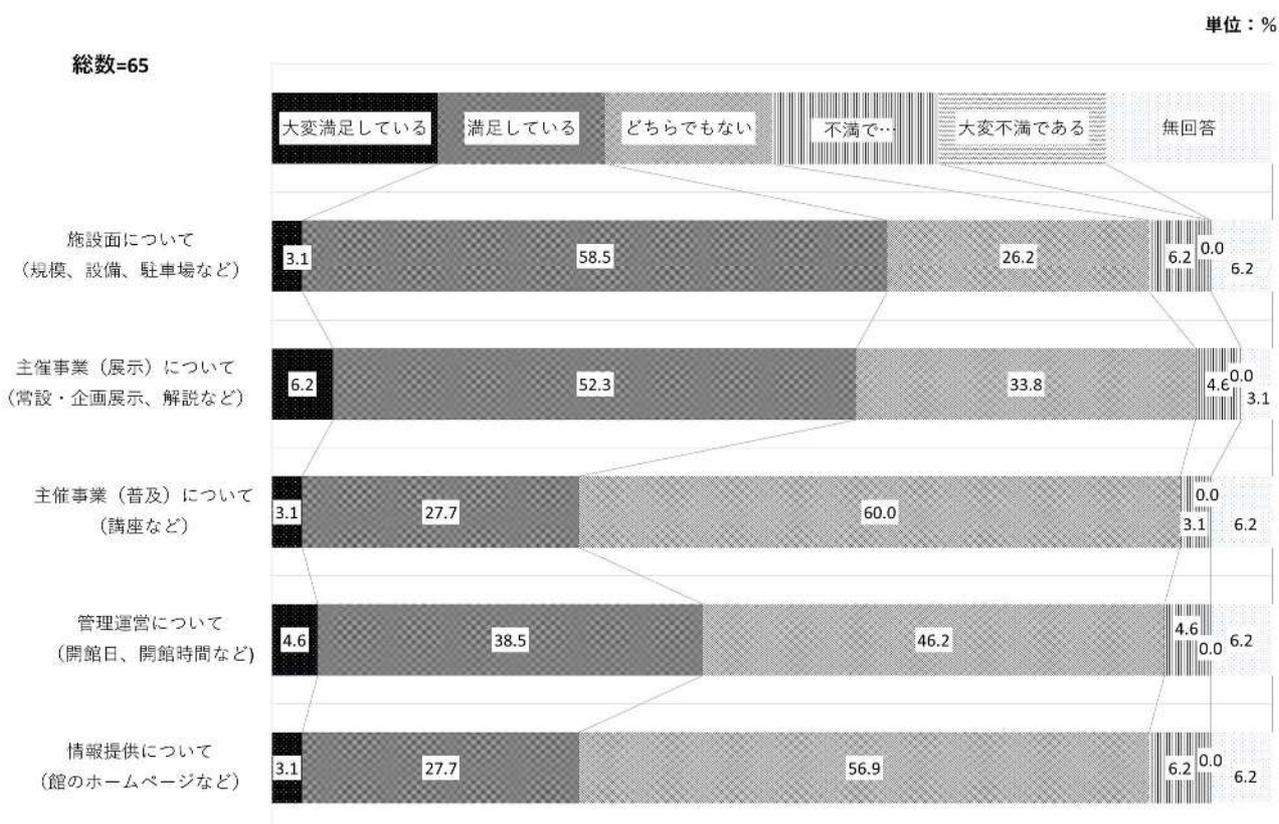
(15) 博物館に対する満足度

【問 16 で「1～3」と答えた方におたずねします。】

問 16-2 あなたは、博物館の以下のことについて、満足していますか。(それぞれの項目について、1つに○)

『満足している』（「大変満足している」＋「満足している」）という回答は、「施設面について（規模、設備、駐車場など）」が 61.6%で最も多く、次いで「主催事業（展示）について（常設・企画展示、解説など）」が 58.5%、「管理運営について（開館日、開館時間など）」が 43.1%となっています。

一方、『不満である』（「大変不満である」＋「不満である」）という回答は、どの項目も 1割未満となっています。

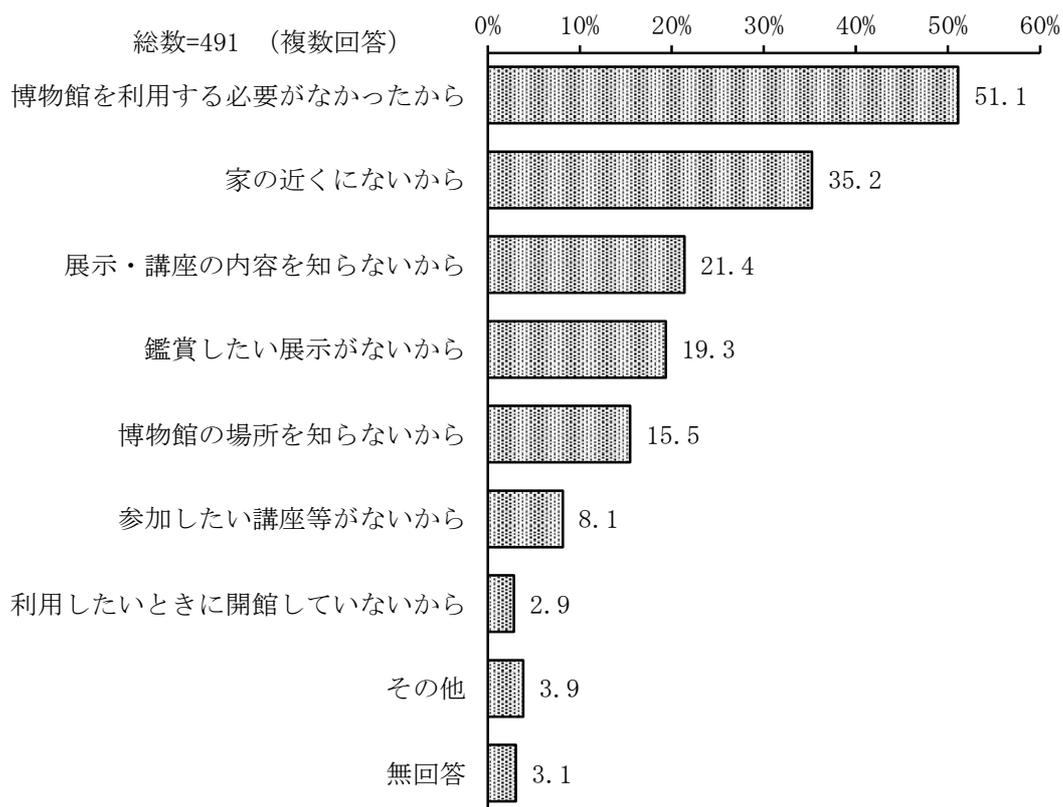


(16) 博物館を利用しない理由

【問16で「4. 利用していない」と答えた方におたずねします。】

問16-3 あなたが、博物館を利用しない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

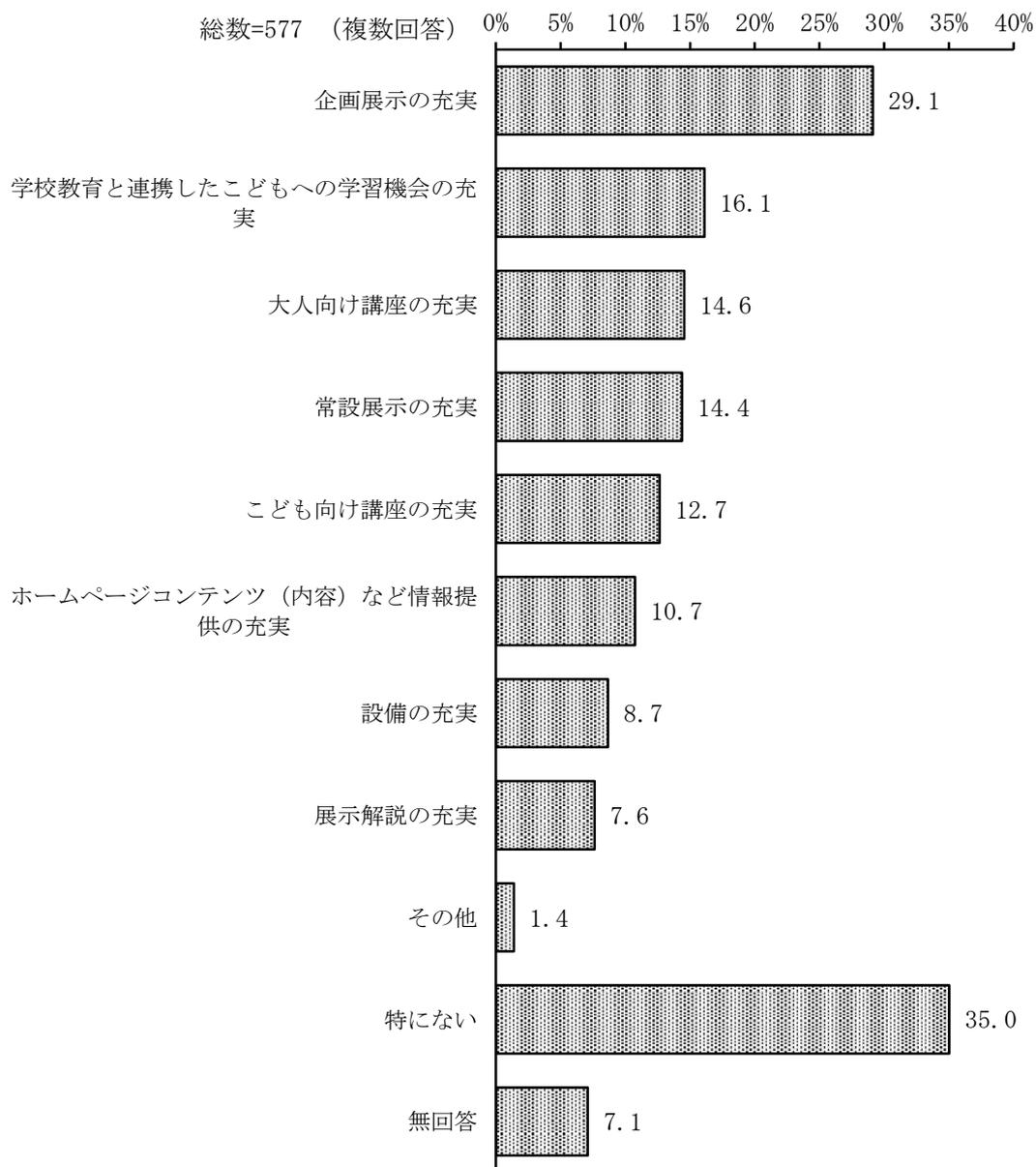
「博物館を利用する必要がなかったから」が51.1%で最も多く、次いで「家の近くにないから」が35.2%、「展示・講座の内容を知らないから」が21.4%となっています。



(17) 博物館への要望

問 17 これからの博物館に要望したいことは何ですか。(3つまで○)

「企画展示の充実」が 29.1%で最も多く、次いで「学校教育と連携したこどもへの学習機会の充実」が 16.1%、「大人向け講座の充実」が 14.6%となっています。



(18) 公民館・図書館・博物館についての意見・要望

問 18 川越市の公民館・図書館・博物館について学校との連携を含めご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

回収数 577 票中 89 票に意見の記述がありました（1 票の中に複数の分野にまたがる回答もあるため、各項目の回答件数の合計は 89 件より多くなっています）。以下に回答内容の中から一部を抜粋・調整し、掲載しました。

<主な回答内容>

公民館 (22 件)

○こどもの居場所・学習スペース・交流の場 (3 件)

- ・公民館の一室が、小学生が自由にあそべたり、学習できる居場所になればいいなあと思います。すくすくや児童館は特定のエリアにしかないため。居場所の格差があると思います。
- ・公民館は市民が様々なことに利用できるスペースとして常に開放していただき、地域交流や自主学習の場にしていただきたい。

○施設・設備 (6 件)

- ・強いて言えば、老朽化した公民館を新しい公民館に建設してもらえればと思います。
- ・設備・備品の充実を図って下さい。

○講座の充実 (3 件)

- ・公民館で小中学校の放課後、子供たちが興味を持つような講座を設けたらどうですか。
- ・子育て支援講座や、料理教室、誰でも通えるスポーツ教室を開いて欲しい。お父さんのための子育て講座を開いて欲しい。

○認知度 (2 件)

- ・場所すら分からないので HP を強化して人をひきつける必要があると思う。
- ・公民館がどういう場所なのかがよく理解出来ていない。フルタイムで働く者にとっては、あまり行かない場所だし、講座があっても受講はできません。

○その他 (8 件)

- ・公民館の利用を民間向けに開放してほしい。※有料でかつ川越市民に限定するなど。会議室やセミナーなどの利用ができるようになることで使用が活発になると思います。
- ・公民館は現状では全く身近ではない。思恵を受けているのは近くに住んでいる方だけのように感じる。

- ・公民館で地域住民を対象にイベントや講座を開催したら川越市から自治会や子供会に補助金が出る等の仕組みがあれば、もう少し有効活用されそうな気がする。

図書館 (37件)

○施設・設備 (10件)

- ・川越駅東口図書館利用の際、駐車場がなくなり利用頻度が減りました。駅前といえど、駐車場は数台分あると有り難い。
- ・図書館(中央館)の照明が少し暗い気がします。エコを意識しているのは感じますが、大人は利用しても子供が気軽に、楽しい気持ちで利用できる館内だとは思えません。子供だけでも、放課後、本を読みに来られる空間を望みます。
- ・図書館内が快適に過ごし難いです。夏に暑かったり、冬に寒かったり。

○蔵書の充実 (7件)

- ・図書館に、VHS 資料が多すぎる。DVD かブルーレイでないと再生できない家庭が多いだろう。
- ・蔵書の少なさに驚きました。図書館の充実は市民の文化的な生活を図るうえで疎かにしてはいけないことだと思います。
- ・図書館に CD や漫画を置いてほしい。

○開館時間が短い (2件)

- ・毎日でなくても夜の開館があるとありがたいです。働いている人は、平日は日中に来館するのは難しいと思います。
- ・図書館の開館時間がもう少し遅くまでやっているとうありがたいです。

○貸出・返却の利便性の向上 (8件)

- ・インターネット予約し、本の受取返却を公民館で可能として欲しい。
- ・足を運ばなくてもスマホやパソコンで読めるようにしたら利用する人が増えると思う。
- ・朝霞市図書館との広域連携を結んでほしい。東上線ユーザーは多いと思うし、朝霞台乗り換えの人も多いと思うのに、朝霞台駅にある図書館を使えないのが本当に不便。当然借りられると思って実際に行ってカードを作れませんと言われたときは本当にびっくりした。

○その他 (10件)

- ・学校での朝読書にオススメのすいせん図書を、期間を設定した上で1校ずつまわして欲しい。その時にタイミングが持てず借りれなくとも、気になる子は後日図書館へ借

- り出しに出向けばいいと思う。書籍に触れる機会をもっと増やしたい。
- ・図書館のホームページが悪変したように思います。ふじみ野市のシステムが使いやすい(返却期日前にメールで連絡くれたり等)ので、参考にさせていただきよくなることを望みます。
 - ・図書館に学生のための自習スペースを増やして欲しい。

博物館 (7件)

○展示の充実 (2件)

- ・博物館については家族や恋人、友人と楽しめるような展示やエンタメ要素の追加を希望します。具体的には試食や試作などの体験型のものや電子音声によるガイド、市内にゆかりのある場所を博物館で紹介し、実際にその場所に行くと歴史を知って楽しめるようにすることや何かお店の割引もしくはスタンプラリーなどの要素を取り入れるなど。
- ・子供が喜びそうな生き物の博物館などがあったら行きたいと思います。

○情報発信 (3件)

- ・博物館は行ってみたいと思っはいますが、もっと催しをアピールしてもらえたらいいなと思います。
- ・企画展の案内に気が付かないときがあるので、スーパーや掲示板にもポスターを貼って欲しいです。または Instagram などネット配信。

○その他 (2件)

- ・かつては、市立博物館の入館数が市立博物館としては日本一であったと聞いております。どうぞユニークな博物館として、再び日本一を目指して下さい。その為にはユニークなスタッフを集めなければなりません。

全体 (45件)

○こどもの居場所・学習スペース・交流の場 (4件)

- ・お年寄り、子供が利用しやすいことはもちろん、自習室や遊び場所などとしても利用できるようにしてほしい。
- ・子供の遊ぶ場所として提供してください。川越はつまらないです。

○近くにないので利用しづらい (7件)

- ・駅から徒歩圏内にあると利用しやすい。
- ・子供や高齢者がもっとイベント等に参加しやすいように図書館や公民館、博物館に送迎バス等を運行するなどのサービスがあればコミュニティが広がると思います。

○情報発信（5件）

- ・全体的に、利用したいと思いネットで調べるが、手間だったりよくわからない印象を持っています。この印象が変わらなとなかなか利用できないと思います。
- ・催し物のお知らせが、もう少し市民に分かりやすく流れる仕組みがあるといいと思います。特に若者世代が興味をもてるような企画内容を、ターゲットが目につくような場所での宣伝があるといいと思います。（SNS や学校でのお知らせ配布等）

○その他（24件）

- ・玄関口に入った印象が暗い、においがくさく感じる。入った時にいつもずっと何年間も同じで、人の動きが感じられず受け入れられているように思えない。特に中学校が隣なので、何かしらでちょっと立ち寄り気軽に話せるスペースなどがあると良いかと思う。
- ・もっと他のことに税金を使って下さい。いらぬ施設は潰しましょう。
- ・川越の歴史を広めるため、市外から来る観光客のルートに入れるようにアピールする。
- ・子どもがいるといいなと思うものがあるけども、なかなか都内まで博物館を見に行けない。せっかく立派な建物があるのだから、蔵の街だけでなく面白い人を呼べるような企画をやってみたら良いのでは??観光のついでにも寄りたいと思うような。イベントが地味..公民館主催バスツアーはとても良かった。
- ・高齢者の増加から利用施設の取り合いとなってる。
- ・みんながつどえる大切な場所だと考えますので、引き続き利用させていただきます。改めて博物館利用も視野に入れます。
- ・入れ物の充実だけでなく、中味の充実で予算と工夫を。「老若男女、誰もが行きたくなるような施設に」とはどういう体勢か具体的なイメージを持たないままの口先意見ですが。
- ・魅力的な内容にするには、利用者それぞれの求めているものが違うので企画など大変かと思います。それでも、いろいろな企画等はきっとどなたかが楽しみにお出かけするきっかけになるはずです。私自身はなかなか時間が合わずに出かけられなくても、川越市でこんな事をやっているのだと思うとちょっぴり嬉しい気分になります。

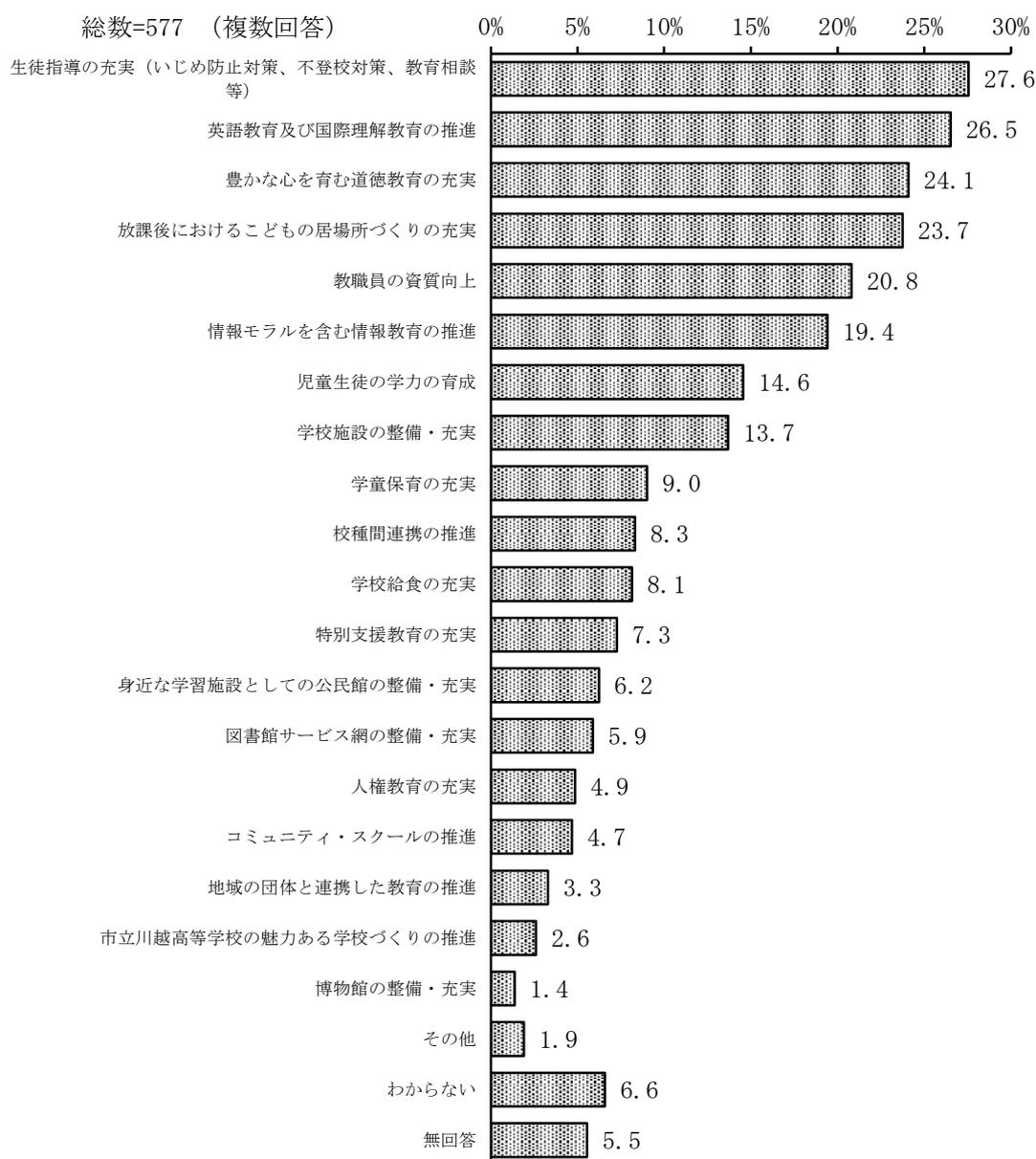
○特になし（5件）

5 教育施策について

(1) 充実させたほうが良いと思う教育施策

問 19 川越市が現在取り組んでいる以下の教育施策において、あなたが充実させたほうが良いと思うものはありますか。(3つまで○)

「生徒指導の充実(いじめ防止対策、不登校対策、教育相談等)」が27.6%で最も多く、次いで「英語教育及び国際理解教育の推進」が26.5%、「豊かな心を育む道德教育の充実」が24.1%となっています。



(2) 自由記述

問 20 川越市の教育に関してご意見などがありましたら、ご記入ください。

回収数 577 票中 89 票に意見の記述がありました（1 票の中に複数の分野にまたがる回答もあるため、各項目の回答件数の合計は 89 件より多くなっています）。以下に回答内容の中から一部を抜粋・調整し、掲載しました。

<主な回答内容>

○グローバルスタディ（3 件）

- ・特に英語教育は更に充実させたものの方が、よりグローバル化に対応できると思う。
→例:ALT 教員の充実化、及び彼／彼女らに対する福利厚生充実化。
- ・先日 TV で、さいたま市の英語に取り組む番組を見て、子どもたちが気軽に英語を話している姿に驚きました。川越市でも同じように英語を日常に出来るような取り組みを行なってほしいと切に思いました。同じ公立の学校でも、住んでいる地域によって、学力に差がついてしまうところが、心配になりました。子どもたちのために出来ることを見極めて、進めていって欲しいと思います。川越市に住んでいて良かったと思えるように、頑張ってください。

○保護者の役員、当番等（3 件）

- ・充実させることも大事にしてほしいが、無くすことも考えてほしい。PTA や育成会など、親の負担の軽減。
- ・共働きの家庭が増えているのに、役員などの負担がとても大きい。子どもたちのことが第一ではあるが、保護者の負担も、もっと考えてほしい。

○学校施設・設備の充実（6 件）

- ・学校の遊具が少ないと日頃から言っているので、遊具が充実するといいなと思う。
- ・老朽化した施設設備の改修などの取り組みもどうぞお願いします。

○多様なニーズに応じた指導や支援の充実（2 件）

- ・川越市に限らずむしろ文科省へのお願いですが、子供たちの学力差が開き過ぎていると感じます。飛び級を認めたり、ついていけない子たちへの学習支援は必須です。所謂ギフテッドや境界知能に近い子が同等扱いのままでは、それぞれが伸びる訳がありません。ついていけない生徒に対しては、いじめに繋がらないような支援が考慮されることを望みます。
- ・発達障害(神経発達症)についての理解を教職員全体で深め、誤った対応をとって二次障害へと繋がってしまうような事を無くし、保護者との密なコミュニケーションで早

期療育に繋がるようにしてほしい。そのためには教育と医療の連携も必要だと思う。

○教職員等の資質向上（4件）

- ・教師の質を高めて欲しい。
- ・部活動は経験豊かとは言い難い忙しい教員ではなく、地域や学外のセミプロにお任せし、その時間を教員の特別授業への研修や資質向上に充てられたりすれば、親御さんは高い授業料を払って小学校から塾通い等させずに済むのです。是非とも検討を（かれこれ20年、小中高生を見てきている現役塾講師より）。

○教職員の確保と支援、授業の運営体制（8件）

- ・教師の負担軽減を！
- ・先生の人数や教室の関係もあるかと思いますが、1クラスの人数はもう少し少ない数の方が、双方負担が少なくなるのでは？とも感じます。（学校により差があるかと思いますが...）
- ・教員の事務負担、部活動負担を軽減し、できる限り生徒一人一人と向き合える体制を作っていただきたい。具体的には生徒10人あたり1人副担任をつけること。部活動などの指導員の増員。資料作成など教員の行なっている事務作業を行う事務員の増員。障害者雇用などの推進。

○学校運営・教育方針（5件）

- ・土曜授業の実施。夏休みの短縮は、早急に進めたほうが良いと思います。私立や他の市では行っている所が多く遅れていると思います。
- ・学校の宿題が、親と取り組む内容が多く負担を感じている。

○安全・安心の確保（2件）

- ・今は子供が成長をして学校の環境が良くわかりませんが、子供等が安心して生活できるようにお願いしたいです。
- ・学校まで歩いて1時間くらいかかる場所に家が多く建ち始めているのに、スクールバスの設置もしないし、新しく学校を作ることも考えていないことに疑問を感じます。教育も大事ですが、安全な日々を過ごせるよう考えてほしいです。

○豊かな心と健やかな体の育成（10件）

- ・郷土愛のもてるような大人になってほしい。他人を思いやれる大人になってほしい。
- ・昔に比べて、子供達が遊べる場所が減っていてかわいそうに思う。変な人も増えているが、学校の校庭開放などして遊べる場所を増やして欲しいと思う。ゲーム等して遊んでいるのを見ると残念な気持ちになる。

- ・人権教育の徹底。命の大切さをもっと教えていただきたい。

○いじめ防止対策・不登校対策の推進（6件）

- ・悩みをより打ち明けさせるためにも、カウンセラーや定期的な個人面談を設けるべき。生徒だけでなく、教員に対してカウンセリングをすることによって、ストレス等の負担を減らすことに貢献できる。
- ・不登校者に対する教育をどう考えたら良いか、真剣に取り組んでほしいです。

○学童保育室（2件）

- ・保育園 19 時までの預りがあるのに、学童が 18:30 までなのはなぜですか。小学校入ってからの方が、仕事を続けるのが難しい。
- ・学童の終了時刻をせめて 6 時半、できれば 7 時まで伸ばしてほしい。学童で長期休み時に弁当を外注できるようにしてほしい。民間学童を誘致してほしい。学校の学童に行きたがらなくなる子もいると聞くのに、霞ヶ関地域では他の選択肢が山手学院という塾しかなくて非常に不安。

○生涯学習施設（4件）

- ・博物館のイベント等もう少しあったら良いかな？
- ・図書館を、学生の学ぶ場のスペースを充実し、人の出入が多くなる様に、建て替えるカリノバージョンを行うと良いと思います。観光案内や公民館、博物館なども、まとめると更に人の動きが出て来ると思います。

○こどもの居場所づくり（12件）

- ・小学生から遊ぶ場所がない。学校の校庭は入れない。土・日曜日は、限られた大人・子供で使われている。町中、住宅内の公園は閉鎖され、キャッチボールも出来ない。健康に過ごせる場所を考えていただきたいと思います。
- ・学校に行けない子供、放課後に居場所がない子供に対して居場所やコミュニティを作る。
- ・共働き世帯が増加しているため、子どもが放課後に利用できる居場所、地域子ども食堂の設置を増やすことが必要だと思います。
- ・子どもが思いきり遊べる場所や、学習のための場所を充実させてほしい。休日や夜間の小中学校の体育館解放制度を充実させてほしい。諸団体だけではなく個人への貸し出しや、親同伴での自由開放などで利用できるようにしてほしい。体育館に関しては、市の施設として総合体育館やなぐわしピコアなどの施設もあるが、予約がうまったり距離的な問題で行けないことが多いので、地域の小中学校の体育館が利用できればありがたい。学習に関しては、気軽に自習ができる施設をもっと充実させてほしい。

○地域との交流、連携（3件）

- ・子育て世帯において地域の繋がりを増やすために0歳から保護者とでも、子ども1人でも参加出来る施設、そこで縦や横の繋がりを増やすことが大切だと思います。

○登下校（5件）

- ・登下校児の様子が相変わらず大きなランドセル、たくさんの荷物で汗だくで歩いています。なるべく身軽で登下校が楽しくなるようになりませんか。教科書や重い道具などは学校に置いておけるといいんですが..安全な登下校にもつながり、学校に行くのが楽しくなるにもつながるのでは。
- ・教育ではないのかもしれませんが、ウーバーなど危険な自転車などが増え、登校もですが、下校も子供だけで大丈夫なのか心配です。朝も登校班に1人シルバーの方でもいいので、見守りが必ず付けたらいいなと思ってます。できれば下校もまとまって欲しいと心配になってます。

○授業外の学習サポート（2件）

- ・部活動のない放課後に学習サポートなどやってもらいたいです。
- ・小学生のころ、先生の言っている事がなかなか理解できず、勉強がどんどんわからなくなっていく事をよく覚えています。ゆっくりなペース、または残ってもかまわないから、くわしく教えてほしかったです。理解できない子の様子をもっと見てほしい。態度に出ているはずだし、先生もわかっていると思う。子供心に私は感じてました。

○教育施策全般（15件）

- ・使命感を持って生まれた子ども達が思う存分学べる環境を提供してあげてほしいと思います。
- ・教育については型にはめない、子供が進んで取り組めるようお願いしたいです。つまらない教育にしないで下さい。
- ・子育てを終えた世代なので、今の時代に対して、よくわかりません。ただ申し上げるとしたら、教師が生徒の気持ちに寄り添い、その子の個性を伸ばし、学力向上に努めて頂きたいと願っています。
- ・教育は国の未来につながると 생각합니다。大切な子供たちの未来にかかっておられる皆様に感謝申し上げます。子供たちが夢と希望と誇りを持てるような環境を築いてください。宜しくお願い申し上げます。
- ・今までの教育を見直しもっと楽しく学べるようになって欲しい。

○その他（35件）

- ・家庭教育が充実できるようなサポートが必要に感じます。（社会人になってから、会

社（企業）が教えなければならないことが増えたと思います。）（あまり強く注意できないので、パワハラと言われない程度に伝える塩梅が難しいです。）

- ・学校だけではなく、地域や施設などでの体験学習の回数を増やす。
- ・最近外国人の家族を見かける事が増えたが、ちゃんと日本語を理解し入学しているのか、クラス内で子供同士のトラブルが行ってないのか、まだ幼児なので先の事ですが不安です。異文化の方ともトラブルなく楽しい学校生活を送れるよう、学校と地域や福祉でのフォローが必要かと思います。
- ・幼保小等の連携が充実されることは大切かと思います。
- ・昔と違い先生達と子供達との信頼関係が全く無くなったと思います。自分が学生の時は、親より先生に受験などの相談をする位先生を信頼してました。塾など行かなくても先生が放課後残ってでも教えてくれました。今の教育現場でそこまで信頼出来る先生が1人もいない事にほんとうがっかりです。

○特になし（4件）

V 児童生徒調査の結果

※質問に対する回答の選択肢が1つだけの設問にもかかわらず複数選択してしまった回答については、「誤入力」として集計しています。

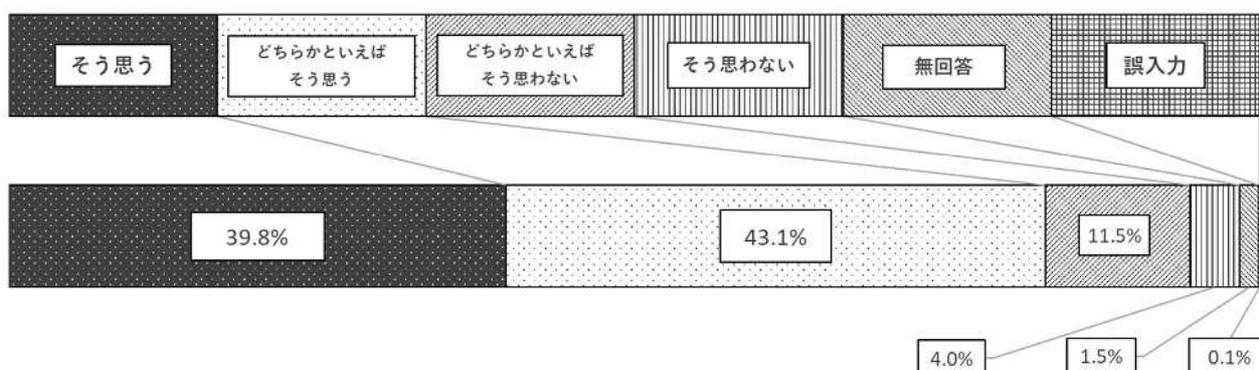
1 自分自身のことについて

(1) 自分自身のことについてどのように感じたり、考えたりしますか。

問1 明るく元気だ(1つに〇)

「そう思う」が39.8%、「どちらかといえばそう思う」が43.1%で、合わせて82.9%が『そう思う』と回答しています。

総数：1,637件



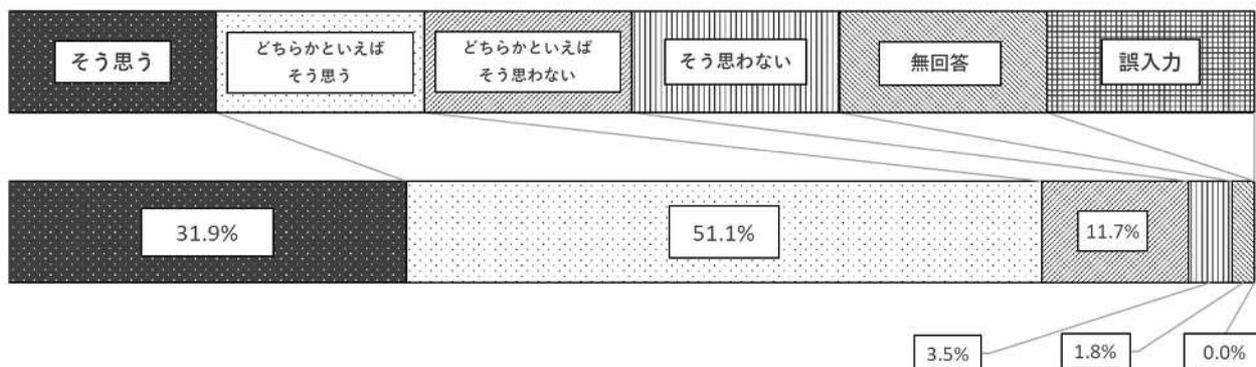
校種別に見ると、大きな違いは見られません。【そう思う①+②】という回答では小学校・市立川越高等学校の割合が高くなっています。【そう思わない③+④】という回答では中学校の割合が高くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う】 ①+②	【そう思わない】 ③+④
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	50.3%	37.5%	7.6%	2.5%	2.1%	0.0%	87.8%	10.1%
中学校	28.8%	48.9%	16.0%	5.6%	0.7%	0.0%	77.7%	21.6%
市立川越高等学校	31.4%	60.0%	8.6%	0.0%	0.0%	0.0%	91.4%	8.6%
特別支援学校	42.2%	31.1%	8.9%	8.9%	6.7%	2.2%	73.3%	17.8%

問2 やさしさや思いやりがある（1つに〇）

「そう思う」が31.9%、「どちらかといえばそう思う」が51.1%で、合わせて83.0%が『そう思う』と回答しています。

総数：1,637件



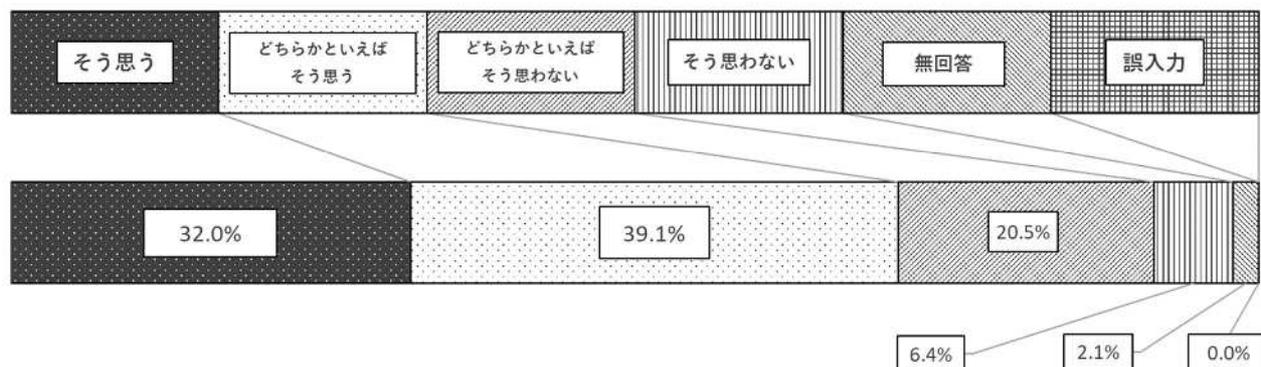
校種別に見ると、大きな違いは見られません。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえば そう思う②	どちらかといえば そう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う】 ①+②	【そう思わない】 ③+④
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	37.9%	48.1%	8.6%	2.4%	3.1%	0.0%	85.9%	11.0%
中学校	25.6%	54.4%	15.0%	4.8%	0.3%	0.0%	80.0%	19.8%
市立川越高等学校	17.1%	68.6%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	85.7%	14.3%
特別支援学校	42.2%	35.6%	11.1%	4.4%	6.7%	0.0%	77.8%	15.6%

問3 ねばり強く最後までやりとげる（1つに〇）

「そう思う」が32.0%、「どちらかといえばそう思う」が39.1%で、合わせて71.1%が『そう思う』と回答しています。

総数：1,637件



校種別に見ると、【そう思う①+②】という回答では小学校・市立川越高等学校の割合が高くなっています。

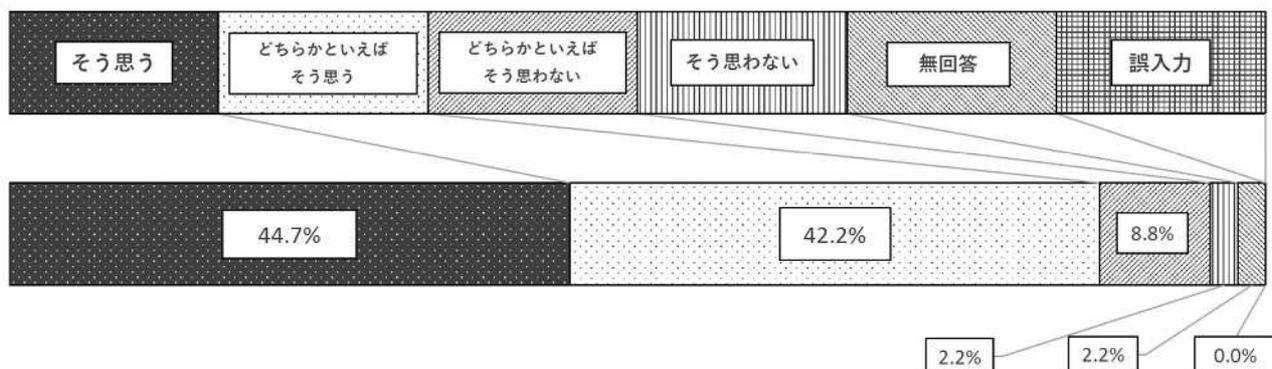
【そう思わない③+④】という回答では中学校・特別支援学校の割合が高くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえば そう思う②	どちらかといえば そう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う ①+②】	【そう思わない ③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	39.5%	37.0%	15.9%	4.6%	3.0%	0.0%	76.5%	20.5%
中学校	24.0%	41.0%	25.9%	8.5%	0.7%	0.0%	65.0%	34.4%
市立川越高等学校	28.6%	60.0%	11.4%	0.0%	0.0%	0.0%	88.6%	11.4%
特別支援学校	35.6%	28.9%	17.8%	6.7%	11.1%	0.0%	64.4%	24.4%

問4 ルールや決まりを守る（1つに〇）

「そう思う」が44.7%、「どちらかといえばそう思う」が42.2%で、合わせて86.9%が『そう思う』と回答しています。

総数：1,637件

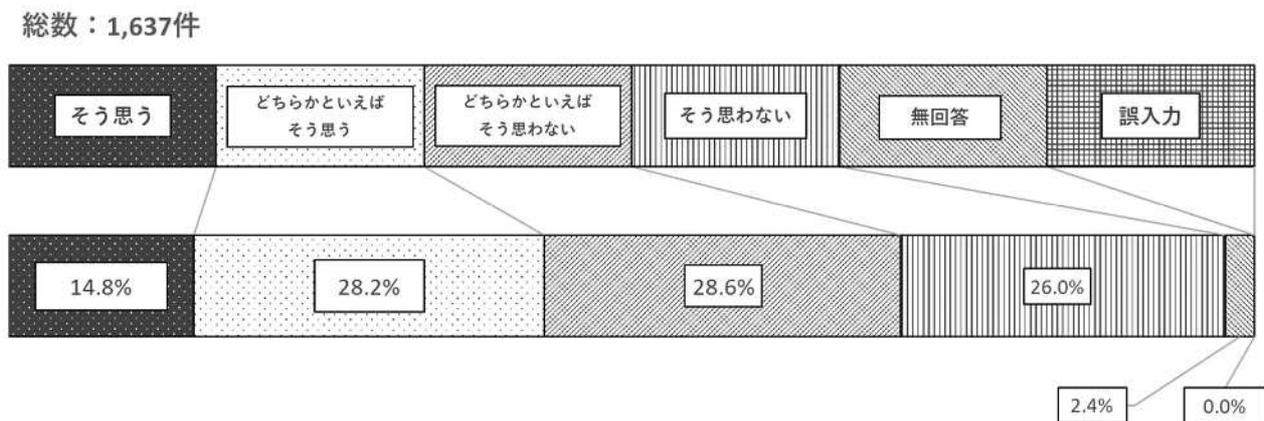


校種別に見ると、大きな違いは見られません。全校種において、80%以上の回答者が【そう思う①+②】と答えています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う①+②】	【そう思わない③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	46.7%	40.0%	8.2%	1.7%	3.4%	0.0%	86.7%	10.0%
中学校	43.4%	44.0%	8.9%	2.9%	0.8%	0.0%	87.4%	11.8%
市立川越高等学校	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%	20.0%
特別支援学校	48.9%	35.6%	8.9%	0.0%	6.7%	0.0%	84.4%	8.9%

問5 勉強がとくだ(1つに〇)

「そう思う」が14.8%、「どちらかといえばそう思う」が28.2%で、合わせて43.0%が『そう思う』と回答しています。

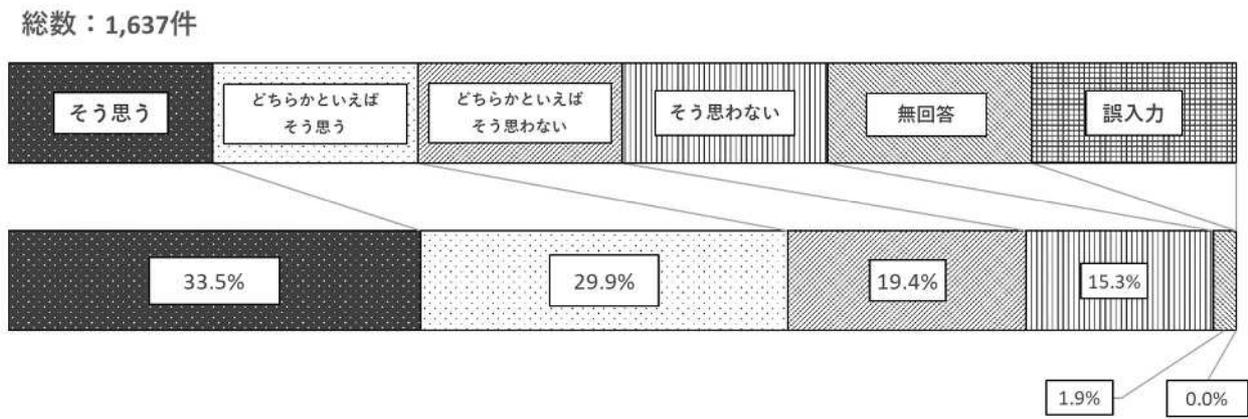


校種別に見ると、小学校・中学校・市立川越高等学校については、段階的に【そう思う①+②】の比率が低くなり、【そう思わない③+④】の比率が高くなっています。特別支援学校については、【そう思う①+②】と【そう思わない③+④】の比率が同等になっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえば そう思う②	どちらかといえば そう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う ①+②】	【そう思わない ③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	21.0%	35.0%	23.8%	16.8%	3.4%	0.0%	56.0%	40.6%
中学校	7.7%	22.3%	34.1%	35.0%	0.9%	0.0%	30.0%	69.1%
市立川越高等学校	8.6%	14.3%	34.3%	42.9%	0.0%	0.0%	22.9%	77.1%
特別支援学校	28.9%	15.6%	17.8%	26.7%	11.1%	0.0%	44.4%	44.4%

問6 スポーツなど体を動かすことがとくいだ（1つに〇）

「そう思う」が33.5%、「どちらかといえばそう思う」が29.9%で、合わせて63.4%が『そう思う』と回答しています。

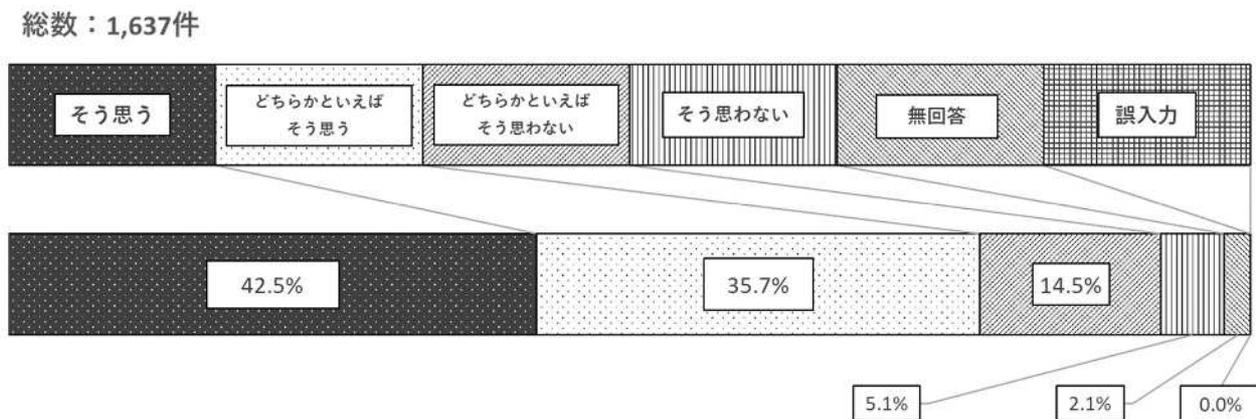


校種別に見ると、【そう思う①+②】という回答では市立川越高等学校の割合が高く、中学校の割合が低くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえば そう思う②	どちらかといえば そう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う ①+②】	【そう思わない ③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	42.2%	26.2%	16.4%	12.3%	2.9%	0.0%	68.4%	28.8%
中学校	23.5%	33.7%	23.5%	18.6%	0.8%	0.0%	57.2%	42.0%
市立川越高等学校	34.3%	48.6%	11.4%	5.7%	0.0%	0.0%	82.9%	17.1%
特別支援学校	46.7%	20.0%	8.9%	20.0%	4.4%	0.0%	66.7%	28.9%

問7 友達がたくさんいる（1つに○）

「そう思う」が42.5%、「どちらかといえばそう思う」が35.7%で、合わせて78.2%が『そう思う』と回答しています。



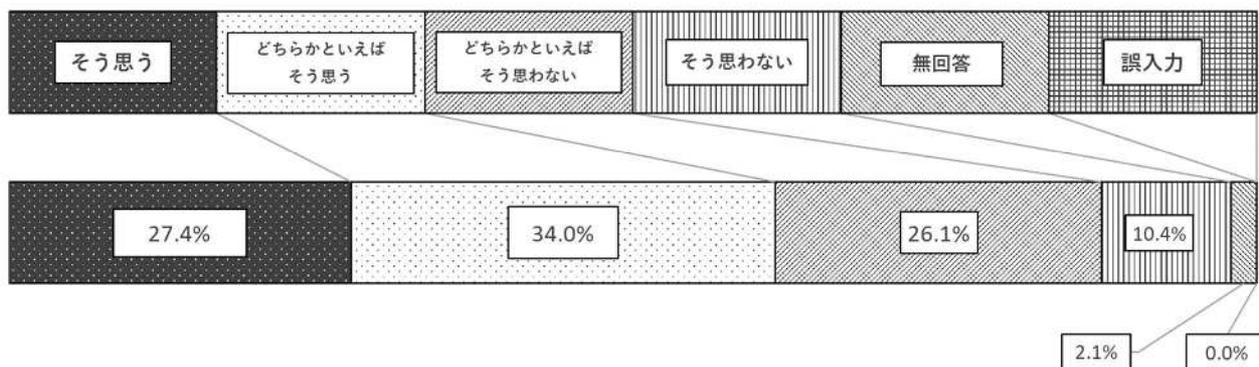
校種別に見ると、小学校・中学校・市立川越高等学校は【そう思う①+②】の割合が高く、特別支援学校は【そう思う①+②】の割合が低くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う①+②】	【そう思わない③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	57.9%	27.5%	8.5%	2.9%	3.2%	0.0%	85.4%	11.3%
中学校	27.6%	44.3%	20.2%	7.3%	0.7%	0.0%	71.9%	27.5%
市立川越高等学校	31.4%	45.7%	22.9%	0.0%	0.0%	0.0%	77.1%	22.9%
特別支援学校	26.7%	28.9%	22.2%	13.3%	8.9%	0.0%	55.6%	35.6%

問8 自分の意見をはっきり言える（1つに〇）

「そう思う」が27.4%、「どちらかといえばそう思う」が34.0%で、合わせて61.4%が『そう思う』と回答しています。

総数：1,637件



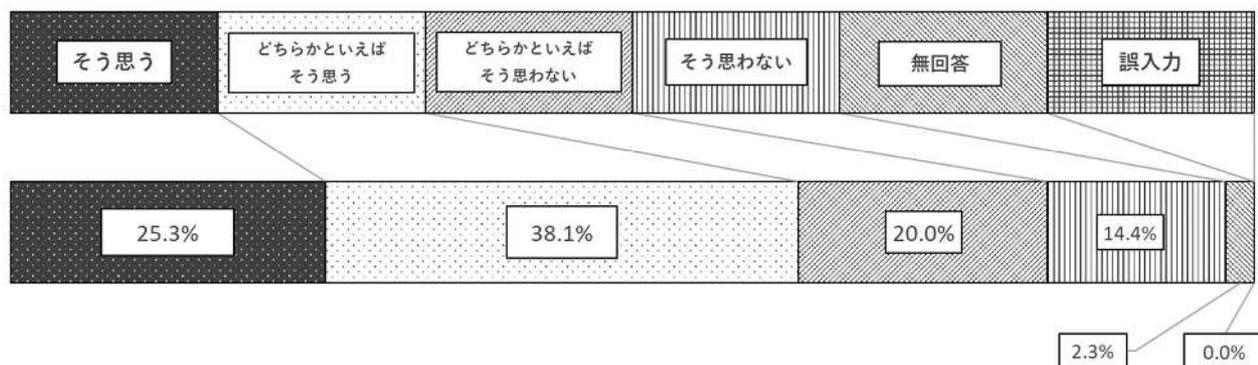
校種別に見ると、市立川越高等学校については【そう思う①+②】の回答割合が高くなっています。他の校種については大きな違いは見受けられません。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う】 ①+②	【そう思わない】 ③+④
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	30.3%	32.0%	24.4%	10.1%	3.2%	0.0%	62.3%	34.5%
中学校	24.5%	35.8%	28.9%	10.2%	0.5%	0.0%	60.3%	39.1%
市立川越高等学校	25.7%	45.7%	20.0%	8.6%	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%
特別支援学校	26.7%	28.9%	15.6%	20.0%	8.9%	0.0%	55.6%	35.6%

問9 自分のことが好きだ（1つに○）

「そう思う」が25.3%、「どちらかといえばそう思う」が38.1%で、合わせて63.4%が『そう思う』と回答しています。

総数：1,637件

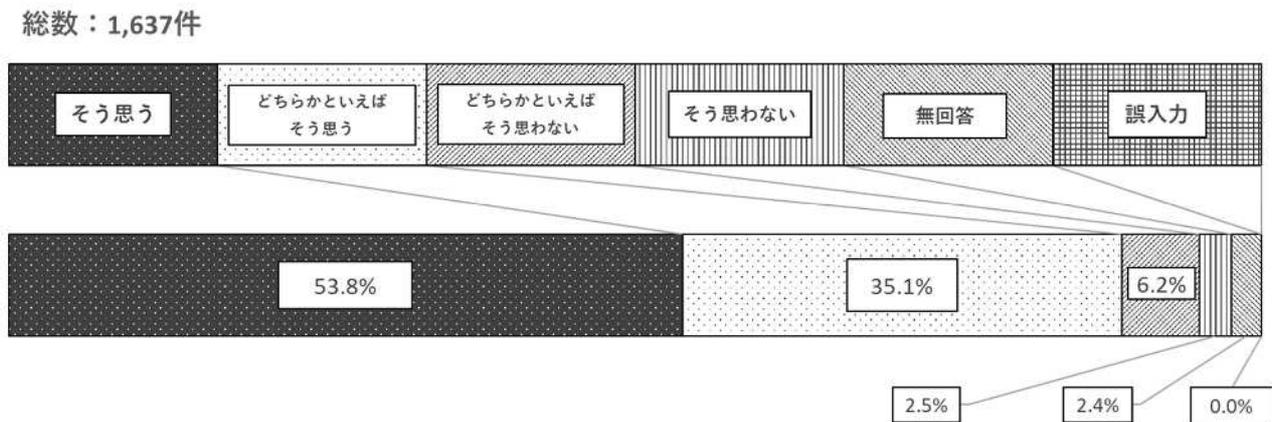


校種別に見ると、比較的、小学校・市立川越高等学校は【そう思う①+②】の割合が高くなっています。特別支援学校・中学校は【そう思わない③+④】の割合が高くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う①+②】	【そう思わない③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	33.3%	35.9%	15.6%	11.8%	3.5%	0.0%	69.1%	27.4%
中学校	16.8%	41.1%	24.4%	17.1%	0.5%	0.0%	58.0%	41.5%
市立川越高等学校	20.0%	42.9%	31.4%	2.9%	2.9%	0.0%	62.9%	34.3%
特別支援学校	28.9%	22.2%	17.8%	22.2%	8.9%	0.0%	51.1%	40.0%

問10 だれかの役に立ちたい（1つに○）

「そう思う」が53.8%、「どちらかといえばそう思う」が35.1%で、合わせて88.9%が『そう思う』と回答しています。



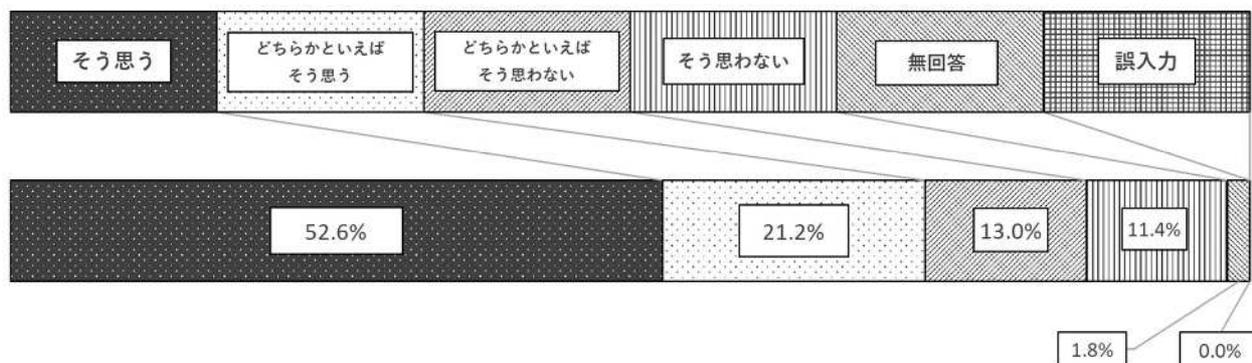
校種別に見ると、全校種において【そう思う①+②】の割合が高く、特に市立川越高等学校については、97.1%と、非常に高い回答率となっています。対照的に、特別支援学校については他校種と比べるとやや低くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う】 ①+②	【そう思わない】 ③+④
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	64.5%	25.4%	4.2%	2.1%	3.7%	0.0%	89.9%	6.4%
中学校	43.5%	44.6%	8.5%	2.7%	0.8%	0.0%	88.1%	11.1%
市立川越高等学校	42.9%	54.3%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	97.1%	2.9%
特別支援学校	42.2%	35.6%	4.4%	8.9%	8.9%	0.0%	77.8%	13.3%

問11 将来(しょうらい)のゆめや目標がある(1つに〇)

「そう思う」が52.6%、「どちらかといえばそう思う」が21.2%で、合わせて73.8%が『そう思う』と回答しています。

総数：1,637件

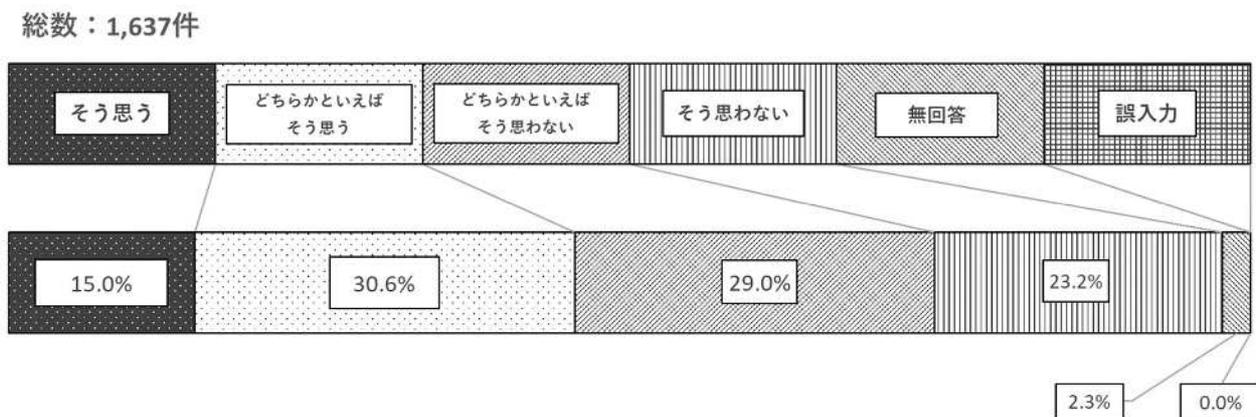


校種別に見ると、小学校の「そう思う①」の回答率が突出して高く、中学校・市立川越高等学校・特別支援学校は【そう思う①+②】の割合が60~70%程度となっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえば そう思う②	どちらかといえば そう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う ①+②】	【そう思わない ③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	67.6%	16.3%	5.5%	8.0%	2.6%	0.0%	83.9%	13.4%
中学校	37.4%	26.1%	21.4%	14.6%	0.5%	0.0%	63.5%	35.9%
市立川越高等学校	40.0%	31.4%	17.1%	11.4%	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%
特別支援学校	48.9%	17.8%	4.4%	20.0%	8.9%	0.0%	66.7%	24.4%

問12 リーダーシップがある（1つに〇）

「そう思う」が15.0%、「どちらかといえばそう思う」が30.6%で、合わせて45.6%が『そう思う』と回答しています。



校種別に見ると、小学校・市立川越高等学校の【そう思う①+②】の割合が高く、中学校の【そう思う①+②】の割合が低くなっています。特別支援学校については、【そう思う①+②】と【そう思わない③+④】の回答率が近い数値となっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえば そう思う②	どちらかといえば そう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う ①+②】	【そう思わない ③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	18.9%	33.4%	24.5%	19.7%	3.5%	0.0%	52.3%	44.2%
中学校	9.8%	28.1%	34.5%	26.8%	0.8%	0.0%	37.9%	61.3%
市立川越高等学校	20.0%	37.1%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	57.1%	42.9%
特別支援学校	26.7%	17.8%	15.6%	33.3%	6.7%	0.0%	44.4%	48.9%

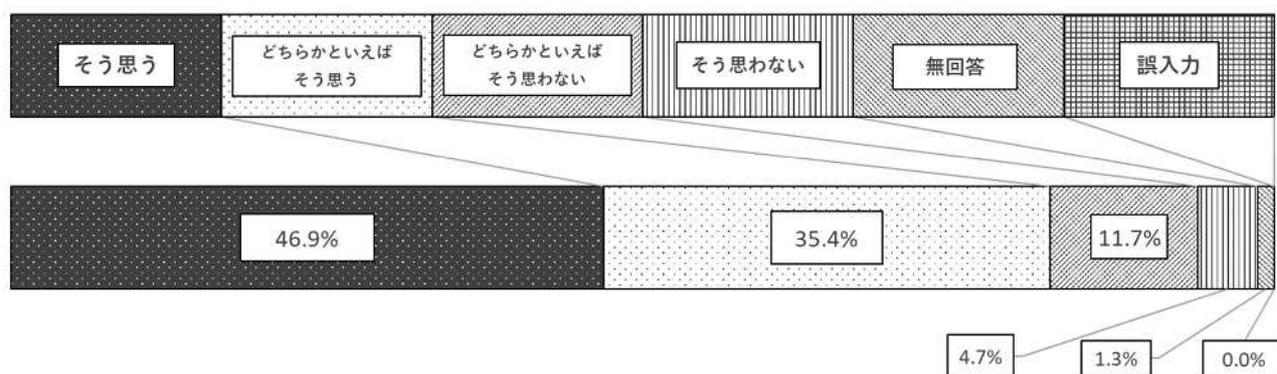
2 学校生活について

(1) 学校生活についてどのように感じていますか

問1 学校に行くことが楽しい(1つに〇)

「そう思う」が46.9%、「どちらかといえばそう思う」が35.4%で、合わせて82.3%が『そう思う』と回答しています。

総数：1,637件



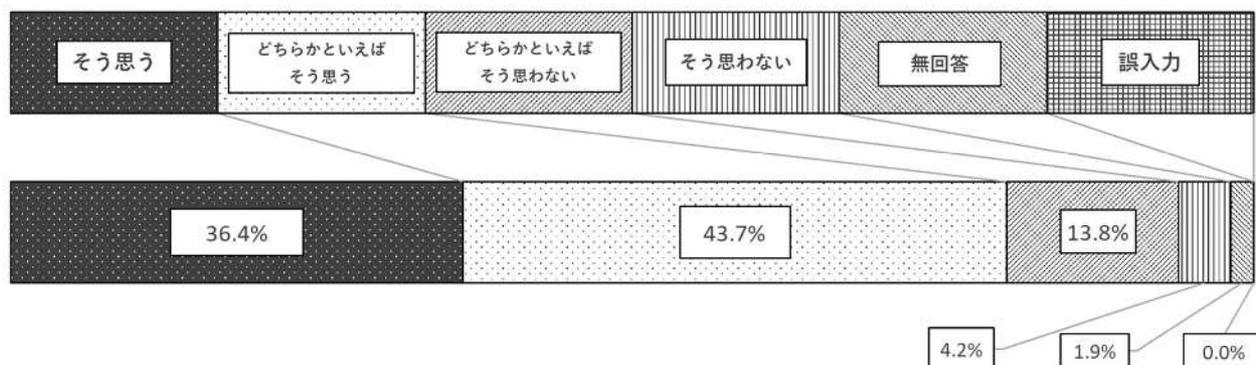
校種別に見ると、小学校・中学校・市立川越高等学校については【そう思う①+②】の割合が高いものの、そのうち、「どちらかと言えばそう思う②」の回答率が段階的に上がっています。同様に、特別支援学校については、【そう思う①+②】の割合が高いものの、他校種と比べると、やや低くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかと言えばそう思う②	どちらかと言えばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う①+②】	【そう思わない③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	52.3%	31.1%	10.1%	4.5%	2.0%	0.0%	83.4%	14.6%
中学校	42.0%	39.4%	13.3%	4.8%	0.5%	0.0%	81.4%	18.0%
市立川越高等学校	31.4%	57.1%	8.6%	2.9%	0.0%	0.0%	88.6%	11.4%
特別支援学校	44.4%	26.7%	15.6%	8.9%	4.4%	0.0%	71.1%	24.4%

問2 授業（じゅぎょう）がよく分かる（1つに〇）

「そう思う」が36.4%、「どちらかといえばそう思う」が43.7%で、合わせて80.1%が『そう思う』と回答しています。

総数：1,637件



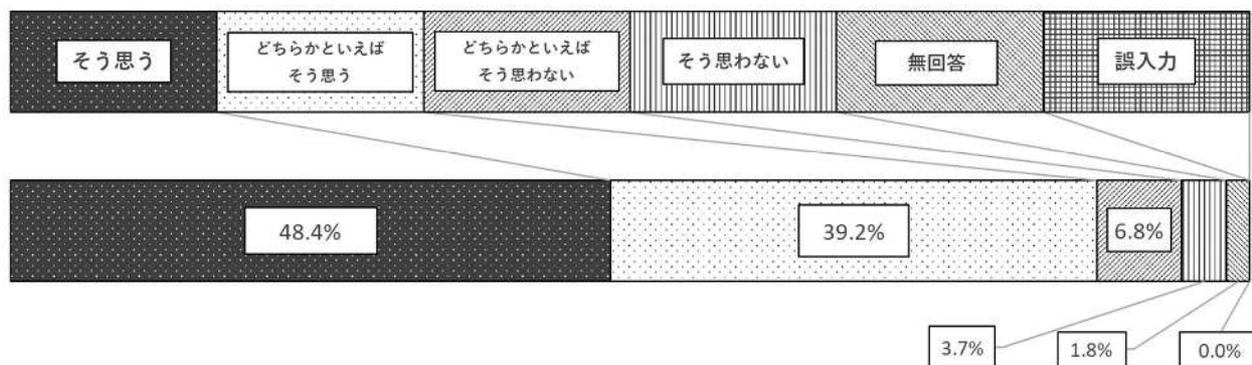
校種別に見ると、【そう思う①+②】の割合について、小学校及び特別支援学校が高く、中学校、市立川越高等学校と段階的に減少していることが見受けられます。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う①+②】	【そう思わない③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	47.9%	37.9%	8.1%	3.2%	2.9%	0.0%	85.8%	11.3%
中学校	24.7%	50.8%	19.4%	4.6%	0.5%	0.0%	75.5%	24.0%
市立川越高等学校	8.6%	42.9%	31.4%	14.3%	2.9%	0.0%	51.4%	45.7%
特別支援学校	48.9%	31.1%	8.9%	4.4%	6.7%	0.0%	80.0%	13.3%

問3 友達との関係がうまくいっている（1つに〇）

「そう思う」が48.4%、「どちらかといえばそう思う」が39.2%で、合わせて87.6%が『そう思う』と回答しています。

総数：1,637件



校種別に見ると、小学校、中学校、市立川越高等学校においては、【そう思う①+②】の割合が高いものの、そのうち、「どちらかといえばそう思う②」の回答率が段階的に上がっています。

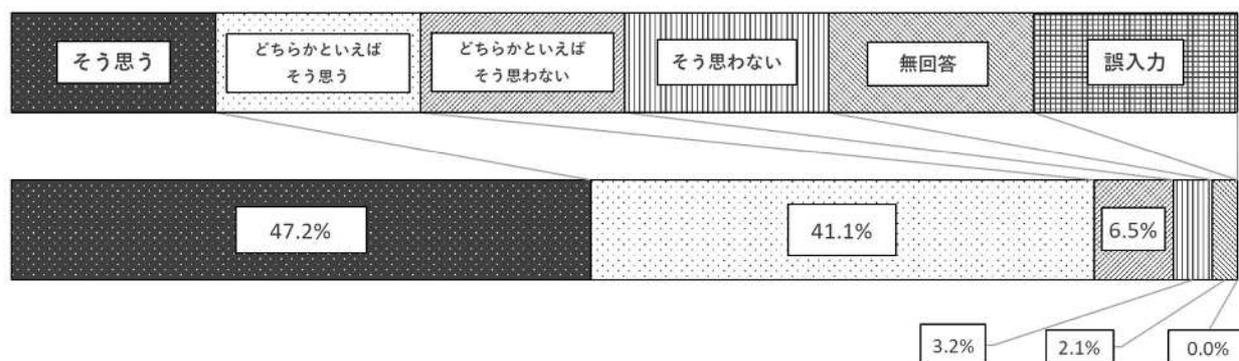
特別支援学校については、【そう思う①+②】の割合が低くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う①+②】	【そう思わない③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	59.5%	30.4%	5.4%	2.1%	2.6%	0.0%	89.9%	7.5%
中学校	38.1%	48.5%	8.0%	4.8%	0.7%	0.0%	86.6%	12.7%
市立川越高等学校	31.4%	54.3%	5.7%	5.7%	2.9%	0.0%	85.7%	11.4%
特別支援学校	37.8%	28.9%	15.6%	11.1%	6.7%	0.0%	66.7%	26.7%

問4 先生との関係がうまくいっている（1つに〇）

「そう思う」が47.2%、「どちらかといえばそう思う」が41.1%で、合わせて88.3%が『そう思う』と回答しています。

総数：1,637件

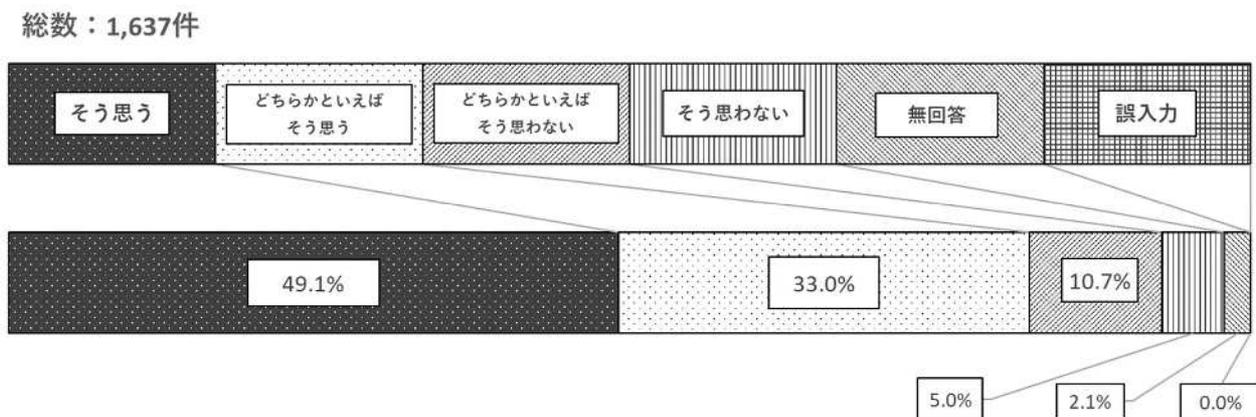


校種別に見ると、上記『問3 友達との関係が上手くいっている』と同様の回答傾向が見受けられます。違う点として、特別支援学校の【そう思う①+②】の回答率が10ポイントほど上昇している点が挙げられます。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う】 ①+②	【そう思わない】 ③+④
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	55.7%	32.1%	5.4%	3.9%	3.0%	0.0%	87.8%	9.2%
中学校	39.3%	50.3%	7.3%	2.4%	0.8%	0.0%	89.5%	9.7%
市立川越高等学校	28.6%	57.1%	5.7%	5.7%	2.9%	0.0%	85.7%	11.4%
特別支援学校	44.4%	33.3%	13.3%	2.2%	6.7%	0.0%	77.8%	15.6%

問5 クラスの係や委員会活動が楽しい（1つに○）

「そう思う」が49.1%、「どちらかといえばそう思う」が33.0%で、合わせて82.1%が『そう思う』と回答しています。



校種別に見ると、小学校、中学校、特別支援学校、市立川越高等学校の順に【そう思う①+②】の割合が段階的に減少していることが見受けられます。

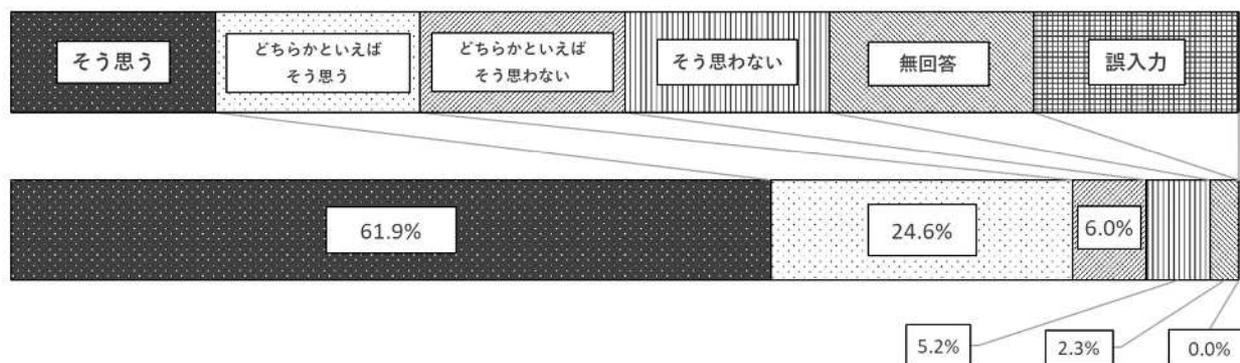
校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う①+②】	【そう思わない③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	65.9%	24.2%	4.6%	2.5%	2.9%	0.0%	90.0%	7.1%
中学校	33.4%	41.6%	17.1%	7.0%	0.8%	0.0%	75.1%	24.1%
市立川越高等学校	20.0%	48.6%	8.6%	20.0%	2.9%	0.0%	68.6%	28.6%
特別支援学校	35.6%	35.6%	13.3%	4.4%	11.1%	0.0%	71.1%	17.8%

問6 クラブ活動や部活動が楽しい（1つに〇）

※当設問は小学校・中学校・市立川越高等学校が対象となっています。

「そう思う」が61.9%、「どちらかといえばそう思う」が24.6%で、合わせて86.5%が『そう思う』と回答しています。

総数：1,592件



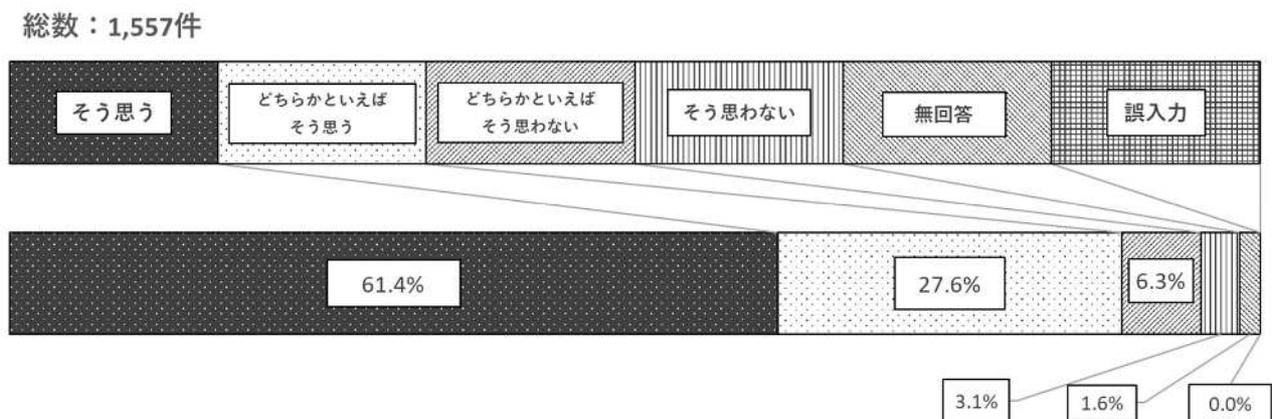
全校種において、【そう思う①+②】の割合が高いものの、小学校・市立川越高等学校に比べ、中学校がやや低くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえば そう思う②	どちらかといえば そう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う】 ①+②	【そう思わない】 ③+④
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
小学校	72.7%	18.3%	3.4%	2.5%	3.1%	0.0%	91.0%	5.9%
中学校	51.3%	30.1%	9.0%	8.1%	1.5%	0.0%	81.4%	17.1%
市立川越高等学校	42.9%	48.6%	0.0%	5.7%	2.9%	0.0%	91.4%	5.7%

問7 給食がおいしい（1つに〇）

※当設問は小学校・中学校のみが対象となっています。

「そう思う」が61.4%、「どちらかといえばそう思う」が27.6%で、合わせて89.0%が『そう思う』と回答しています。



校種別に見ると、中学生のほうが【そう思う①+②】の割合がわずかに低いものの、大きな差はありません。

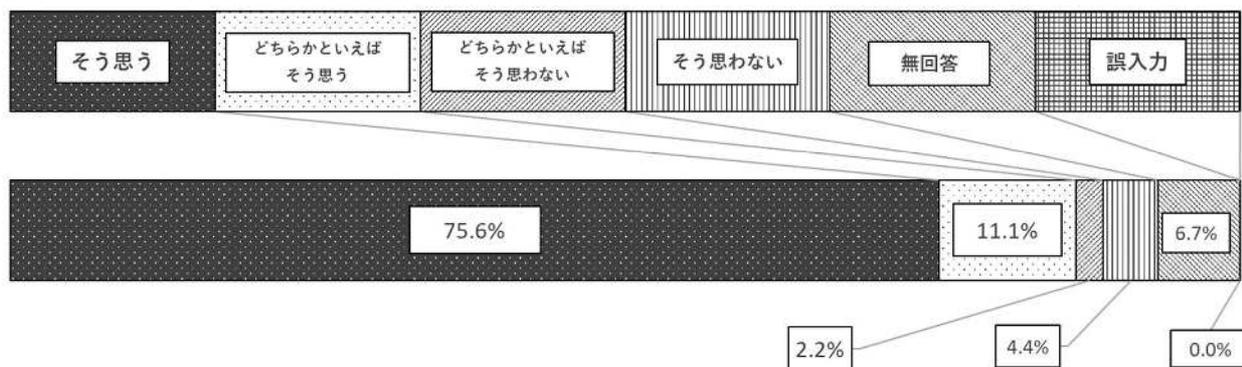
校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う】 ①+②	【そう思わない】 ③+④
小学校:803件								
中学校:754件								
小学校	67.6%	22.4%	5.2%	2.4%	2.4%	0.0%	90.0%	7.6%
中学校	54.8%	33.0%	7.4%	4.0%	0.8%	0.0%	87.8%	11.4%

問8 余暇が楽しい

※当設問は特別支援学校のみが対象となっています。

「そう思う」が75.6%、「どちらかといえばそう思う」が11.1%で、合わせて86.7%が『そう思う』と回答しています。

総数：45件

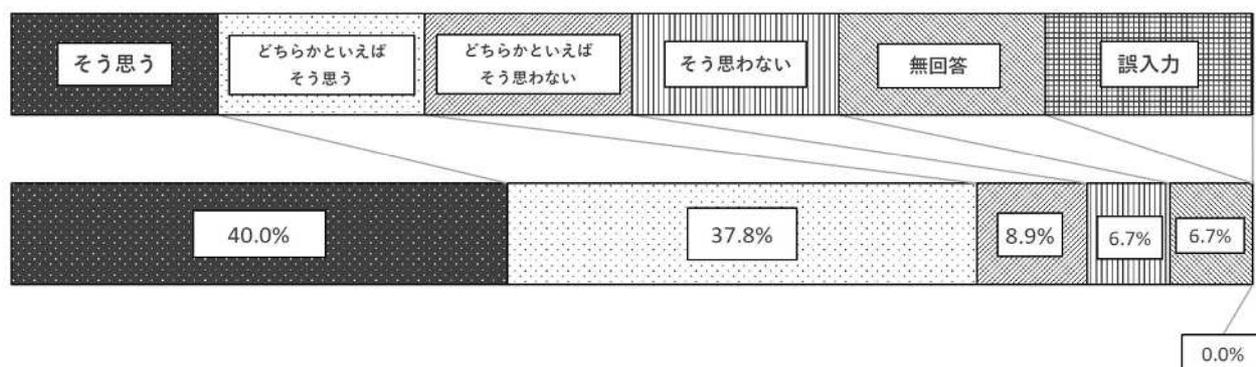


問9 職業や実習など就労に向けた授業が楽しい

※当設問は特別支援学校のみが対象となっています。

「そう思う」が40.0%、「どちらかといえばそう思う」が37.8%で、合わせて77.8%が『そう思う』と回答しています。

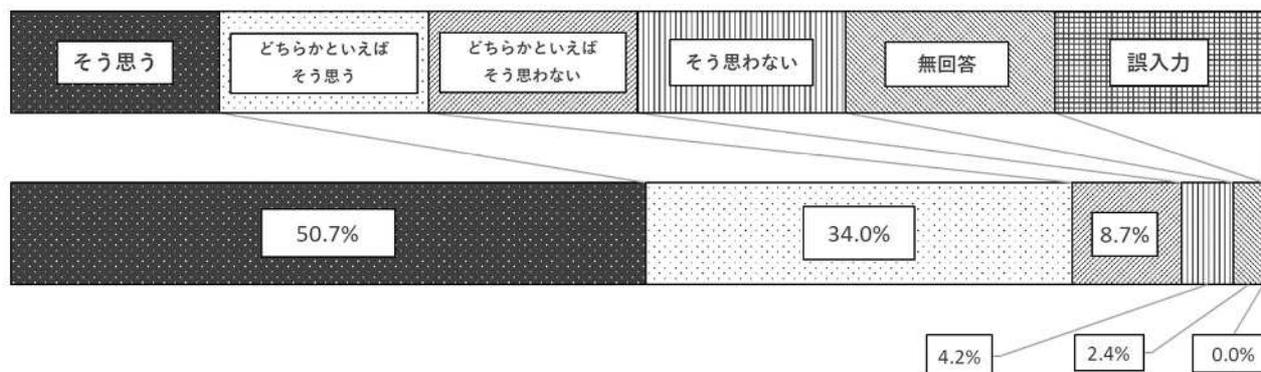
総数：45件



問10 学校(校舎)や教室がすごしやすい

「そう思う」が50.7%、「どちらかといえばそう思う」が34.0%で、合わせて84.7%が『そう思う』と回答しています。

総数：1,637件



校種別に見ると、小学校・中学校・市立川越高等学校は【そう思う①+②】の割合が平均85%を超えています。対照的に特別支援学校は少し低く、【そう思う①+②】の割合は68.9%となっています。

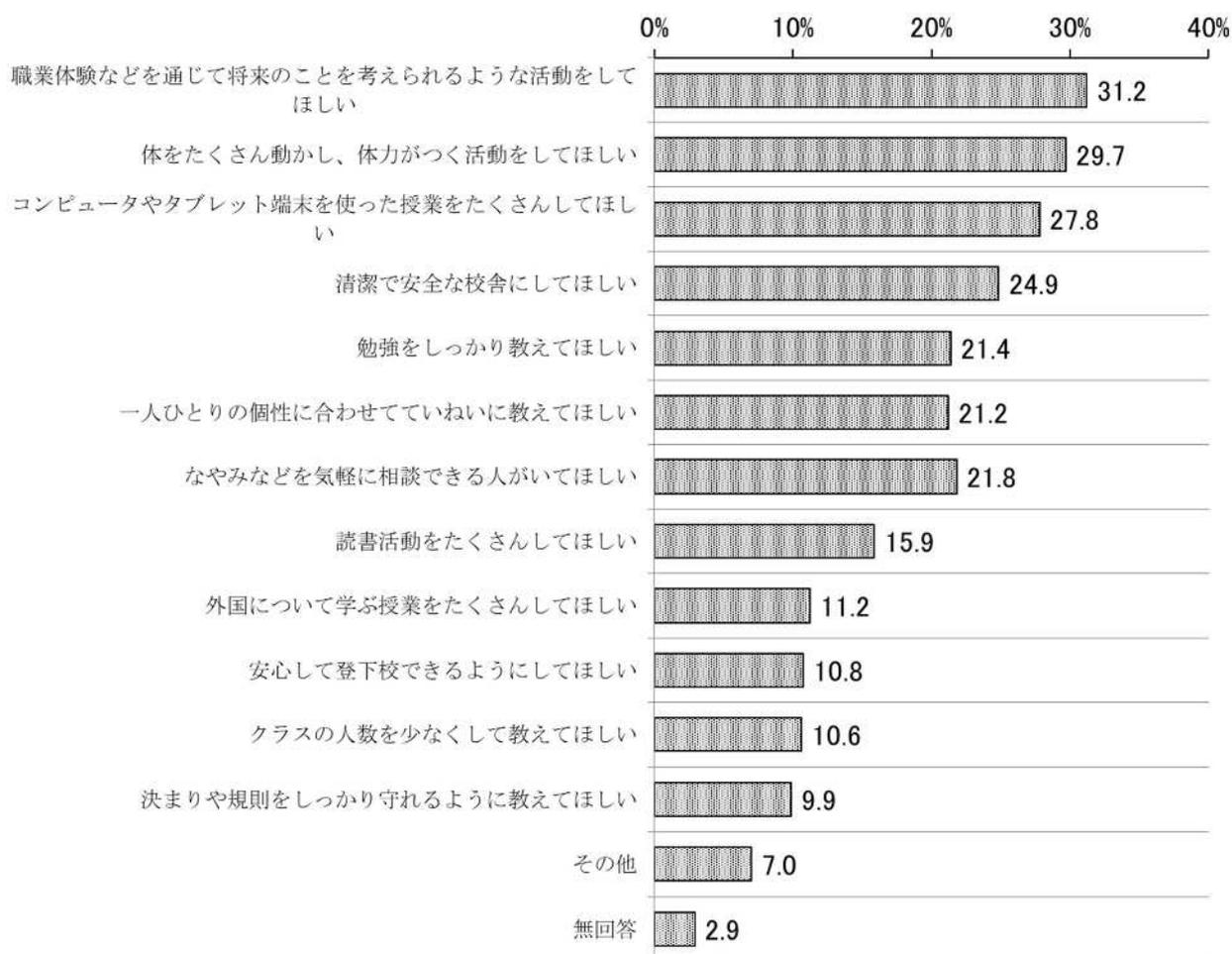
校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う①+②】	【そう思わない③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	56.9%	28.3%	8.0%	3.7%	3.1%	0.0%	85.2%	11.7%
中学校	45.2%	39.8%	9.5%	4.1%	1.3%	0.0%	85.0%	13.7%
市立川越高等学校	31.4%	57.1%	2.9%	5.7%	2.9%	0.0%	88.6%	8.6%
特別支援学校	46.7%	22.2%	13.3%	11.1%	6.7%	0.0%	68.9%	24.4%

3 学校に望むことについて

(1) 学校に望むことはどんなことですか（3つまで回答）

「職業体験などを通じて将来のことを考えられるような活動をしてほしい」が31.2%で最も高く、次いで、「体をたくさん動かし、体力がつく活動をしてほしい」が29.7%、「コンピュータやタブレット端末を使った授業をたくさんしてほしい」が27.8%となっています。

総数:1637件(複数回答)



校種別に見ると、小学校では「職業体験などを通じて将来のことを考えられるような活動をしてほしい」の回答率が高く、中学校では、「勉強をしっかりと教えてほしい」の回答率が高く、市立川越高等学校では、「清潔で安全な校舎にしてほしい」の回答率が高く、特別支援学校では、「コンピュータやタブレット端末を使った授業をたくさんしてほしい」の回答率が高くなっています。

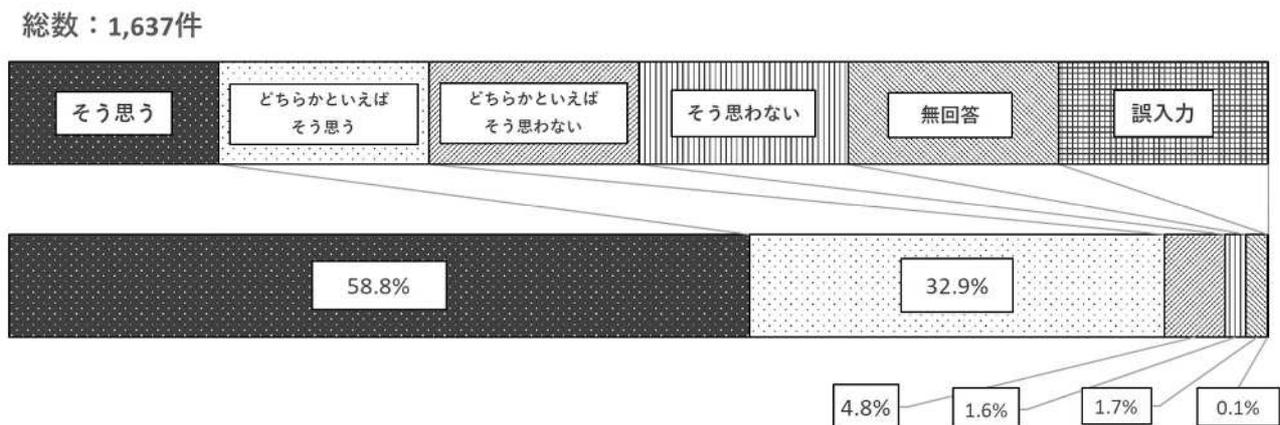
校種別総数	職業体験などを通じて将来のことを考えられるような活動をしてほしい	体をたくさん動かし、体力がつく活動をしてほしい	コンピュータやタブレット端末を使った授業をたくさんしてほしい	清潔で安全な校舎にしてほしい	なやみなどを気軽に相談できる人がいてほしい	勉強をしっかりと教えてほしい	一人ひとりの個性に合わせて丁寧に教えてほしい	読書活動をたくさんしてほしい	外国について学ぶ授業をたくさんしてほしい	外国について学ぶ授業をたくさんしてほしい	クラスの人数を少なくして教えてほしい	決まりや規則をしっかりと守れるように教えてほしい	その他	無回答
小学校:803件	38.2%	33.0%	35.4%	22.5%	22.4%	13.3%	16.8%	10.1%	18.8%	10.1%	13.0%	8.1%	8.8%	3.5%
中学校:754件	25.3%	26.8%	19.1%	27.3%	21.6%	29.8%	26.4%	13.1%	11.7%	7.8%	13.7%	11.1%	6.4%	2.0%
市立川越高等学校:35件	25.7%	19.1%	17.1%	40.0%	14.3%	20.0%	20.0%	5.7%	11.4%	14.3%	8.6%	8.6%	2.9%	5.7%
特別支援学校:45件	8.9%	27.3%	46.7%	13.3%	20.0%	24.4%	13.3%	17.8%	24.4%	17.8%	8.9%	8.9%	2.2%	6.7%

4 先生に感じていることについて

(1) 先生についてどのように感じていますか

問1 勉強を分かりやすく教えてくれる

「そう思う」が58.8%、「どちらかといえばそう思う」が32.9%で、合わせて91.7%が『そう思う』と回答しています。

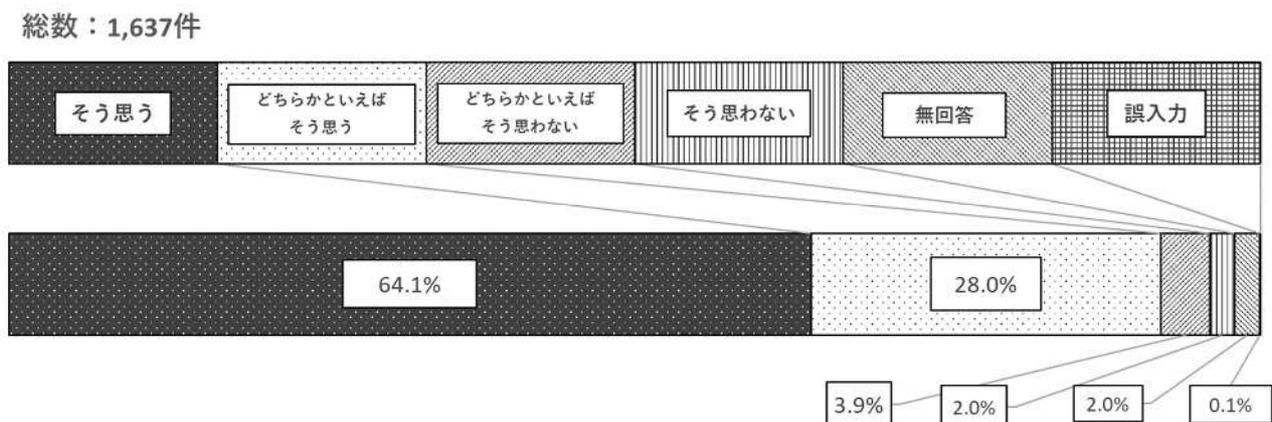


校種別に見ると、小学校・中学校・特別支援学校については平均90%近くが【そう思う①+②】と答えています。対照的に、市立川越高等学校は【そう思う①+②】の割合が62.9%と低くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえば そう思う②	どちらかといえば そう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う ①+②】	【そう思わない ③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	70.1%	22.9%	2.7%	1.9%	2.4%	0.0%	93.0%	4.6%
中学校	48.5%	43.4%	6.2%	1.2%	0.7%	0.0%	91.9%	7.4%
市立川越高等学校	11.4%	51.4%	28.6%	2.9%	5.7%	0.0%	62.9%	31.4%
特別支援学校	66.7%	22.2%	0.0%	4.4%	4.4%	2.2%	88.9%	4.4%

問2 優しく接してくれる

「そう思う」が64.1%、「どちらかといえばそう思う」が28.0%で、合わせて92.1%が『そう思う』と回答しています。

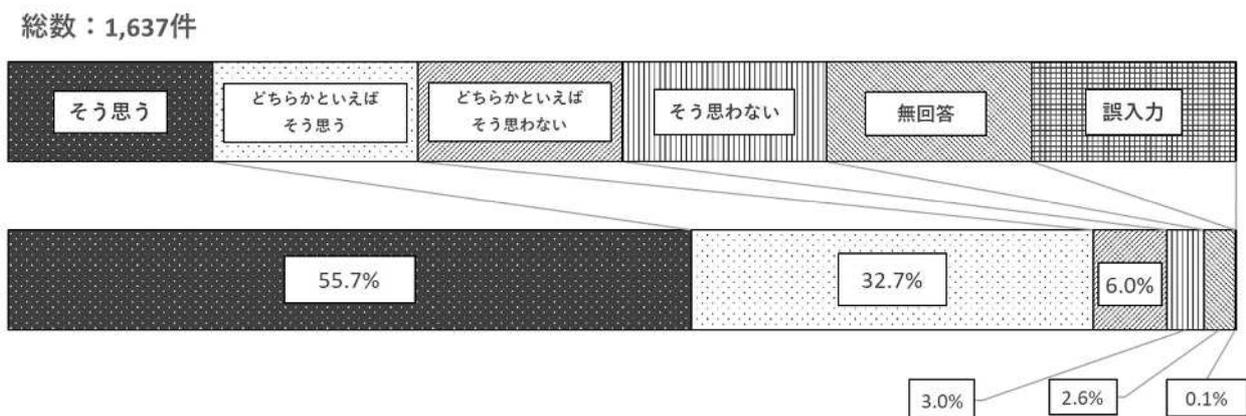


校種別に見ると、『問1 勉強を分かりやすく教えてくれる』と同様、小学校・中学校・特別支援学校の【そう思う①+②】の回答率が高く、市立川越高等学校が71.4%と、比較的低くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う】 ①+②	【そう思わない】 ③+④
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	71.9%	18.7%	4.0%	2.5%	3.0%	0.0%	90.5%	6.5%
中学校	58.5%	36.6%	3.1%	1.2%	0.7%	0.0%	95.1%	4.2%
市立川越高等学校	17.1%	54.3%	22.9%	2.9%	2.9%	0.0%	71.4%	25.7%
特別支援学校	55.6%	28.9%	2.2%	4.4%	6.7%	2.2%	84.4%	6.7%

問3 相談に乗ってくれる

「そう思う」が55.7%、「どちらかといえばそう思う」が32.7%で、合わせて88.4%が『そう思う』と回答しています。

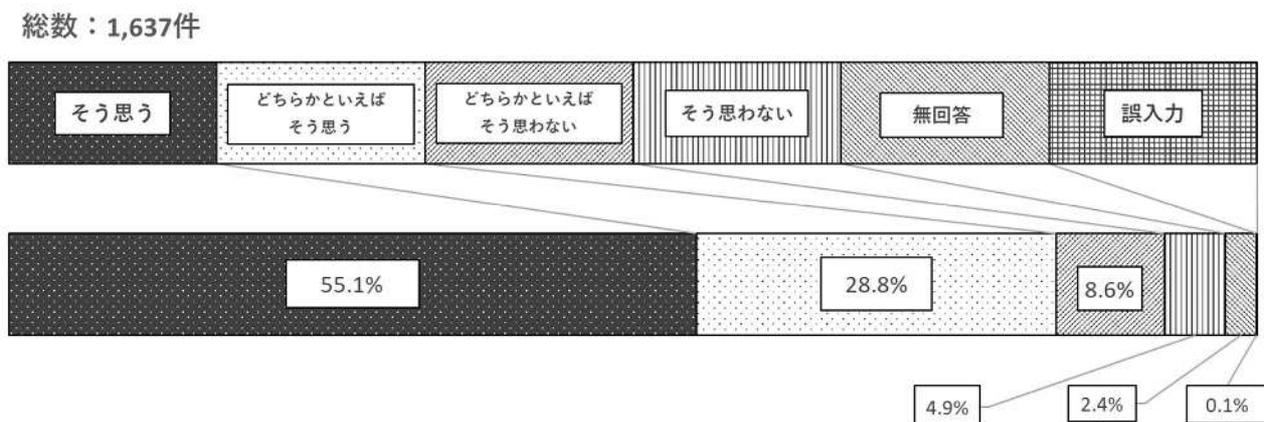


校種別に見ると『問1 勉強を分かりやすく教えてくれる』及び『問2 優しく接してくれる』と同様の傾向があるものの、各校種の乖離が低くなっています。

校種別総数	① そう思う	② どちらかといえば そう思う	③ どちらかといえば そう思わない	④ そう思わない	無回答	誤入力	【そう思う】 ①+②	【そう思わない】 ③+④
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	61.1%	26.8%	5.4%	3.2%	3.5%	0.0%	87.9%	8.6%
中学校	51.6%	38.3%	6.2%	2.8%	1.1%	0.0%	89.9%	9.0%
市立川越高等学校	20.0%	57.1%	17.1%	2.9%	2.9%	0.0%	77.1%	20.0%
特別支援学校	53.3%	26.7%	4.4%	2.2%	11.1%	2.2%	80.0%	6.7%

問4 みんなに平等に接している

「そう思う」が55.1%、「どちらかといえばそう思う」が28.8%で、合わせて83.9%が『そう思う』と回答しています。

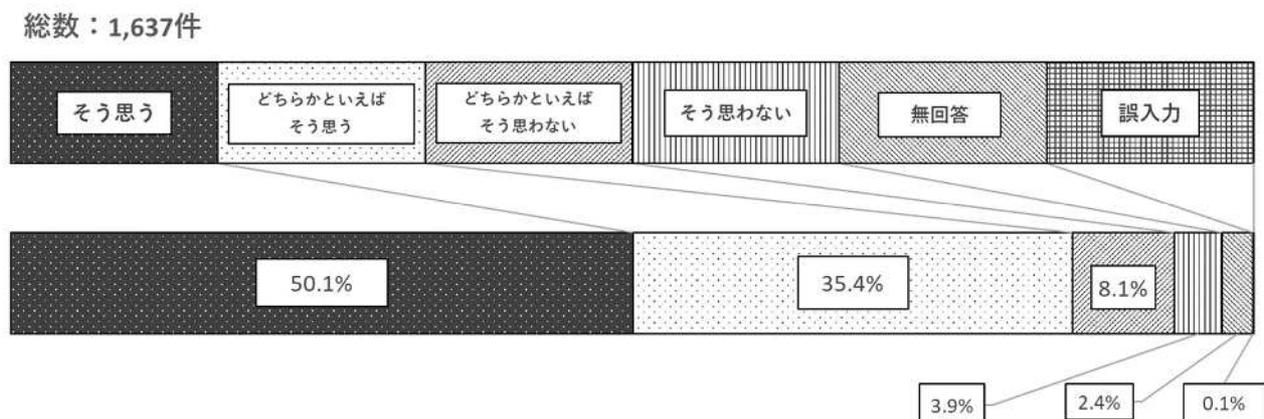


校種別に見ると、小学校・中学校の【そう思う①+②】と答えている割合が85%程度と高く、市立川越高等学校・特別支援学校の【そう思う①+②】と答えている割合は68%程度と、比較的低くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う①+②】	【そう思わない③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	64.3%	20.8%	6.8%	4.6%	3.5%	0.0%	85.1%	11.5%
中学校	47.7%	36.6%	9.7%	5.0%	0.9%	0.0%	84.4%	14.7%
市立川越高等学校	14.3%	54.3%	20.0%	8.6%	2.9%	0.0%	68.6%	28.6%
特別支援学校	46.7%	22.2%	13.3%	6.7%	8.9%	2.2%	68.9%	20.0%

問5 自分のことを分かってくれる

「そう思う」が50.1%、「どちらかといえばそう思う」が35.4%で、合わせて85.5%が『そう思う』と回答しています。



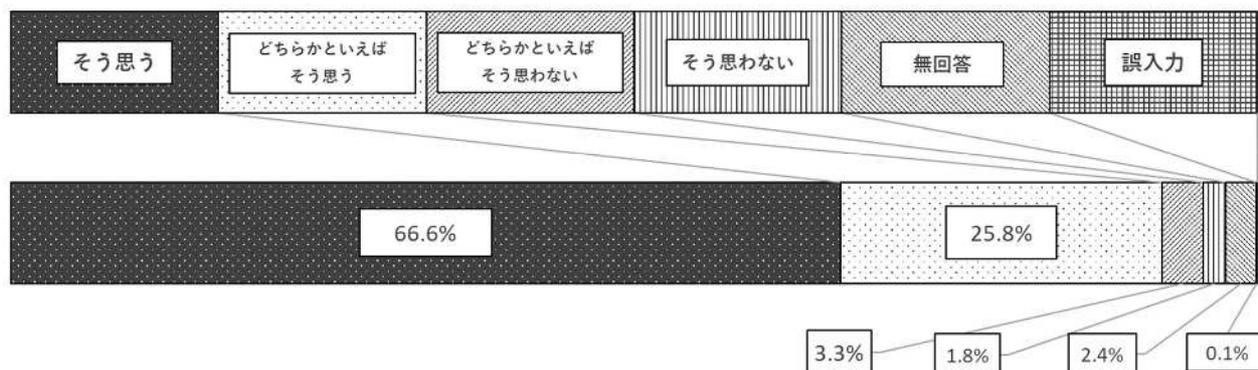
校種別に見ると、小学校・中学校・特別支援学校においては【そう思う①+②】と答えている割合が高くなっています。市立川越高等学校のみ、20ポイント程度【そう思う①+②】の割合が低くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う①+②】	【そう思わない③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	59.3%	27.5%	5.7%	4.1%	3.4%	0.0%	86.8%	9.8%
中学校	42.2%	43.0%	10.1%	3.7%	1.1%	0.0%	85.1%	13.8%
市立川越高等学校	11.4%	54.3%	25.7%	2.9%	5.7%	0.0%	65.7%	28.6%
特別支援学校	48.9%	33.3%	4.4%	4.4%	6.7%	2.2%	82.2%	8.9%

問6 決まりや規則をきちんと教えてくれる

「そう思う」が66.6%、「どちらかといえばそう思う」が25.8%で、合わせて92.4%が『そう思う』と回答しています。

総数：1,637件



校種別に見ると、小学校・中学校・特別支援学校は【そう思う①+②】の割合が高く、市立川越高等学校は比較的【そう思う①+②】の割合が低くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う①+②】	【そう思わない③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	72.7%	18.6%	3.2%	2.0%	3.5%	0.0%	91.3%	5.2%
中学校	62.6%	32.2%	2.8%	1.3%	1.1%	0.0%	94.8%	4.1%
市立川越高等学校	17.1%	57.1%	14.3%	8.6%	2.9%	0.0%	74.3%	22.9%
特別支援学校	62.2%	22.2%	4.4%	2.2%	6.7%	2.2%	84.4%	6.7%

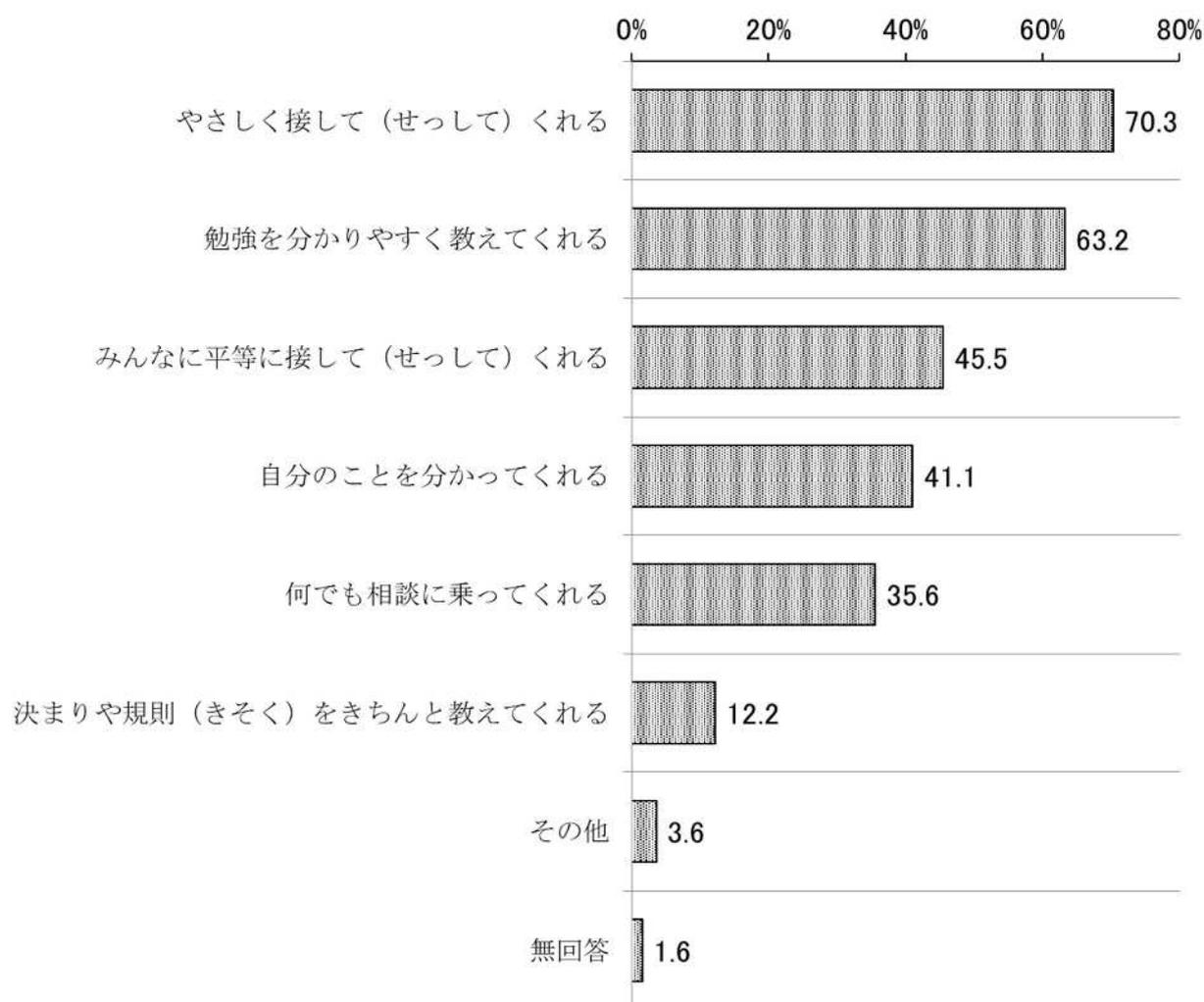
5 教わりたいと思う先生について

(1) 教わりたいと思う先生はどのような先生ですか。

※次のうち3つまで回答（「その他」は自由記述あり）。

「やさしく接して（せつして）くれる」が70.3%で最も高く、次いで「勉強を分かりやすく教えてくれる」が63.2%、「みんなに平等に接して（せつして）くれる」が45.5%となっています。

総数:1,637件(複数回答)



校種別に見ると、小学校と中学校に大きな差はありませんでした。また、「決まりや規則（きそく）をきちんと教えてくれる」については、特別支援学校が他と比較して高く、「自分のことを分かってくれる」については、市立川越高等学校が他と比較して低くなっています。

校種別総数 小学校:803件 中学校:754件 市立川越高等学校:35件 特別支援学校:45件	やさしく 接して (せっし て)くれ る	勉強を分 かりやす く教えて くれる	みんなに平 等に接して (せっし て)くれる	自分のこ とを分か つてくれ る	何でも相 談に乗っ てくれる	決まりや 規則(き そく)を きちんと 教えてく れる	その他	無回答
小学校	72.4%	61.5%	44.8%	41.0%	38.2%	13.3%	4.4%	2.2%
中学校	69.2%	65.8%	47.2%	42.3%	32.5%	10.1%	2.9%	0.7%
市立川越高等学校	57.1%	57.1%	45.7%	22.9%	31.4%	5.7%	0.0%	2.9%
特別支援学校	62.2%	55.6%	28.9%	35.6%	42.2%	31.1%	4.4%	4.4%

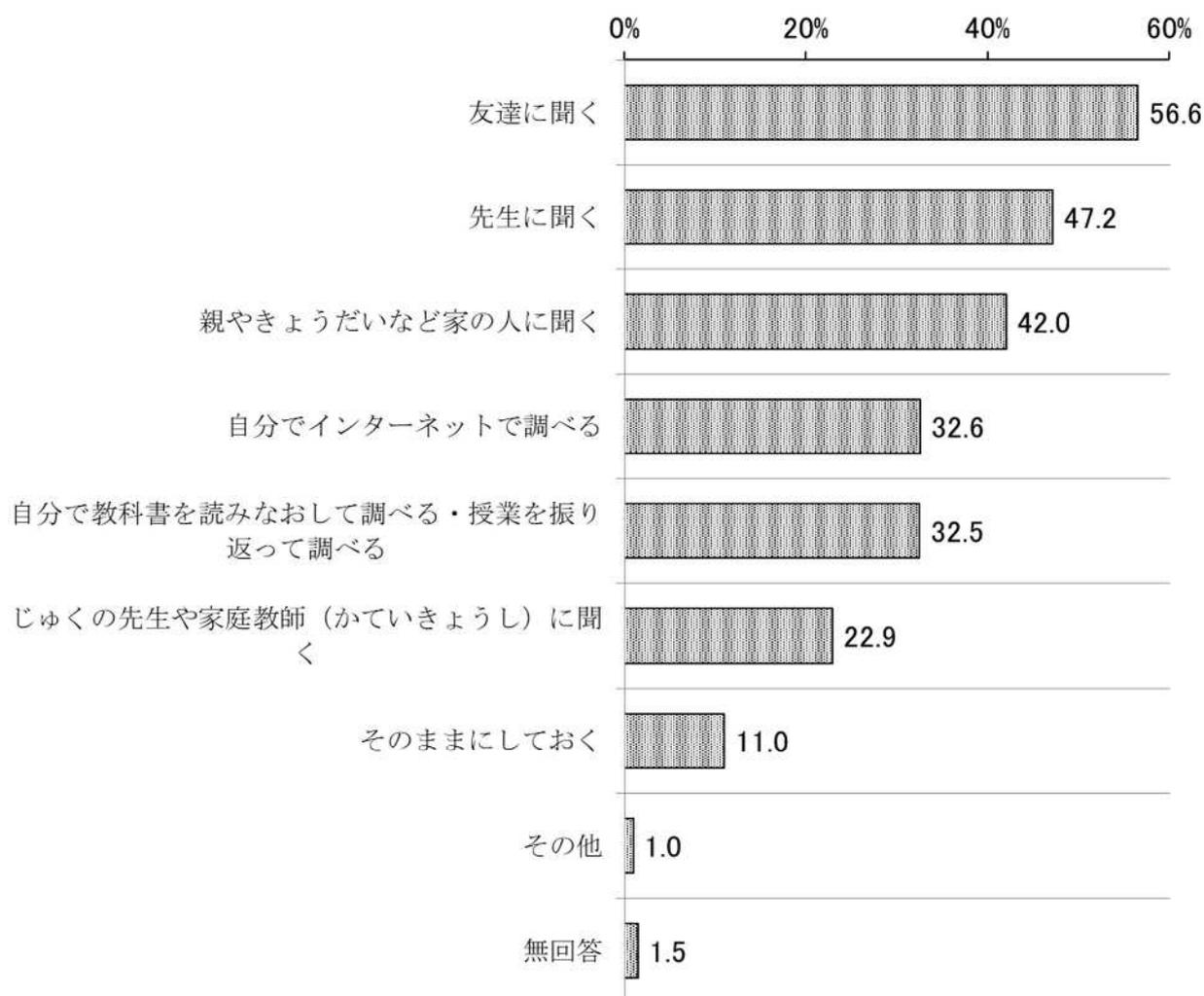
6 授業について

(1) 授業（じゅぎょう）で分からないことがあった場合、どうしていますか。

※次のうち3つまで回答（「その他」は自由記述あり）。

「友達に聞く」が56.6%で最も高く、次いで「先生に聞く」が47.2%、「親やきょうだいなどの家の人に聞く」が42.0%となっています。

総数:1,637件(複数回答)



校種別の割合の差が大きかった回答を見ると、「友達に聞く」及び「先生に聞く」については小学校と特別支援学校の割合が高く、「自分でインターネットで調べる」については市立川越高等学校の割合が高く、「じゅくの先生や家庭教師（かていきょうし）に聞く」については中学校の割合が高くなっています。

校種別総数 小学校:803件 中学校:754件 市立川越高等学校:35件 特別支援学校:45件	友達に聞く	先生に聞く	親やきょうだいなど家の人に聞く	自分でインターネットで調べる	自分で教科書を読みなおして調べる・授業を振り返って調べる	じゅくの先生や家庭教師（かていきょうし）に聞く	そのままにしておく	その他	無回答
小学校	71.2%	52.1%	54.0%	26.4%	32.3%	9.2%	9.8%	1.1%	1.7%
中学校	40.7%	40.7%	31.3%	36.9%	34.6%	39.1%	12.1%	0.8%	0.9%
市立川越高等学校	37.1%	37.1%	14.3%	62.9%	20.0%	5.7%	11.4%	0.0%	2.9%
特別支援学校	75.6%	75.6%	28.9%	46.7%	11.1%	8.9%	13.3%	2.2%	6.7%

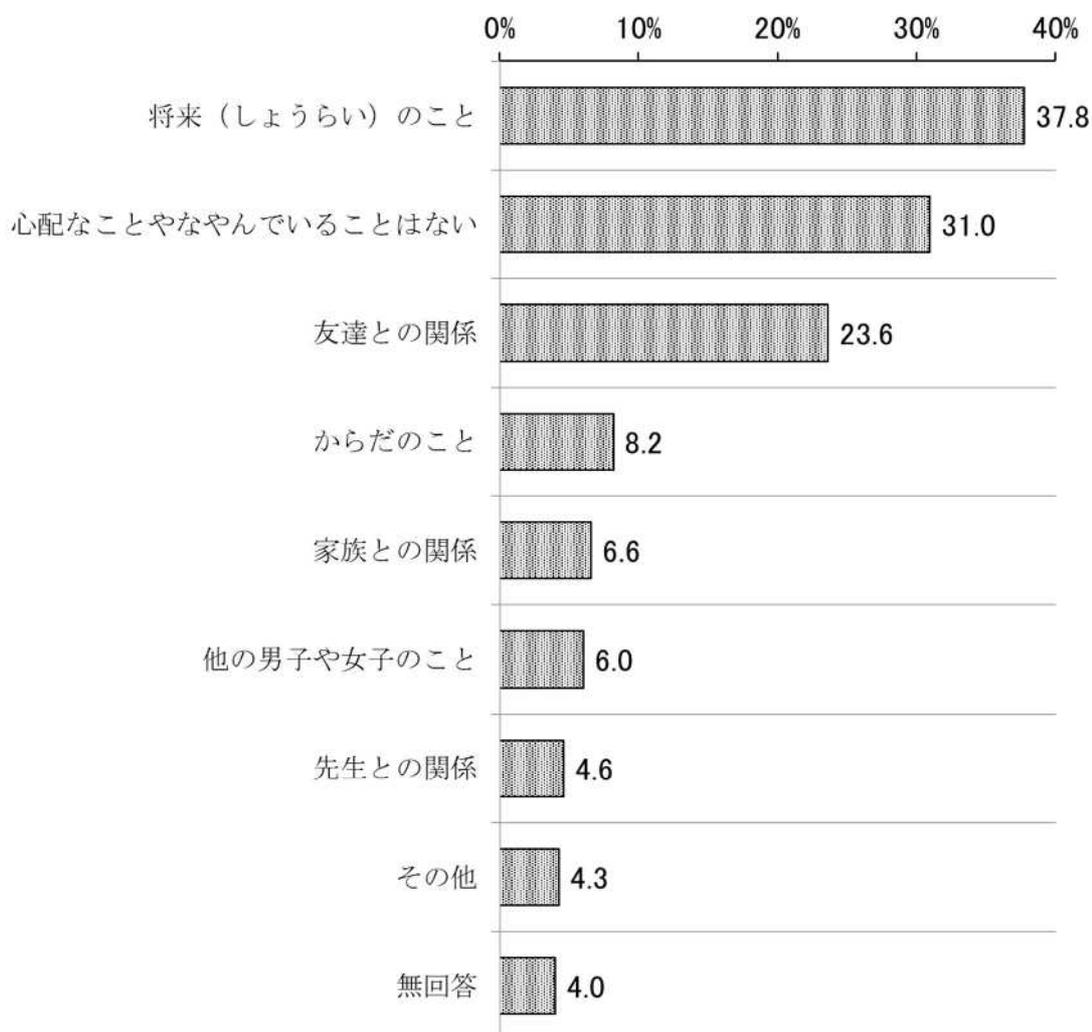
7 心配なことや悩んでいることについて

(1) 心配なことや悩んでいることはどんなことですか。

※次のうち3つまで回答（「その他」は自由記述あり）。

「将来（しょうらい）のこと」が37.8%で最も高く、次いで「心配なことや悩んでいることはない」が31.0%、「友達との関係」が23.6%となっています。

総数:1,637件(複数回答)



校種別に見ると、「将来（しょうらい）のこと」については中学校・市立川越高等学校・特別支援学校の割合が高く、「心配なことやなやんでいることはない」については小学校の割合が高くなっています。

校種別総数 小学校:803件 中学校:754件 市立川越高等学校:35件 特別支援学校:45件	将来 （しょう らい）の こと	心配なこ とやなや んでいる ことはな い	友達との関 係	からだの こと	家族との 関係	他の男子 や女子の こと	先生との関 係	その他	無回答
小学校	25.7%	40.3%	23.2%	10.5%	6.6%	8.0%	5.6%	4.4%	5.0%
中学校	49.3%	21.8%	23.9%	5.3%	6.0%	3.8%	3.4%	4.6%	2.9%
市立川越高等学校	57.1%	22.9%	22.9%	5.7%	5.7%	0.0%	5.7%	0.0%	2.9%
特別支援学校	44.4%	24.4%	28.9%	17.8%	17.8%	13.3%	6.7%	0.0%	6.7%

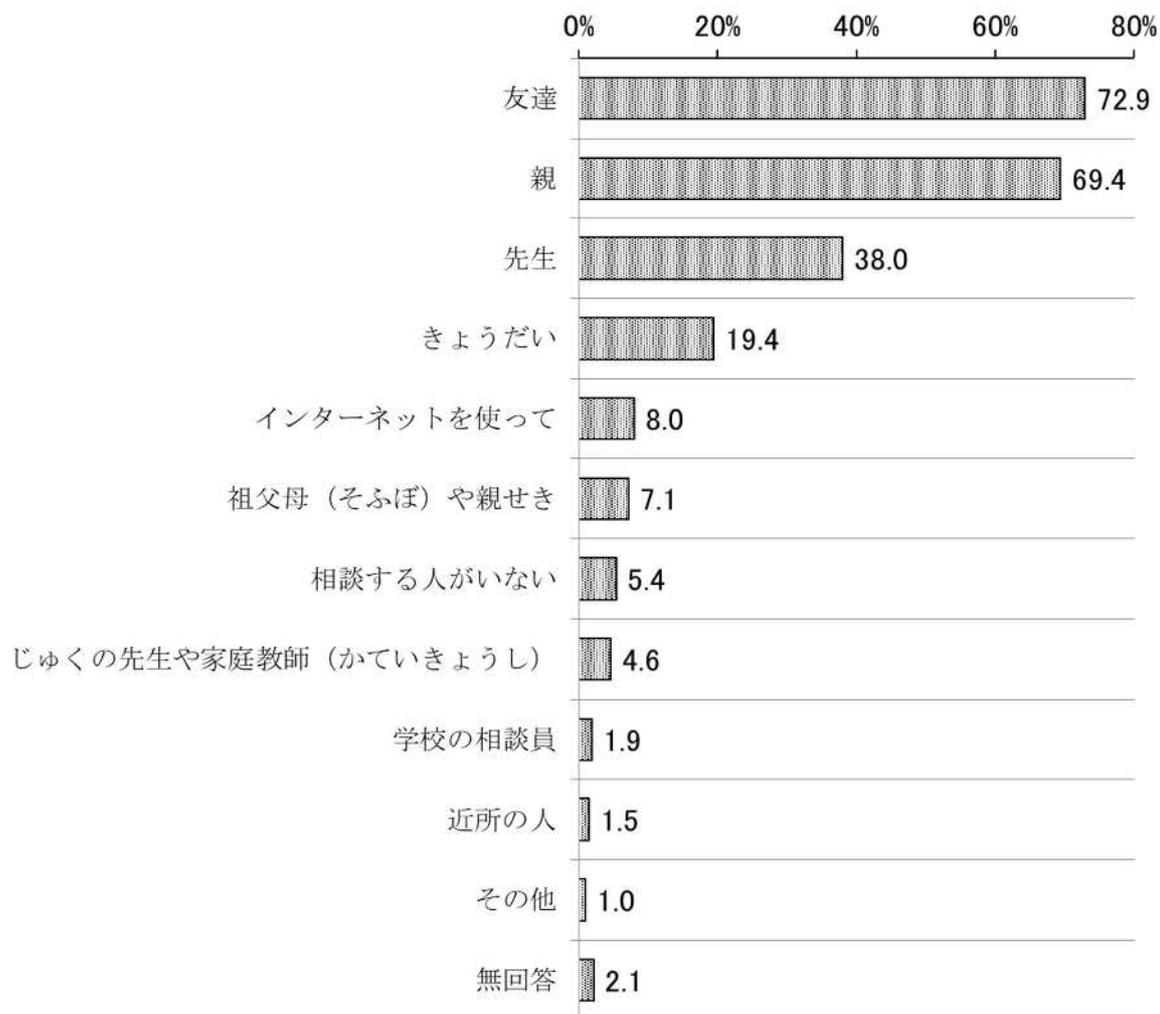
8 相談できる相手について

(1) 何かを相談したいときに相談できる相手はいますか。

※次のうち3つまで回答（「その他」は自由記述あり）。

「友達」が72.9%で最も高く、次いで「親」が69.4%、「先生」が38.0%となっています。

総数:1,637件(複数回答)



校種別に見ると、「友達」については市立川越高等学校の割合が高く、「親」については小学校の割合が高く、「先生」については特別支援学校の割合が高くなっています。

校種別総数 小学校:803件 中学校:754件 市立川越高等学校:35件 特別支援学校:45件	友達	親	先生	きょうだい	インターネットを使って	祖父母(そふぼ)や親せき	相談する人がいない	じゅくの先生や家庭教師(かていきょうし)	学校の相談員	近所の人	その他	無回答
小学校	72.1%	75.2%	41.3%	20.4%	6.5%	9.3%	5.0%	2.4%	1.5%	2.0%	1.1%	2.2%
中学校	73.9%	64.3%	33.7%	19.0%	9.4%	5.6%	5.7%	7.3%	1.6%	0.9%	0.8%	1.9%
市立川越高等学校	91.4%	51.4%	28.6%	20.0%	5.7%	0.0%	2.9%	2.9%	2.9%	0.0%	0.0%	2.9%
特別支援学校	57.8%	64.4%	57.8%	8.9%	13.3%	0.0%	8.9%	2.2%	13.3%	4.4%	2.2%	4.4%

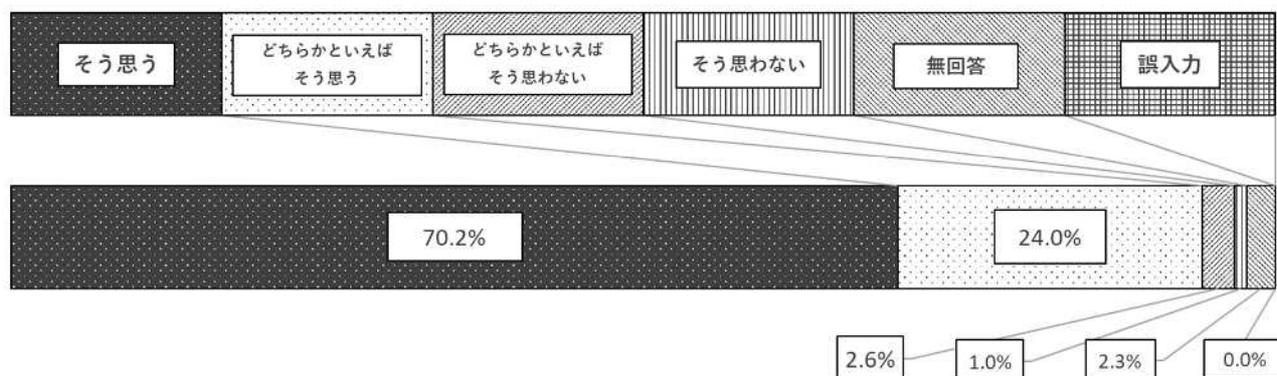
9 友達との関わりについて

(1) 友達との関わりはどのようなものですか。

問1 よく話を聞いてくれる(1つに〇)

「そう思う」が70.2%、「どちらかといえばそう思う」が24.0%で、合わせて94.2%が『そう思う』と回答しています。

総数：1,637件

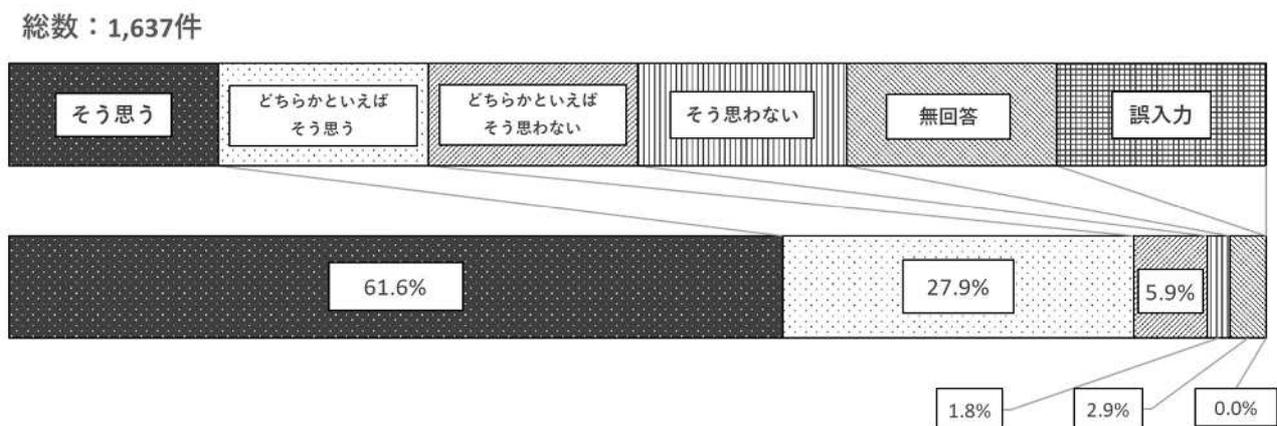


校種別に見ると、全校種において【そう思う①+②】と答えている割合が高くなっています。特別支援学校のみ、10ポイント程度【そう思う①+②】の割合が低くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う①+②】	【そう思わない③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	73.6%	20.3%	2.0%	1.0%	3.1%	0.0%	93.9%	3.0%
中学校	67.6%	27.5%	2.7%	1.1%	1.2%	0.0%	95.1%	3.7%
市立川越高等学校	54.3%	40.0%	2.9%	0.0%	2.9%	0.0%	94.3%	2.9%
特別支援学校	64.4%	20.0%	11.1%	0.0%	4.4%	0.0%	84.4%	11.1%

問2 自分のことを分かってきている（1つに○）

「そう思う」が61.6%、「どちらかといえばそう思う」が27.9%で、合わせて89.5%が『そう思う』と回答しています。

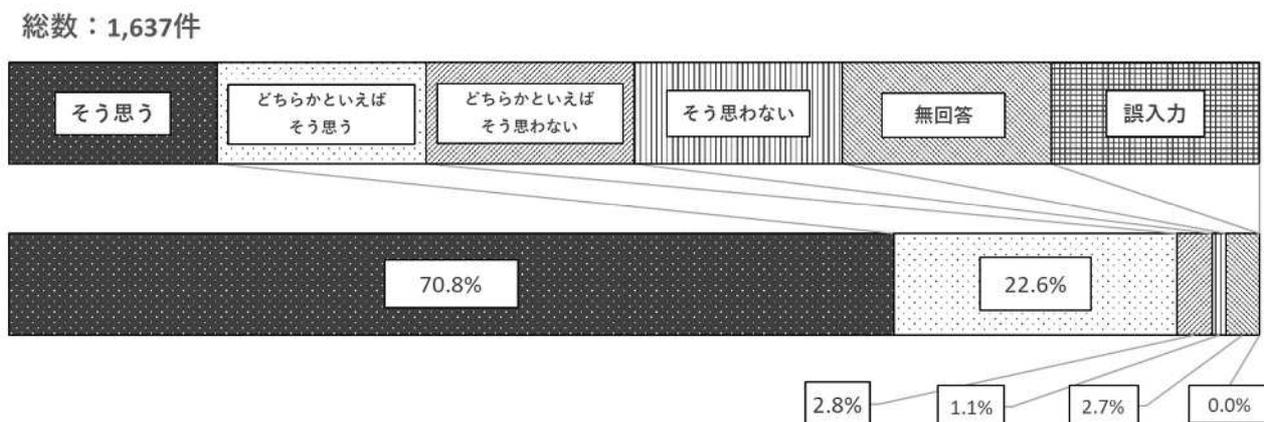


校種別に見ると、小学校・中学校・市立川越高等学校においては【そう思う①+②】と答えている割合が高くなっています。特別支援学校のみ、10ポイント程度【そう思う①+②】の割合が低くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う①+②】	【そう思わない③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	67.1%	22.7%	4.9%	1.5%	3.9%	0.0%	89.8%	6.4%
中学校	57.6%	32.4%	6.5%	2.1%	1.5%	0.0%	89.9%	8.6%
市立川越高等学校	40.0%	48.6%	5.7%	2.9%	2.9%	0.0%	88.6%	8.6%
特別支援学校	46.7%	31.1%	13.3%	0.0%	8.9%	0.0%	77.8%	13.3%

問3 困っている時は助けてくれる（1つに〇）

「そう思う」が70.8%、「どちらかといえばそう思う」が22.6%で、合わせて93.4%が『そう思う』と回答しています。

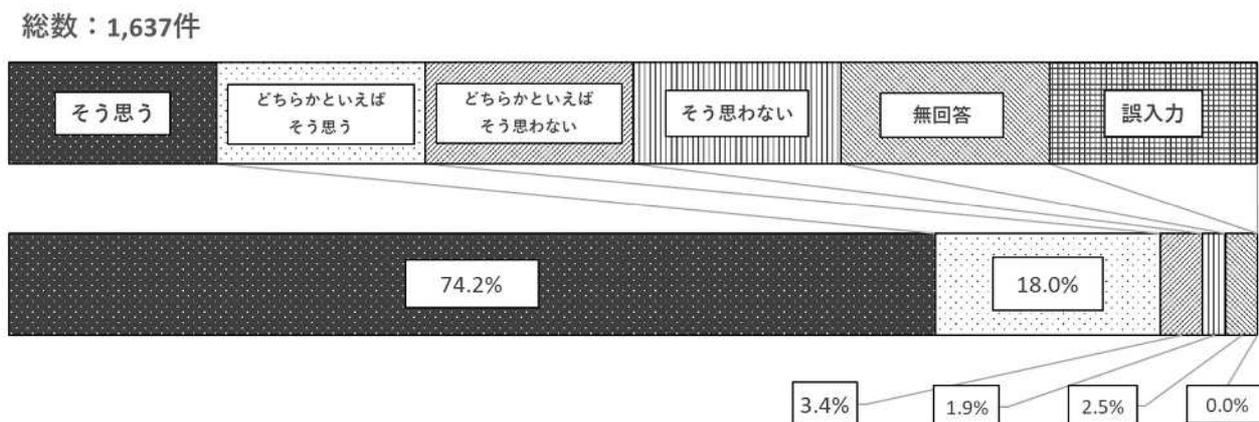


校種別に見ると、小学校・中学校・市立川越高等学校においては【そう思う①+②】と答えている割合が高くなっています。特別支援学校のみ、10ポイント程度【そう思う①+②】の割合が低くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う①+②】	【そう思わない③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	75.5%	17.1%	2.6%	1.4%	3.5%	0.0%	92.5%	4.0%
中学校	67.2%	27.6%	2.8%	0.9%	1.5%	0.0%	94.8%	3.7%
市立川越高等学校	57.1%	37.1%	2.9%	0.0%	2.9%	0.0%	94.3%	2.9%
特別支援学校	57.8%	26.7%	6.7%	0.0%	8.9%	0.0%	84.4%	6.7%

問4 一緒に遊んだり出かけたりしてくれる（1つに○）

「そう思う」が74.2%、「どちらかといえばそう思う」が18.0%で、合わせて92.2%が『そう思う』と回答しています。

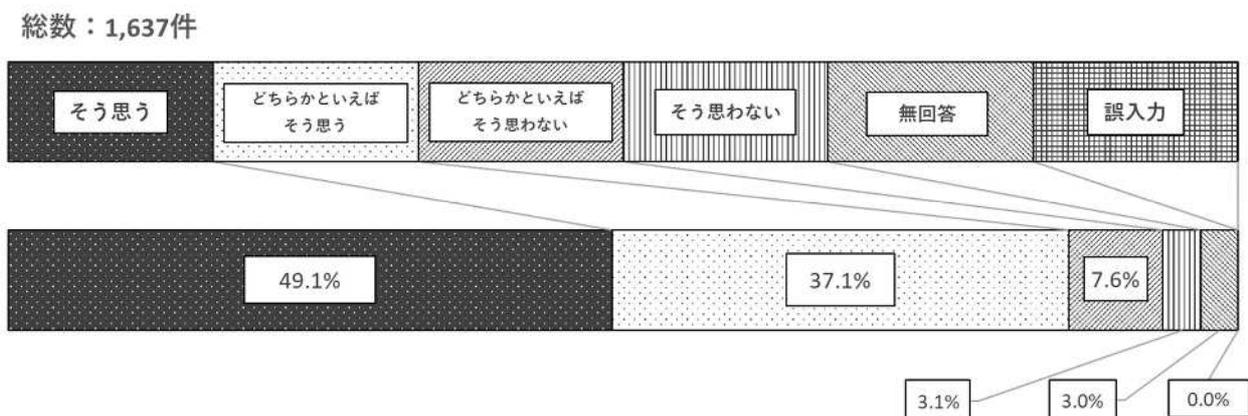


校種別に見ると、小学校・中学校・市立川越高等学校においては【そう思う①+②】と答えている割合が高くなっています。特別支援学校のみ、30ポイント程度【そう思う①+②】の割合が低くなっています。友達に関する設問の中、「一緒に遊んだり出かけたりしてくれる」点については、特別支援学校と他校種との乖離が際立って大きくなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえば そう思う②	どちらかといえば そう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う ①+②】	【そう思わない ③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	79.2%	13.7%	3.0%	0.9%	3.2%	0.0%	92.9%	3.9%
中学校	71.6%	21.6%	3.7%	1.9%	1.2%	0.0%	93.2%	5.6%
市立川越高等学校	60.0%	34.3%	0.0%	0.0%	5.7%	0.0%	94.3%	0.0%
特別支援学校	40.0%	22.2%	6.7%	22.2%	8.9%	0.0%	62.2%	28.9%

問5 悪いことをしたら注意してくれる（1つに○）

「そう思う」が49.1%、「どちらかといえばそう思う」が37.1%で、合わせて86.2%が『そう思う』と回答しています。



校種別に見ると、小学校・中学校・市立川越高等学校においては【そう思う①+②】と答えている割合が高くなっています。特別支援学校のみ、10ポイント程度【そう思う①+②】の割合が低くなっています。

校種別総数	そう思う①	どちらかといえばそう思う②	どちらかといえばそう思わない③	そう思わない④	無回答	誤入力	【そう思う①+②】	【そう思わない③+④】
小学校:803件								
中学校:754件								
市立川越高等学校:35件								
特別支援学校:45件								
小学校	53.8%	31.8%	7.1%	3.2%	4.1%	0.0%	85.6%	10.3%
中学校	45.0%	42.8%	8.1%	2.7%	1.5%	0.0%	87.8%	10.7%
市立川越高等学校	37.1%	48.6%	11.4%	0.0%	2.9%	0.0%	85.7%	11.4%
特別支援学校	44.4%	28.9%	6.7%	11.1%	8.9%	0.0%	73.3%	17.8%

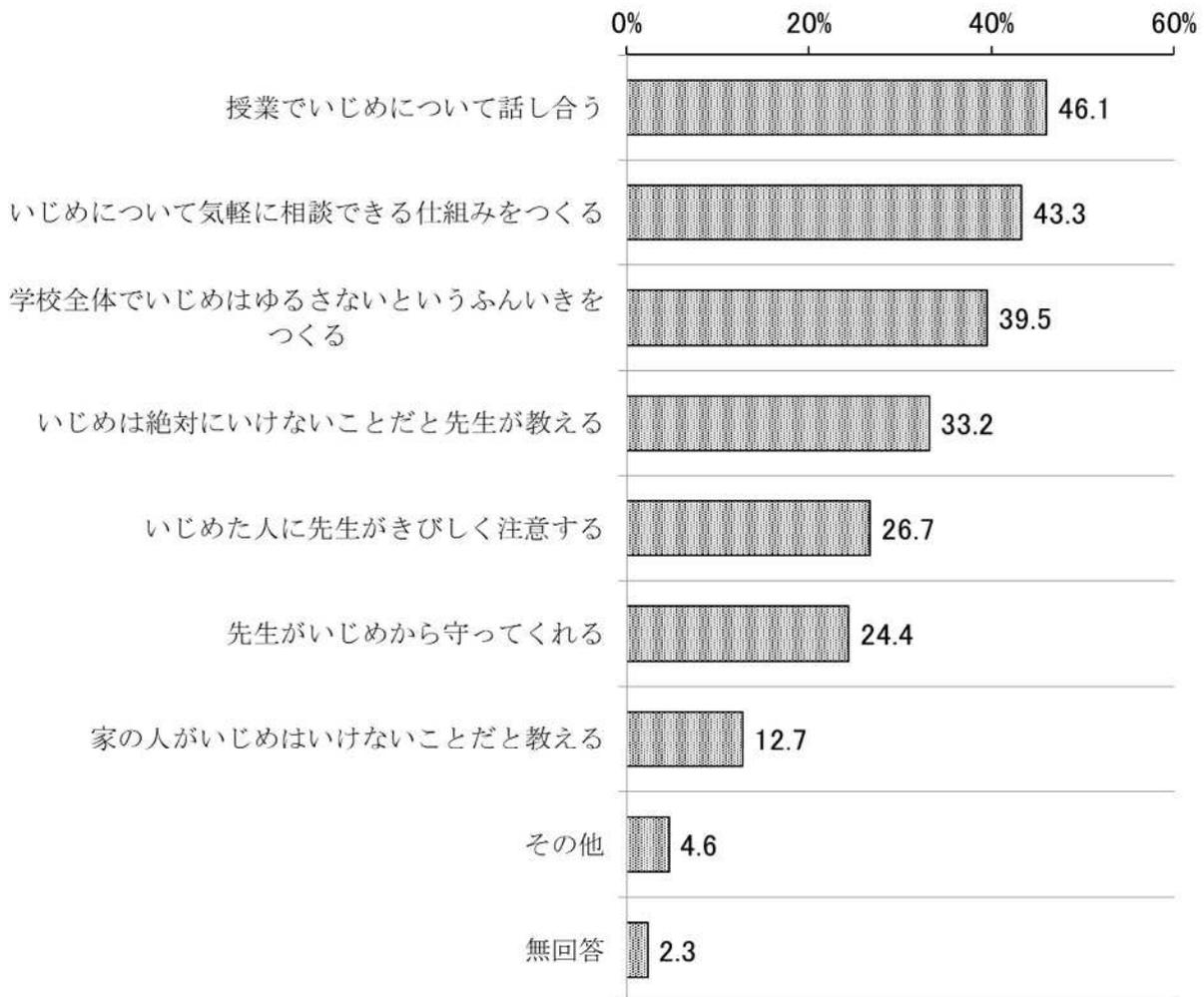
10 いじめについて

(1) どうしたらいじめを減らしたり、解決したりできると思いますか。

※次のうち3つまで回答（「その他」は自由記述あり）。

「授業でいじめについて話し合う」が46.1%で最も高く、次いで「いじめについて気軽に相談できる仕組みをつくる」が43.3%、「学校全体でいじめはゆるさないというふんいきをつくる」が39.5%となっています。

総数:1,637件(複数回答)



校種別の割合の差が大きかった回答を見ると、「授業でいじめについて話し合う」については小学校と特別支援学校の割合が高く、「学校全体でいじめはゆるさないというふんいきをつくる」については中学校と特別支援学校の割合が高く、「いじめは絶対にいけないことだと先生が教える」については小学校と特別支援学校の割合が高く、「家の人がいじめはいけないことだと教える」については市立川越高等学校の割合が高くなっています。

校種別総数 小学校:803件 中学校:754件 市立川越高等学校:35件 特別支援学校:45件	授業でいじめについて話し合う	いじめについて気軽に相談できる仕組みをつくる	学校全体でいじめはゆるさないというふんいきをつくる	いじめは絶対にいけないことだと先生が教える	いじめた人に先生がきびしく注意する	先生がいじめから守ってくれる	家の人がいじめはいけないことだと教える	その他	無回答
小学校	53.2%	42.6%	30.4%	43.0%	27.9%	24.8%	13.7%	3.2%	2.7%
中学校	38.6%	45.5%	49.2%	22.8%	25.5%	24.4%	10.3%	6.5%	1.6%
市立川越高等学校	34.3%	37.1%	31.4%	14.3%	25.7%	22.9%	31.4%	0.0%	5.7%
特別支援学校	53.3%	24.4%	46.7%	46.7%	26.7%	17.8%	20.0%	2.2%	4.4%

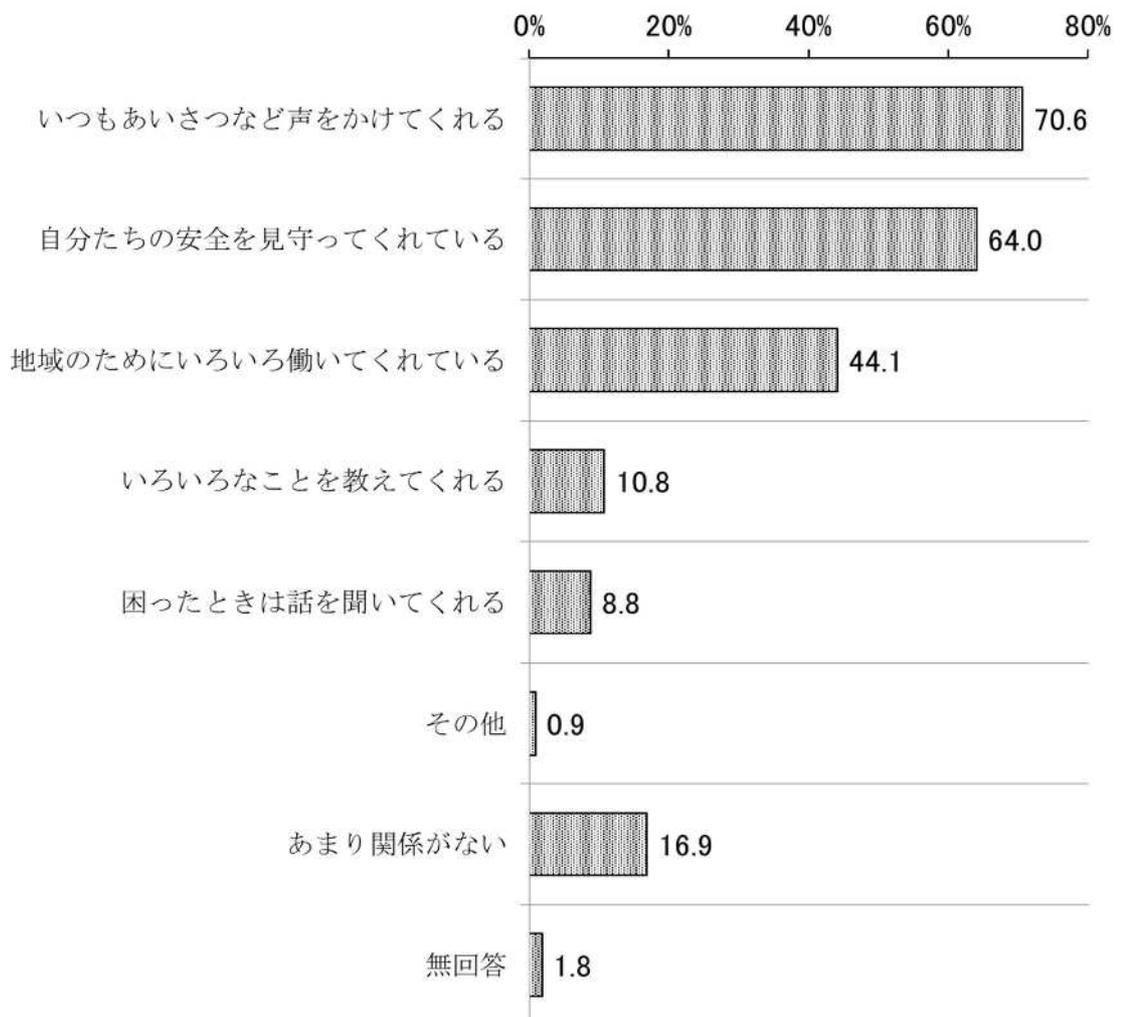
11 地域の人たちについて

(1) 地域の人たちについてどのように感じていますか。

※次のうち3つまで回答（「その他」は自由記述あり）。

「いつもあいさつなど声をかけてくれる」が70.6%で最も高く、次いで「自分たちの安全を見守ってくれている」が64.0%、「地域のためにいろいろ働いてくれている」が44.1%となっています。

総数:1,637件(複数回答)



校種別の割合の差が大きかった回答を見ると、「いつもあいさつなど声をかけてくれる」については小学校と中学校の割合が高く、「自分たちの安全を見守ってくれている」については小学校と特別支援学校の割合が高く、「いろいろなことを教えてくれる」及び「困ったときは話を聞いてくれる」については特別支援学校の割合が高くなっています。

校種別総数 小学校:803件 中学校:754件 市立川越高等学校:35件 特別支援学校:45件	いつもあいさつなど声をかけてくれる	自分たちの安全を見守ってくれている	地域のためにいろいろ働いてくれている	いろいろなことを教えてくれる	困ったときは話を聞いてくれる	その他	あまり関係がない	無回答
小学校	75.0%	75.8%	48.6%	13.4%	11.5%	1.2%	10.6%	2.6%
中学校	68.6%	52.4%	40.8%	7.3%	5.4%	0.5%	22.8%	0.8%
市立川越高等学校	48.6%	45.7%	34.3%	2.9%	8.6%	0.0%	25.7%	2.9%
特別支援学校	42.2%	62.2%	26.7%	26.7%	17.8%	2.2%	22.2%	4.4%

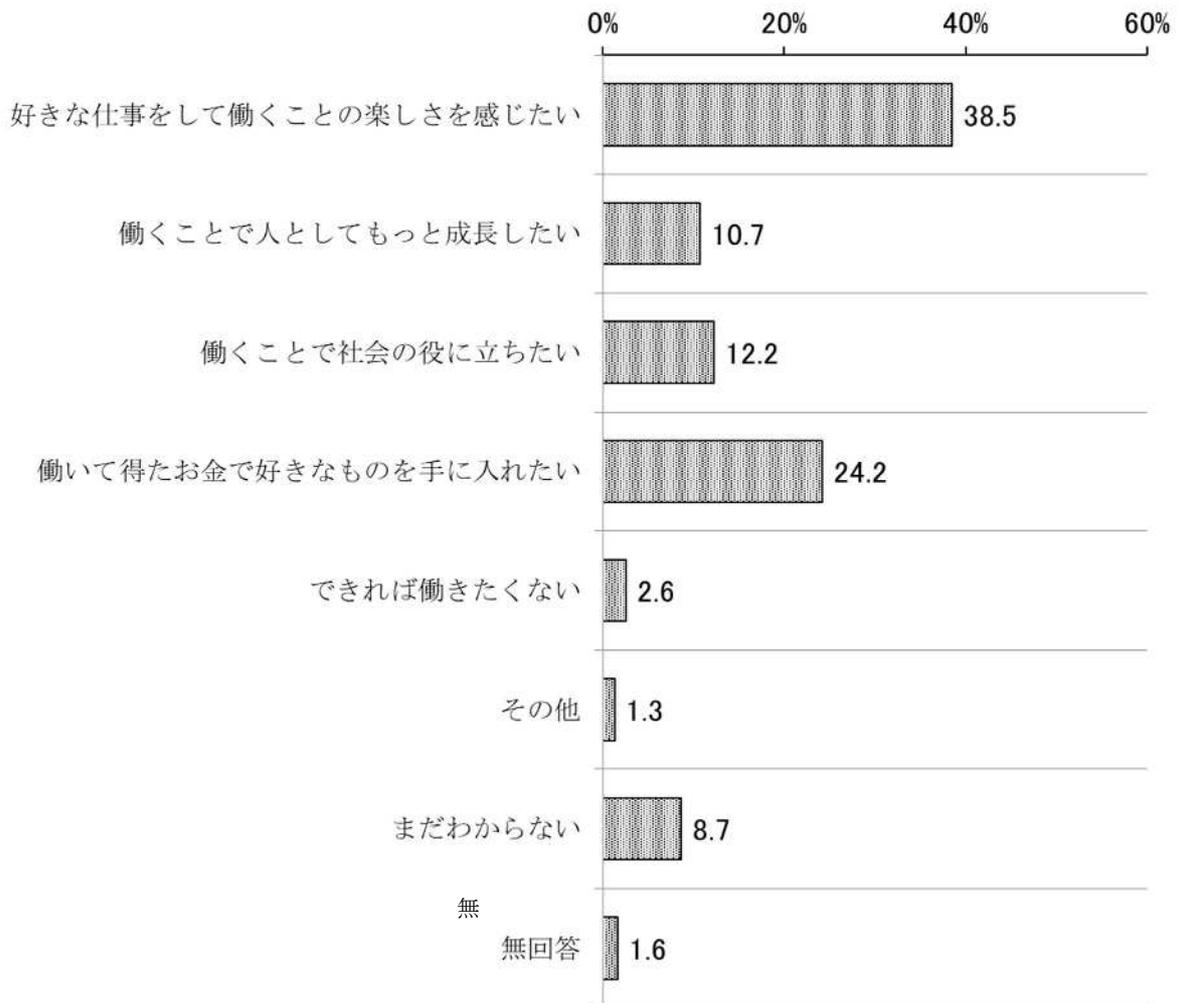
12 働くことについて

(1) 働くことについてどのように感じますか。

※次のうち3つまで回答（「その他」は自由記述あり）。

「好きな仕事をして働くことの楽しさを感じたい」が38.5%で最も高く、次いで「働いて得たお金で好きなものを手に入れたい」が24.2%、「働くことで社会の役に立ちたい」が12.2%となっています。

総数:1,637件(複数回答)



校種別の割合の差が大きかった回答を見ると、「働いて得たお金で好きなものを手に入れたい」については中学校と市立川越高等学校の割合が高く、「働くことで人としてもっと成長したい」については特別支援学校の割合が高くなっています。

校種別総数 小学校:803件 中学校:754件 市立川越高等学校:35件 特別支援学校:45件	好きな仕事をして働くことの楽しさを感じたい	働くことで人としてもっと成長したい	働くことで社会の役に立ちたい	働いて得たお金で好きなものを手に入れたい	できれば働きたくない	その他	まだわからない	無回答
小学校	39.1%	12.0%	15.4%	18.2%	1.6%	1.9%	9.0%	2.2%
中学校	38.9%	8.4%	9.3%	30.1%	3.2%	0.7%	8.8%	0.9%
市立川越高等学校	31.4%	14.3%	0.0%	40.0%	11.4%	0.0%	0.0%	2.9%
特別支援学校	26.7%	24.4%	13.3%	20.0%	2.2%	2.2%	8.9%	2.2%

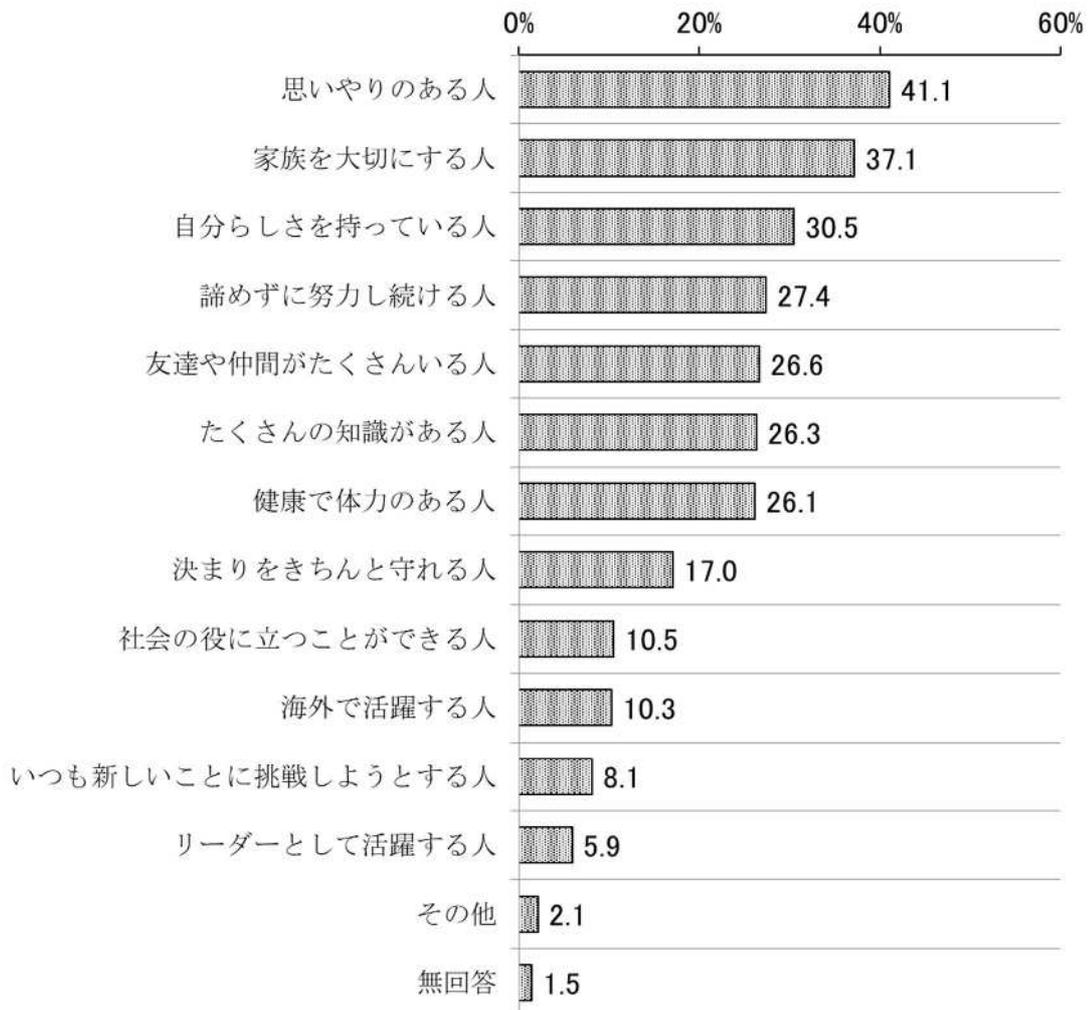
13 将来について

(1) 将来どのような大人になりたいですか。

※次のうち3つまで回答（「その他」は自由記述あり）。

「思いやりのある人」が41.1%で最も高く、次いで「家族を大切にしている人」が37.1%、「自分らしさを持っている人」が30.5%となっています。

総数:1,637件(複数回答)



校種別の割合の差が大きかった回答を見ると、「家族を大切にする人」については小学校の割合が高く、「自分らしさを持っている人」については中学校と市立川越高等学校の割合が高く、「諦めずに努力し続ける人」については特別支援学校の割合が高くなっています。

校種別総数 小学校:803件 中学校:754件 市立川越高等学校:35件 特別支援学校:45件	思いやりのある人	家族を大切に する人	自分らしさ を持っている 人	諦めずに 努力し続 ける人	友達や仲 間がたく さんいる 人	たくさん の知識が ある人	健康で体力 のある人	決まりを きちんと 守れる人	社会の役 に立つこ とができ る人	海外で活 躍する人	いつも新 しいこと に挑戦し ようとす る人	リーダー として活 躍する人	その他	無回答
小学校	38.9%	41.3%	21.2%	28.0%	26.2%	28.8%	31.1%	15.6%	8.8%	11.6%	8.7%	7.7%	1.9%	1.7%
中学校	44.4%	33.0%	41.0%	25.9%	26.9%	24.5%	20.7%	19.2%	12.5%	8.5%	7.6%	4.0%	2.4%	0.8%
市立川越高等学校	40.0%	31.4%	37.1%	31.4%	34.3%	14.3%	28.6%	8.6%	14.3%	14.3%	0.0%	8.6%	0.0%	2.9%
特別支援学校	24.4%	35.6%	15.6%	37.8%	24.4%	22.2%	26.7%	13.3%	4.4%	13.3%	13.3%	4.4%	4.4%	6.7%

14 自由記述

(1) その他、学校や勉強、友達とのことなど、考えていること、伝えたいことがあれば、どんなことでも自由に書いてください。

回収数 1637 票中 272 票に意見の記述がありました(1票の中に複数の分野にまたがる回答もあるため、各項目の回答件数の合計は 272 件より多くなっています)。以下に回答内容の中から一部を抜粋・調整し、掲載しました。

なお、272 票の内訳は、小学校 803 票中 181 票、中学校 754 票中 82 票、市立川越高等学校 35 票中 2 票、市立特別支援学校 45 票中 7 票でした。

<主な回答内容>

○友達に関すること (54 件)

- ・友達に変な子とか思われてたらどうしようという不安があります。
- ・友達に「次、あの子と喋ったら、友達やめるから。」と言われて少し嫌だったしその子と、仲がいいので、悲しかったです。
- ・仲のいい友達だけではなくもっと色々な人と接していきたい。
- ・友達は、優しくて嫌なことがあっても気軽に相談できてすごく良い。
- ・友達との関係が難しい。
- ・LINE とかメールの時は普通に話すのに学校ではあまり話さない時があります。

○先生に関すること (26 件)

- ・どんなささいなことでも相談できる先生を増やしてほしいです。
- ・先生が優しくしてくれて嬉しいし、とても感謝しています。
- ・先生の授業がつまんない。
- ・公平・公正を先生方がもっと意識してほしい。

○勉強に関すること (48 件)

- ・勉強がもっとできるようになりたい。
- ・勉強が苦手についていけないこともある。
- ・算数が苦手。
- ・授業がつまんない。いつも同じようなことばかりやっている。
- ・勉強のやる気が出ない。
- ・もっと質の高い勉強をしたい。周りの学力に合わせて勉強をするのではなく、一人ひとりの学力に合わせて勉強のレベルを変えれば、もっと勉強に対する意欲が上がると思う。また、学力が近いならば、海外に多い制度である、「飛び級」のように学年が違うとしても近い学力のクラスに入

りもっと先の勉強をしていくようなものがあってほしい。

- ・高校入試について真剣に考えたい。

○学校生活に関すること（35件）

- ・もっとより良い学校生活を送れるよう日々友達と努力し協力することを大切にしていきたいです。
- ・学校は、周りの人がささえてくれるので楽しいです。
- ・学校は楽しいと思えないから楽しいと思えるようにしてほしい。
- ・クラスの居心地が悪い クラス外での活動には生きがいを感じる。

○いじめに関すること（10件）

- ・もっといじめを減らす取り組みをしてほしい。
- ・いじめがどこかであるかもしれないと考えるとこわくなります。
- ・いじめが無くなって皆学校に行くと楽しいとか思える学校になってほしいです。
- ・もしいじめがあったら先生に伝えたい。

○学校の制度に関すること（47件）

- ・自由登下校にしていきたいです。
- ・授業時間をへらしてほしい。
- ・体育の授業をもっと増やしてほしい。
- ・教室の人数を減らしてほしい。
- ・給食の時間が短すぎる。
- ・一週間に一回オンライン授業をしてほしいです。
- ・スマホを持ってこれるようにしたい。
- ・自転車で通学したい。
- ・登校時間と下校時間を早めてほしい。
- ・他学年・他クラスとの交流を増やしてほしいです。
- ・制服で体調管理が難しい。
- ・見た目に関しての校則が多いなと思った。

○施設・設備に関すること（39件）

- ・理科の教室や体育館にエアコンを設置してほしい。
- ・エアコンを直してほしい。
- ・本が少ない。
- ・サッカーボールがほしい。
- ・網戸がほしい。
- ・遊具を増やしてほしい。
- ・トイレをすべてキレイにしてほしいです。

○将来に関すること（13件）

- ・努力する大人になりたいです。
- ・自分の夢を否定されてもその夢を叶えてよいですか。
- ・将来が不安です。
- ・高校や大学など、義務教育が終わったあと、自分は一人でちゃんと自立できるのか。
- ・サッカーの世界一になる。
- ・受験が怖いです。

○その他（41件）

- ・勉強などでわからないところや理解できないところがあったら親や近所の人達に聞いてますが、地域と、家族という安心感はとてもいいなと思いました。
- ・自分をはなしてういているきがする。
- ・親や親戚や友人が死んでしまったらどうすればよいか。自分が死にたいと思ったらどうすればいいか。
- ・はやおきしたくないです。
- ・給食がとっても美味しい。
- ・魚の骨をなくしてほしい。
- ・みんなの体、体重のさがすごくて周りの目が気になる。
- ・チャイルドラインなどに電話したいけれど勇気が出ません。
- ・個性を受け止めてほしい。
- ・親が成績が3だとだめだといいますが本当にだめなのですか。
- ・嘘をついたり騙されたりするのが嫌だ。
- ・言葉を上手く使いたい。

VI 共通設問の比較

この章では、保護者調査、教員調査、市民調査の共通または関連する設問のうち、下表の項目について比較を行いました。

項目	保護者調査	教員調査	市民調査
1 学校に期待する役割	問 2	—	問 2
2 教師に期待すること（保護者、市民） 保護者や地域の方に期待されていると思うこと（教員）	問 3	問 11	問 3
3 いじめ・不登校対策の取組の効果	問 5	問 7	—
4 教育環境の変化に対応するために取り組むべきこと	問 7	問 13	問 4
5 学校、家庭、地域の役割	問 8	問 14	問 5
6 家庭の教育力が低下している原因	問 11	問 15	問 6
7 地域の教育力についての課題	問 13	問 16	問 7
8 地域の教育力向上に必要な取組	問 14	問 17	問 8
9 協力・参加してもよいと思う行事・活動	問 15	—	問 10
10 充実させたほうが良いと思う教育施策	問 24	問 19	問 19

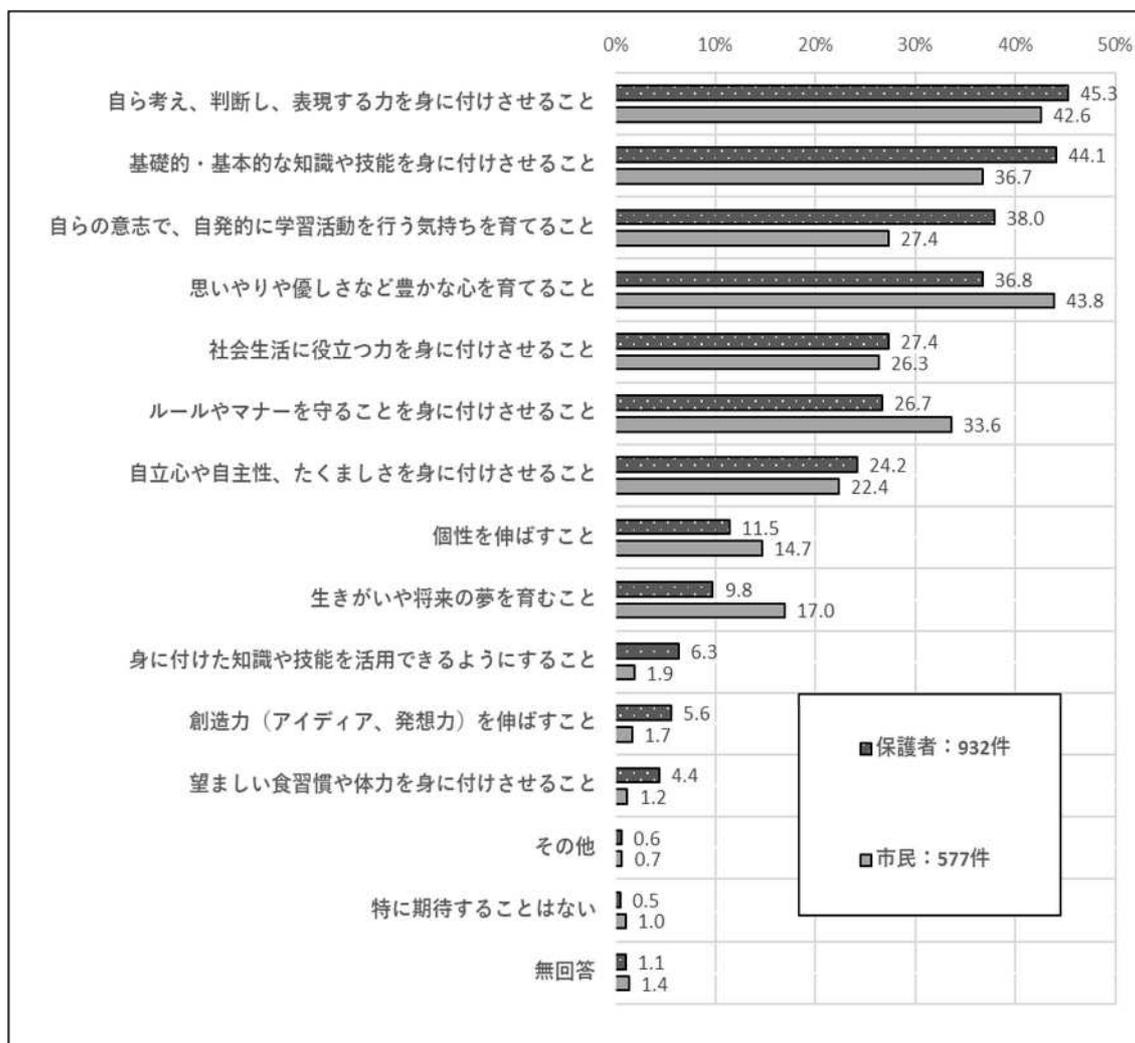
1 学校教育について

(1) 学校に期待する役割【保護者 問2】【市民 問2】

設問 小中学校が、お子さんに対してどのような役割を果たすことを期待しますか
(3つまで○)

保護者、市民とも「自ら考え、判断し、表現する力を身に付けさせること」の割合が多くなっています。

また、調査対象別の割合の差が最も大きかった回答は、「自らの意志で、自発的に学習活動を行う気持ちを育てること」であり、10.6ポイントの乖離が生じています。



(2) 教師に期待すること【保護者 問3】【市民 問3】

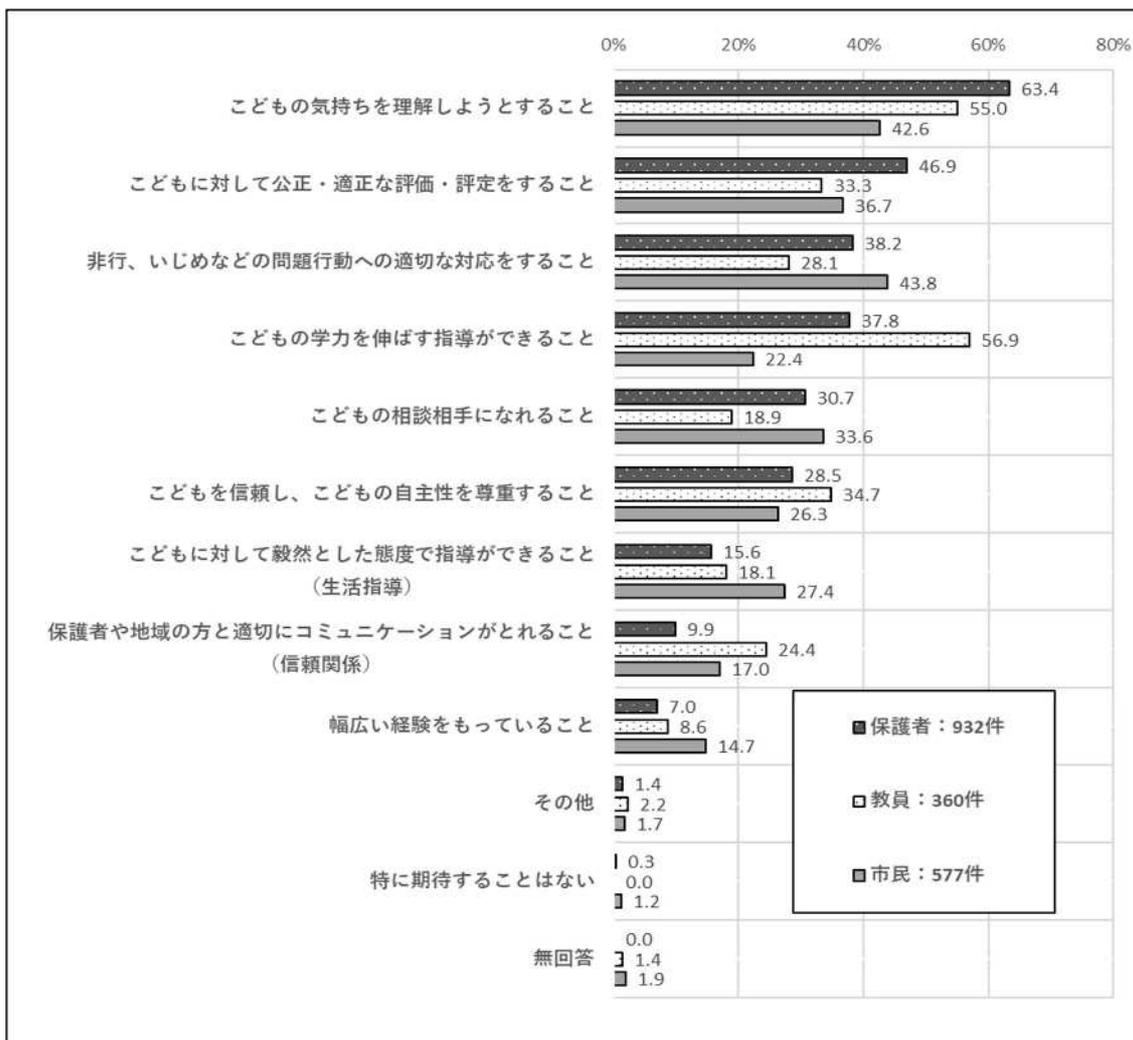
保護者や地域の方に期待されていると思うこと【教員 問11】

設問 【保護者】【市民】小中学校の教師にどのようなことを期待しますか。(3つまで○)

【教員】小中学校の教師は、保護者や地域の方にどのようなことを期待されていると思いますか。(3つまで○)

教師に期待することで、保護者は「こどもの気持ちを理解しようとする事」、市民は「非行、いじめなどの問題行動への適切な対応をすること」が最も多くなっています。一方、教師が保護者や地域の方に期待されていると思うことで、教員は「こどもの学力を伸ばす指導ができること」が最も多くなっています。

調査対象別の割合の差が最も大きかった回答は、「こどもの学力を伸ばす指導ができること」であり、教員と市民の回答割合の差異が 34.5 ポイントと、大きな乖離が生じています。



(3) いじめ・不登校対策の取組の効果【保護者 問5】【教員 問7】

設問 いじめ・不登校対策における以下の取組の効果があったと思いますか。(それぞれの項目について1つに○)

全体的な特徴として、「効果があった」は教員の割合が高くなっています。対照的に、保護者はすべての項目について「知らない」の割合が高くなっています。

また、特徴的な点として、『⑥スクールカウンセラー』について、教員・保護者ともに「効果があった」の回答率が全設問中最も高くなっています。

	各 回 答 件 数	①生徒指導推進員					②オールマイティチャー				
		効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答
保護者	932件	9.8%	23.3%	2.9%	62.3%	1.7%	9.4%	19.4%	1.8%	67.2%	2.1%
教員	360件	31.9%	31.9%	3.9%	26.9%	5.3%	36.7%	27.8%	6.4%	23.9%	5.3%

	各 回 答 件 数	③ネットパトロール					④いじめ相談電子窓口				
		効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答
保護者	932件	13.1%	20.6%	4.4%	60.8%	1.1%	10.3%	42.3%	3.5%	42.8%	1.1%
教員	360件	55.6%	25.6%	5.3%	11.9%	1.7%	30.6%	42.8%	7.8%	17.5%	1.4%

	各 回 答 件 数	⑤いじめ相談直通電話					⑥スクールカウンセラー				
		効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答
保護者	932件	11.6%	45.3%	4.1%	38.1%	1.0%	27.4%	42.5%	4.1%	25.2%	0.9%
教員	360件	28.1%	43.6%	8.1%	18.3%	1.9%	85.8%	10.6%	1.7%	0.8%	1.1%

	各 回 答 件 数	⑦さわやか相談員					⑧スクールソーシャルワーカー				
		効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答
保護者	932件	18.3%	34.5%	3.6%	38.5%	4.9%	14.3%	32.9%	2.1%	49.4%	1.3%
教員	360件	68.3%	14.7%	1.1%	8.1%	7.8%	59.7%	26.4%	1.4%	10.8%	1.7%

	各 回 答 件 数	⑨チューデントサポーター					⑩教育支援室（つばさ教室）・小学生学習支援室				
		効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答
保護者	932件	8.3%	22.7%	1.5%	66.3%	1.2%	17.4%	26.6%	1.5%	52.5%	2.0%
教員	360件	34.7%	33.9%	2.2%	25.8%	3.3%	43.6%	31.7%	1.4%	19.2%	4.2%

※『効果があった』は、「大変効果があった」と「効果があった」の合計。

『効果がない』は、「効果がない」と「全く効果がない」の合計。

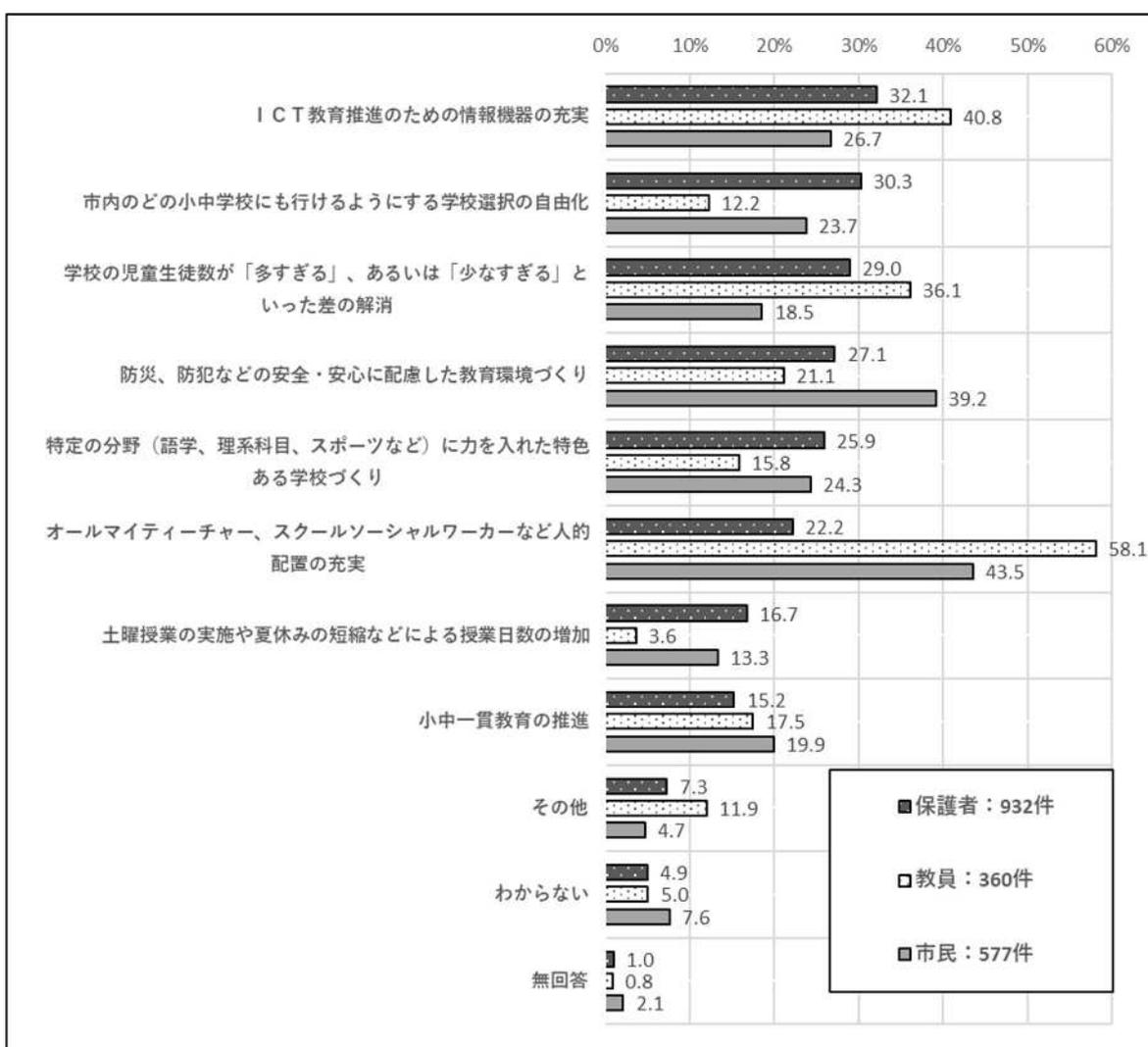
(4) 教育環境の変化に対応するために取り組むべきこと

【保護者 問7】【教員 問13】【市民 問4】

設問 学校施設の老朽化や将来的なこどもの減少など、教育環境の変化に対応していくため、川越市はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(3つまで○)

保護者は「ICT教育推進のための情報機器の充実」、「市内のどの小中学校にも行けるようにする学校選択の自由化」などの割合が高くなっています。

これに対して、教員・市民の回答で最も高い割合を占めているのは「オールマイティーチャー、スクールソーシャルワーカーなど人的配置の充実」であり、この回答について、保護者と教員の回答率の乖離は35.9ポイントと、非常に大きくなっています。



2 家庭や地域の教育について

(1) 学校、家庭、地域の役割【保護者 問8】【教員 問14】【市民 問5】

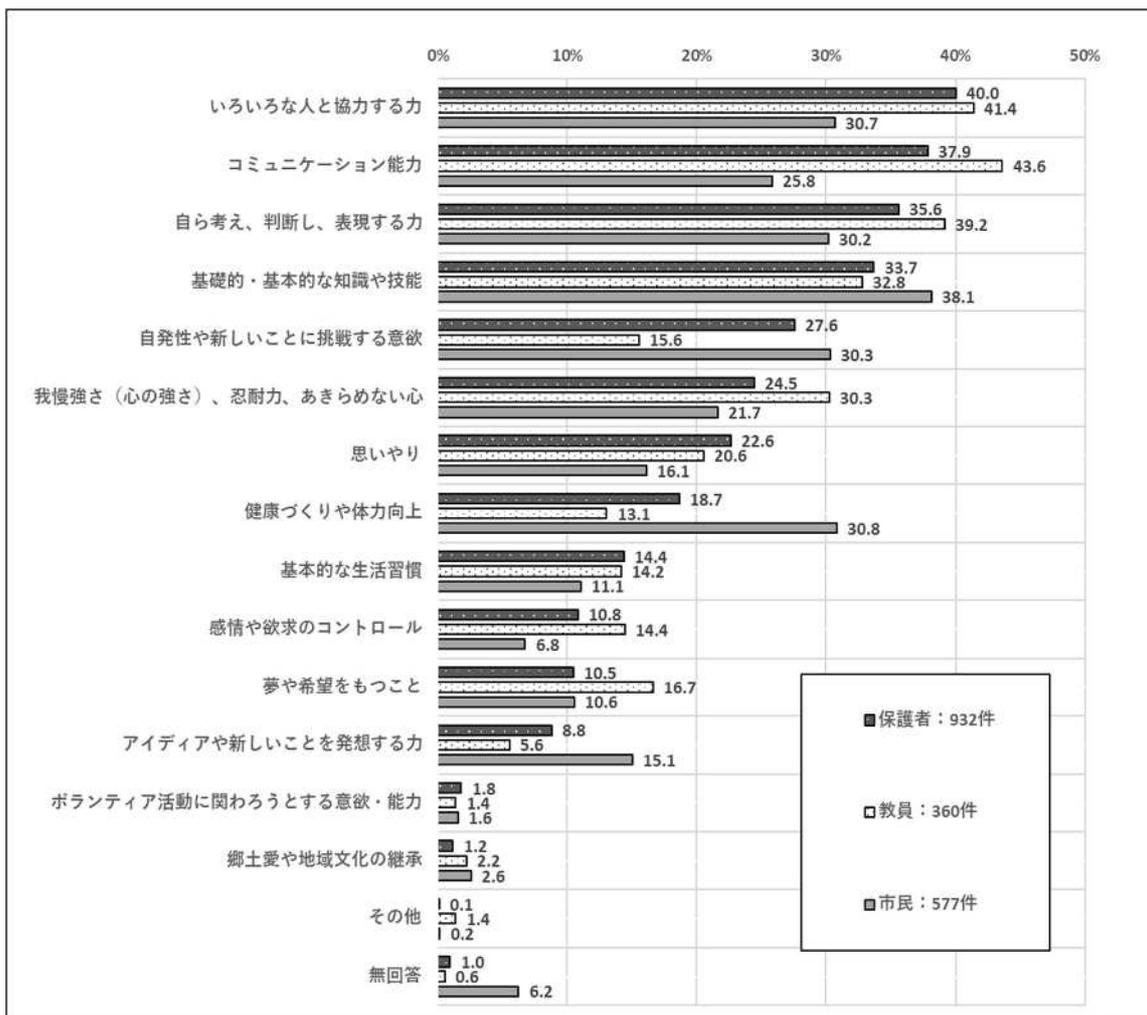
設問 学校、家庭、地域のそれぞれの役割として、こどものどのようなところを育てていくべきだとお考えですか。(特に重要であることをそれぞれ3つまで番号を選んでください)

※①学校の役割、②家庭の役割、③地域の役割のそれぞれに上記の番号を記入してください。なお、同じ番号を①、②、③にご記入いただいても構いません。

①学校の役割

保護者は「いろいろな人と協力する力」、教員は「コミュニケーション能力」、市民は「基礎的・基本的な知識や技能」が最も多くなっています。

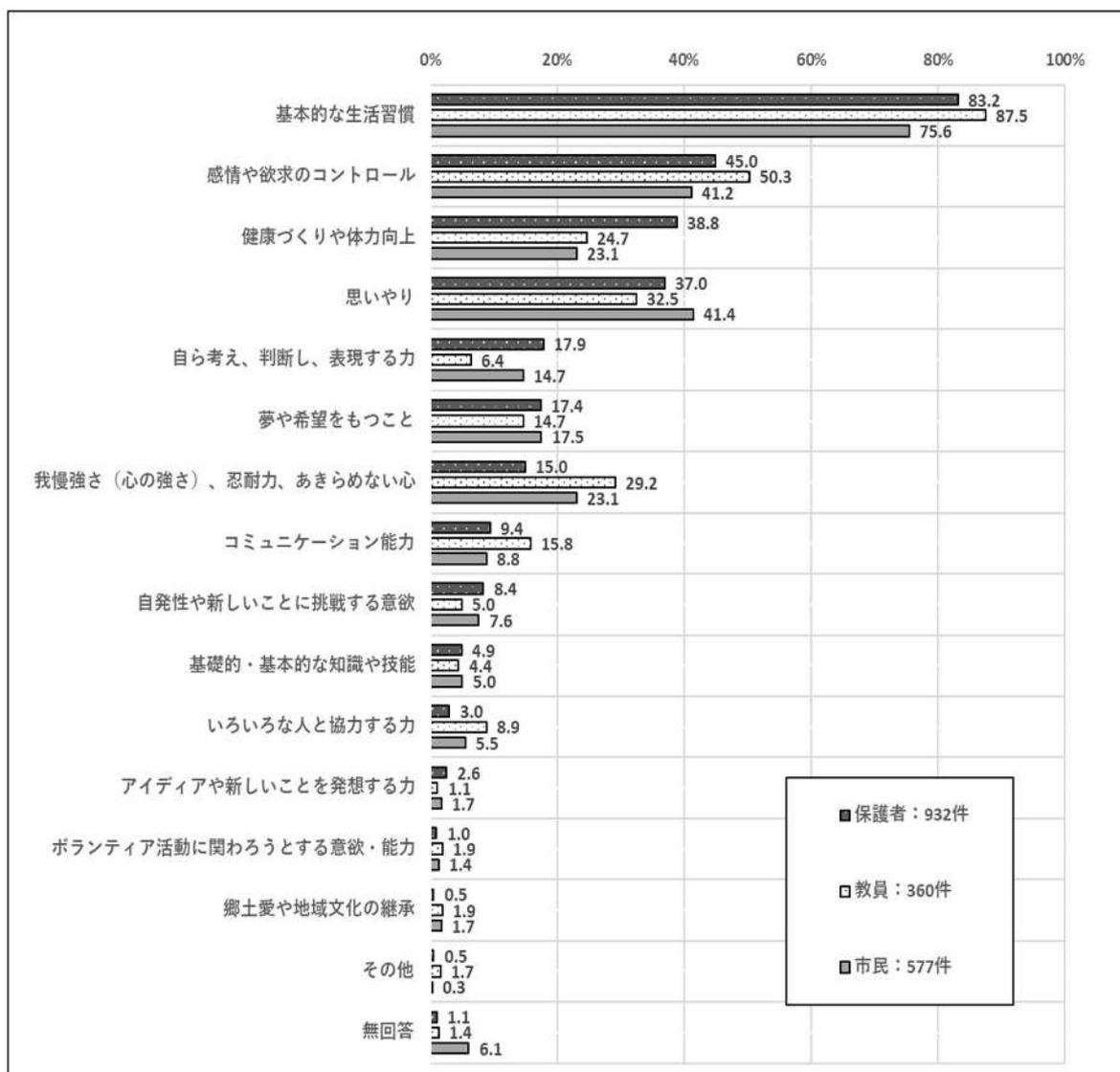
調査対象別の割合の差が大きかった回答では、市民で「健康づくりや体力向上」が30.8%と他の調査対象と比較して多くなっている一方、「コミュニケーション能力」が25.8%と他の調査対象と比較して少なくなっています。



②家庭の役割

保護者・教員・市民ともに「基本的な生活習慣」が最も多く、すべての調査対象の平均80%以上を占めています。

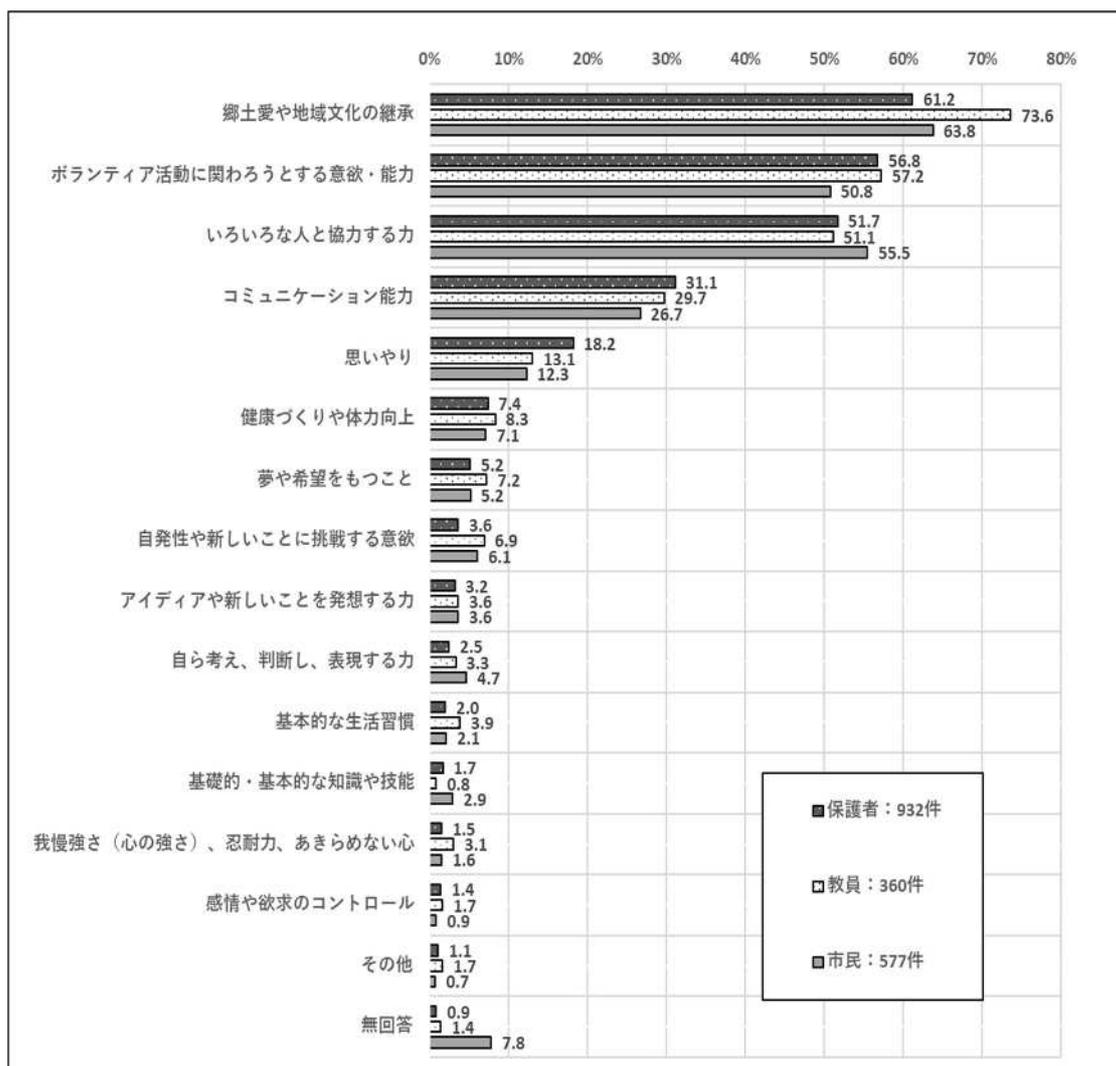
調査対象別の割合の差が大きかった回答は、「健康づくりや体力向上」であり、保護者が38.8%となっていることに対し、教員が24.7%、市民が23.1%と10ポイント以上の差が見受けられました。



③地域の役割

保護者、教員、市民とも「郷土愛や地域文化の継承」が最も多く、次いで「ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力」または「いろいろな人と協力する力」が第2位または第3位となっています。

この調査については、調査対象別の割合の差が小さく、「郷土愛や地域文化の継承」を除いた全ての質問の回答割合の差が10ポイント未満となっています。



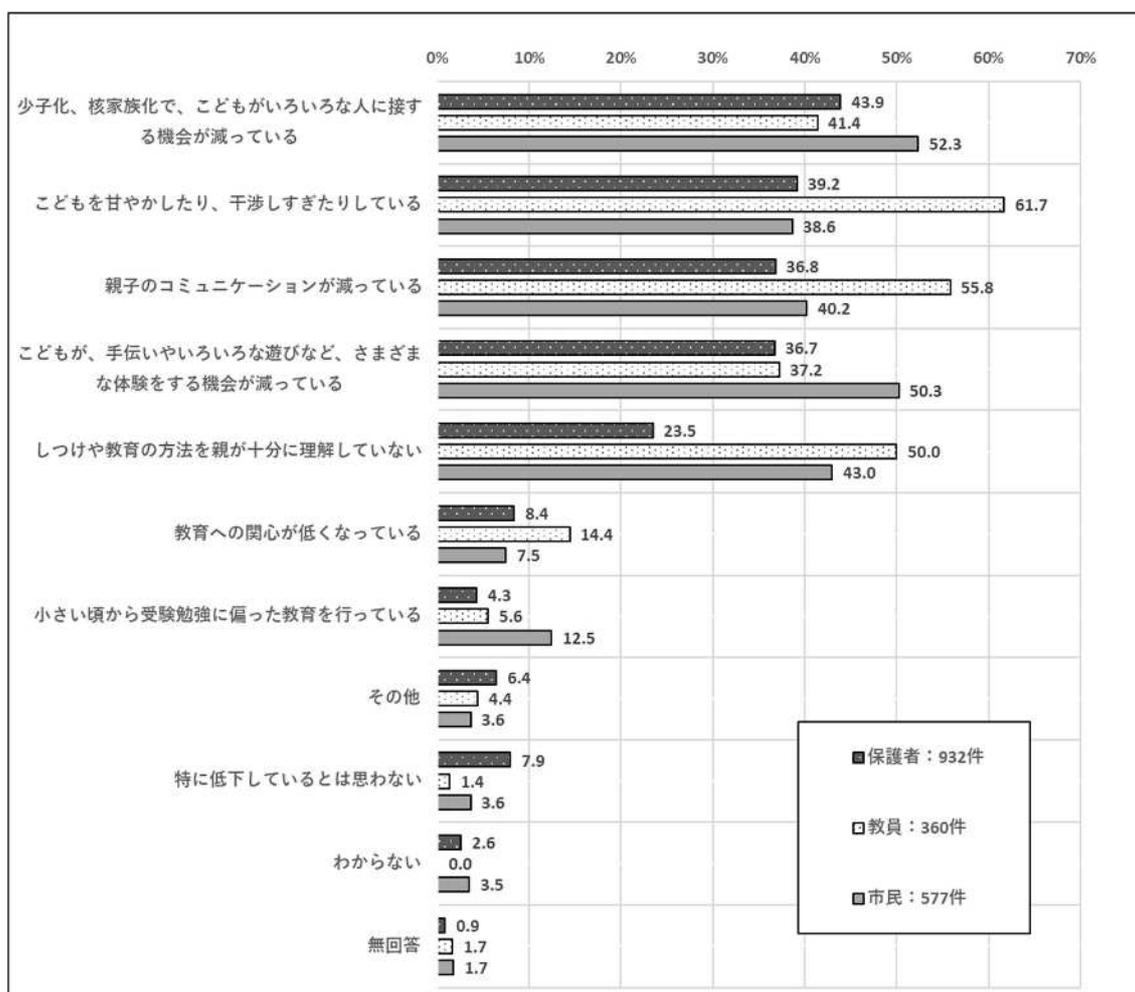
(2) 家庭の教育力が低下している原因【保護者 問11】【教員 問15】【市民 問6】

設問 家庭の教育力が一般的に低下していると言われていますが、どんなことが原因だと思えますか。(3つまで○)

※(用語説明)「家庭の教育力」とは、家庭での生活の中で必要な規範や行動能力を身に付ける教育機能のこと。

保護者、市民は「少子化、核家族化で、こどもがいろいろな人に接する機会が減っている」、教員は「こどもを甘やかしたり、干渉しすぎたりしている」が最も多くなっています。

この調査については、保護者と教員の回答の乖離が大きいことが見受けられます。「親子のコミュニケーションが減っている」の差が19ポイント、「こどもを甘やかしたり、干渉しすぎたりしている」の差が22.5ポイント、「しつけや教育の方法を親が十分に理解していない」の差が26.5ポイントとなっています。



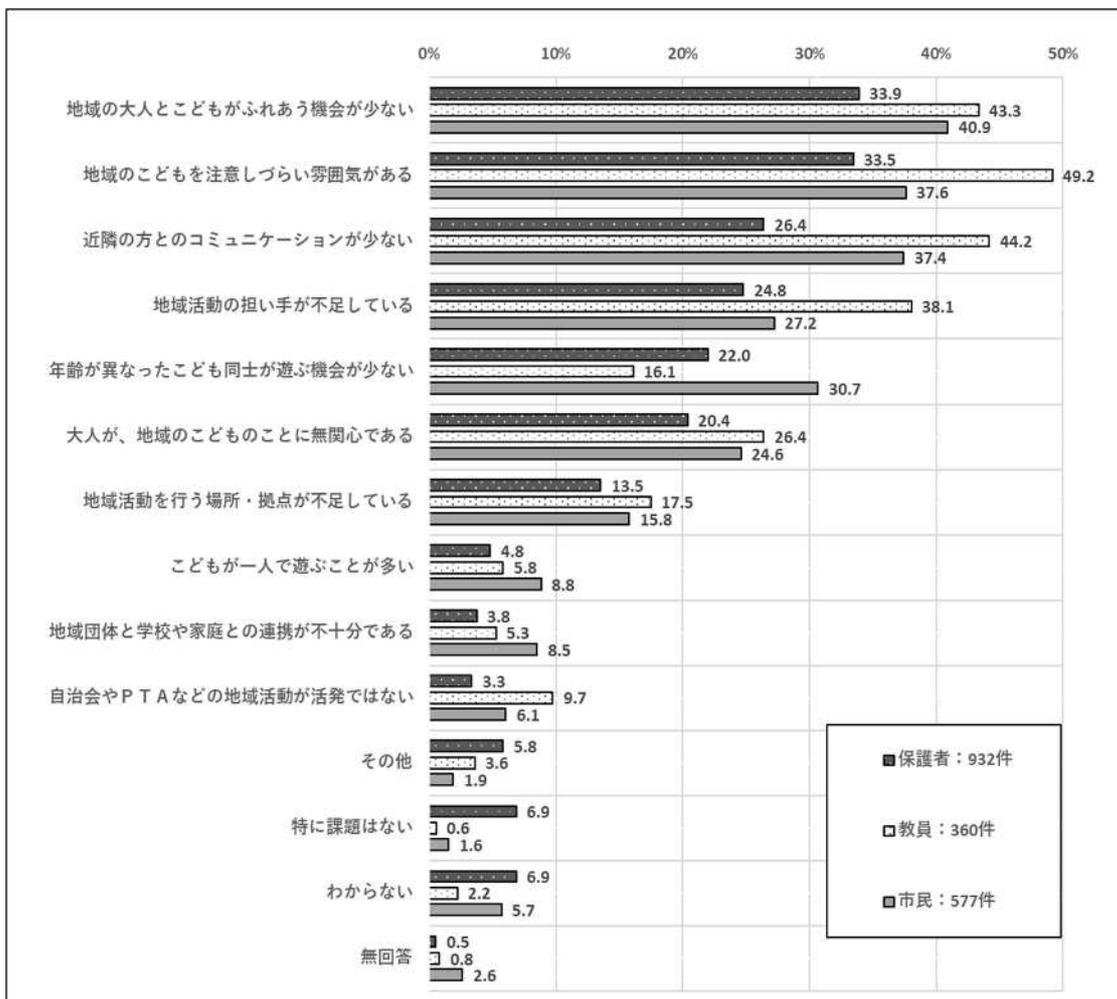
(3) 地域の教育力についての課題【保護者 問13】【教員 問16】【市民 問7】

設問 地域の教育力についてどのような課題があると思いますか。(3つまで○)

※(用語説明)「地域の教育力」とは、地域社会の中で子どもたちが大人や異年齢の友人との交流を通じたさまざまな体験などができる教育機能のこと。

保護者・市民については「地域の大人と子どもがふれあう機会が少ない」が最も多く、教員については「地域の子どもを注意しづらい雰囲気がある」が最も多くなっています。

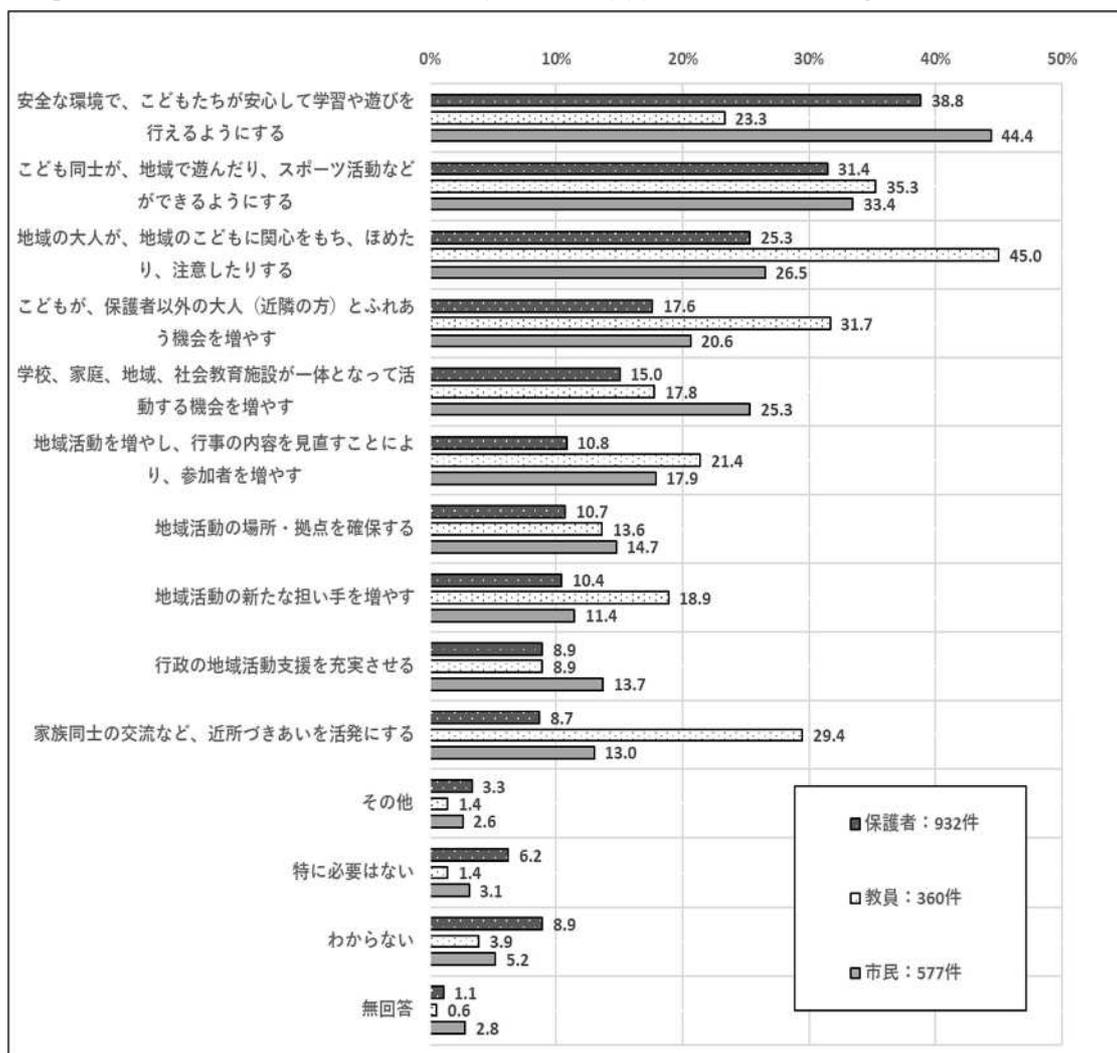
調査対象別の割合の差が大きかった回答は、「近隣の方とのコミュニケーションが少ない」及び「地域の子どもを注意しづらい雰囲気がある」であり、調査対象ごとの差異は平均で10ポイント以上となっています。



(4) 地域の教育力向上に必要な取組【保護者 問14】【教員 問17】【市民 問8】
 設問 地域の教育力を高めるためにどのような取組が必要だと思いますか。(3つまで○)

この調査の回答においては、保護者及び市民の回答割合の平均と、教員の回答割合の差異が大きいことが見受けられます。

特に、「地域の大人が、地域のこどもに関心を持ち、ほめたり、注意したりする」については19.1ポイント差、「家族同士の交流など、近所づきあいを活発にする」については18.5ポイント差、「安全な環境で、こどもたちが安心して学習や遊びを行えるようにする」については18.3ポイント差と、大きな乖離が生じています。



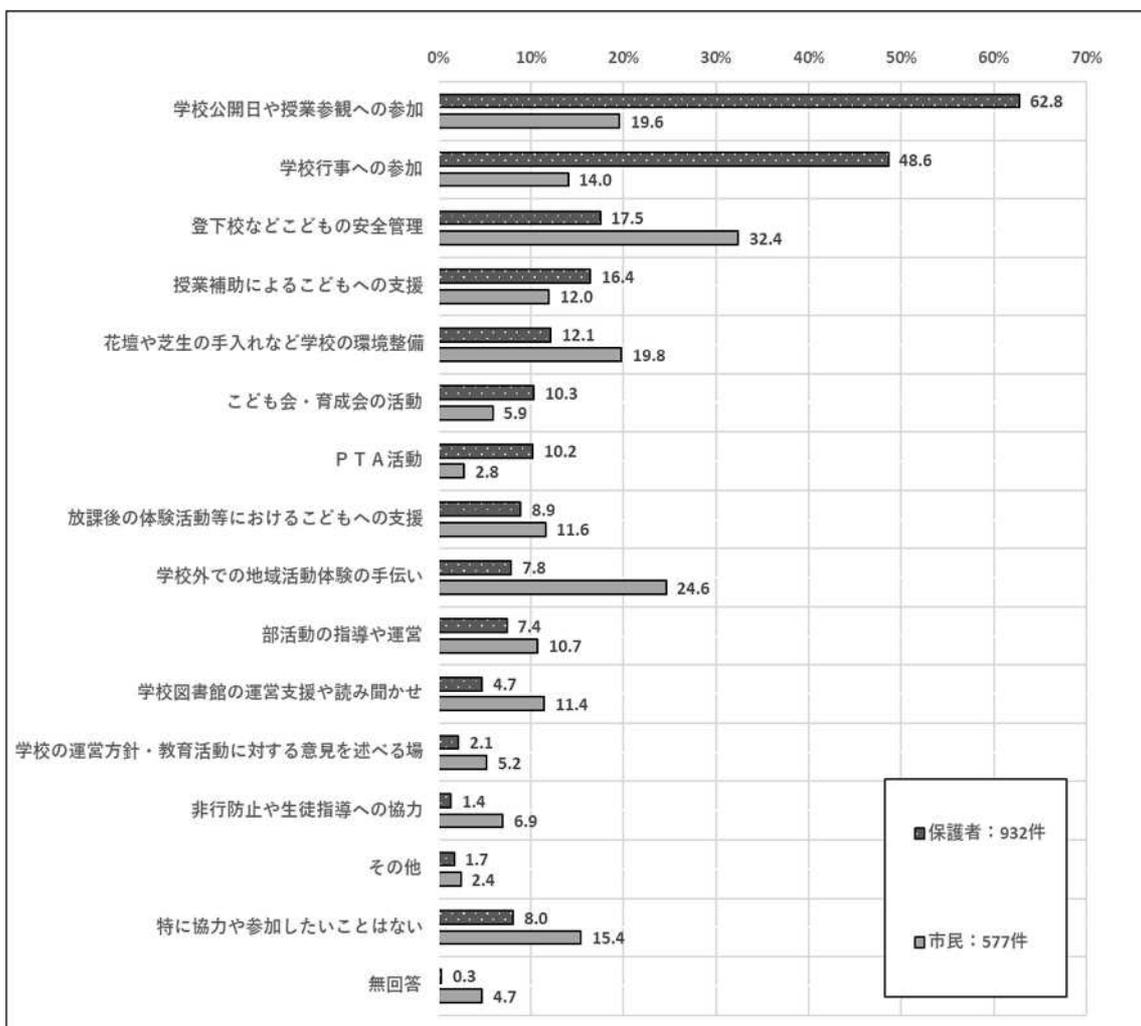
(5) 協力・参加してもよいと思う行事・活動【保護者 問 15】【市民 問 10】

設問 次のような行事・活動の中で今後、あなたが学校と協力したり、参加したりしてもよいと思われるものはありますか。(3つまで○)

保護者は「学校公開日や授業参観への参加」、次いで「学校行事への参加」が多くなっています。

市民は「登下校などこどもの安全管理」、次いで「学校外での地域活動体験の手伝い」が多くなっています。

全体的にこの調査の回答においては、保護者と市民の回答率の乖離が大きい点が多く見受けられます。



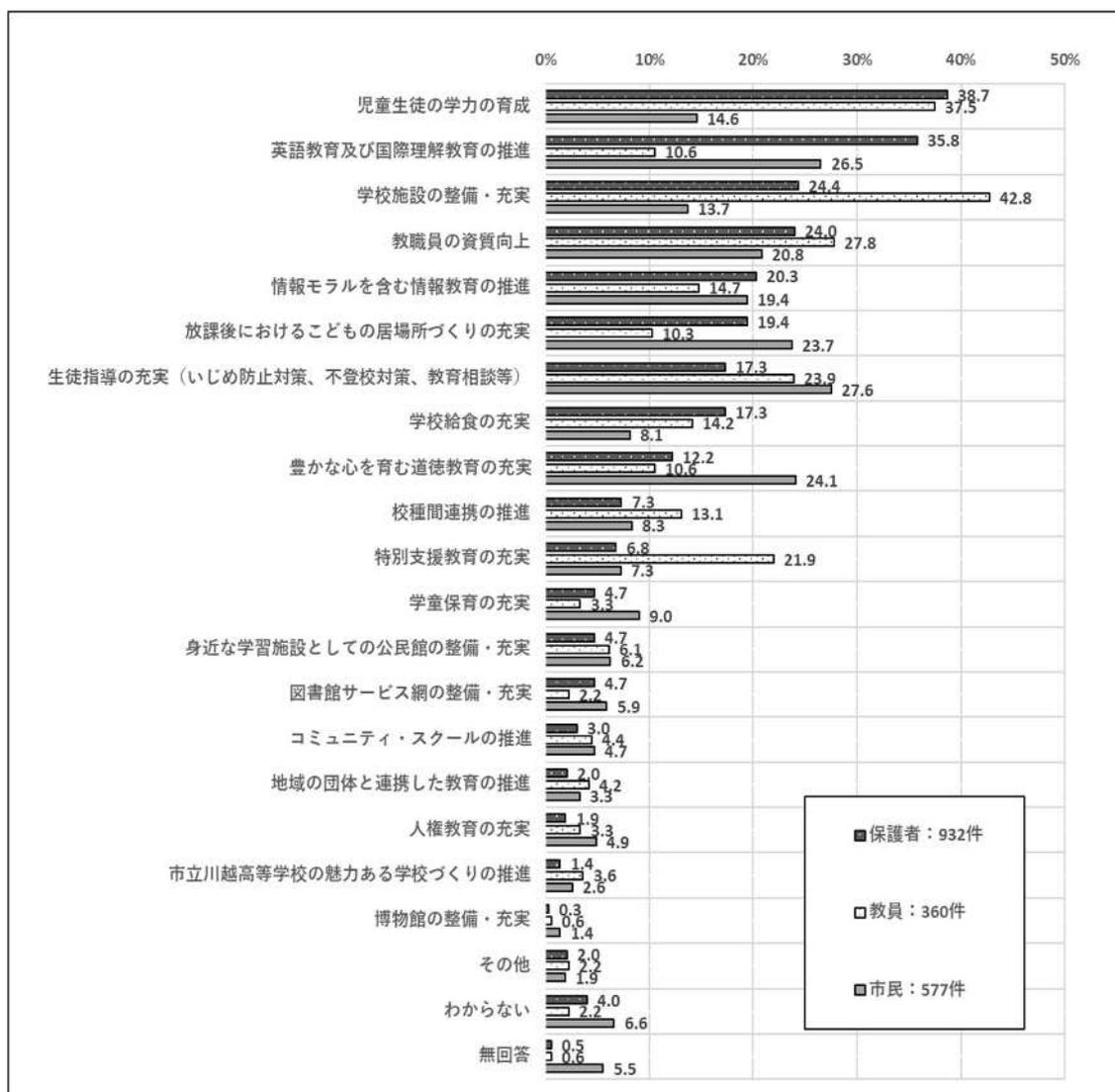
3 教育施策について

(1) 充実させたほうが良いと思う教育施策【保護者 問24】【教員 問19】【市民 問19】

設問 川越市が現在取り組んでいる以下の教育施策において、あなたが充実させたほうが良いと思うものはありますか。(3つまで○)

保護者は「児童生徒の学力の育成」、教員は「学校施設の整備・充実」、市民は「生徒指導の充実(いじめ防止対策、不登校対策、教育相談等)」が最も多く、ばらつきが見られます。

調査対象別の割合の差が大きかった回答として「学校施設の整備・充実」では教員の回答割合が高いものの、市民の回答割合が低く、乖離が29.1ポイントと大きくなっています。次いで、「英語教育及び国際理解教育の推進」については、保護者の回答割合が高いものの、教員の回答割合が低く、乖離が25.2ポイントとなっています。



Ⅶ 令和元年度の調査結果との比較

この章では、保護者調査、教員調査、市民調査の共通または関連する下記の設問について、令和元年度に行われた調査結果と、今回（令和6年度）の調査結果の比較を行いました。

※なお、令和元年度に行われた調査では、児童生徒調査を実施していないため、比較対象外としています。

項目	保護者調査	教員調査	市民調査
1 学校に期待する役割	問2	—	問2
2 教師に期待すること（保護者、市民） 保護者や地域の方に期待されていると思うこと（教員）	問3	問11	問3
3 いじめ・不登校対策の取組の効果	問5	問7	—
4 教育環境の変化に対応するために取り組むべきこと	問7	問13	問4
5 学校、家庭、地域の役割	問8	問14	問5
6 家庭の教育力が低下している原因	問11	問15	問6
7 地域の教育力についての課題	問13	問16	問7
8 地域の教育力向上に必要な取組	問14	問17	問8
9 協力・参加してもよいと思う行事・活動	問15	—	問10
10 充実させたほうが良いと思う教育施策	問24	問19	問19

1 学校教育について

(1) 学校に期待する役割【保護者 問2】【市民 問2】

設問 小中学校が、お子さんに対してどのような役割を果たすことを期待しますか。(3つまで)

当設問においては、変化の値が10ポイントを超える回答が無く、5年間の意識の変化は比較的小さいことが見受けられます。

特徴的な点としては、保護者の「基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせること」の意識の変化の値が8.7%と最も大きく、回答率の順位も、2番目に高くなっている点が挙げられます。このことから、保護者が学校に期待する役割として、「基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせること」がより重要視されていることが見受けられます。

調査対象者：保護者	自ら考え、判断し、表現する力を身に付けさせること	基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせること	自らの意志で、自発的に学習活動を行う気持ちを育てること	思いやりや優しさなど豊かな心を育てること	社会生活に役立つ力を身に付けさせること	ルールやマナーを守ることを身に付けさせること	自立心や自主性、たくましさ身に付けさせること	個性を伸ばすこと	生きがいや将来の夢を育むこと	身に付けた知識や技能を活用できるようにすること	創造力（アイデア、発想力）を伸ばすこと	望ましい食習慣や体力を身に付けさせること	その他	特に期待することはない	無回答
令和元年度 令和6年度	38.6%	35.4%	32.9%	41.3%	22.9%	28.6%	23.2%	10.4%	11.8%	5.0%	6.5%	2.8%	1.1%	0.6%	8.3%
令和元年度	45.3%	44.1%	38.0%	36.8%	27.4%	26.7%	24.2%	11.5%	9.8%	6.3%	5.6%	4.4%	0.6%	0.5%	1.1%
5年間の変化の値	+6.7%	+8.7%	+5.1%	△4.5%	+4.5%	△1.9%	+1.1%	+1.1%	△2.1%	+1.4%	△0.9%	+1.6%	△0.4%	△0.0%	△7.3%
調査対象者：市民	自ら考え、判断し、表現する力を身に付けさせること	基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせること	自らの意志で、自発的に学習活動を行う気持ちを育てること	思いやりや優しさなど豊かな心を育てること	社会生活に役立つ力を身に付けさせること	ルールやマナーを守ることを身に付けさせること	自立心や自主性、たくましさ身に付けさせること	個性を伸ばすこと	生きがいや将来の夢を育むこと	身に付けた知識や技能を活用できるようにすること	創造力（アイデア、発想力）を伸ばすこと	望ましい食習慣や体力を身に付けさせること	その他	特に期待することはない	無回答
令和元年度 令和6年度	39.2%	33.2%	20.7%	49.5%	18.5%	41.6%	18.5%	12.1%	16.5%	4.2%	11.5%	9.3%	1.4%	1.4%	2.4%
令和元年度	43.3%	36.9%	24.6%	44.0%	22.4%	35.4%	19.8%	13.5%	14.4%	6.4%	9.5%	6.6%	0.7%	1.0%	1.4%
5年間の変化の値	+4.1%	+3.7%	+3.9%	△4.5%	+3.8%	△6.3%	+1.2%	+1.4%	△2.1%	+2.2%	△1.9%	△2.7%	△0.7%	△0.4%	△1.0%

(2) 教師に期待すること【保護者 問3】【市民 問3】

保護者や地域の方に期待されていると思うこと【教員 問11】

設問【保護者】【市民】小中学校の教師にどのようなことを期待しますか。(3つまで○)

【教員】小中学校の教師は、保護者や地域の方にどのようなことを期待されていると思いますか。(3つまで○)

保護者及び市民については、変化の値が10ポイントを超える回答が無く、5年間の意識の変化は比較的小さいことが見受けられます。

教員は、「非行、いじめなどの問題行動への適切な対応をすること」、「こどもの学力を伸ばす指導ができること」、「こどもを信頼し、こどもの自主性を尊重すること」について、変化の値が10ポイントを超えており、大きな意識の変化があることが見受けられます。

調査対象者：保護者	こどもの気持ちを理解しようとする こと	こどもに対して公正・適正な評価・ 評定をすること	非行、いじめなどの問題行動への 適切な対応をすること	こどもの学力を伸ばす指導が できること	こどもの相談相手になれる こと	こどもを信頼し、こどもの自主性を 尊重すること	こどもに対して毅然とした態度で指 導ができること (生活指導)	保護者や地域の方と適切にコミュニ ケーションがとれること (信頼関係)	幅広い経験をもっていること	その他	特に期待 することは ない	無回答
令和元年度：1,595件 令和6年度：932件												
令和元年度	57.5%	47.1%	41.4%	41.0%	27.3%	26.6%	15.9%	11.5%	8.9%	1.2%	0.8%	0.6%
令和6年度	63.4%	46.9%	38.2%	37.8%	30.7%	28.5%	15.6%	9.9%	7.0%	1.4%	0.3%	0.0%
5年間の変化の値	+5.9%	△0.3%	△3.2%	△3.2%	+3.4%	+1.9%	△0.4%	△1.6%	△1.9%	+0.2%	△0.4%	△0.6%
調査対象者：教員	こどもの気持ちを理解しようとする こと	こどもに対して公正・適正な評価・ 評定をすること	非行、いじめなどの問題行動への 適切な対応をすること	こどもの学力を伸ばす指導が できること	こどもの相談相手になれる こと	こどもを信頼し、こどもの自主性を 尊重すること	こどもに対して毅然とした態度で指 導ができること (生活指導)	保護者や地域の方と適切にコミュニ ケーションがとれること (信頼関係)	幅広い経験をもっていること	その他	特に期待 することは ない	無回答
令和元年度：314件 令和6年度：360件												
令和元年度	58.0%	28.7%	44.9%	68.2%	12.4%	22.3%	23.6%	19.7%	6.4%	1.3%	0.0%	1.6%
令和6年度	55.0%	33.3%	28.1%	56.9%	18.9%	34.7%	18.1%	24.4%	8.6%	2.2%	0.0%	1.4%
5年間の変化の値	△3.0%	+4.7%	△16.8%	△11.2%	+6.5%	+12.4%	△5.5%	+4.7%	+2.2%	+0.9%	+0.0%	△0.2%
調査対象者：市民	こどもの気持ちを理解しようとする こと	こどもに対して公正・適正な評価・ 評定をすること	非行、いじめなどの問題行動への 適切な対応をすること	こどもの学力を伸ばす指導が できること	こどもの相談相手になれる こと	こどもを信頼し、こどもの自主性を 尊重すること	こどもに対して毅然とした態度で指 導ができること (生活指導)	保護者や地域の方と適切にコミュニ ケーションがとれること (信頼関係)	幅広い経験をもっていること	その他	特に期待 することは ない	無回答
令和元年度：497件 令和6年度：577件												
令和元年度	34.6%	37.6%	50.3%	17.9%	32.4%	28.2%	28.6%	20.5%	14.9%	3.2%	1.2%	2.2%
令和6年度	42.6%	36.7%	43.8%	22.4%	33.6%	26.3%	27.4%	17.0%	14.7%	1.7%	1.2%	1.9%
5年間の変化の値	+8.0%	△0.9%	△6.5%	+4.4%	+1.2%	△1.8%	△1.2%	△3.5%	△0.2%	△1.5%	+0.0%	△0.3%

(3) - 1 いじめ・不登校対策の取組の効果【保護者 問5】

設問 いじめ・不登校対策における以下の取組の効果があったと思いますか。(それぞれの項目について1つに○)

保護者の特徴としては、全ての項目について、5年間の変化の値が10ポイントを下回っていることから、5年間の間の意識の変化が小さいことが見受けられます。

調査対象者：保護者 令和元年度：1,595件 令和6年度：932件	①生徒指導推進員					②オールマイティーチャー				
	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答
令和元年度	10.5%	27.1%	3.1%	56.6%	2.7%	9.8%	24.3%	2.4%	60.9%	2.4%
令和6年度	9.8%	23.3%	2.9%	62.3%	1.7%	9.4%	19.4%	1.8%	67.2%	2.1%
5年間の変化の値	△ 0.8%	△ 3.8%	△ 0.2%	+5.8%	△ 1.0%	△ 0.4%	△ 4.9%	△ 0.6%	+6.2%	△ 0.3%

調査対象者：保護者 令和元年度：1,595件 令和6年度：932件	③ネットパトロール					④いじめ相談電子窓口				
	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答
令和元年度	9.3%	24.8%	3.6%	59.5%	2.8%	11.7%	35.8%	3.9%	46.1%	2.5%
令和6年度	13.1%	20.6%	4.4%	60.8%	1.1%	10.3%	42.3%	3.5%	42.8%	1.1%
5年間の変化の値	+3.7%	△ 4.2%	+0.8%	+1.3%	△ 1.7%	△ 1.4%	+6.5%	△ 0.3%	△ 3.3%	△ 1.4%

調査対象者：保護者 令和元年度：1,595件 令和6年度：932件	⑤いじめ相談直通電話					⑥スクールカウンセラー				
	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答
令和元年度	13.5%	41.6%	3.9%	38.2%	2.7%	23.4%	37.5%	3.9%	32.5%	2.6%
令和6年度	11.6%	45.3%	4.1%	38.1%	1.0%	27.4%	42.5%	4.1%	25.2%	0.9%
5年間の変化の値	△ 2.0%	+3.6%	+0.2%	△ 0.2%	△ 1.7%	+3.9%	+5.0%	+0.2%	△ 7.3%	△ 1.8%

調査対象者：保護者	⑦さわやか相談員					⑧スクールソーシャルワーカー				
	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答
令和元年度：1,595件 令和6年度：932件										
令和元年度	21.0%	35.2%	3.2%	38.2%	2.4%	11.0%	29.8%	1.9%	54.7%	2.5%
令和6年度	18.3%	34.5%	3.6%	38.5%	4.9%	14.3%	32.9%	2.1%	49.4%	1.3%
5年間の変化の値	△ 2.7%	△ 0.6%	+0.5%	+0.3%	+2.6%	+3.2%	+3.1%	+0.3%	△ 5.4%	△ 1.2%

調査対象者：保護者	⑨スチューデントサポーター					⑩教育支援室（つばさ教室）・小学生学習支援室				
	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答
令和元年度：1,595件 令和6年度：932件										
令和元年度	7.1%	24.1%	2.1%	64.2%	2.5%	13.0%	25.0%	2.3%	57.6%	2.3%
令和6年度	8.3%	22.7%	1.5%	66.3%	1.2%	17.4%	26.6%	1.5%	52.5%	2.0%
5年間の変化の値	+1.2%	△ 1.4%	△ 0.6%	+2.1%	△ 1.3%	+4.4%	+1.7%	△ 0.8%	△ 5.1%	△ 0.2%

※『効果があった』は、「大変効果があった」と「効果があった」の合計。

『効果がない』は、「効果がない」と「全く効果がない」の合計。

※前回調査と重複しない一部調査については比較対象外とする。

(3) - 2 いじめ・不登校対策の取組の効果【教員 問7】

設問 いじめ・不登校対策における以下の取組の効果があったと思いますか。(それぞれの項目について1つに○)

特徴的な点として、『③ネットパトロール』について「効果があった」がプラス15.7ポイント、「知らない」がマイナス16.1ポイントと、大きく変動しており、この取組については、ここ5年間で効果的であるという認識が強まっていることが見受けられます。また、『④いじめ相談電子窓口』についても、同様の傾向があると見受けられます。

もう一つの特徴として、『①生徒指導推進員』及び『②オールマイティーチャーター』の「効果があった」の回答がそれぞれマイナス16.8ポイント、マイナス5.1ポイントと、減少している点が挙げられます。これらの取組については、保護者の「知らない」の回答率が共に増加していることもあり、ここ5年間で効果的であるという認識が弱まっていることが見受けられます。

調査対象者：教員 令和元年度：314件 令和6年度：360件	①生徒指導推進員					②オールマイティーチャーター				
	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答
令和元年度	48.7%	27.4%	3.2%	18.2%	2.5%	41.7%	26.1%	3.5%	23.6%	5.1%
令和6年度	31.9%	31.9%	3.9%	26.9%	5.3%	36.7%	27.8%	6.4%	23.9%	5.3%
5年間の変化の値	△ 16.8%	+4.6%	+0.7%	+8.8%	+2.7%	△ 5.1%	+1.7%	+2.9%	+0.3%	+0.2%

調査対象者：教員 令和元年度：314件 令和6年度：360件	③ネットパトロール					④いじめ相談電子窓口				
	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答
令和元年度	39.8%	26.4%	2.5%	28.0%	3.2%	23.2%	41.1%	3.2%	28.3%	4.1%
令和6年度	55.6%	25.6%	5.3%	11.9%	1.7%	30.6%	42.8%	7.8%	17.5%	1.4%
5年間の変化の値	+15.7%	△ 0.9%	+2.7%	△ 16.1%	△ 1.5%	+7.3%	+1.7%	+4.6%	△ 10.8%	△ 2.8%

調査対象者：教員 令和元年度：314件 令和6年度：360件	④いじめ相談電子窓口					⑥スクールカウンセラー				
	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答
令和元年度	23.2%	41.1%	3.2%	28.3%	4.1%	79.6%	13.7%	2.9%	2.9%	1.0%
令和6年度	30.6%	42.8%	7.8%	17.5%	1.4%	85.8%	10.6%	1.7%	0.8%	1.1%
5年間の変化の値	+7.3%	+1.7%	+4.6%	△ 10.8%	△ 2.8%	+6.2%	△ 3.1%	△ 1.2%	△ 2.0%	+0.2%

調査対象者：教員 令和元年度：314件 令和6年度：360件	⑦さわやか相談員					⑧スクールソーシャルワーカー				
	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答
令和元年度	69.4%	17.2%	1.9%	8.9%	2.5%	63.4%	21.0%	3.5%	8.9%	3.2%
令和6年度	68.3%	14.7%	1.1%	8.1%	7.8%	59.7%	26.4%	1.4%	10.8%	1.7%
5年間の変化の値	△ 1.1%	△ 2.5%	△ 0.8%	△ 0.9%	+5.2%	△ 3.7%	+5.4%	△ 2.1%	+1.9%	△ 1.5%

調査対象者：教員 令和元年度：314件 令和6年度：360件	⑨スチューデントサポーター					⑩教育支援室（つばさ教室）・小学生学習支援室				
	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答	効果があった	どちらでもない	効果がない	知らない	無回答
令和元年度	30.9%	31.5%	4.5%	27.7%	5.4%	44.3%	30.3%	1.9%	20.1%	3.5%
令和6年度	34.7%	33.9%	2.2%	25.8%	3.3%	43.6%	31.7%	1.4%	19.2%	4.2%
5年間の変化の値	+3.8%	+2.4%	△ 2.2%	△ 1.9%	△ 2.1%	△ 0.7%	+1.4%	△ 0.5%	△ 0.9%	+0.7%

※『効果があった』は、「大変効果があった」と「効果があった」の合計。

『効果がない』は、「効果がない」と「全く効果がない」の合計。

※前回調査と重複しない一部調査については比較対象外とする。

(4) 教育環境の変化に対応するために取り組むべきこと

【保護者 問7】【教員 問13】【市民 問4】

設問 学校施設の老朽化や将来的な子どもの減少など、教育環境の変化に対応していくため、川越市はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(3つまで○)

保護者・市民について、変化の値が最も大きい回答は「土曜授業の実施や夏休みの短縮などによる授業日数の増加」であり、保護者は13.5ポイント、市民は7.6ポイント減少しています。

教員について、変化の値が最も大きい回答は「オールマイティーチャー、スクールソーシャルワーカーなど人的配置の充実」であり、取り組むべきであるという回答率自体は依然高いものの、5年前と比べ、7.5ポイント減少しています。

調査対象者：保護者		ICT教育推進のための情報機器の充実	市内のどの小中学校にも行けるようになる学校選択の自由化	学校の児童生徒数が「多すぎる」、あるいは「少なすぎる」といった差の解消	防災、防犯などの安全・安心に配慮した教育環境づくり	特定の分野(語学、理系科目、スポーツなど)に力を入れた特色ある学校づくり	オールマイティーチャー、スクールソーシャルワーカーなど人的配置の充実	土曜授業の実施や夏休みの短縮などによる授業日数の増加	小中一貫教育の推進	その他	わからない	無回答
令和元年度	令和6年度											
令和元年度	25.8%	26.5%	26.7%	31.5%	22.8%	18.9%	30.3%	18.3%	5.5%	5.2%	1.9%	
令和6年度	32.1%	30.3%	29.0%	27.1%	25.9%	22.2%	16.7%	15.2%	7.3%	4.9%	1.0%	
5年間の変化の値	+6.3%	+3.8%	+2.3%	△4.4%	+3.0%	+3.3%	△13.5%	△3.1%	+1.8%	△0.3%	△1.0%	
調査対象者：教員		ICT教育推進のための情報機器の充実	市内のどの小中学校にも行けるようになる学校選択の自由化	学校の児童生徒数が「多すぎる」、あるいは「少なすぎる」といった差の解消	防災、防犯などの安全・安心に配慮した教育環境づくり	特定の分野(語学、理系科目、スポーツなど)に力を入れた特色ある学校づくり	オールマイティーチャー、スクールソーシャルワーカーなど人的配置の充実	土曜授業の実施や夏休みの短縮などによる授業日数の増加	小中一貫教育の推進	その他	わからない	無回答
令和元年度	令和6年度											
令和元年度	43.9%	8.6%	36.9%	22.6%	13.7%	65.6%	2.9%	18.2%	14.3%	1.6%	1.0%	
令和6年度	40.8%	12.2%	36.1%	21.1%	15.8%	58.1%	3.6%	17.5%	11.9%	5.0%	0.8%	
5年間の変化の値	△3.1%	+3.6%	△0.8%	△1.5%	+2.1%	△7.5%	+0.7%	△0.7%	△2.4%	+3.4%	△0.1%	
調査対象者：市民		ICT教育推進のための情報機器の充実	市内のどの小中学校にも行けるようになる学校選択の自由化	学校の児童生徒数が「多すぎる」、あるいは「少なすぎる」といった差の解消	防災、防犯などの安全・安心に配慮した教育環境づくり	特定の分野(語学、理系科目、スポーツなど)に力を入れた特色ある学校づくり	オールマイティーチャー、スクールソーシャルワーカーなど人的配置の充実	土曜授業の実施や夏休みの短縮などによる授業日数の増加	小中一貫教育の推進	その他	わからない	無回答
令和元年度	令和6年度											
令和元年度	24.9%	22.5%	18.3%	41.2%	20.5%	47.9%	20.9%	21.1%	5.0%	5.4%	2.0%	
令和6年度	26.7%	23.7%	18.5%	39.2%	24.3%	43.5%	13.3%	19.9%	4.7%	7.6%	2.1%	
5年間の変化の値	+1.7%	+1.2%	+0.2%	△2.1%	+3.7%	△4.4%	△7.6%	△1.2%	△0.4%	+2.2%	+0.1%	

2 家庭や地域の教育について

(1) 学校、家庭、地域の役割【保護者 問8】【教員 問14】【市民 問5】

設問 学校、家庭、地域のそれぞれの役割として、子どものどのようなところを育てていくべきだとお考えですか。(特に重要であることをそれぞれ3つまで番号を選んでください)

※①学校の役割、②家庭の役割、③地域の役割のそれぞれに上記の番号を記入してください。なお、同じ番号を①、②、③にご記入いただいても構いません。

①学校の役割

特徴的な点として、教員の「基礎的・基本的な知識や技能」の回答率が5年前からマイナス24.9ポイントと大幅に減少している点が挙げられます。対照的に、「いろいろな人と協力する力」及び「コミュニケーション能力」の回答率が共に10ポイント前後増加しています。この特徴については、変化の規模は小さいものの、保護者にも同様の傾向が見受けられます。これらのことから、教員及び保護者が意識する学校の役割として、こどもの対人関係能力育成を重視するよう変化した傾向が見受けられます。市民については、5年前と大きな意識の変化は見受けられません。

調査対象者：保護者		いろいろな人と協力する力	コミュニケーション能力	自ら考え、判断し、表現する力	基礎的・基本的な知識や技能	自発性や新しいことに挑戦する意欲	我慢強さ(心の強さ)、忍耐力、あきらめない心	思いやり	健康づくりや体力向上	基本的な生活習慣	感情や欲求のコントロール	夢や希望をもつこと	アイデアや新しいことを発想する力	ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力	郷土愛や地域文化の継承	その他	無回答
令和元年度：1,595件 令和6年度：932件																	
令和元年度	30.5%	30.0%	31.5%	35.0%	32.6%	32.9%	20.3%	21.3%	8.1%	8.0%	10.6%	14.9%	1.4%	0.9%	0.3%	4.4%	
令和6年度	40.0%	37.9%	35.6%	33.7%	27.6%	24.5%	22.6%	18.7%	14.4%	10.8%	10.5%	8.8%	1.8%	1.2%	0.1%	1.0%	
5年間の変化の値	+9.6%	+7.9%	+4.1%	△1.3%	△5.0%	△8.5%	+2.3%	△2.6%	+6.3%	+2.9%	△0.1%	△6.1%	+0.4%	+0.2%	△0.2%	△3.4%	
調査対象者：教員		いろいろな人と協力する力	コミュニケーション能力	自ら考え、判断し、表現する力	基礎的・基本的な知識や技能	自発性や新しいことに挑戦する意欲	我慢強さ(心の強さ)、忍耐力、あきらめない心	思いやり	健康づくりや体力向上	基本的な生活習慣	感情や欲求のコントロール	夢や希望をもつこと	アイデアや新しいことを発想する力	ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力	郷土愛や地域文化の継承	その他	無回答
令和元年度：314件 令和6年度：360件																	
令和元年度	30.3%	34.1%	50.0%	57.6%	18.8%	22.0%	17.5%	16.6%	9.6%	6.4%	13.1%	5.7%	—	0.6%	0.3%	4.8%	
令和6年度	41.4%	43.6%	39.2%	32.8%	15.6%	30.3%	20.6%	13.1%	14.2%	14.4%	16.7%	5.6%	1.4%	2.2%	1.4%	0.6%	
5年間の変化の値	+11.1%	+9.5%	△10.8%	△24.9%	△3.2%	+8.3%	+3.0%	△3.5%	+4.6%	+8.1%	+3.6%	△0.2%	皆増	+1.6%	+1.1%	△4.2%	
調査対象者：市民		いろいろな人と協力する力	コミュニケーション能力	自ら考え、判断し、表現する力	基礎的・基本的な知識や技能	自発性や新しいことに挑戦する意欲	我慢強さ(心の強さ)、忍耐力、あきらめない心	思いやり	健康づくりや体力向上	基本的な生活習慣	感情や欲求のコントロール	夢や希望をもつこと	アイデアや新しいことを発想する力	ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力	郷土愛や地域文化の継承	その他	無回答
令和元年度：497件 令和6年度：577件																	
令和元年度	23.9%	28.0%	25.6%	37.6%	26.8%	25.2%	17.5%	32.6%	9.9%	8.0%	10.1%	19.3%	3.2%	1.0%	0.2%	7.2%	
令和6年度	30.7%	25.8%	30.2%	38.1%	30.3%	21.7%	16.1%	30.8%	11.1%	6.8%	10.6%	15.1%	1.6%	2.6%	0.2%	6.2%	
5年間の変化の値	+6.7%	△2.1%	+4.6%	+0.5%	+3.6%	△3.5%	△1.4%	△1.7%	+1.2%	△1.3%	+0.5%	△4.2%	△1.7%	+1.6%	△0.0%	△1.0%	

②家庭の役割

特徴的な点として、保護者・教員・市民共に「思いやり」が、5年間で最も多く減少している点が挙げられます。対照的に、三者共に増加している項目として、「自ら考え、判断し、表現する力」が挙げられます。このなかでも、保護者による増加幅が12.3ポイントと大きく、他の設問と比べ、保護者の意識の変化が比較的大きいことも特徴であると見受けられます。

調査対象者：保護者	いろいろな人と協力する力	コミュニケーション能力	自ら考え、判断し、表現する力	基礎的・基本的な知識や技能	自発性や新しいことに挑戦する意欲	我慢強さ(心の強さ)、忍耐力、あきらめない心	思いやり	健康づくりや体力向上	基本的な生活習慣	感情や欲求のコントロール	夢や希望をもつこと	アイデアや新しいことを発想する力	ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力	郷土愛や地域の文化の継承	その他	無回答
令和元年度：1,595件 令和6年度：932件																
令和元年度	79.1%	42.5%	26.5%	41.8%	11.9%	21.7%	26.5%	7.2%	6.8%	4.6%	2.6%	2.1%	0.6%	0.6%	0.6%	4.5%
令和6年度	83.2%	45.0%	38.8%	37.0%	17.9%	17.4%	15.0%	9.4%	8.4%	4.9%	3.0%	2.6%	1.0%	0.5%	0.5%	1.1%
5年間の変化の値	+4.0%	+2.4%	+12.3%	△4.7%	+6.0%	△4.3%	△11.4%	+2.2%	+1.6%	+0.3%	+0.4%	+0.5%	+0.3%	△0.0%	△0.1%	△3.4%
調査対象者：教員	いろいろな人と協力する力	コミュニケーション能力	自ら考え、判断し、表現する力	基礎的・基本的な知識や技能	自発性や新しいことに挑戦する意欲	我慢強さ(心の強さ)、忍耐力、あきらめない心	思いやり	健康づくりや体力向上	基本的な生活習慣	感情や欲求のコントロール	夢や希望をもつこと	アイデアや新しいことを発想する力	ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力	郷土愛や地域の文化の継承	その他	無回答
令和元年度：314件 令和6年度：360件																
令和元年度	88.5%	58.9%	16.2%	29.6%	2.2%	16.9%	44.9%	9.9%	4.5%	2.9%	3.2%	0.3%	1.3%	0.6%	1.0%	4.1%
令和6年度	87.5%	50.3%	24.7%	32.5%	6.4%	14.7%	29.2%	15.8%	5.0%	4.4%	8.9%	1.1%	1.9%	1.9%	1.7%	1.4%
5年間の変化の値	△1.0%	△8.6%	+8.5%	+2.9%	+4.2%	△2.2%	△15.7%	+6.0%	+0.5%	+1.6%	+5.7%	+0.8%	+0.7%	+1.3%	+0.7%	△2.8%
調査対象者：市民	いろいろな人と協力する力	コミュニケーション能力	自ら考え、判断し、表現する力	基礎的・基本的な知識や技能	自発性や新しいことに挑戦する意欲	我慢強さ(心の強さ)、忍耐力、あきらめない心	思いやり	健康づくりや体力向上	基本的な生活習慣	感情や欲求のコントロール	夢や希望をもつこと	アイデアや新しいことを発想する力	ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力	郷土愛や地域の文化の継承	その他	無回答
令和元年度：497件 令和6年度：577件																
令和元年度	72.0%	37.4%	21.5%	42.1%	12.7%	20.7%	29.2%	8.5%	7.6%	6.4%	2.4%	1.8%	1.6%	2.6%	0.4%	7.8%
令和6年度	75.6%	41.2%	23.1%	41.4%	14.7%	17.5%	23.1%	8.8%	7.6%	5.0%	5.5%	1.7%	1.4%	1.7%	0.3%	6.1%
5年間の変化の値	+3.5%	+3.8%	+1.5%	△0.6%	+2.1%	△3.2%	△6.1%	+0.4%	△0.0%	△1.4%	+3.1%	△0.1%	△0.2%	△0.9%	△0.1%	△1.8%

③地域の役割

当設問においては、変化の値が10ポイントを超える回答が無く、5年間の意識の変化は比較的小さいことが見受けられます。

調査対象者：保護者		郷土愛や地域文化の継承	ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力	いろいろな人と協力する力	コミュニケーション能力	思いやり	健康づくりや体力向上	夢や希望をもつこと	自発性や新しいことに挑戦する意欲	アイディアや新しいことを発想する力	自ら考え、判断し、表現する力	基本的な生活習慣	基礎的・基本的な知識や技能	我慢強さ（心の強さ）、忍耐力、あきらめない心	感情や欲求のコントロール	その他	無回答
令和元年度：1,595件	令和6年度：932件																
令和元年度		66.0%	56.3%	58.3%	32.5%	16.0%	4.8%	3.5%	2.6%	2.3%	2.2%	0.9%	1.6%	1.0%	0.6%	0.8%	6.3%
令和6年度		61.2%	56.8%	51.7%	31.1%	18.2%	7.4%	5.2%	3.6%	3.2%	2.5%	2.0%	1.7%	1.5%	1.4%	1.1%	0.9%
5年間の変化の値		△4.9%	+0.5%	△6.6%	△1.4%	+2.3%	+2.6%	+1.6%	+1.1%	+1.0%	+0.3%	+1.2%	+0.1%	+0.5%	+0.8%	+0.3%	△5.4%
調査対象者：教員		郷土愛や地域文化の継承	ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力	いろいろな人と協力する力	コミュニケーション能力	思いやり	健康づくりや体力向上	夢や希望をもつこと	自発性や新しいことに挑戦する意欲	アイディアや新しいことを発想する力	自ら考え、判断し、表現する力	基本的な生活習慣	基礎的・基本的な知識や技能	我慢強さ（心の強さ）、忍耐力、あきらめない心	感情や欲求のコントロール	その他	無回答
令和元年度：314件	令和6年度：360件																
令和元年度		78.0%	61.5%	57.0%	21.7%	10.2%	9.2%	8.9%	5.4%	2.5%	1.0%	3.8%	0.6%	-	0.3%	-	5.1%
令和6年度		73.6%	57.2%	51.1%	29.7%	13.1%	8.3%	7.2%	6.9%	3.6%	3.3%	3.9%	0.8%	3.1%	1.7%	1.7%	1.4%
5年間の変化の値		△4.4%	△4.2%	△5.9%	+8.1%	+2.9%	△0.9%	△1.7%	+1.5%	+1.1%	+2.4%	+0.1%	+0.2%	皆増	+1.3%	皆増	△3.7%
調査対象者：市民		郷土愛や地域文化の継承	ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力	いろいろな人と協力する力	コミュニケーション能力	思いやり	健康づくりや体力向上	夢や希望をもつこと	自発性や新しいことに挑戦する意欲	アイディアや新しいことを発想する力	自ら考え、判断し、表現する力	基本的な生活習慣	基礎的・基本的な知識や技能	我慢強さ（心の強さ）、忍耐力、あきらめない心	感情や欲求のコントロール	その他	無回答
令和元年度：497件	令和6年度：577件																
令和元年度		64.8%	52.7%	57.3%	26.8%	16.5%	5.2%	2.6%	4.2%	2.4%	2.2%	9.3%	1.6%	1.0%	9.3%	1.0%	9.3%
令和6年度		63.8%	50.8%	55.5%	26.7%	12.3%	7.1%	5.2%	6.1%	3.6%	4.7%	2.1%	2.9%	1.6%	0.9%	0.7%	7.8%
5年間の変化の値		△1.0%	△1.9%	△1.9%	△0.1%	△4.2%	+1.9%	+2.6%	+1.8%	+1.2%	+2.5%	△7.2%	+1.3%	+0.6%	△8.4%	△0.3%	△1.5%

(2) 家庭の教育力が低下している原因【保護者 問11】【教員 問15】【市民 問6】
設問 家庭の教育力が一般的に低下していると言われていますが、どんなことが原因だ
と思いますか。(3つまで○)

※(用語説明)「家庭の教育力」とは、家庭での生活の中で必要な規範や行動
能力を身に付ける教育機能のこと。

家庭の教育力が一般的に低下している理由の回答率の高い項目については、調査対象
ごとの変化の値にばらつきが多いことが見受けられます。そのなかで、「しつけや教育
の方法を親が十分に理解していない」については、保護者・市民・教員全て、共通して
減少しており、「教育への関心が低くなっている」については、保護者・市民・教員全
て、共通して増加していることが特徴的であると見受けられます。

調査対象者：保護者	少子化、核 家族化で、 こどもが いろいろな 人に接する 機会が減っ ている	こどもを甘 やかしたり、 干渉しすぎ たりしてい る	親子の コミュニ ケーション が減ってい る	こどもが、 手伝いや いろいろな 遊びなど、 さまざまな 体験をする 機会が減っ ている	しつけや 教育の 方法を 親が十分に 理解してい ない	教育への 関心が低 くなってい る	小さい頃 から受験 勉強に偏 った教育 を行って いる	その他	特に低下 している とは思わ ない	わから ない	無回答
令和元年度：1,595件 令和6年度：932件											
令和元年度	40.8%	43.8%	35.0%	42.6%	28.1%	7.0%	4.8%	4.2%	4.8%	2.5%	2.5%
令和6年度	43.9%	39.2%	36.8%	36.7%	23.5%	8.4%	7.9%	4.3%	6.4%	2.6%	0.9%
5年間の変化の値	+3.1%	△4.7%	+1.8%	△5.9%	△4.6%	+1.4%	+3.1%	+0.1%	+1.6%	+0.1%	△1.6%
調査対象者：教員	少子化、核 家族化で、 こどもが いろいろな 人に接する 機会が減っ ている	こどもを甘 やかしたり、 干渉しすぎ たりしてい る	親子の コミュニ ケーション が減ってい る	こどもが、 手伝いや いろいろな 遊びなど、 さまざまな 体験をする 機会が減っ ている	しつけや 教育の 方法を 親が十分に 理解してい ない	教育への 関心が低 くなってい る	小さい頃 から受験 勉強に偏 った教育 を行って いる	その他	特に低下 している とは思わ ない	わから ない	無回答
令和元年度：314件 令和6年度：360件											
令和元年度	48.4%	58.3%	47.8%	44.6%	54.1%	12.1%	4.1%	7.6%	—	0.3%	1.3%
令和6年度	41.4%	61.7%	55.8%	37.2%	50.0%	14.4%	5.6%	4.4%	1.4%	0.0%	1.7%
5年間の変化の値	△7.0%	+3.4%	+8.1%	△7.4%	△4.1%	+2.3%	+1.4%	△3.2%	皆増	△0.3%	+0.4%
調査対象者：市民	少子化、核 家族化で、 こどもが いろいろな 人に接する 機会が減っ ている	こどもを甘 やかしたり、 干渉しすぎ たりしてい る	親子の コミュニ ケーション が減ってい る	こどもが、 手伝いや いろいろな 遊びなど、 さまざまな 体験をする 機会が減っ ている	しつけや 教育の 方法を 親が十分に 理解してい ない	教育への 関心が低 くなってい る	小さい頃 から受験 勉強に偏 った教育 を行って いる	その他	特に低下 している とは思わ ない	わから ない	無回答
令和元年度：497件 令和6年度：577件											
令和元年度	51.5%	43.7%	46.5%	48.1%	44.9%	5.4%	14.1%	4.4%	1.6%	2.0%	1.2%
令和6年度	52.3%	38.6%	40.2%	50.3%	43.0%	7.5%	12.5%	3.6%	3.6%	3.5%	1.7%
5年間の変化の値	+0.8%	△5.0%	△6.3%	+2.2%	△1.9%	+2.0%	△1.6%	△0.8%	+2.0%	+1.5%	+0.5%

(3) 地域の教育力についての課題【保護者 問13】【教員 問16】【市民 問7】

設問 地域の教育力についてどのような課題があると思いますか。(3つまで○)

※(用語説明)「地域の教育力」とは、地域社会の中で子どもたちが大人や異年齢の友人との交流を通じたさまざまな体験などができる教育機能のこと。

地域の教育力の課題については、大きな意識の変化は見受けられないものの、特徴的な点として、市民の「地域の子どもを注意しづらい雰囲気がある」がマイナス10.3ポイントと、比較的大きく減少しており、また、保護者・教員についても同様に減少していることが挙げられます。

調査対象者：保護者	地域の大人と子どもがふれあう機会が少ない	地域の子どもを注意しづらい雰囲気がある	近隣の方とのコミュニケーションが少ない	地域活動の担い手が不足している	年齢が異なった子ども同士が遊ぶ機会が少ない	大人が、地域の子どもに関心である	地域活動を行う場所・拠点が不足している	子どもが一人で遊ぶことが多い	地域団体と学校や家庭との連携が不十分である	自治会やPTAなどの地域活動が活発ではない	その他	特に課題はない	わからない	無回答
令和元年度：1,595件 令和6年度：932件														
令和元年度	30.0%	35.0%	24.2%	22.1%	23.2%	16.5%	13.0%	5.7%	3.1%	2.3%	4.6%	7.3%	6.3%	3.1%
令和6年度	33.9%	33.5%	26.4%	24.8%	22.0%	20.4%	13.5%	6.9%	4.8%	3.8%	3.3%	6.9%	5.8%	0.5%
5年間の変化の値	+3.9%	△1.6%	+2.2%	+2.7%	△1.2%	+3.9%	+0.5%	+1.2%	+1.7%	+1.5%	△1.3%	△0.5%	△0.5%	△2.5%
調査対象者：教員	地域の大人と子どもがふれあう機会が少ない	地域の子どもを注意しづらい雰囲気がある	近隣の方とのコミュニケーションが少ない	地域活動の担い手が不足している	年齢が異なった子ども同士が遊ぶ機会が少ない	大人が、地域の子どもに関心である	地域活動を行う場所・拠点が不足している	子どもが一人で遊ぶことが多い	地域団体と学校や家庭との連携が不十分である	自治会やPTAなどの地域活動が活発ではない	その他	特に課題はない	わからない	無回答
令和元年度：314件 令和6年度：360件														
令和元年度	35.7%	54.5%	50.0%	37.3%	24.2%	21.3%	16.6%	9.2%	2.9%	2.2%	3.8%	1.0%	0.6%	1.3%
令和6年度	43.3%	49.2%	44.2%	38.1%	16.1%	26.4%	17.5%	5.8%	5.3%	9.7%	3.6%	0.6%	2.2%	0.8%
5年間の変化の値	+7.7%	△5.3%	△5.8%	+0.8%	△8.1%	+5.1%	+0.9%	△3.4%	+2.4%	+7.5%	△0.2%	△0.4%	+1.6%	△0.4%
調査対象者：市民	地域の大人と子どもがふれあう機会が少ない	地域の子どもを注意しづらい雰囲気がある	近隣の方とのコミュニケーションが少ない	地域活動の担い手が不足している	年齢が異なった子ども同士が遊ぶ機会が少ない	大人が、地域の子どもに関心である	地域活動を行う場所・拠点が不足している	子どもが一人で遊ぶことが多い	地域団体と学校や家庭との連携が不十分である	自治会やPTAなどの地域活動が活発ではない	その他	特に課題はない	わからない	無回答
令和元年度：497件 令和6年度：577件														
令和元年度	42.3%	47.9%	39.6%	22.9%	30.0%	20.1%	14.3%	9.5%	7.8%	5.0%	1.8%	1.6%	4.6%	1.8%
令和6年度	40.9%	37.6%	37.4%	27.2%	30.7%	24.6%	15.8%	8.8%	8.5%	6.1%	1.9%	1.6%	5.7%	2.6%
5年間の変化の値	△1.4%	△10.3%	△2.2%	+4.3%	+0.7%	+4.5%	+1.5%	△0.6%	+0.6%	+1.0%	+0.1%	△0.0%	+1.1%	+0.8%

(4) 地域の教育力向上に必要な取組【保護者 問14】【教員 問17】【市民 問8】

設問 地域の教育力を高めるためにどのような取組が必要だと思いますか。(3つまで)

特徴的な点として、保護者・教員・市民共に「地域の大人が、地域のこどもに関心を持ち、ほめたり、注意したりする」取組が必要であるという回答率が減少していることが挙げられます。なかでも、市民の回答率が9.7ポイント減少しており、市民を対象とした調査の中では比較的意識の変化が大きい項目となっています。

調査対象者	安全な環境で、こどもたちが安心して学習や遊びを行えるようにする	こども同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする	地域の大人が、地域のこどもに関心を持ち、ほめたり、注意したりする	こどもが、保護者以外の大人(近隣の方)とふれあう機会を増やす	学校、家庭、地域、社会教育施設が一体となって活動する機会を増やす	地域活動を増やし、行事の内容を見直すことにより、参加者を増やす	地域活動の場所・拠点を確保する	地域活動の新たな担い手を増やす	行政の地域活動支援を充実させる	家族同士の交流など、近所づきあいを活発にする	その他	特に必要はない	わからない	無回答
調査対象者：保護者 令和元年度：1,595件 令和6年度：932件														
令和元年度	40.8%	31.8%	31.7%	17.7%	13.6%	9.5%	8.7%	10.8%	6.6%	9.4%	3.1%	6.0%	6.5%	2.7%
令和6年度	38.8%	31.4%	25.3%	17.6%	15.0%	10.8%	10.7%	10.4%	8.9%	8.7%	6.2%	8.9%	3.3%	1.1%
5年間の変化の値	△2.0%	△0.3%	△6.4%	△0.1%	+1.4%	+1.3%	+2.1%	△0.4%	+2.3%	△0.7%	+3.1%	+2.9%	△3.2%	△1.6%
調査対象者：教員 令和元年度：314件 令和6年度：360件														
令和元年度	29.0%	33.1%	49.7%	33.1%	18.5%	15.3%	9.2%	19.1%	11.5%	31.8%	3.2%	1.0%	0.6%	1.9%
令和6年度	23.3%	35.3%	45.0%	31.7%	17.8%	21.4%	13.6%	18.9%	8.9%	29.4%	1.4%	1.4%	3.9%	0.6%
5年間の変化の値	△5.6%	+2.2%	△4.7%	△1.5%	△0.7%	+6.1%	+4.4%	△0.2%	△2.6%	△2.4%	△1.8%	+0.4%	+3.3%	△1.4%
調査対象者：市民 令和元年度：497件 令和6年度：577件														
令和元年度	39.2%	31.8%	36.2%	21.7%	28.0%	15.3%	15.5%	12.5%	12.1%	16.9%	2.4%	1.4%	7.0%	1.4%
令和6年度	44.4%	33.4%	26.5%	20.6%	25.3%	17.9%	14.7%	11.4%	13.7%	13.0%	2.6%	3.1%	5.2%	2.8%
5年間の変化の値	+5.1%	+1.7%	△9.7%	△1.1%	△2.7%	+2.6%	△0.8%	△1.0%	+1.6%	△3.9%	+0.2%	+1.7%	△1.8%	+1.4%

(5) 協力・参加してもよいと思う行事・活動【保護者 問15】【市民 問10】

設問 次のような行事・活動の中で今後、あなたが学校と協力したり、参加したりしてもよいと思われるものはありますか。(3つまで○)

当設問においては、変化の値が10ポイントを超える回答が無く、5年間の意識の変化は比較的小さいことが見受けられます。

調査対象者：保護者		学校公開日や授業参観への参加	学校行事への参加	登下校など子どもの安全管理	授業補助による子どもへの支援	花壇や芝生の手入れなど学校の環境整備	子ども会・育成会の活動	PTA活動	放課後の体験活動等における子どもへの支援	学校外での地域活動体験の手伝い	部活動の指導や運営	学校図書館の運営支援や読み聞かせ	学校の運営方針・教育活動に対する意見を述べる場	非行防止や生徒指導への協力	その他	特に協力や参加したいことはない	無回答
令和元年度：1,595件 令和6年度：932件																	
令和元年度	63.6%	42.2%	17.4%	14.4%	8.6%	15.7%	15.0%	5.0%	7.8%	7.1%	4.8%	2.6%	3.3%	1.3%	6.4%	2.6%	
令和6年度	62.8%	48.6%	17.5%	16.4%	12.1%	10.3%	10.2%	8.9%	8.0%	7.8%	7.4%	4.7%	2.1%	1.4%	1.7%	0.3%	
5年間の変化の値	△0.8%	+6.4%	+0.1%	+2.0%	+3.5%	△5.4%	△4.8%	+4.0%	+0.3%	+0.7%	+2.6%	+2.1%	△1.2%	+0.1%	△4.7%	△2.3%	
調査対象者：市民		学校公開日や授業参観への参加	学校行事への参加	登下校など子どもの安全管理	授業補助による子どもへの支援	花壇や芝生の手入れなど学校の環境整備	子ども会・育成会の活動	PTA活動	放課後の体験活動等における子どもへの支援	学校外での地域活動体験の手伝い	部活動の指導や運営	学校図書館の運営支援や読み聞かせ	学校の運営方針・教育活動に対する意見を述べる場	非行防止や生徒指導への協力	その他	特に協力や参加したいことはない	無回答
令和元年度：497件 令和6年度：577件																	
令和元年度	20.3%	15.5%	30.6%	11.7%	19.3%	10.1%	4.8%	11.9%	21.1%	7.4%	12.5%	7.0%	8.0%	3.8%	15.7%	3.4%	
令和6年度	19.6%	14.0%	32.4%	12.0%	19.8%	5.9%	2.8%	11.6%	24.6%	10.7%	11.4%	5.2%	6.9%	2.4%	15.4%	4.7%	
5年間の変化の値	△0.7%	△1.5%	+1.8%	+0.3%	+0.4%	△4.2%	△2.1%	△0.3%	+3.5%	+3.3%	△1.0%	△1.8%	△1.1%	△1.4%	△0.3%	+1.3%	

3 教育施策について

(1) 充実させたほうが良いと思う教育施策【保護者 問 24】【教員 問 19】【市民 問 19】
設問 川越市が現在取り組んでいる以下の教育施策において、あなたが充実させたほうが良いと思うものはありますか。(3つまで○)

特徴的な点として、この5年間で保護者・教員・市民全ての「情報モラルを含む情報教育の推進」の回答が増加していることが挙げられます。

また、「学校設備の整備・充実」について、回答率は依然として最も高いものの、教員はマイナス 12.3 ポイントと大きく減少しています。

調査対象者：	児童生徒の学力の育成	英語教育及び国際理解教育の推進	学校施設の整備・充実	教職員の資質向上	情報モラルを含む情報教育の推進	放課後におけるこどもの居場所づくりの充実	生徒指導の充実(いじめ防止対策、不登校対策、教育相談等)	学校給食の充実	豊かな心を育む道徳教育の充実	校種間連携の推進	特別支援教育の充実	学童保育の充実	身近な学習施設としての公民館の整備・充実	図書館サービスの整備・充実	コミュニティ・スクールの推進	地域の団体と連携した教育の推進	人権教育の充実	市立川越高等学校の魅力ある学校づくりの推進	博物館の整備・充実	その他	わからない	無回答
保護者 令和元年度：1,595件 令和6年度：932件	36.7%	28.8%	21.9%	31.5%	11.2%	23.9%	25.1%	10.2%	14.8%	9.5%	5.4%	4.1%	6.1%	3.7%	4.0%	1.5%	3.0%	2.2%	0.4%	1.9%	2.8%	3.1%
令和6年度	38.7%	35.8%	24.4%	24.0%	20.3%	19.4%	17.3%	17.3%	12.2%	7.3%	6.8%	4.7%	4.7%	3.0%	2.0%	1.9%	1.4%	0.3%	2.0%	4.0%	0.5%	
5年間の変化の値	+2.0%	+7.0%	+2.5%	△7.5%	+9.1%	△4.5%	△7.8%	+7.1%	△2.6%	△2.2%	+1.4%	+0.6%	△1.4%	+1.0%	△1.0%	+0.5%	△1.1%	△0.8%	△0.1%	+0.2%	+1.2%	△2.6%
教員 令和元年度：314件 令和6年度：360件	42.7%	5.7%	55.1%	27.1%	9.6%	14.3%	27.1%	13.1%	10.2%	5.7%	26.4%	4.1%	4.8%	3.2%	3.5%	4.5%	1.3%	1.3%	1.3%	6.1%	1.6%	1.3%
令和6年度	37.5%	10.6%	42.8%	27.8%	14.7%	10.3%	23.9%	14.2%	10.6%	13.1%	21.9%	3.3%	6.1%	2.2%	4.4%	4.2%	3.3%	3.6%	0.6%	2.2%	2.2%	0.6%
5年間の変化の値	△5.2%	+4.8%	△12.3%	+0.7%	+5.2%	△4.1%	△3.2%	+1.1%	+0.4%	+7.3%	△4.5%	△0.8%	+1.3%	△1.0%	+0.9%	△0.3%	+2.1%	+2.3%	△0.7%	△3.8%	+0.6%	△0.7%
市民 令和元年度：497件 令和6年度：577件	17.1%	22.7%	10.1%	28.8%	11.3%	20.7%	34.4%	7.2%	23.3%	9.3%	4.4%	8.2%	5.0%	6.0%	7.0%	4.4%	6.2%	2.8%	1.8%	5.6%	—	9.3%
令和6年度	14.6%	26.5%	13.7%	20.8%	19.4%	23.7%	27.6%	8.1%	24.1%	8.3%	7.3%	9.0%	6.2%	5.9%	4.7%	3.3%	4.9%	2.6%	1.4%	1.9%	6.6%	5.5%
5年間の変化の値	△2.5%	+3.8%	+3.6%	△8.0%	+8.1%	+3.0%	△6.9%	+0.9%	+0.8%	△0.9%	+2.9%	+0.8%	+1.2%	△0.1%	△2.4%	△1.1%	△1.4%	△0.2%	△0.4%	△3.7%	皆増	△3.7%

VIII アンケート調査結果から見える状況

1 主な調査結果

【保護者調査】

- こどもの通っている学校に対する満足度は、『満足』（「満足」＋「ほぼ満足」）が60.4%となっています。
- 学校に期待する役割は、「自ら考え、判断し、表現する力を身に付けさせること」が45.3%で最も多く、次いで「基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせること」が44.1%、「自らの意志で、自発的に学習活動を行う気持ちを育てること」が38.0%となっています。
- 教師に期待することは、「こどもの気持ちを理解しようとする事」が63.4%で最も多く、次いで「こどもに対して公正・適正な評価・評定をすること」が46.9%、「非行、いじめなどの問題行動への適切な対応をすること」が38.2%となっています。
- 児童生徒に対する指導で大切なことは、「児童生徒が興味をもてるような、楽しく、わかりやすい授業をすること」が42.7%で最も多く、次いで「自分で調べたり、体験を通じて「気づき」が得られたりするような指導を充実させること」が38.6%、「ルールを守る、思いやりの心をもつ、目標に向かって努力することなど、人として大切なことを教えること」が27.9%となっています。
- いじめ・不登校対策の取組の効果は、12項目中7項目で「知らない」が半数以上となっています。『効果があった』（「大変効果があった」＋「効果があった」）という回答は、「スクールカウンセラー」が27.4%で最も多く、次いで「さわやか相談員」が18.3%、「教育支援室（つばさ教室）・小学生学習支援室」と「校内学習室（校内教育支援センター）」が17.4%となっています。
- 教育環境の変化に対応するために取り組むべきことは、「ICT教育推進のための情報機器の充実」が32.1%で最も多く、次いで「市内のどの小中学校にも行けるようにする学校選択の自由化」が30.3%、「学校の児童生徒数が「多すぎる」、あるいは「少なすぎる」といった差の解消」が29.0%となっています。
- それぞれの役割として、こどものどのようなところを育てていくべきだと考えているかについては、
 - 学校は、「いろいろな人と協力する力」が40.0%で最も多く、次いで「コミュニケーション能力」が37.9%、「自ら考え、判断し、表現する力」が35.6%となっています。
 - 家庭は、「基本的な生活習慣」が83.2%で最も多く、次いで「感情や欲求のコントロール」が45.0%、「健康づくりや体力向上」が38.8%となっています。
 - 地域は、「郷土愛や地域文化の継承」が61.2%で最も多く、次いで「ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力」が56.8%、「いろいろな人と協力する力」が51.7%となっています。
- 家庭教育で困っていることは、「携帯電話やスマートフォン、インターネット、ゲーム機などの使い方に不安を感じる」が53.6%で最も多く、次いで「こどもの学力や学習状況に不安を感じる」が47.0%、「こどもの教育費に負担を感じる」が25.9%となっています。
- 家庭の教育力が低下している原因は、「少子化、核家族化で、こどもがいろいろな人に接

する機会が減っている」が 43.9%で最も多く、次いで「こどもを甘やかしたり、干渉しすぎたりしている」が 39.2%、「親子のコミュニケーションが減っている」が 36.8%となっています。

- **地域の教育力についての課題**は、「地域の大人とこどもがふれあう機会が少ない」が 33.9%で最も多く、次いで「地域のこどもを注意しづらい雰囲気がある」が 33.5%、「近隣の方とのコミュニケーションが少ない」が 26.4%となっています。
- **地域の教育力向上に必要な取組**は、「安全な環境で、こどもたちが安心して学習や遊びを行えるようにする」が 38.8%で最も多く、次いで「こども同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする」が 31.4%、「地域の大人が、地域のこどもに関心をもち、ほめたり、注意したりする」が 25.3%となっています。
- **協力・参加してもよいと思う行事・活動**は、「学校公開日や授業参観への参加」が 62.8%で最も多く、次いで「学校行事への参加」が 48.6%、「登下校などこどもの安全管理」が 17.5%となっています。

【教員調査】

- **勤務していて感じることは**、「一人ひとりに応じた学習指導が以前よりも求められるようになった」が 81.1%で最も多く、次いで「授業の工夫が以前よりも求められるようになった」が 62.2%、「対応が難しい苦情や、無理難題のような要望が増加した」が 61.9%となっています。
- **職務の多忙感**は、『忙しい』（「常に忙しい」＋「時期によって忙しい」）が 97.8%となっています。そして、**職務の多忙感解消のために必要なこと**では、「教員を増やすなど、仕事を分担し個々の教員の仕事を減らす」が 84.7%で最も多く、次いで「調査や事務関係の書類の提出を少なくする」が 69.4%、「校務分掌の見直しなど校務の効率化を図る」が 53.1%となっています。
- **教員としてのやりがいの有無**は、『感じる』（「感じる」＋「どちらかといえば感じる」）が 89.5%となっています。
- **いじめ・不登校対策の取組**については、『効果があった』（「大変効果があった」＋「効果があった」）とした回答は、「スクールカウンセラー」が 85.8%で最も多く、次いで「さわやか相談員」が 68.3%、「スクールソーシャルワーカー」が 59.7%となっています。
- **教育環境の変化に対応するために取り組むべきこと**は、「オールマイティーチャー、スクールソーシャルワーカーなど人的配置の充実」が 58.1%で最も多く、次いで「ICT教育推進のための情報機器の充実」が 40.8%、「学校の児童生徒数が「多すぎる」、あるいは「少なすぎる」といった差の解消」が 36.1%となっています。
- **それぞれの役割として**
 - 学校は、「コミュニケーション能力」が 43.6%で最も多く、次いで「いろいろな人と協力する力」が 41.4%、「自ら考え、判断し、表現する力」が 39.2%となっています。
 - 家庭は、「基本的な生活習慣」が 87.5%で最も多く、次いで「感情や欲求のコントロール」が 50.3%、「思いやり」が 32.5%となっています。

地域は、「郷土愛や地域文化の継承」が73.6%で最も多く、次いで「ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力」が57.2%、「いろいろな人と協力する力」が51.1%となっています。

- 家庭の教育力が低下している原因は、「こどもを甘やかしたり、干渉しすぎたりしている」が61.7%で最も多く、次いで「親子のコミュニケーションが減っている」が55.8%、「しつけや教育の方法を親が十分に理解していない」が50.0%となっています。
- 地域の教育力についての課題は、「地域のこどもを注意しづらい雰囲気がある」が49.2%で最も多く、次いで「近隣の方とのコミュニケーションが少ない」が44.2%、「地域の大人とこどもがふれあう機会が少ない」が43.3%となっています。
- 地域の教育力向上に必要な取組は、「地域の大人が、地域のこどもに関心をもち、ほめたり、注意したりする」が45.0%で最も多く、次いで「こども同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする」が35.3%、「こどもが、保護者以外の大人(近隣の方)とふれあう機会を増やす」が31.7%となっています。
- 充実させたほうが良いと思う教育施策は、「学校施設の整備・充実」が42.8%で最も多く、次いで「児童生徒の学力の育成」が37.5%、「教職員の資質向上」が27.8%となっています。

【市民調査】

- 学校に期待する役割は、「思いやりや優しさなど豊かな心を育てること」が44.0%で最も多く、次いで「自ら考え、判断し、表現する力を身に付けさせること」が43.3%、「基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせること」が36.9%となっています。
- 教師に期待することは、「非行、いじめなどの問題行動への適切な対応をすること」が43.8%で最も多く、次いで「こどもの気持ちを理解しようとする事」が42.6%、「こどもに対して公正・適正な評価・評定をすること」が36.7%となっています。
- 教育環境の変化に対応するために取り組むべきことは、「オールマイティーチャー、スクールソーシャルワーカーなど人的配置の充実」が43.5%で最も多く、次いで「防災、防犯などの安全・安心に配慮した教育環境づくり」が39.2%、「ICT教育推進のための情報機器の充実」が26.7%となっています。
- それぞれの役割として

学校は、「基礎的・基本的な知識や技能」が38.1%で最も多く、次いで「健康づくりや体力向上」が30.8%、「いろいろな人と協力する力」が30.7%となっています。

家庭は、「基本的な生活習慣」が75.6%で最も多く、次いで「思いやり」が41.4%、「感情や欲求のコントロール」が41.2%となっています。

地域は、「郷土愛や地域文化の継承」が63.8%で最も多く、次いで「いろいろな人と協力する力」が55.5%、「ボランティア活動に関わろうとする意欲・能力」が50.8%となっています。

- 家庭の教育力が低下している原因は、「少子化、核家族化で、こどもがいろいろな人に接する機会が減っている」が52.3%で最も多く、次いで「こどもが、手伝いやいろいろな遊

びなど、さまざまな体験をする機会が減っている」が 50.3%、「しつけや教育の方法を親が十分に理解していない」が 43.0%となっています。

- **地域の教育力についての課題**は、「地域の大人と子どもがふれあう機会が少ない」が 40.9%で最も多く、次いで「地域の子どもを注意しづらい雰囲気がある」が 37.6%、「近隣の方とのコミュニケーションが少ない」が 37.4%となっています。
- **地域の教育力向上に必要な取組**は、「安全な環境で、子どもたちが安心して学習や遊びを行えるようにする」が 44.4%で最も多く、次いで「子ども同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする」が 33.4%、「地域の大人が、地域の子どもに関心を持ち、ほめたり、注意したりする」が 26.5%となっています。
- **協力・参加してもよいと思う行事・活動**は、「登下校など子どもの安全管理」が 32.4%で最も多く、次いで「学校外での地域活動体験の手伝い」が 24.6%、「花壇や芝生の手入れなど学校の環境整備」が 19.8%となっています。
- **公民館の利用頻度**は、「利用していない」が 66.2%で最も多く、**その理由**としては、「公民館を利用する必要がなかったから」が 69.9%で最も多く、次いで「利用したい講座がないから」が 23.0%、「家の近くにないから」が 17.3%となっています。
- **図書館の利用頻度**は、「利用していない」が 62.0%で最も多く、**その理由**としては、「家の近くにないから」、「図書館を利用する必要がなかったから」がそれぞれ 42.5%で最も多く、次いで「インターネットなどで調べることが可能だから」が 31.8%となっています。
- **博物館の利用頻度**は、「利用していない」が 85.1%で最も多く、**その理由**としては、「博物館を利用する必要がなかったから」が 51.1%で最も多く、次いで「家の近くにないから」が 35.2%、「展示・講座の内容を知らないから」が 21.4%となっています。
- **充実させたほうが良いと思う教育施策**は、「生徒指導の充実（いじめ防止対策、不登校対策、教育相談等）」が 27.6%で最も多く、次いで「英語教育及び国際理解教育の推進」が 26.5%、「豊かな心を育む道德教育の充実」が 24.1%となっています。

【児童・生徒】（『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」））

- **自分自身のことについて**
 - ・「明るく元気だ」と感じたり、考えたりする児童・生徒は、『そう思う』が 82.9%となっています。
 - ・「やさしさや思いやりがある」と感じたり、考えたりする児童・生徒は、『そう思う』が 83.0%となっています。
 - ・「ねばり強く最後までやりとげる」と感じたり、考えたりする児童・生徒は、『そう思う』が 71.1%となっています。
 - ・「ルールや決まりを守る」と感じたり、考えたりする児童・生徒は、『そう思う』が 86.9%となっています。
 - ・「勉強がとくいだ」と感じたり、考えたりする児童・生徒は、『そう思う』が 43.0%となっています。
 - ・「スポーツなど体を動かすことがとくいだ」と感じたり、考えたりする児童・生徒は、『そ

う思う』が63.4%となっています。

- ・「友達がたくさんいる」と感じたり、考えたりする児童・生徒は、『そう思う』が78.2%となっています。
 - ・「自分の意見をはっきり言える」と感じたり、考えたりする児童・生徒は、『そう思う』が61.4%となっています。
 - ・「自分のことが好きだ」と感じたり、考えたりする児童・生徒は、『そう思う』が63.4%となっています。
 - ・「だれかの役に立ちたい」と感じたり、考えたりする児童・生徒は、『そう思う』が88.9%となっています。
 - ・「将来（しょうらい）のゆめや目標がある」と感じたり、考えたりする児童生徒は、『そう思う』が73.8%となっています。
 - ・「リーダーシップがある」と感じたり、考えたりする児童・生徒は、『そう思う』が45.6%となっています。
- 学校生活について
- ・「学校に行くことが楽しい」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が82.3%となっています。
 - ・「授業がよく分かる」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が80.1%となっています。
 - ・「友達との関係がうまくいってる」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が87.6%となっています。
 - ・「先生との関係がうまくいっている」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が88.3%となっています。
 - ・「クラスの係や委員会活動が楽しい」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が82.1%となっています。
 - ・「クラブ活動や部活動が楽しい」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が86.5%となっています。
 - ・「給食がおいしい」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が89.0%となっています。
 - ・「余暇が楽しい」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が86.7%となっています。
 - ・「職業や実習など就労に向けた授業が楽しい」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が77.8%となっています。
 - ・「学校（校舎）や教室が過ごしやすい」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が84.7%となっています。
- 学校に望むことは、「職業体験などを通じて将来のことを考えられるような活動をしてほしい」が31.2%で最も多く、次いで「体をたくさん動かし、体力がつく活動をしてほしい」が29.7%、「コンピュータやタブレット端末を使った授業をたくさんしてほしい」が27.8%となっています。
- 先生について
- ・「勉強を分かりやすく教えてくれる」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が91.7%となっています。

- ・「優しく接してくれる」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が 92.1%となっています。
 - ・「相談に乗ってくれる」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が 88.4%となっています。
 - ・「みんなに平等に接している」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が 83.9%となっています。
 - ・「自分のことを分かってくれる」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が 85.5%となっています。
 - ・「決まりや規則をきちんと教えてくれる」と感じている児童・生徒は、『そう思う』が 92.4%となっています。
- 教わりたいと思う先生は、「やさしく接してくれる」が 70.3%で最も多く、次いで「勉強を分かりやすく教えてくれる」が 63.2%、「みんなに平等に接してくれる」が 45.5%となっています。
- 授業で分からないことがあった場合には、「友達に聞く」が 56.6%で最も多く、次いで「先生に聞く」が 47.2%、「親やきょうだいなどの家族の人に聞く」が 42.0%となっています。
- 心配なことや悩んでいることは、「将来のこと」が 37.8%で最も多く、次いで「心配なことやなやんでいることはない」が 31.0%、「友達との関係」が 23.6%となっています。
- 何かを相談したいときに相談できる相手としては、「友達」が 72.9%で最も多く、次いで「親」が 69.4%、「先生」が 38.0%となっています。
- 友達との関りがどのようなものかについては
- ・「よく話を聞いてくれる」と思う児童・生徒は、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が 94.2%となっています。
 - ・「自分のことを分かってくれている」と思う児童・生徒は、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が 89.5%となっています。
 - ・「困っている時は助けてくれる」と思う児童・生徒は、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が 93.4%となっています。
 - ・「一緒に遊んだり出かけたりしてくれる」と思う児童・生徒は、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が 92.2%となっています。
 - ・「悪いことをしたら注意してくれる」と思う児童・生徒は、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が 86.2%となっています。
- いじめを減らしたり、解決したりできると思うかについては、授業でいじめについて話し合う」が 46.1%で最も多く、次いで「いじめについて気軽に相談できる仕組みをつくる」が 43.3%、「学校全体でいじめはゆるさないというふんいきをつくる」が 39.5%となっています。
- 地域の人たちについてどう感じるかについては、「いつもあいさつなど声をかけてくれる」が 70.6%で最も多く、次いで「自分たちの安全を見守ってくれている」が 64.0%、「地域のためにいろいろ働いてくれている」が 44.1%となっています。

- 働くことについてどう感じるかについては、「好きな仕事をして働くことの楽しさを感じたい」が38.5%で最も多く、次いで「働いて得たお金で好きなものを手に入れたい」が24.2%、「働くことで社会の役に立ちたい」が12.2%となっています。
- 将来どのような大人になりたいかについては、「思いやりのある人」が41.1%で最も多く、次いで「家族を大切にする人」が37.1%、「自分らしさを持っている人」が30.5%となっています。

次期川越市教育振興基本計画に係るアンケート調査結果の報告書

令和7年4月

【編集・発行】川越市教育委員会 教育総務課 企画調整担当

〒350-8601 埼玉県川越市元町1丁目3番地1

電話 049-224-6074 (直通)